

国立国語研究所学術情報リポジトリ

Bound forms (‘zyosi’ and ‘zyodôsi’) in
modern Japanese : Uses and examples

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00000991

国立国語研究所報告 3

現代語の助詞・助動詞

—用法と実例—

国立国語研究所

1 9 5 1

BOUND FORMS('ZYOSI' AND 'ZYODÔSI')
IN MODERN JAPANESE
—Uses and Examples—

CONTENTS

Foreword

Preface

Introduction

1. Purposes of the Compilation
2. Materials and Method of the Study
3. Remarks

Part I Zyosi

i e ka ga kasira kara kiri kusenî kurai(gurai)
ke keredomo(keredo, kedo, kedomo) koso koto kototote sa
sae si sika simo zutu sura ze zo dake tatte
(datte) datte dano tara(ttara) tari(dari) tutu tte te
(de) de teba(tteba) temo(demo) demo to toka tokoroga
dokoroka tokorode tote tomo dômo na nagara nado
(nazo, nanzo, nanka) nari nante ni ne(nee) no node
noni nomi wa ba bakari bakoso e hodo made
mo mono moneka(monka) monode(monde) mononara
monono monoo ya yara yo yori wa o

Part II Zyodôsi

u gotoki saseru zaru simeru seru sôda(sôdesu) ta
(da) da tai taru desu nai naru nu(n) hûda
(hûdesu) besi mai masu mitaida(mitaidesu) yô
yôda(yôdesu) rasii rareru ru reru n(mu)

Appendix

1. Index of Forms
2. Index of Meanings

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE
YOTUYA, SINZYUKU, TOKYO

1951

刊行のことば

本研究所で行っている現代語の実態調査の一つとして、助詞・助動詞に関する調査研究が一段落に達したので、その成果をここに公刊することとした。大方の批判と示教をこいねがう次第である。

この調査研究は、第1部第2研究室において、主として所員永野賢の担当したものである。

1951年3月24日

国立国語研究所長 西 尾 実

は し が き

国立国語研究所の第1部では、現代語について実態調査を行い、その結果を分析して、われわれの言語生活を改善する方法手段を見いだそうとしている。同部の第2研究室ではもっぱら書きことばの調査研究を担当しているが、その仕事のひとつとしてなされた調査研究の成果が、この「現代語の助詞・助動詞」である。

助詞と助動詞は、実際のことばとしての「文」を成り立たせる大切な役目を果すものである。そこで、文法書でも、助詞と助動詞に対しては、多くのページをさくのを常としている。しかし、現代語の一々の助詞・助動詞について、その意味用法を精密に解明したものは、まだ見当たらない。

本書は、共通語として最も一般的な新聞雑誌の文章の中から、助詞・助動詞の実例約48,000を拾い上げ、この数多い用例について一々意味用法を考え、分類し整理したものである。取り上げた新聞・雑誌は1949年から1950年にかけて発行されたものであるから、最新の資料に基づき、今までに見られなかった大量調査を行ったものと言うことができる。また、新聞雑誌の文章であるから、当然書きことばの助詞・助動詞が中心となっているが、会話文に見られる用例をも取り上げているので、話しことばに特に現れるようなものにまで及んでいる。

本書は、あくまでも実例に即しての研究であるから、現実に用いられる一つ一つの助詞・助動詞のすがたを明らかにしたばかりでなく、同時に、今後の文法研究に貴重な資料を提供するものであろう。具体的な例に即して説明しているので、小・中学校における文法教育にも参考となると思われる。

ただ、われわれとしては、本書に現れた結果で満足しているわけではない。本書は、言わば第一段階の作業の成果である。本書にさらに検討を加えて、説明の体系を一層すぐれたものが高めて行くと共に、かさねて実態を調査し、研究の拡大進展を計りたいと思っている。ことに、一つ一つの助詞・助動詞の意味用法が、どのような割合で実際の文章に現れてくるか、相似た意味用法の語が、どのような勢力で相競っているか、またそれにはどんな条件が働いているかというようなことも明らかにして行きたい。それに、音声で表現される話しことばについては、別に、第1部第1研究室で調査を行っているから、将来この方面からの成果も加えうることであろう。

本書は、もっぱら研究担当者永野所員の労になったものであるが、本書が成立するについては、第2研究室員はもとより、他の所員からのあたたかい助言と、調査補助者のなみなみならぬ助力のあったことを、ここに附記しておきたい。

国立国語研究所
研究第1部長 岩淵悦太郎

目 次

刊行のことば	I
はしがき	II
序 説	1
1. 本書編集の目的・趣意	2
2. 資料と方法	3
3. し お り	5
第一部 助 詞	9
1. い(10) 2. え(10) 3. か(11) 4. が(15) 5. かしら(27)	
6. から(28) 7. きり(40) 8. くせに(41) 9. くらい・ぐらい(41)	
10. け(42) 11. けれども・けれど・けど・けども(43)	
12.こそ(50) 13. こと(52) 14. こととて(53) 15. さ(53)	
16. さえ(54) 17. し(56) 18. しか(59) 19. しも(59) 20. ずつ(60)	
21. すら(61) 22. ぜ(62) 23. ぞ(63) 24. だけ(64)	
25. たって・だって(66) 26. だって(66) 27. だの(68)	
28. たら・ったら(69) 29. たり・だり(70) 30. つつ(70) 31. って(72)	
32. て・で(75) 33. で (87) 34. てば・ってば(92)	
35. ても・でも(93) 36. でも(98) 37. と(99) 38. とか(119)	
39. ところが(119) 40. どころか(120) 41. ところ(122)	
42. とて(123) 43. とも(124) 44. ども(125) 45.	

- な(125) 46. ながら(128) 47. など・なぞ・なんぞ・なんか(131)
 48. なり(133) 49. なんて(134) 50. に(135) 51. ね・ねえ
 (152) 52. の(155) 53. ので(174) 54. のに(176) 55. の
 み(179) 56. は(180) 57. ば(194) 58. ばかり(201) 59.
 ばこそ(203) 60. へ(203) 61. ほど(205) 62. まで(206)
 63. も(209) 64. もの(218) 65. ものか・もんか(218) 66. も
 ので・もんで(219) 67. ものなら(220) 68. ものの(220) 69.
 ものを(222) 70. や(222) 71. やら(225) 72. よ(227) 73.
 より(230) 74. わ(233) 75. を(234)

第二部 助動詞241

1. う(242) 2. ごと(244) 3. させる(245) 4. ざる(247)
 5. しめる(247) 6. せる(248) 7. そうだ・そうです(250) 8.
 た・だ(252) 9. だ(255) 10. たい(258) 11. たる(260)
 12. です(260) 13. ない(262) 14. なる(265) 15. ぬ・ん(266)
 16. ふうだ・ふうです(268) 17. べし(269) 18. まい(270) 19.
 ます(271) 20. みたいだ・みたいです(272) 21. よう(273)
 22. ようだ・ようです(275) 23. らしい(278) 24. られる(280)
 25. る(283) 26. れる(284) 27. ん・む(288)

附録 索引289

1. 語形からの索引 290
 2. 意味からの索引 297

序 說

1. 本書編集の目的・趣意

本書は、現代口語における助詞・助動詞の意義・用法を細かく分類し、そのおのにおに、いくつかずつの用例を附したものである。

これまでも、助詞・助動詞の意義・用法の記述は、多く行われているのであるが、現代語の実態に応じた系統的なものとしては、ほとんど見るべきものがない。そこで、この助詞・助動詞の意義・用法を、現代口語の実情に即応して細かく分類し、記述するという仕事が、国語研究、わけでも、標準語の体系を確立するという仕事のための、重要な、文法論的・語彙論的基礎作業ということになってくるのである。本書編集の目的・趣意は、こゝにある。

たゞし、こゝで助詞あるいは助動詞として扱ったものには、通説からずれているものがかなり多い。たとえば、「ほど」「だけ」「など」「まで」のような、形式名詞とも言われているものを助詞と認め、「ようだ」「そうだ」のようなものを助動詞とし、「だが」を指定の助動詞「だ」と接続助詞「が」との接続形式による接続詞的用法として扱い、また、会話文によく出る「てば」「って」などを助詞の中に加えたようなたくいである。それは、この仕事が、厳密な品詞分類論を事とするものではなく、いわばテクニヲハというものをかなり自由に認めて、その意義分類をしようという意図で始められたものであるために、助詞・助動詞の認定には、あまり神経質にこだわらないこととしたからである。

ところで、助詞・助動詞の意義・用法の記述と言っても、文法論的に抽象された一つ一つの助詞・助動詞についてだけでは、必ずしも表現意識にそぐわない。というのは、言語表現をなすものが、語をつないだり、関係づけたり、統一したりするために使うものは、表現意識に即して言えば、必ずしも一つ一つ別々の助詞・助動詞とは限らず、いくつかのものの組合せが、かなり多いと言えるからである。それらの組合せは、切っても切れない関係をなして、共同的に働き、それぞれ一つの単位と認めるべきものさえあると言うことができる。

たとえば、格助詞の「と」と係助詞の「は」の組合せ、「とは」がそうである。これは、「空電とは大気中の放電現象によって発生する電波である。」のように、定義などで主語を提示するために用いられるものであるが、これを「と」と「は」に切り離して扱うよりも、「とは」全体を一つのものと考えたほうが、言語現象の説明には、むしろ妥当であると言うべきであろう。そのほか、理由を示す「からには」なども、同じである。

また、たとえば、「べからざる」のような助動詞の組合せ、さらには、「～なければならぬ」「つつある」「とすると」「において」のような形式的な用言

も加わっての接続形式、「ということだ」のような形式的な名詞の加わった接続形式なども、そうである。

さらに、「～ば～ほど」とか、「～さえ～ば」のように、前後相呼応して、一つの型を作り上げたものなどもある。

さらには、「気がつく」の「が」、「気になる」の「に」などのように、テニヲハとしての自由さを失って、連語の一要素にまでなってしまったものも、こゝであわせ考えてよからう。

これらの接続形式や呼応形式にどんなものがあるか、そして、それらはどのように使われているか、ということは、大切な研究課題であり、われわれの知りたいところである。本書では、特にこの点に意を用いた。これは、新しい領域を開拓したもつと信ずる。

もう一つ、頭に置いて心掛けたことがある。それは、互いに意味の似かよった表現法が、全くの同義であるのか、またはなんらかの意味の分担を持っているのかどうか、それらはどのように生存競争を営み、その抗争の結果、一が他に対してどれくらい優勢を持しているか、というような力の均衡状態を解明することである。

たゞし、この問題を解くためには、助詞・助動詞のみにとまらず、他のものもあわせ考えなければならぬ。たとえば、「並列」という関係づけのためには、「～と～(と)」、「～やら～やら」、その他の表現があるが、「農業および園芸」のように、いわゆる接続詞でつなく方法もあるし、「月・雪・花」のような、助詞を用いない方法も存在する。したがって、助詞・助動詞のみの考察では不十分であるし、また、それぞれの語の出現度数・出現範囲の緻密な調査を要することでもあるので、本書では、それまでは及ぶことができなかった。

2. 資料と方法

本書編集のもととなった研究の資料は、1949年(昭24)4月から1950年(昭25)3月までの、次の新聞・雑誌である。

朝日新聞(東京) 毎日新聞(東京) 読売新聞 東京新聞 時事新報 日本経済新聞 世界 文芸春秋 朝日評論 科学朝日 農業&園芸 エコノミスト 法律時報 人間 新潮 キング スタイル ロマンズ 宝石 映画之友 野球界 主婦之友 婦人朝日 婦人画報 主婦と生活 ひまわり 銀河少年クラブ 少女クラブ 野球少年 少年少女 幼年クラブ 音楽之友 リーダーズ・ダイジェスト

これらの新聞・雑誌を選んだ理由は、これらが多数の読者を持つ代表的なもの

であって、充分、共通語の一般的資料とするに足ると思われたからである。

この中から任意のページを選んで、助詞・助動詞の使用例、おおよそ 48,000 を採集した。これには、会話文からの用例も多量に含まれている。

その採集範囲の選択は、必ずしも近代統計学の理論に基づく標本抽出法にはよらず、できるだけいろいろな記事を、できるだけ広範囲に、ということを中心的に心掛けて決定したにとゞまる。それは、一つには、助詞・助動詞の用法というようなものは、ある種の限られたもの以外は、文章の性質・種類によって、さほどの違いを示すものではないと考えられたからであり、二つには、この研究が、各語の出現度数 (frequency) の調査ではなく、むしろ、そのような出現度数調査の台本となるべきものを作るとでも言うべきたぐいの仕事である關係上、いろいろな材料がふんだんに得られさえすればよいというつもりからでもあった。したがって、ある観点からすれば、カードの採り方に片寄りがあるかも知れないが、かりに片寄りがあったところで、それはこの書全体の組立てにはほとんど影響しないと言ってもよからう。

このようにして得られた 48,000 枚のカードにより、用法の分類をおこなった。その分類は、大体において、実際の使用例から帰納したものであるが、ありうると予想される用法なのに、採集したカードの範囲に用例の出で来なかったものがあつた。これには、たまたま出で来なかったものと、ほとんど使われることのないために出で来なかったものとの、ふた色あると思われる。が、いずれにしても、そういうものについては、資料の範囲内であちらこちら探し、それでも見当らぬものは、資料以外のものから見付け出したり、自分で例文を創作したりした。このやり方については、いろいろ問題が含まれるであろうけれども、前にも言ったように、この研究が出現度数や出現範囲 (range) の調査を目的とするものでないから、さしつかえないと思う。ともあれ、将来、この書の分類を基礎にして、出現度数調査が行われれば、よく使われるものとあまり使われないものと数量的な差がはっきりと解明されるであろう。

なお、意義・用法の分類は、新たに試みたわけであるが、次の文献からは、(* 印からは特に)、いろいろなヒントを得ている。

- * 国語調査委員会「口語法」1916 (大5)
- 山田孝雄「日本口語法講義」1922 (大11)
- 鶴田常吉「日本口語法」1924 (大13)
- 松下大三郎「標準日本口語法」1930 (昭5)
- 木枝増一「高等口語法講義」1931 (昭6)
- * 湯沢幸吉郎「解説日本文法」1931 (昭6)

” 「口語法精説」国語科学講座, 1934 (昭9)

- 佐久間鼎「現代日本語の表現と語法」1936（昭11）
- * 木枝増一「高等国文法新講品詞篇」1937（昭12）
 ” 「 ” 文章篇」1938（昭13）
 橋本進吉「改制新文典別記口語篇」1938（昭13）
- * 佐久間鼎「現代日本語法の研究」1940（昭15）
 広幸亮三「標準口語法解説」1941（昭16）
- * 三尾砂「話言葉の文法」1942（昭17）
- * 青年文化協会「日本語基本文型」1942（昭17）
 杉山栄一「国語法品詞論」1943（昭18）
- * 国際文化振興会「日本語表現文典」1944（昭19）
 ” 「日本語基本語彙」1944（昭19）
 岩井良雄「標準語の語法」1944（昭19）
- * 浅野信「日本文法辞典 口語篇」1946改版（昭21改版）
- * 文部省「中等文法 口語」1947（昭22）
- * 岩淵悦太郎「図表国文法」1948（昭23）
 ” 「新しい口語文法」1948（昭23）
- * 三省堂編修所「中等文法 口語」1948（昭23）
- * 新教育研究所「中等国文法 口語編」1949（昭24）
- * 岩淵・関根・山崎「口語の文法」1949（昭24）
- * 竹原常太「スタンダード和英大辞典」1924, 1926増補改訂（大13, 15増補改訂）
- * 武信由太郎「新和英大辞典」1931（昭6）
- * Rose-Innes, A. : Conversational Japanese for Beginners. Tokyo, 1916.

3. し お び

- 本書の本文は、第一部 助詞、第二部 助動詞、の二部から成り、附録として、索引がつけられている。
- 助詞・助動詞は、それぞれ五十音順に配列し、おのおのに通し番号をつけた。
- 意義・用法の違うものでも、形の同じものは、見出し語としては一つに扱っている。たとえば、禁止の助詞「な」と詠嘆の助詞「な」、様態の助動詞「そうだ」と伝聞の助動詞「そうだ」など。
- 意義・用法が同じで、形の少し違うものは、カッコを使って、一つにまとめている。たとえば、「など」と「なんか」のようなのは、「など（なんか）」の

ように、「な」と「なあ」のようなのは、「な(-あ)」のようにしてある。

○助詞の分類は、次の8種類とし、意義の説明の基準は、大体、次にしるすような原則によった。

- ①格助詞 そのつく語に与えられる資格・意味。
- ②副助詞 つけ加えられる意味。
- ③係助詞 課題の提示(提題)のしかた。課題の場をどんな意味あいのも
ものとして設定するか。
- ④接続助詞 前件と後件との関係。
- ⑤並立助詞 ならべ方。
- ⑥準体助詞 その語の意味。
- ⑦終助詞 その語の意味。話し手の表現・発言の態度・気持。
- ⑧間投助詞 その語のニュアンス。つなぎとしての性質。

○助詞の接続は、接続助詞以外は一々掲げなかったが、大体、次のようなものと
考えている。

- ①格助詞 主として体言、その他体言対当のものにつく。
- ②副助詞 体言または用言・助動詞、その他いろいろの語につく。
- ③係助詞 文節の終り、または格助詞にとって代わる位置につく。同種
の係助詞・終助詞・間投助詞以外の助詞が後につく事はほと
んどない。
- ④接続助詞 用言または助動詞につく。
- ⑤並立助詞 主として体言につく。用言・助動詞につくものもある。
- ⑥準体助詞 用言・助動詞の連体形、または体言につく。
- ⑦終助詞 文の終りにつく。
- ⑧間投助詞 文節の終りにつく。

○接続助詞は、それぞれの箇所に、接続する活用形を、()で包んで説明し
た。

○助動詞は、大抵、終止形を見出し語とした。終止形の用いられないものは、他
の多く用いられる活用形である連体形(たとえば、「ごとき」「たる」「なる」
など)を見出し語とした。

○助動詞の接続は、それぞれの意義の説明の次に、()で包んで、説明してあ
る。

○助動詞の活用形は、未然形・連用形・終止形・連体形・仮定形・命令形の六種
とし、実際に用いられる各活用形を、この順序に配列した。

○二語以上の組合せによる連接形式・呼応形式・連語などは、[]で包んで見
出し語に準ずるものとし、その形式の生まれるもととなった助詞・助動詞の説

明のすぐ次に掲げた。たとえば、〔～から～まで〕のようなものは、「から」の所と「まで」の所との両方に重複して出している。

- 特別の形の用法（音声現象に基づく変形など）は、やはり〔 〕で包み、その頭に＊印を附した。たとえば、＊〔-あ〕（193 ページ参照）。
- 意義・用法の配列は、よく使われるか、あまり使われないか、また、語源に近いのか、派生的なものか、の別を必ずしも顧慮せずに並べてある。
- 意義・用法の説明は、本来ならば、一々の語について詳しい論述が必要なのであるが、時日や紙数の制約もあるので、本書では、資料の提供を主とするという意味からも、ごく大略の説明にとどめてある。しかし、個々の語については、論ずべき多くの用意がある。
- イントネーションの違いに応ずる意味の違いを取り上げたものもある。
- 実例は、原則として、その語を含む一文全体を掲げることにしたが、あまり長いものや、その語の意味の理解のためにさして関係のない部分は、一部省略し、省略部分を～で表わした。
- 会話の部分からも用例が採ってある。その場合は、例文を「 」で包んでおいた。
- 例文の仮名づかい・文字づかいは、おおむね原文のまゝに従った。ただし、ルビはすべて省き、字体は略体に換えることを妨げぬこととした。また、より音・促音を表わす仮名は、読みやすいように、一律に小字にした。（ただし、印刷の都合上、例文中のゴチック体の部分は、必ずしもこのかぎりではない。）なお、横書きの関係上、くの字型のくり返し符号は使わず、すべて、「いろいろ」「つねづね」のように書き換えた。
- 随所に、etc. の文字が使っているが、これは「副助詞」の「など」との混同を避けてのことである。
- 例文の終りに、出典を記載した。それは（ ）で包んである。（ ）の中の最初のが紙名または書名、次が月日または月号、最後のが面またはページである。たとえば、《朝, 5.7, I》は、朝日新聞（東京）-昭和24年5月7日付第一面、《世, 1, 17》は、世界-昭和25年1月号-17ページの略である。
- 資料の略符号は次のとおりである。

朝	朝日新聞	毎	毎日新聞	読	読売新聞
東	東京新聞	時	時事新報	経	日本経済新聞
世	世界	文	文芸春秋	朝評	朝日評論
科	科学朝日	農	農業及園芸	エコ	エコノミスト
法	法律時報	人	人間	新	新潮
キン	キング	スタ	スタイル	ロマ	ロマンス

宝	宝	石	映	映画之友	野界	野	球	界
婦	友	主婦之友	婦	朝 婦人朝日	婦画	婦	人	画報
婦	生	主婦と生活	ひ	ま ひまわり	銀	銀		河
少年	ク	少年クラブ	少女	ク 少女クラブ	野少	野	球	少年
少年少女		少年少女	幼	ク 幼年クラブ	音	音	楽	之友
ダ	イ	リーダーズ・ダイジェスト						

- 資料外から得た例文や、創作した例文には、末尾に、おしなべて《資料外》の文字が附記してある。
- 索引は、語形からの索引と、意味からの索引と、二通りある。
- 語形からの索引は、本文中の単語・連接形式・呼応形式・連語のおもなものを、五十音順に並べたものである。
- 意味からの索引は、意義・用法の解説に用いたことばの索引である。不十分な形ではあるが、これは、いわば、表現文典の役割をも果たすと共に、同義的なもの・類義的なものの一覧表の役目をも兼ねるのであろう。たゞ、当初の意図からすれば、実はもっと多くの紙面を費して、もっと詳しい論考を述べるべきところであるが、本書ではすべて詳論を割愛し、他日を期することとした。

第一部 助詞

1. い (終助詞)

① 質問・反問。(多く「だい」「かい」の形)

- 「何だい、それ？」(スタ, 7, 71)
- 「おや、今朝はどうしたんだい？」(ロマ, 10, 19)
- 「それなら、もう少し我慢して、荒らずに置いたらどうだい。」(ロマ, 10, 19)
- 「おーい花房、倶楽部はお昼寝の時間かい？ やけに静かじゃないか」(宝, 7増, 61)
- 「ペイ助も五反田へ泊るのかい」(スタ, 7, 72)
- 「あのね、きみ、秘密が守れるかい？」(少年少女, 7, 93)
- 「きみんとこに酒はないかい？」(野少, 8増, 107)
- 「そんなにかってにはしってだいじょうぶかい」(少年ク, 12, 14)
- 「僕にかい？ 誰から？——」(ロマ, 6, 63)

② けいべつ、さげすみ、投げやりの氣持をこめた反ばく。

- 「なにいったるんだい」(銀, 7, 66)
- 「えっ？ 何がどうぞだい？ おれは何も言ひやしない。」(世, 12, 67)
- 「あのね なーんだい なんて あまいでんわ 女房とできるかい ばかばかしい」(ロマ, 12, 109)
- 「生命と引換へになるかい」(文, 8, 82)

③ 語気を強める。念を押す氣持。

- 「余計な事するな」(スタ, 7, 71)
- 「川もねえのに、よけいなことをいうない。」(少年少女, 7, 91)
- 「やだーい！ うそだーい！ だめだーい！」(婦友, 12, 53)
- 「たいへんだーい、テングゴリラが汽船からにげたアい……」(少年ク, 12, 51)
- 「火をつけるい」(宝, 7増, 91)

【わい】

- 「飛んでもない、旦那さま——夜夜中、野天で眠ったりなんぞしたことに、タスマニア狼のやつ、わしを今朝まで生かして置きませんわい」(宝, 12, 66)

2. え (終助詞)

○ 質問, 疑問。

○「どうしたのだえ三吉、悪い夢でも見ていたのかい」(コマ, 7, 75)

○「さうしておくれかえ、遠いのに御苦労ぢやけんど」(人, 6, 27)

3. か

[I] 副助詞

①疑問の意味を表わす語について不確かなことを表わす。

○～, 各病棟の灯が何かをさゝやくように静かにゆれている。(婦友, 6, 27)

○少女誘拐と地方検事殴打の罪名によるものだが、ディックは何のことか呑み込めない。(映, 6, 13)

○しかし二人は、どうしたら術がとけるのかわからないので、～(野少, 6, 44)

[いくらか・なんだか・なぜか etc.]

○～, それではどうしてもいくらか狂いが出ますから、～(婦友, 6, 73)

○鯉子は、いはゆる『美人』ではなく、いくらかしゃくれ顔で、色は黒いはうで、～(文, 7, 80)

○うらがなしいおもいに誘われて、そんなものおもいにしづんでいるうちに、数絵は、なんだかひどくねむたくなってきました。(ひま, 6, 52)

○わたしも、なぜか涙があふれて来て、しかたがなかった。(資料外)

[なになしに]

○～, それが日本国民に対する「贈与」であるのか、日本政府に対する「買付金」であるのかは、実は依然として明確ではなく、何かなしに政府はこれを受取って使っている格好になっていた。(エコ, 5.11, 10)

②その他の語について、疑問の気持ちで推定する意味を表わす。

○気のせいか、顔色がすこし蒼褪めてさびしそうで、数絵をみている眼が、涙でうるんででもいるようなのです。(ひま, 6, 52)

○御病気に障らぬようにと少しづつお聞きする私の問いに、静かに答えてくださる。思いなしか純子さんの瞳は、きらきらと濡れているように私には思われた。(婦友, 6, 25)

[～かもしれぬ]

○それは自由の古典的概念であると言ってもよいかもしれぬ。(世, 4, 22)

○次期国会までに民自と民主犬養派との合同はあり得るかもしれぬが、～(朝, 6.20, I)

[II] 並立助詞

○いくつかの事物を並べ挙げ、どれか一つを選択する意を表わす。

(イ) [～か～か]の形。

- それにも拘らず今尙正方形植か長方形植かと、田植の度に思い迷う人の多いのはどうしたことであろうか。(農, 6, 25)
- 田植に当って稻株を正方形に配置するか長方形に配置するかに就いての關心は、恐らく田植が行われるようになって以来の古い問題であらう。(農, 6, 25)
- ～, それが日本国民に対する「贈与」であるのか、日本政府に対する「貸付金」であるのかは、～(エコ, 5.11, 10)

(ロ) [～か～]の形。

- さて、由比は、その十日ほど、たいざいしてゐたとき、鯉子を、三度か四度くらゐ、よんだが、～(文, 7, 80)
- また一年二三ヵ月になつても、まだ母乳ばかり飲んでいて、貧血を起し瘦せているか、肥つていてもぶよぶよ肥りになつてしまった赤ちゃんなら、夏からでも、母乳が充分でも、離乳しなければ丈夫になりません。(婦友, 6, 86)

[～かどうか・～か否か]

- ベルリン封鎖解除はかくて西歐ソ連間の国交調整への道を開くものとして世界に一脈の明るさを投じてはいるが、しかし四国外相會議は果してその国交調整に成功し、世界の平和希望にそいうるかどうか。(朝, 5.7, 1)
- 「～, 日本の税制はどうか、果して減税が行われるかどうか、国民一般の關心と期待を集めている「税」についていろいろお話をうかがいたいと思います。」(キン, 9, 86)
- ～, 大学教授については、司法修習生の修習を終えたか否かという規準をあてはめること自体が無意味な、～(法, 5, 51)

[～か～ないかに]

- 戸をあけるかあけないかに、勢よくネコがとびこんで来た。(資料外)

[III] 終助詞

- ①疑問・質問・反問。(否定形の叙述語につけて、問いを表わす言い方もある。また、[う(よう)か]の形で、語調を和らげ、円曲な表現にすることがある。)
- では瞬時に出現消滅し 移動して行く空電源を捉えるにはどうするか。(科, 5, 37)
 - 夏の離乳はなぜむずかしいか(婦友, 6, 86)

- 一体、ディスインフレーションとは何を意味するのか？（エコ、5、10）
- 「ふん、僕か、僕は去年からここの住人じゃから、不思議もあるまいが、貴公はどうしたんじゃ」（キン、10、102）
- 「御記念に、しまつて置いた方がおよろしいんじゃないありませんか？」（婦生、9、123）
- ～その人生行路の上にどれほどの明暗があつたであろうか。（朝、5.6、I）
- ～有利であるという情勢判断に基いたのではなからうか。（東、5.7、I）

〔～かい〕（質問・反問）

- 「海苔かい？」（文、8、59）
- 「ゐないのかい？」（世、12、80）
- 「駒草の花——食べたことあるかい？」（少女ク、9、41）
- 「入ってもいいかい？」（世、12、80）
- 「そんなにかつてにはしつてだいじょうぶかい」（少年ク、12、14）
- 「僕にかい？ 誰から？——」（ロマ、6、63）

〔～かね（-元）〕

- 「幽霊が、おまえの云う伝説の大山猫が、紐を持って沙漠の向うからやつて来たというのかね？」（婦画、8、48）
- 「そうかね それなら いいんだがね」（少年ク、12、14）
- 「買出しですつて？……何をですか……衣類ですかね……」（ロマ、7、60）
- 「牛は いいねだんでうれましたかね。」（幼ク、9、13）
- 「あなたでも、なにかこぼすことがあるのですかねえ。」（世、8、78）

②反 語。

- 在野法曹の一員なるが故に今日甲説を主張する諸家は、明日在野の法曹の間に身をおけば、また乙論を支持するものにあらずと何人が保障し得ようか？（法、5、51）
- が、極北をめざすことそのことが、どうして人間的現実の一機能でないことがあろうか。（人、5、85）
- しかし果してそうであろうか。（世、4、22）
- これをしも（児童の健康及福祉に有害でなく、且その労働が軽易である——労基法第五十六条——）といえる作業であろうか……（キン、7、32）

③反ばく。

- 「あのね なーんだい なんて あまいでんわ 女房とできるかい ばかばかしい」（ロマ、12、109）
- 「生命と引換へになるかい」（文、8、82）

○「そうでしょうか……。」(ひま, 10, 70)

④雑話、相手をなじる、念を押す。

○「こんなところで死ぬやつがあるか。」(文, 8, 81)

○「おい、珈琲でも持ってこんか。」(宝, 7増, 241)

○「米軍が眼の前にきてみるのがわからんのか。」(世, 9, 85)

○「俺が嘘を云ったら、聞えないつもりで居てくれ、いいか。」(新, 10, 90)

[～ではないか]

○それは社会全体についても、同じように考えられてよいのではないか。

(世, 4, 22)

○「それじゃ左投手を出すに限るじゃないかといったら、そうなんだといていたよ。」(野少, 7増, 13)

○「いつも冷静な議長にも似合はんぢやありませんか?」(世, 7, 78)

⑤誘い・提案・懇願・依頼など、同意を誘う場合。「うか」「ようか」「ないか」の形

○「あそこでうまいコーヒーをのもうか。」(スタ, 11, 91)

○「起きないか。」(新, 8, 83)

○「～、その見たまま、直感したままの日本野球に対するお感じを、最初に話して貰おうか……。」(キン, 9増, 116)

○「……ねえ、きみ、いい子だから、水をコップにいっぱい持ってきてくれないか。」(野少, 8増, 107)

○「～、失礼ですが、踊っていただけませんか?」(婦画, 8, 54)

[～たらどうか]

○「澄野さんが帰って見えるまで待ったらどうですか。」(ロマ, 12, 93)

[～う(よう)では(じゃ)ないか]

○「やろうじやないか!」(文, 7, 70)

○「じゃ、ほんとに木ッ葉塚のキツネが、人間の目に見えないかどうか、おれたちで探検してみようじゃないか。」(銀, 7, 70)

○「そんなにしんばいなら、ひとつ、かけをしようじゃありませんか。」(幼ク, 9, 13)

⑥自答(一人合点)。

○こいつのおかげで、犬のまねをしたのかと思うと、二人とも、くやしさをいっぱいです。(野少, 6, 43)

○「ありゃ、こんななかにかくれていたのか。」(少年ク, 11, 53)

○「フーン、中国義人の秘話か……面白さうね、これエロ小説?」(世界,

12. 78)

- 「田舎猿だとももってひとを見くびるな、か？」(世, 7, 78)
- 「知ってますよ、それがあなたの持論でしょう……力は正義に非ず、正義は力なり……か」(宝, 7増, 62)

〔～てはないか〕(驚き)

- 今日、驚くべきことにひとりの政治批評家も存在しないではないか。いや、それ以上に驚くべきことに、たとへそれが存在しても、その言説はひとりの実際政治をも左右しえないではないか。(人, 5, 85)
- 正広君の方は……心躍した程のことはない。嬉しそうにニコニコ笑っているではないか。(キン, 7, 32)

〔～ことか〕(詠歎)

- 「童心にも似た純情の感情とともに、いみじくも清新な、あの愛の物語が何と速かに私を囚えてしまったことか！……」(音, 8, 43)
- 「なう、おぬし、生きることは辛いものじゃが、生きてをる方がなんぼよいことか」(人, 10, 85)

〔～かな(あ)〕(自問)

- 「どっちがやられたかな？ 少年のほうかな？ それとも女の子のほうかな……？」(少年少女, 10, 15)
- 「私もかえりに見ようかな」(少年少女, 10, 61)
- 「袖木が肩が悪いそうだから、きょうはやはり武末じゃないかな」(野少, 7増, 13)
- 「なにが、そんなに怖いのかなア……」(婦朝, 10, 79)

⑦願望。〔～ないかな(あ)〕の形。

- 「だれか来ないかなあ——。」(少女ク, 9, 40)
- 「おかしだけでなくて、もっと なんでも ほしいものが でてこないかなあ。」(幼ク, 10, 21)

4. が

〔I〕 格助詞

①主語を表わす。

- そのときれたところに、踏み切りがある。(文, 7, 80)
- そこに御主人のテイラー軍曹が入って来た。(婦友, 6, 27)
- 配給衣料の生産にはとくに実用向品の集中生産が行われ、一般向の○・丸

ボンドの裏付けとしては目下一人当たり手ぬぐひまたはタオル一本、縫糸六匁が予定されている(朝, 5.19, II)

○非常に栄養が悪ければ、牛乳や造血劑などで栄養をよくしてから始めなければなりません。(婦友, 6, 85)

○子の長さの半分くらいまで大体同じ深さにぬい、あとはごく自然にぬい消すのが特徴です。(婦友, 6, 73)

○ことに教育部門に関しては、学校だけが教育する場ではないのである。(朝, 5.6, I)

○～大部分が廿二、三歳の青年、中には芸者を身請けしていた者などもある(東, 5.29, III)

○中間報告を行うという理事会の申合せは承認されたが、報告書の内容については再び意見が対立、十九日の委員会にはかることになった(朝, 5.19, II)

〔～が～する(活用語連体形) こと(体言・準体助詞 etc.)〕〔「～の～すること」P.167参照〕

○彼が優勝杯を受ける姿を見ていたマーガレットは、～(映, 6, 13)

○しかしながら、このような自由の原理は、要するに内面的な自由のことであって、はじめにわれわれが問題としていた、國民的自由や政治的自由とは、何の関係もないと考えられるかも知れない。(世, 4, 22)

○～ひろびろとした庭のなかを、無数の白い紙鶴がとびまわっているふしきな有様を～(ひま, 6, 54)

○～したがって、恣意や偏見や我意がたゞ現実的效果の名によって見のがされている実状であってみれば、(人, 5, 85)

○ところで、ぼくがこれまで語ってきたことは たんなる《批評家の精神》にすぎぬものであったのか。(人, 5, 84)

○栽培植物のC含有量が品種・存在部位・環境条件或は栽培条件～によって差異を示すことは明かである。(農, 6, 6)

○～治安の確保が肝要になった現在、さらにいろいろの点で改正を要する点が出て来た(朝, 6.20, I)

○～とうとうりした彼女は、講演が終った後でディックを掴え、～(映, 6, 12)

○二人は、催眠術師が目をまわしているすきに、～(野少, 6, 43)

○～外電の解説が傳える通りである。(東, 5.7, I)

○これとともに回復期に入った敗戦ドイツ國民の自信が高まるのも当然であ

って、～(朝, 5.7, 1)

- 翌朝ディックが目覚めたのは警察の留置場だ。(映, 6, 13)
- しかしわれわれは、殺人や放火が許されないことをもって、これを自由の制限であり、束縛であると呼ばなければならないであろうか。(世, 4, 22)

〔～こと(もの)がある〕

- また夜間の海上では、上層が急に冷却し、海面上は暖いから、気圧の平衡が失われて雷雨を生ずることがある。(科, 5, 36)
- ～基本的なものにおいて結ばれているソ連と中共の対外策がどのようなものになるか、非常に注目を要するものがある。(東, 5.7, 1)

〔何(不定称代名詞)が～か(疑問終助詞)〕

- 然らば何が「反共的」で「一方的」であるのかとして捜し求めるならば、～(東, 5.6, 1)
- 在野法曹の一人なるが故に今日甲説を主張する諸家は、明日在野の法曹の間に身をおけば、また乙論を支持するものにあらざと何人が保障し得ようか?(法, 5, 51)
- このような結果を見ると長方形植と正方形植との何れがよいかと思ひ迷うのも無理からぬところである。(農, 6, 25)
- 一体このような問題は、どちらがよいかという問題ではなく、自然条件や他の栽培条件等の栽培環境に対しどちらが適應するかの問題である。(農, 6, 25)

〔価値がある・気がする・口が悪い etc.〕

- この事を世に知らせるだけでも、この録音は特ダネ以上の価値がある。(キン, 7, 32)
- われわれは終戦後余りにも形式的な改革だけにとらわれて、実質的な内容の充実を忘れてしまった感がある。(朝, 5.6, 1)
- ～他方内的因子としての遺伝子の問題も考え合わせる必要があり、更に～変化等も追求しなければならない。(農, 6, 6)
- ～不純なものと同違われる恐れがある。(婦友, 6, 27)
- 日本女性の優しさ……私はふっと見せられた気がして、微笑が浮ぶ。(婦友, 6, 27)
- 「東京は何か疲れている感じがしますね。」(音, 9, 34)
- こくりこくりと居睡りをしてから、はっと気がついてみますと～(ひま, 6, 52)
- ～数給は、気が気ではありませんでした。(ひま, 6, 54)

- 「東京へ行ってお父さんと一語に生活するのを楽しみに帰って来たのに、
当てが外れたって泣くのよ。」(新, 7, 11)
- 「お金のある方は自由に昔のような生活で、ない方はそれを見ながら手が
出ないという……」(婦友, 7, 86)
- 「おいおい、お前達、随分口が悪いんだな。」(キン, 10, 103)
- 「なに、玉帝々国議長孫悟空……えい、ヤヤコシクて、何が何だかわから
ん。」(世, 7, 79)

〔～ほうがよい・～ぐらいが何だ etc.〕

- ～このときは夏の間だけは牛乳、山羊乳などで補い、秋から離乳を始めた
方がよいのです。(婦友, 6, 86)
- 「膝ぐらゐが何だよ。」(文, 8, 82)

〔～が最後・～が早いか etc.〕

- 「外へ足を出したが最後、百円札が飛んでしまうのですから。」(文, 6,
89)
- 電車を降りるが早いか、かれは一目散に走りだした。(資料外)

〔それが〕(接続詞的用法)

- 「今まではね、あいつ自分の女のことを誰にでもべらべらしゃべりやがっ
たんだ。閨房のことまで御披露に及んだもんだよ。それが今度はびたりと
しゃべらないばかりか、初めはひた隠しに隠してやがるんだ。」(人, 9, 6)
- 「実は私の家は医者で農業もやっていたものですから、私自身中学の制帽
をかぶって田の草を取りました。それが今日も尚、手で田の草を取って
います。」(キン, 7, 88)
- ～、内地もさぞ野球熱がさかんであろうと想像もしていたし、帰る途中に
人から野球の話の聞いたりして十分に考えていたんですが、それが今度東
京に帰り、昔から馴染深い巨人軍と大映の試合を見て、自分の想像以上に、
あれだけ超満員の観衆を集めてゲームをやっているのを見て、ただただ感
慨無量だったですネ。」(キン, 9増, 117)
- 「それがね、五十万とか百万とかいふテラが取れる事があるんです。」(文,
7増, 36)

②対象語を表わす。

- 千鶴ちゃん、と声を掛けるのが怖ろしくて、数絵は、～(ひま, 6, 54)
- これほどの折鶴を折る間、寝ていたのかと思うと、お嬢さまが気の毒で、
気の毒でなりませんでした。(ひま, 6, 54)
- 母上にはそれが堪えられないのであった。(婦友, 6, 27)

- ～「労基法」で子供が使えなくなると邪魔もの扱いにして、～(キン, 7, 32)
- ～約十日で全卵一箇が食べられるようにします。婦友, 6, 86
- われわれは法律や習慣や礼儀の許す範囲内において、われわれの好きなことを言ったり、行ったりすることが出来るだけである。(世, 4, 22)
- この状態で結束してゆけば野党勢力の建直しが可能であると観測している(東, 6, 6, 1)

○～下痢しやすい赤ちゃんには、特別に注意がいらいます。婦友, 6, 86

[～が～する (活用語連体形) こと (体言・準体助詞 etc.)] (「～の～すること」P. 167参照)

- 全卵が食べられる頃になれば、～ 婦友, 6, 86
- 「五十万とか百万とかいふ、テラが取れる事があるんです。」(文, 7増, 36)
- 「新聞が読みたい人は、ここにありますよ。」(資料外)

[～が～し (他動詞) である]

- 何枚も重ねた綿子や、緞子の夜具が敷いてあって、～(ひま, 6, 52)

③格助詞「の」に同じ。(後続の動作性の体言客語を表わす場合が多い。P. 169参照。)

- ～政府側は現在蔣總統を支持する勢力と李宗仁を頂く広西派との二つに割れており、閻錫山は中共の進出を阻止するためにはこれが融合をはからねばならないわけであるが、～(東, 6, 6, 1)

[わが]

- さて わが国では 名大の金原教授が早くから空電と雷雨の関係に着目して空電観測の研究を続けて来ているし ～(科, 5, 36)
- ～, わが党も共産党とはあい容れないことはいうまでもない(朝, 6, 20, 1)

[～が故に]

- 在野法曹の一員なるが故に今日甲説を主張する諸家は、～(法, 5, 51)
- ～私は、前記標準線は、既に裁判所法及び検察庁法によって採用されている一線として合理的なものと考えてるが故に、新たに定めるべき弁護士資格の水準もこれと一致せしむることが適當であり、且つ、～と考えるものである。(法, 5, 51)
- 既往の実情が然りしが故にかく規定すべしとのみ論ずる者は～(法, 5, 51)

[II] 接續助詞 (終止形につく。)

①二つの事がらをならべあげる際の、つなぎの役目をする。共存ま

たは時間的推移。

- 魚は自然では、水草の匂をかき、仲間の臭や餌の臭や敵の臭などをかくことができるのであるが、また他の魚の泳ぐ音や水上を走る舟の音などをきくことができるのであり、空中に生きてゐる動物も、水中に棲んでゐる動物も、やはり匂や音を感じてゐることには変りはない。(文, 1, 11)
- それは、美濃大井町の知人をたづねるのが目的であったが、その途中で、上諏訪に、一泊する、といふことが由比の、ひそかな、たのしい、目あての一つであった。(文, 7, 80)
- ～生体を舞台として母体になる物質を究明し、之に関与する酵素系による生化学反応の連鎖を考えなければならぬが、他方内的因子としての遺伝子の問題も考え合わせる必要があり、～(農, 6, 6)
- 皇太子様は明けて十六歳の春をお迎へになります。学習院高等科一年に御在学中で、御勉強に御鍛錬に日々お励みでいらっしゃいますが、和歌の道にも優れた天分のほどをお示しになります由。(婦友, 1, 38)
- 上空に行くに従って宇宙線強度が増加するという事はヘッスやゴッケル以来知られているが、その後多くの人によって上空の強度が種々な条件下に測定された。(科, 1, 21)
- そのうち、実験の分野においても、中間子の研究が世界の主流となり、いろいろ重要な結果があいついで報告されたが、そのうちに再び理論と実験の間に大きな矛盾が芽ばえてきたのである。(科, 1, 16)
- 託宣によるとこの結び目を解く者には華々しい榮達が予言されていたのであった。ゴルドスに着いたアレキサンダーはすぐにその結び目を調べてみたが、剣を引き抜いてそれを断ち切ってしまった。(世, 1, 11)
- 男は驚いて、顔を退いたが、「馬鹿！ 見損つたらいけない」びしゃりと娘の片頬を打った。(婦友, 1, 48)
- 伊勢子は蠟のやうに蒼ざめて、老女の顔を恨めしく見たが、動かうともしない相手の頑固さに、伊勢子はふと立ち上って、そのまま急に室を出ていった。(婦友, 1, 52)
- 娘は、店先に立ってそれを見送つてみたが、一瞬、弾かれたやうに身を翻して、店頭を離れると、すたすた街を歩き出した。(婦友, 1, 48)
- アルフレッド・ノーベルはスウェーデンの化学技術家で、ダイナマイト及び無煙火薬を發明し、世界各地に爆薬工場を経営して、巨万の富を築いたが、一八九六年に六十三歳で死んだ。(婦友, 1, 42)

〔～も～だが～も～だ〕

- おやじもおやじだが、むすこもむすこだ。(資料外)

②題目・場面などをもち出し、その題目についての、またはその場合における事からの叙述に接続する。そのほか、種々の前おきを表現するに用いる。

- 中国新政府の樹立について下相談をする新政治協商予備会議が始められたが、これは昨年五月のメーデー・スローガンで毛沢東中共主席が新政協会議の開催を提唱してから一年二ヶ月ぶりのことである(朝、6.20、1)
- 第六臨時国会にはいって講和問題が討論されているが、とかくこのような問題は一般国民大衆の声が閑却されがちである。(朝評、1、4)
- こうした態度は今なお日本人の間につよく残っているが、このメンタリテイはインテリにおいては、思想の純粋性ないし観念性への好みと密接に結びついている。(世、4、39)
- 最後に最大会派である緑風会であるが、こゝは全体に保守色が濃く、先日の首相招宴の国会慰労会にも相当多数が臨んでいる(東、6.6、1)
- 次に農地の耕作のことですが、これも七年前とは事情が違っていますので、農地の返還を受けるのには農地委員会の承認が必要です。(婦生、12、245)
- チューダー王政は当時のヨーロッパの王政のいずれにも劣らず苛酷で専制的であったが、それは同意による絶対主義という奇妙な光景を呈していた。(世、1、16)
- チャールズ一世の時代の議会には下院のなかにも自主的な指導者があらわれてくるが、そのうちでサー・ジョン・エリオットはたしかに最大の指導者であった。(世、1、17)
- 戦後のソヴェトでは、いろいろな新しい雑誌が現われたが、そのうちの一つは「セミヤ・イ・シュコラ」(家庭と学校)であろう。(朝評、1、16)
- 伊勢子の良人清川陽太郎は、この地に内科の病院をもつ医学博士であるが、こゝ数年医務の方は副院長の奥弟恭二博士に任せて、自分は県会だとか何だとか、さうした方面の社交に忙しかった。(婦友、1、51)
- ニューヨーク市長の選挙は、民主党オドワイヤー現市長、共和党=自由党モリス、米労働党マカントニオ三者で争ったが、オドワイヤー市長がモリスを三〇万票引きはなして再選した。(朝評、1、22)
- 神西清氏の「ハビアン説法」は苦心推敲の作品であるが、読者のいつわらざる感想がききたい。(朝評、1、6)
- 民主野党派の苦米地党最高委員会委員長、檜橋最高委員らは地方遊説のため十九日新潟にきたが、苦米地委員長は次のように語った(朝、6.20、1)
- さて本論の「若さ」と「老い」の問題に戻るが、個体変異の必然の現はれ

として人間の間に老いの進行速度に非常な差があることは鋭敏な観察者でなくても容易にかつ普通に見られる現象である。(文, 1, 17)

○昭和十九年五月十一日かとおぼえてゐるが、私は西溜間の縁がはで、もう見をさめかと、いささか感傷的になって、列立拜謁の機会を待った。(文, 1, 14)

○しかしながら、私はいつも感じているのであるが、かれのゴールドスの町での行為は、後世の著作家たちが評価するほどに見事な手際ではなかったのではないか。(世, 1, 11)

③補充的説明の添加。

○～吹雪や風塵～これは関東地方で春のはじめによく起るものであるが一も電荷をもつ微粒子が運動するものだから～(科, 5, 36)

○では何のために宇宙線の研究が重要なのかといえば——それは悪質な読者は既におわかりのことと思うが——宇宙線現象に含まれているものは各種の素粒子、即ち～に他ならぬからで～(科, 1, 18)

○「実はね、ノーベル賞を今度私が買うことになったらしくて、それもまだはっきり確報を得たわけではないのだから自分でもわからないのだが、二三日前から新聞社の人、しきりに来るし、今日は十二時に各新聞社の記者会見をすることになっているのです。」(婦友, 1, 42)

④内容の衝突する事からを対比的に結びつけ、前件に拘束されずに後件が存在することを表わす。(既定の逆説条件。)

○早めし早何とかという教えの下に育ったわたくしであるが、できるだけゆっくりと噛みしめる。(文, 1, 10)

○そこで、たとえば、大憲章はイギリスにおける自由の基礎となったもののようにしばしばいわれるのであるが、事実はおかえて、この文書とそれが辿ったその後の歴史をざっと見ただけでも、そうした考え方に止めを刺すはずである。(世, 1, 14)

○～、ここでの生活は、なに不自由ないと云えばその通りなのですが、数絵は、やっぱり、淋しくて、淋しくて、たまりません。(ひま, 6, 52)

○われわれは文部省や著作者の肩を持つつもりはないが、このように見事なものが教科書として発行されたことを喜ぶ。(東, 5.6, I)

○本土にある政府軍のうち約半数はかなり良い装備を持っているが、統率の面はゼロだと見られる(東, 6.6, I)

○しかし、その女は、芸者であるし、それに、由比は、その女に、感情はいくらかわるくしたかもしれないが、迷惑をかけたことも、不義理をしたことも、まったくないのであるから、～(文, 7, 80)

- ディックは留守だったが彼女はモデルだと云って、アパートの係りの少年に、ディックの部屋へ入れて貰い、～(映, 6, 12)
- 心当りへ電話で訊いたが行方がわからない。(映, 6, 12)
- いよいよ焼け出されてみると、覚悟はしていたが寂しい。(文, 1, 9)
- 中間報告を行うという理事会の申合せは承認されたが、報告書の内容について再び意見が対立、十九日の委員会にはかることになった(朝, 6.6, Ⅱ)
- その後 第一次世界大戦によって暫く研究が中断されたが ヘッスらは山に籠って研究を続け コルヘルスターはトルコに従軍して 気象観測の傍ら宇宙線の研究を行った。(科, 1, 20)
- 入ったときは、博士のお姿はなかったが、長方形のテーブルの上や、壁にかいた黒板に、私達にはむずかしい例の記号がいっばいに書かれているので、それとわかる。(婦友, 1, 42)

〔～は～だが～は～た〕(二者の行動・状態の相違を対照させる。)

- たとえば、この間の鉄鋼ストが始まる前、大統領の任命した実情調査委員会が九月十日にその勧告案を発表したとき、フィリップ・マレー(彼は全米鉄鋼労組の会長でもある)は、この案を呑んで賃上要求を放棄したが、左派はただちにこれを「労働者の切実な要求を踏みにじった」やり方だとやかましく非難した。(朝評, 1, 18)
- 女史は優しく席をすくめたが、道子は、むっつりして掛けようとしなかった。(婦友, 1, 53)
- 九月十二日の西獨政府の成立はいわば西欧の先手押しだったが、十一月十四日の東ドイツ政府への大幅な行政権の恢復はソ連の攻勢転移であった。(朝評, 1, 13)
- 音の場合も同様であって、あまり大きい音は寝つきをわるくするが、静かな子守歌のやうな旋律や雨滴のやうな周期的の音は心をしづめて次第に睡をさそふものである。(文, 1, 11)
- これを転化したボルツマンの熱力学第二原則を示す模型などは、簡単明瞭であったが ウィリヤム・トムソンのボルチモア講義に示されたものは難解に終るおそれがある。(科, 1, 22)
- 夢うつつの中に匂を感ずるといふことは、嗅覚の鈍い人類にとっては、あまり経験がないのであるが、眠ってゐる中に急雨の音で目ざめたり、火事の半鐘の音で起きたりすることは、よく経験することである。(文, 1, 10)
- アイゼンハワー元帥引出し工作がまたまた共和党内で起るだろうと書いているのはやややうがちすぎのきらいはあるが、ダレスの敗北が共和党内に一つの教訓を興えたのは事実であろう。(朝評, 1, 21)

- ～、多少とも文學に心のある人には堪えがたい文章だが、大衆の一部の人々には新聞記事に似たこの文体が却って親しみをます作用をなしていることに注意しなければならない。(世、5、39)
- これはフランスには軍事力の再興とみられたが、イギリスには国際市場、ことに欧州非ドル地域における競争の脅威であった。(朝評、1、12)
- ちょっとした電気に関する事柄でも、子供にはラジオは当然の事らしいが、箱の中から人の聲がするというなどは、わたくしには何といっても驚異である。(文、1、9)
- 共産党との提携には、難色を示しているが、無所属懇談会とは今後も一本となり自重して堅実な歩調で与党に対抗しハラを問めている(東、6.6、1)
- 問題は、対日講和は急ぐが、中共承認には気乗りがしないというアメリカにたいしてまず中共を承認して対日講和にはいつてゆこうとするイギリスの態度を藤州、ニュージーランドは支持するかどうかということだった。(朝評、1、13)
- 木曾川に作られる丸山ダム。電力ではN発送電で二番目のものだが、底が絞られている點では日本で、そのため底部を水に掘られる危険があり設計も難しい。(科、1、7)
- 人民の教育のための国家予算支出は、一九一三年帝政ロシアにおいては一億八千二百万ルブリであったが、一九三七年ソヴィエト・ロシアにおいては、百八十五億ルブリ、すなわち、まさに百倍をこえて行った。(世、1、9)

[～ではあるが・てはいるが etc.]

- 毎年志望者の数が減る事ももちろん頭痛の種ではあるが、それよりも心配なのは質が低下する点で、競争の激しい中から選ばれた学生とは、自然ひらきが出来てくるからである。(文、1、18)
- いや、対岸の火であってはならぬはずのものではあるが、事實は対岸の火でしかなかったのである。(人、5、85)
- このような傾向はかなり前から現われていたのではあるが、最近になってますますつよまってきたことが感じられる。(朝評、1、15)
- さてアレキサンダーは才能のすぐれた人ではあったが、劇しく性急な性質をもっていた。(世、1、11)
- ベルリン封鎖解除はかくて西歐ソ連間の国交調整への道を開くものとして世界に一脈の明るさを投じてはいるが、しかし四国外相会議は果してその国交調整に成功し、世界の平和希望にそいうるかどうか。(朝、5.7、1)

- ほぼそんな前ぶれはサッチェストされてはゐたが、元よりさまでの心構へなどは、誰もなかった様である。(文, 1, 15)
- 「さきほどの佐藤先生のお話では、両親揃った子供にも不良化が殖えてはきたが、しかしその率はさほど多くないやうに仰いました。」(婦友, 1, 49)
- このようにアメリカ生産力の比重がめだって大きくなったということは、それ自体重要なことにはちがいないが、それに劣らずわれわれの注目をよぶことは、労働の生産性における懸隔が一そう甚しくなったということである。(世, 1, 24)
- 外相会議案をとって動かないソ連が容易に米英方式を承知するとは思えないが、さりとしてソ連除外を承認するかたちで対日講和を押し進めることはイギリスとして採れない。(朝評, 1, 14)
- しかし、読む書物の大部分は、すでに、知っていることである。読むには読むが、娯楽になるとおもうものが甚だ心細い。(文, 1, 9)

【が】(接続詞としての用法)

- 批評精神は、なるほど現実を拒否する。民衆や社会の現実について誠実でないと診断される。が、はたしてそれは、個人にたいする誠実に固執してゐるからであらうか。(人, 5, 85)
- 批評精神が実践から逃避し、現実の地盤を遊離して、いたづらに悪循環に墜してゆくことのうちに、ひとびとは個人の誠実の限界を見てとる。が、じじつは逆なのではないか。(人, 5, 85)
- 個人の誠実などにほどのことでもない。が、それなくして個人は生きられぬのみならず、社会もまた、それなくして存立しえぬであらう。(人, 5, 85)
- 御主人がアメリカの方だからだろう、英語がなかなか達者で、それも大きな強味だろうと思う。が、彼女に一つ悩みがあった。(婦友, 6, 26)
- 伊勢子の表情はやゝ尖つてた。が、老女は、それを待ってゐたやうに、「他のことゝ違つて、子供達の手前にも、私やこんな気苦勞は御免かうむりたい。」(婦友, 1, 52)

【だ(です)が】(接続詞としての用法)

- 厚木飛行場でお二人とも勤務中結ばれた。だが結婚は名のみである。(婦友, 6, 26)
- そこでは運動会が開かれ、父兄や来賓の競技が始った時、ディックはスーズンに薦められて出場した。競争相手の中には、地方検事のチェンバレン

も居る。だがディックは、サッカー競走にも、二人三足にも、スプーン・レースにも負けた。(映, 6, 13)

- 歴史を読んでいる生徒にとっては、エリザベスはスペイン艦隊を打ち破った偉大な君主として描かれている。だが、私はこの婦人の才能はまさに反対の方面に、つまり、スペインとの戦争に訴えることを甚だしく嫌ったところにあると感ぜざるをえない。(世, 1, 12)
- そこでこれを調達するために、王家は国の最も有力な一社会層を人民に対抗させるという不法をあえてした。だがこの企てが熟する前に、王家はサー・エドワード・コックに代表される普通法の頑強な障害にうち当たった。(世, 1, 16)
- 両親の働いている家(県立養徳園)に帰ると、不幸な子供たちに、大きな愛情をと、吹けもしないハーモニカで童謡を吹いてやる。環境の悪い、アブノーマルな子供たちから何かを見出さう、少しでも健康な子供に育てたいと思って。だがその日ニコニコしていた男の子が翌朝には脱走。何か裏切られたような気がする。(朝評, 1, 5)

【ところが】(接続詞としての用法)

- 思想はもともと行動と相互連関をなすものであって、いかに美しき思想も実現しえざるかぎり夢ではあっても「思想」ではない。ところが遺書においては、その発想者は死によって行動化への責任から完全に免かれている。(世, 5, 39)
- このような結果を見ると、長方形植と正方形植との何れがよいかと思いつくのも無理からぬところである。ところが自然現象には必ず一定の法則があるもので、このように複雑に見える問題も一つの法則に従っているのである。(農, 6, 25)
- 同氏の考え方は当時旧制高校を温存するものと疑われ、四年制大学を疑うべからざる原則とする考え方にとらわれた圧倒的な意見の前に敗れたものであったが、氏の考えの底には実は教育年限短縮論が横たわっていた。ところがこの年限短縮の要望と、旧制の高等専門学校が四年制新制大学の名に値しない実質をもっていることがからんで、ここにやむを得ず二年制短期大学を生み出さねばならなくなったのは、皮肉な現象である。(朝, 5.6, 1)

⑤推量の助動詞について、その事がらに拘束されない結果を導く条件を表わす。(仮定の逆説条件。)

- 個人を犠牲にして国家を高めようとする政策には、それがプロレタリアー

トの独裁と呼ばれようが、フェア・ディールという名で呼ばれようが、私は反対だ。(朝評, 1, 20)

〔～う(よう)が～まいが〕

○行こうが行くまいが、おれのかってだ。(資料外)

〔III〕 終助詞

①事実と反対の事からの実現を願う気持。

○「雨がやめばいいが。」と空を見上げてつぶやく。(資料外)

〔～かな(-あ)〕

○「うまくお金が借りられるといいんだがなあ」(資料外)

②はっきり言うのをほめる気持。

○結局衆を伴での暴行学生の容疑者は私の帰京するその日まで警察の方ではまだ七人しかきまってるが中にはわざわざうちの児は手を出さなかったのだがと断りにやって来た父兄などがみてそれ等は噴飯の詭弁以外何ものでもなかったと思ふ。(文, 1, 13)

5. かしら(終助詞)

○不審・疑問の気持を表わす。

(イ) 自分自身に対して問いかけるニュアンスを持つ場合。

○「——千鶴子ちゃんはいまごろ、どうしているかしら。」(ひま, 6, 52)

○「これで なにを かおうかしら。」(幼ク, 10, 22)

○「うちには 二とうも牛がいるけれど 一とうあればたくさんではないかしら。」(幼ク, 9, 11)

○「さういへば、みんなで帰ったのは幾年まへだったかしら。」(世, 8, 77)

○「なんていうのかしら、もっと みんなでいっしょになって あてようと する……、つまりチームワークということが たいせつね。」(幼ク, 7, 51)

○「まああんなの美人かしら、男って点が甘いね」(婦友, 11, 74)

○「ほんとに夏世さんか知らと思って近づいてみたところなの。」(人, 6, 14)

〔～ないかしら〕(願望)

○「誰か来てくれないかしら、兄さんのお嫁さんに」(婦画, 6, 26)

(ロ) 相手に対する問いかけの場合。

○「ねえ、これならどうかしら。」(幼ク, 10, 22)

○「私、知らないのよ、あなた、どこだったかしら」(ロマ, 9, 89)

○「江の島のパーティでお目にかゝった者なんですが、お忘れになりましたかしら？」(婦画, 8, 54)

- 「ねえ、私はテストになれないかしら。」(ひま, 8, 61)
- 「まだからだの方もはっきりしませんし、もう少し考えさせていただけませんかしら」(文, 9, 87)
- 「近くですし、木工所の方へお世話願えませんかしら」(文, 9, 90)
- 「あのおにいさんは、今後、なにをして暮しをたてるつもりなんでせうかしら」(新, 6, 88)

〔～かしらん〕

- 「お幾つくらいかしらん？」(ロマ, 9, 74)

6. から

〔I〕 格助詞

①時間的出发点・基点。

- 正条植は、山口県下や静岡県下に残っている記念碑などから見て恐らく明治の中葉から相当広く行われるようになったものと思われる。(農, 6, 25)
- 監督のアーヴィング・ライスは新人で元来は脚本家であるが、一九四〇年からRKOの専属監督となり、ジョージ・サンダース主演のシリーズ物やヘンリー・フォンダの「大きな街」などを演出した。(映, 6, 12)
- 生後七八ヶ月以後になると母乳の分泌の減ることが多いのですが、このときは夏の間だけは牛乳、山羊乳などで補い、秋から離乳を始めた方がよいのです。しかし牛乳や山羊乳が手に入らなければ、夏からでも離乳にかゝらねばなりません。(婦友, 6, 86)
- 袖から始まって、スカート、後身頃と回を重ねてきましたが、今月からは前身頃に入りましょう。(婦友, 6, 73)
- 六三制の頂点をなす四年制国立大学の審査もほぼ完了し、合格した六十八新制大学がこの六月ごろから発足する見込となった。(朝, 5, 6, I)
- 吉村隊事件調査の結論で意見対立の参院在外同僚委員会は、十八日午後三時から前日に引続き協議(朝, 5, 19, II)
- 又果物では皮部に出来肉部に送られ、合成は花芽生成の時期から盛んになるという報告もある。(農, 6, 6)
- さて わが国では 名大の金原教授が早くから空電と雷雨の關係に着目して空電観測の研究を続けて来ているし 陸海軍では航空作戦の資料を得るため空電測定の研究を続けていたが実効の上らぬうちに敗戦となった事實は一般に知られていない。(科, 5, 36)

〔～てから〕

- 昨年六月十九日、ソ連がベルリン西歐地区の封鎖を実施してから約十ヶ月、昨年後半期を通じて世界不安の中心であったベルリン封鎖はこゝに解除され、～(朝, 5.7, I)
- 中国新政府の樹立について下相談をする新政政治協商予備会議が始められたが、これは昨年五月のメーデー・スローガンで毛沢東中共主席が新政協会議の開催を提唱してから一年二ヶ月ぶりのことである(朝, 6.20, I)
- 普通雌乳の第一歩は、重湯、葛湯、半熟の卵黄からですが、夏は特に大事をとり、まず牛乳に慣らしてから始めた方が安全です。(婦友, 6, 86)
- 非常に栄養が悪ければ、牛乳や造血劑などで栄養をよくしてから始めなければなりません。(婦友, 6, 86)
- これは普通、全部に寸法を標してからぬいますが、それではどうしてもいくらか狂いが出ますから、裁断は、身頃の中心の布目を曲げないようにタックを予定通りにぬってからします。(婦友, 6, 73)
- こくりこくりと居睡りをしてから、はっと気がついてみますと、～(ひま, 6, 52)
- 体重が少くても肥っている小柄な赤ちゃんならよいのですが、瘦せていて肋骨がはっきりわかり、皮膚がたるんで皺がある(特に内股に多い)ような赤ちゃんはもっと肥ってからにします。(婦友, 6, 86)
- 然しそのことが多くの人によって強く意識されるようになったのは、恐らく正衆植が普及してからのこと、と思われる。(農, 6, 25)

〔これから・それから・あれから etc.〕

- これから生れる短期大学は、四年制大学に落第した学校の救済策としか受け取れなくて面白くない。(朝, 5.6, I)
- 「たいていの方は、乱歩のものを愛読して、それから探偵小説に入るんじゃないですか。」(宝, 9増, 133)

〔～から～まで〕(時間に関する範囲を示す)

- 「わたくしの講義は、二時五十分から四時半まで、二十一番教室で、やります。」(資料外)

②空間的出发点・出どころ。

- 南洋在留中国人の大立物陳嘉庚氏以下南洋中国人代表一行は香港から海路天津経由で四日北平に到着した(東, 6.6, I)
- その時マーガレットは、その日の午後学校から帰ったスーザンが、ディック・ヌーゼントの講演を聞いて、夢中になっていた事を想い出した。(映, 6, 12)
- その湖水のはうからも、その方へむかってあるく二人に、つめたい風が、

吹きつけた。(文, 7, 80)

- ガンちゃんは、さっそく、つぼからくすりをつかみだすと、むくむくうごきだした催眠術師のかおに、プーッとふきかけました。(野少, 6, 43)
- ガン吉のバットからとびだした猛球一ぱつ！(野少, 6, 42)
- 自動車の中であんなに元気だった正広君が、車からおりた途端に急におとなしくなってしまったので、僕はオヤッ、と思った。(キン, 7, 32)
- ただここで問題となることは、この型では空中線の鋭い受信方向からの空電しか記録されないから、極めて短時間に出現し、消滅し、かつ方向移動の激しい空電源からの空電を逸するおそれがあるという欠点をもつことである。(科, 5, 37)
- 大阪堺筋で去る十四日正午ごろ女事務員二人を自動車で襲い、銀行から引出したばかりの現金約六萬円を強奪したギャング團事件があり、～(朝, 5.19, II)
- ソ連のベルリン封鎖は西歐側の西独通貨改革を動機として行われたが、これは米英仏側の西独政府樹立工作をもってボツダム協定違反と見なすソ連の報復であり、これであわよくば西歐勢力をベルリンから締め出し、たとえそれが出来ないにしてもこれを種に西歐側に再び四国会議を開かせて対独処置をボツダム協定の線にもどさんとするものであったろう。(朝, 5.7, I)

〔～から～に〕

- 空電の正体は、波長からいえば数mの超短波帯から数萬mの長波帯に及び、周波数は波長によって異なるが10kc くらいのもが多い。(科, 5, 36)
- Nから来た電波は桿型空中線 I から増幅器 I に入り増幅されてブラウン管にNSの輝線を生ずる。(科, 5, 37)
- 広川民自党幹事長は十九日朝大阪から岡山に着いたが、車中で参議院議員選挙法の改正、明春の参議院選挙対策および警察制度改正問題などについて次のように語った。(朝, 6.20, I)

〔～から～へ〕

- 数絵は、そうたずねたつもりでしたが、口から外へ聲になって出たか、出なかったのかわからないほど、出たとしてもそれは、低い聲だったのです。(ひま, 6, 52)
- 一個の人間がいかにかに生きたか、またいかに社会に貢献し、あるいは害を及ぼしたか、ということこそ大切であるのに、それよりもその人間がいかにかに憂き世からあの世へ行ったか、つまりその死に方が重視され、そこに究極的な価値判断の基準がおかれる。(世, 5, 39)

〔～から～まで〕（空間的起点・終点，または範囲を示す。）

○溝ノ口から浅草まで一時間のドライブは，正広君にとって生れて初めての楽しい経験だろう。（ケン，7，32）

〔すみからすみまで〕

○言われて教絵が天井から床の間の方をみわたすと，すみからすみまで埋もれてみえるくらいなのでした。（ひま，6，54）

③経 由。

○割れたガラス窓から，二十ワットの電燈の白い笠がみえています。（ひま，6，54）

○～笹倉温泉につき そこから登るわけなのだが 車窓から眺めた鷗山は快晴だったせいもあって随分と近くに感ぜられた。（科，11，58）

○かつて中学を出て高等学校から大学へ進むためには，選ばれた秀才以外には狭い門であった。（朝，5.6，I）

○福永は福岡県の産，当年とって五十六才の働き盛りだが，熊本五高から九大機工科を出て住友若松炭業所へ入ったチャキチャキのコール・マンで，エンジンヤ氣質の消極的な線の細い優柔不断な男である。（エコ，11.1，34）

○午前十一時，坂下門から宮内庁の玄関に着いたのは，毎日新聞論議委員十六人であった。（エコ，11.21，44）

④時空以外の抽象的な基点・出どころ。

○米英仏ソ四国政府は五日共同コミュニケを発表して，四大国の協定にもとづきソ連のベルリン封鎖および西歐の逆封鎖も十三日に解除し，四国外相会議を五月廿三日パリで開きドイツに関する諸問題，ベルリンの事態から生れた諸問題ならびにベルリン通貨問題を討議することを明らかにした。（東，5.7，I）

○この中華人民民主共和国を代表する民主連合政府ができて，はじめて中国は半植民地的，封建的運命から離脱し，独立，平和，統一富強の道に進むことができる（朝，6.20，I）

○批評精神が実践から逃避し，現実の地盤を遊離して，いたづらに悪循環に墮してゆくことのうちに，ひとびとは個人の誠実の限界を見てとる。（人，5，85）

○現実のうちに深く根を張ってゐない批評精神は——実践から遊離した批評精神は——それなら，このさい徹底的に処断されなければならぬのであろうか。（人，5，84）

○衆議院の委員会などでも共産党代議士から質問があったし，日教組は直接高瀬文相に撤回方を申入れたという。（東，5.6，I）

○ところが遺書においては、その発想者は、死によって行動化への責任から完全に免れている。(世, 5, 39)

○その夜マーガレットは、ディックをスーザンとの交際から解放させ様と思ったし、何となく二人だけで話したくなったので～(映, 6, 13)

○そしてわれわれのそのような努力を妨げ、すべての人々が究極において求めているところのものから、人々を遠ざけるような、無智や気まぐれや我ままにもとづく言行は、強くこれを制限しなければならないであろう。

(世, 4, 22)

○なるほど、廿四年度予算案は、一応、一般会計から赤字公債を排除し、復金債発行をも停止し、特別会計においても建設公債の発行を制限し、地方財政でも地方起債をやめているように見える。(エコ, 5.11, 10)

[心から etc.]

○数絵は、ここからほっとして、～(ひま, 6, 54)

○「全快したら、この御恩返しには、少しでも日本の困った方々をお助けしなければ……と心から希っていますの。」(婦友, 6, 26)

○千鶴子のいない人生は、どんなたのしいことがあっても心の底から笑えず、どんなおいしいものでも、味わっている気がしないのでした。(ひま, 6, 52)

[～から～へ]

○形の教育から質の教育へ(朝, 5.6, I)

○私をしていわしめれば、論者が、～、虚心に、わが国今後の法曹界の辿りつくべき目標と、現在おかれている地位からそれへの距離とその道程とを、比較考量しながら論究するならば、決して氷炭相容れざるごとき諸説の対立紛糾を来すことはないように思うのである。(法, 5, 51)

⑤開始順序・発端。

○主食は、白米を十倍の水で軟かく煮て裏漉にした濃厚重湯から始めます。(婦友, 6, 86)

○副食物は、卵黄⁺箇から始めます。(婦友, 6, 86)

○袖から始まって、スカート、後身頃と回を重ねてきましたが、今月からは前身頃に入りましょう。(婦友, 6, 73)

○一たん庭へ下りようとしたお嬢さまが小言を言いながら小戻りしてきて、糸のむすび目を片はしからほどいてやりますと、ほどかれたのから、鶴は、羽をばたばたやって庭の方へ飛び立ってゆきます。(ひま, 6, 54)

○普通離乳の第一歩は、重湯、葛湯、半熟の卵黄からですが、夏は特に大事をとって、まぎ牛乳に慣らしてから始めた方が安全です。(婦友, 6, 86)

○しかし、手にはいるものは片っ端から読んだ。(文, 1, 9)

[～から～まで] (系統的に配列されたものの範囲を示す。)

○副食券について：一連のまとまった食事(洋食なら前菜からデザートコースまで)には一人一枚とする(朝, 5.19, II)

○「その調査の対象は十七才から二十三才まで、学校でいえば新制高校と新制大学にあたる年令で、～。」(キノ, 10, 38)

[つきからつきへ]

○なん枚もあった着物も、つきからつきへと売ってしまいました。(資料外)

⑥理由・根拠・原因・動機。

○こういう方面の多くの結果から、Cの生成及び移動の状態を推定する事が出来るのであって、～(農, 6, 6)

○安本義表の経済白書は、単に日銀券発行高の増減のみから、インフレの進行を判断し、廿三年度を通じて、インフレ進行の鈍化を結論している。
(エコ, 5.11, 10)

○表面的な現象の面からデフレ的傾向を云々するものがあるが、～(エコ, 5.11, 10)

○空電源Dから出る電波をABCの3点で同時に測定すればABCの関係からDまでの距離がわかる。(科, 5, 36)

○ラジオに特有のガーガーという雑音が入ることから考えて 特殊の無線機器を使えばこの正体をはっきりとらえられ その波型から発生源が熱雷か渦雷か或いは風塵などであることが判明し 3点観測をして空電源の位置を測定すれば 洋上遙かな気象現象や山岳地帯の気象現象の推移を居ながらにして時々刻々知ることができ 台風を早期に発見し その移動経路の記録から予報を行うこともでき また雷雨予報の精度を向上できるなど 資する所は極めて大きいものといわねばならない。(科, 5, 37)

○植物の葉のC量が吊種の近似したものについては略々近似していて、しかし属群の間には簡単な整数比の関係がある事から、C量を決定する或遺伝子が染色体にあるという考えも述べられているし、～(農, 6, 6)

○この危険感から、ソ連はベルリンの封鎖を解除し、西歐側との国交調整を希望するに至ったとも見られるのであって、～(朝, 5.7, I)

○通貨増発のごときは、この階級的収奪政策から必然的にもたらされる結果的現象にすぎない。(エコ, 5.11, 10)

○それに、そのとき、妙な『いきさつ』から、由比は、その女に、よく逢ひながら、その女の『あね』芸者と、したしくなつて、結婚した、といふやうなこともあった。(文, 7, 80)

○ガンちゃん和ダンちゃん、思わぬ事件から思わぬくすりを手に入れ、おそわったとおりの道を、もとの野球場さしてもどっていきます。(野少、6、44)

[～からする (いう・みる etc.)]

○具体的にいうならばこのソ連の変化が中共にどのような影響を及ぼすか、中共としては目下のところは軍事行動に忙がしいが、基本的なものにおいて結ばれているソ連と中共の関係からして中共の対外策がどのようなものになるか、非常に注目を要するものがある。(東、5.7、I)

○われわれの自由は、何を言い、何をなすべきかを、偏見や情欲に支配されないで、われわれの究極の目的からする明察にもとづいて、選択決定するところに成立したのである。(世、4、22)

○空電の正体は、波長からいえば数mの超短波帯から数萬mの長波帯に及び周波数は波長によって異なるが10Kcくらいのもが多い。(科、5、36)

○父兄の負担を軽くしつゝ、実際社会に早く子弟を送り出すという年限短縮の要求からいっても、はたまた現実の高専諸学校の内容からいっても、かゝる措置はとくに予想されていたに相違ない。(朝、5.6、I)

○批評精神が時間のそとにたつて、時間をも空間的に認識するといふことは、これをべつての次元からみれば、より以上に時間を実感するということになるではないか。(人、5、84)

○正条植は、山口県下や静岡県下に残っている記念碑などから見て恐らく明治の中葉から相当広く行われるようになったものと思われる。(農、6、25)

○その他リュウソウ56の差し脚が問題だが三日目レコードであがったハナマダ60が出れば時計からみてもレースの中心となる(東、5.23、III)

[～ところから。～上から etc.]

○ソ連はマーシャル計畫や北大西洋条約に見る西歐側の軍事的経済的團結のうちに、対ソ包囲戦の危険を感じているばかりでなく、さらに西歐資本主義国の景気後退を予想するところから、その景気回復策として西歐側がいよいよ軍備強化をはかるものとみて、戦争に対する不安感を強めている。(朝、5.7、I)

○これに対し ラジオ気象学は、空間に浮遊する雲や塵は皆すべて電荷を有する物質であるところから レーダーから出す極超短波を反射してブラウン管にその姿をあらわすこと また空電はそれが一つの電波の発射源であることからして この電波を捕捉すれば空電の位置を知り得ることなどを利用して 気象要素を求め新しい気象学の領域である。(科、5、36)

○～、ここに再び四国外相会議の開催を見ることになったのは、それだけで

も世界平和の上から喜ばしいこと、いわねばならない。(朝, 5, 7, I)

⑦原材・材料。

- 前者は受信機と回転ドラムの自記装置からなり 後者には方向性をもった空中線を使う回転型と瞬時型がある。(科, 5, 37)
- 「わたしが密林のいろいろな薬草からつくった、とくべつ製の催眠薬をさしあげます。」(野少, 6, 44)
- 「ヒョウは雪からできたものですか？」(科, 6, 18)

⑧受身の作用の出どころ。

- 東大工学部の学生四百人が花山教授からBC級死刑者の遺書を示され、「例外なく涙して」これをパンフレットに作成したという信じがたい事実(一六七頁)も、恐らく、こうした純粋性への憧れと無関係ではないであろう。(世, 5, 39)
- 料飲店はワク附で一応再開の運びとなったが従来取締当局から余り重視されていなかった旅館業者が監視のスキに乗じて再開の際と共に料理屋、待合等軽飲食店と同様享楽面の域に進出、～(東, 5, 29, III)
- われわれは既に、このいわゆる内面的自由なしには、外から与えられた自由は、それだけでは自由の条件たるに止まり、自由としては満足なものではないことを見た。(世, 4, 22)
- もし一部の人々からこの教科書が「一方的」と見られるならば、それはこの著述者が従来の教科書に特有なアイマイな表現を使わず、現代と真正面から取り組み、極めて明快に真実を断定している点ではなからうか。(東, 5, 6, I)

⑨聞く・教わる等の動作の相手。「に」で置き換え得るもの)

- 警察制度の改正に関しては、前国会のころ全国地方自治体の代表から、地方警察費が高額に上り維持が相当困難であること、地方警察は情実がからみ悪質警官の罷免も思うにまかせないという事情を聞いた(朝, 6, 20, I)
- この轍を踏まないためにも、歐洲絵畫や殊に近代絵畫の技術面からわれわれが教はるものは未だ相当多いのではなからうか。(文, 1, 20)

[II]接続助詞(終止形につく)

- ①原因・理由をあらわす。表現者が、前件を後件の原因・理由として措定して結びつける言い方。すなわち、「ので」に比べて、条件としての独立性が概して強い。(既定の順説条件。「ので」に近い意味で用いられることもある。)

- 以上の次第でポンド下落で英連邦からくる穀物、棉花、羊毛、石油などすべて割安で沢山輸入されるから、これらの関連産業は原料も豊富で稼働率が高まる。(エコ, 12. 11, 33)
- また、生活の根があさいから、ひどくうすっぺらだ。(人, 12, 40)
- しかし法律にあることはすべて合法的だとする単純な頭は、なくられたときなぐりかえすのは正当だと想像していたから、自称土木監督のゲンコツを見まわると、急に抵抗の意識が破裂した。(人, 12, 116)
- ブチブル層は、資本主義のあるだんかいに、必然的に生れるものだから、ブルジョアやプロレタリアのように、歴史を決定する力を持っていない。(人, 12, 40)
- 今度の税務署の汚職事件摘発は今後も継続的にやるつもりだから一般の投書その他による協力をお願いしたい(東, 5. 29, III)
- ～、裁判所の精神病医のビーミッシュ博士は、ディックに刑を宣告すれば、スーザンの心の傷手は生涯癒らないから、スーザンとディックを充分に交際させて、スーザンが彼に飽きるのを待つ方が得策だと云った。(映, 6, 13)
- 下痢しやすい夏と、下痢の重くなりやすい離乳期が重なるのですから、離乳は秋まで延せと言われる理由もおわかりでしょう。(婦友, 6, 86)
- しかし、その女は、芸者であるし、それに、由比は、その女に、感情はいくらかわるくしたかもしれないが、迷惑をかけたことも、不義理をしたことも、まったくないのであるから、『もし逢へれば』などと考へるわけは一つもないのであるが、～。(文, 7, 80)
- そういう女だから誘導されるか、手きびしい調べに会えば、何を云いだすかわからない。(人, 12, 120)
- 工業学校は軍隊の模型であった。模型は本物に似ているほど優秀なわけだから、ミリタリズムの本質である力は、あらゆる品性の上位におかれた。(人, 12, 113)
- 何れも資産再評価にも大丈夫だし増配見込もあるから、一時の波瀾は別として今の値頃で買ってでもまず利益する株である。(エコ, 12. 11, 32)
- 要するに人民大衆の生活と生命を安らかにしようとするのが言論の根本目的であるから、平和が保たれ生活が安らかであるかぎり、言論の自由などは返上してしまって、弾圧をこうむるおそれの毛頭ない絵画論でもやるにこしたことはない。(世, 12, 38)
- 雉はながく煮ると香気がなくなりますから、一噴きしたら、すぐ頂きます。(婦生, 12, 138)

○早大卒業後、女史は海軍報道部の囑託として、特に四国・大坂・中国方面をよく歩き廻りましたが、その公用の旅でも、父正一氏は影の形に添う如く、常に行動を共にしたというのですから、驚かざるを得ません。(婦生, 12, 67)

○一キロの電熱器ですと、いったん百度になったお湯はスイッチを切っても三十分間は九十八度を保ちます。九十五度で煮えるのですから、結局余熱で三十分物が煮えるわけでありませぬ。(婦生, 12, 128)

〔～は～からだ〕(結果・帰結を先に述べて、原因・理由を後で説明する言い方。)

○しかし途中で素材をなげで新しい作品にかかっても、佳い作品はなかなか作られない。素材が悪いのではなくて創作態度が悪いからだ、夫婦生活でも離婚するような人は、結局傑作をつくる能力のないへぼ芸術家であると思われる。(婦生, 12, 145)

○ヒトリズムやプロレタリア独裁の信奉者にとってこの書が面白くないことは当然であろう。それらに対してこの書は鋭い一撃を食わせているからである。(東, 5, 6, I)

○でも、あなたのおっしゃる時間には参れません。母や兄が日暮屋口まで迎えに参っているからです。(婦生, 12, 74)

○第二、然し他のかくれた意味においては、今回の破門令は一つの積極的な意義をもつことを許される。それはこの態度が共産主義に対する今一つのキリスト教の態度の抽象性に対して、限界を設定する作用をなすからである。(人, 12, 42)

○ところがケムブリッジ(～)の教育委員会はその高等学校の校舎をそれに使用することを許可しなかつた。その理由はラスキー教授は共産主義者であり、宗教に敵意をもっており、ローマ・カソリック教の敵であるからだということケムブリッジのネヴィル市長が聲明した。(世, 12, 9)

○しかし世界外交の白熱点は極東に移った感がつよい。というのは歐洲におけるドイツ問題が、ようやく行きつくところまで行きついたので比べて、中国の問題がこれに代つて、各国外交政策に中心的地位をしめるに至つたからだ。(エコ, 12, 11, 40)

○以上四つに分れる自由のうち、第四の恐怖からの自由については特に取立てて論及することをここでは差控えたいと思う。なぜならば、恐怖からの自由を論ずることは、一面においてはなにか平和の問題であるからであり、他面においては、政治的自由と市民的自由または公民の自由との関連の問題などにもわたるものであつて、とうてい私にはそれらを本稿で能

く取扱い得る余裕も力量もないからである。(世, 12, 29)

○由比が、そのとき、上諏訪に一泊しよう、とおもったのは、その時から十五六年まへに、その町に、たいざいしてゐたをりに、片戀ひをした女に、もし逢へれば、と、かんがへたからである。(文, 7, 80)

○そしてそれでも猶、映畫の「ハムレット」が平場の舞臺で上演された「ハムレット」に及ばないとすれば、それは、彼の大作の肝腎な箇所は、常に俳優の肉体と肉聲を必要とする、日常的な、純粹な劇に立ち返っているからに他ならない。(人, 12, 107)

〔～からは・～からには〕

○そこで問題は、第一に、～、第二に、憲法で反宗教宣伝の自由を規定しているからには、ソヴェート国家は政教分離の原則を實行していない——すなわちソヴェート同盟では国家は宗教にたいして中立をまもっていないのではないか、の二点に掃蕩するであろう。(世, 12, 34)

〔～ものだ(です)から〕

○「ぼくの犬も、おなじ色だったものだから、きみが、ぼくの犬をとっていかうとしたのだと思ったんだよ。」(幼ク, 10, 59)

○「ヤギがおいしいもんだからあんなこといつてら」(銀, 8, 40)

○「あんなおほがきでしたものですから、昔の知合いかと思いました。」(宝, 7増, 267)

○その間に速記を教へていただいて、先生も成績がいいからって褒めてくれたんですけど、お役所生活は堅苦しいし、あたしは性質が派手なもんでから、一年間で辞めちゃったんです。(文, 3, 103)

〔だ(です)から〕(接續詞としての用法)

○つまり、ニッポンのブチブル層は、不自然にのこった封建的要素のうえに、生きのこった。だから、その思想は、はなはだ保守的で、反動的だ。(人, 12, 40)

○官公労組は、もともと低い賃金ベースを上げんがため、少くとも民間賃金とのつり合いでも保たんものと、矢つぎ早やの攻勢に出たわけであるが、民間労組はつねに、これを背後から後援し、自らの賃金ベースの引上げを狙った。だからして、官公労組の闘争はつねに、民間労組から歓迎され、後援されたが、そのこと自体、官公労組の賃金ベースは、もっとも低い賃金率の一つの基準でもあった。(エコ, 12.11, 13)

○その頃、村山知義なんかがやっていた構成派の運動、それから繪畫の二科にたいする三科の運動、それらもダダイズムの中に入れて言えば、あつうものは世界大戦後、歐洲におこったものの輸入ですね。ですからプロレ

タリア芸術運動より根源はちょっと早いわけです。(人, 12, 8)

- ②極端な場合を引きあいに出して強調し、他の場合は当然同趣の結果となるという立論の根拠とする。「～さえ～だから」のほか「～くらいだから」の形など。

○大人でさえ胃腸を損うことが多いのですから、敏感な赤ちゃんの胃腸はちょっとした異常にもすぐ影響され、忽ち下痢を起してしまいます。(婦友, 6, 83)

○日本の関心が中共承認の問題それ自体でなくして、その影響いかんということであり、更に具体的には当面する対日講和の成否にそれがどう響くかにあるのはいうまでもない。領土にしても賠償にしても、講和条約を構成する最も主要な問題の多くは日華関係のうちに横たわっており、対日講和は本質的には日華講和条約であるとさえいえるからだ。(エコ, 12.11, 8)

○いや、あの女はアーノルドの遺品をカバンにつめていた位だから、こういう嫌疑を受けることを、先廻りして考え、防禦線を張っておくことなどできなかつたろう。(人, 12, 120)

- ③理由となるべき裏がらを挙げていったん言いさし、帰結を言外に暗示する。さらにそれを「と」で受けて、その帰結から導かれる行動の叙述へと移る。(終助詞的な用法)

○何しろよいことが書いてあるだろうからと、一所懸命に読もうとする者をさえ、引っ張って行く力のない白書である。(エコ, 12.11, 6)

○その翌日、こゝにいたら危ないから、とみんなまた荷造りを始めました。(婦生, 12, 56)

○最後の夜、ママにちょっとお話があるからと、私たちの部屋にママを呼び、「僕はもう、桃ちゃんとはこれ以上一齋に生活できないから出てゆきます」とあの方がいきました。(婦生, 12, 98)

○少しだからと面倒がって残り火を粗末にすることは最も不経済です。(婦生, 12, 129)

○その時から十五六年まへ、由比が、はじめて、下諏訪(～)に、行って、十日ほど、たいざいしたとき、宿屋の番頭に、二三日まへに出たのがあるから、(もっとも、「一年ほど、休んでゐたのですが……」)と、すすめられて、よんだのが、その女であった。(文, 7, 80)

- ④「からといって」「からとて」などの形で、否定の意味の語と呼應し、逆説の条件となる。

○第四に、抵抗縮があるからといって、政府が簡単に混乱に陥ることはない。

(世, 12, 25)

○最高の為政者の場合でも、事柄は同じだ。否、その方が罪が重いというべきではないか。とそうロックは論ずる。しかし、だからといって、君主の行為が正当でないと思えれば、誰でもこれに抵抗してよいだろうか。(世, 12, 25)

○一、欠乏からの自由によって生活が安定しもしくは保障されたからといって、それだけでただちに宗教的信仰が消滅することはないにしても、～(世, 12, 37)

○単に資産含みが大きいからとて優良株と言えないのは右の通りである。
(エコ, 12.11, 32)

7. きり (副助詞)

① 事物を限定する意味を表わす。

○二人きりでそうやって、肩のこらぬ世間ばなしをしているのを、彼はこの上もなくありがたいものに思われてならなかった。(婦画, 12, 66)

○柳井の家を出てくれと一度は云ったが、一度きりで口に出すこともなく、感情を殺して居るようであった。(ロマ, 12, 32)

○彼の背後には表のすりきれた櫓が八枚、何の調度も乗せずに湿気にふくらんでいる。ただ一つ片隅に小さな机が一つ、視線と湯呑を一つのせて置いてあるきり。(新, 12, 119)

○そのころになって、ようやく野球のことをあきらめきったかれは、毎日なにするともなく、ぼんやりと天井を見つめたきりだった。(野少, 12, 46)

○つや乃は、夜空に消えた汽笛の音に運ばれて行った友の行先を思いやるような、幼い感傷の風で言いかけたが、敬吉は、それには、「うん」と、短く答えたきりで、「少し、歩かないか……」と誘いました。(婦画, 12, 78)

○「お世話になりました。速水さん……」敬吉は、例の通り、黙って頷いたきりでした。(婦画, 12, 78)

○「まあ、健ちゃんたら……。」安英はそういったきり、いそいでつくえのふたをおおいました。(少女夕, 12, 110)

② 「～を最後として」の意を表わす。主として、否定の意の語と呼應する。(「～きり～ない」の形が多い。)

○悦郎夫婦と並んで勇が座って居る。輸血をしてくれたきり、病院にも顔を出さず、今日の招待にも悦郎の影に隠れて座って居るのだった。(スタ, 12, 29)

○ざっと前離婚した切り、あとは貰はず、老母と二人暮して謹厳な上にクソ

真面目の広沢一男、～(スタ, 12, 104)

○章吉は、学校はきょうきりで冬休みにはいる。(野少, 12, 95)

〔それっきり〕

○「オミネ様。たしかに頂戴いたします」ツツーッと出ていった。それっきり、もう小野の姿もオミネ様も龍谷寺界隈から全く見られない。(文, 12, 112)

○ダッダッダッダッと猛烈な機関銃の音が耳をつんざく。収容所の垣——私たちがスカンボをとりこに這い出した死出の門——から応戦しているのだ。それっきりあとはまたひっそりとし、もとの静寂にかえった中でしばらく無言の点検がつづく。(結画, 12, 76)

8. 〈せに〉(接続助詞) (連体形につく)

○ある条件が順当でない結果となる場合、その食い違いに対する難詰の気持ちをこめて、前件・後件を結ぶ。「のに」よりも、難詰の気持がはるかに強い。(逆説条件。終助詞的用法もある。)

○若林君が三日に一ど位出ているのに、梶岡は若いくせに、五日目位に出るといふと、肩が悪いとか何とかいって出ないそうだ。(野少, 7増, 16)

○「弱い癖におよし。」(スタ, 7, 71)

9. くらい(ぐらい) (副助詞)

①おおよその分量・程度を示す。「こそあど」につく時は、「こ(そ・あ・ど)のくらい」の形をとる。

○明春の参議院選挙には、民自党としては八十名くらいの当選を目標とし、
～(朝, 6.20, I)

○～、犬養氏と行動を共にするものは十名くらいしかないと思う。(朝, 6.20, I)

○～会社員有川三郎(五〇)さんは同区宮前町一七一先きを通行中廿五、六歳ぐらいの不良風の男にピストルよりの物で脅され、現金三千円、腕時計、背広上下をはぎとられた(東, 5.29, III)

○慣れてきたら、初め一さじくらい御飯粒を入れておまじりにし、～(婦友, 6, 86)

○その長さの半分くらいまで大体同じ深さにぬい、～(婦友, 6, 73)

○さて、そのせまくなった町を、半町ぐらあ行くと、左がはの、バラックだての、長屋の売店が、とぎれる。(文, 7, 80)

○方向の誤差も感度幅が20°～30°くらいなので、これくらいの誤差を生ずる

おそれなしとしない。(科, 5, 37)

○～周波数は波長よって異なるが10KC くらいが多い。(科, 5, 36)

○さて、由比は、その十日ほど、たいざいしてゐたとき、鯉子を、三度か四度ぐらゐ、よんだが、～(文, 7, 80)

○「あと、どのくらい、かかりますかしら？」(資料外)

②ある事がらを例示し、それによって、動作や状態の程度を示す。

(少くとも、の意。)

○すみからすみまで埋もれてみえるくらいなのでした。(ひま, 6, 54)

○他の季節には離乳経過の一日で進むところでも、夏は二三日かけるくらいにしましょう。(婦友, 6, 86)

〔～くらいだから〕(極端な場合を引きあいに出して強調し、他の場合は当然同じような事になるという立論の根拠とする。)

○そんな事を言うくらいだから、あいつ何をしてくすか分からない。(資料外)

③程度を表す際、比較の基準を示す。

○早場米が昨年くらい早く出れば好転すると思う(朝, 6.5, II)

○「なにしろ、大きな家くらいもある巨象なんだからね。」(少年ク, 3, 68)

〔～くらい～はない(少い・まれだ etc.)〕

○「今の日本でわれわれくらい自由になんでもやれるものはない」(朝, 6.5, II)

④ある事がらを例示し、その程度を弱い・軽いものとして扱う。

○われらにかわって裁判されているのだという気持ぐらゐはあってもよいのではないか。(世, 5, 39)

〔～くらいなら〕(ある事がらを引き合いに出し、それに比較して、他のものを、より強く主張する言い方。)

○今におよんであわてゝ二年制の短期大学を作るくらいなら、最初から四年制大学と併行して二年制大学を設ける方法を講ずべきであった(朝, 5.6, I)

10. け (終助詞)

①回想。(過去・完了・断定の助動詞に続く。)

○きのうの午後、玉川で水およぎをしていたら、「川でおよぐのは、きょうかぎりだなあ」と、安藤君はざんねんそうにいったけ。(少年ク, 12, 85)

○～何年か昔私も女学生でありし頃を思い出しました。やっぱりバザーで舞手古舞をしたけ、アイスクリームとおしるこを褒りばんこに食べて先生におなかをこわしますよと叱られたり、賣場の番をしたり、何だかもうやたらと楽しかったのをもう一ぺん位思い出したって良いでしょ。(ひま, 12, 66)

- 「あゝ、さうさう、そんな女優がゐたっけねえ。」(文, 6, 80)
- 「勝てるゲームを 三つまで イレギュラーバウンドで 負けたっけ 来春地ならし しとこうぜ」(野少, 12, 79)
- 「——えーと、なんてところだっけ、わすれたわ」(少年少女, 10, 62)

②関心を誘う意をこめての発問。

- 「良ちゃんは今年いくつだったっけ？」(ロマ, 6, 65)
- 「その前はブローチ その前は口紅、その前は……なんだったっけな」(スタ, 11, 90)

11. けれども(けれど・けど・けども)

[I] 接続助詞(終止形につく)

①二つの事がらまならべあげる際のつなぎ。共存の場合。また、単なる時間的推移を表わすこともある。

- そして不断に兵力を強化し、スイスの防衛意志を外國に確信せしめる手段をとってきている。それは、どこまでも中立にとどまるけれども、同時に如何なる攻撃にも武力をもって排する決意と準備をもった「武装中立」であった。(文, 1, 27)
- ホイスがドイツにおける自由主義のチャンピオンであること、そういう人物として新しいドイツを象徴するのにふさわしい顔であることは、右によって一応理解していただけたと思うけれども、ここまで考えて来ると、われわれは、さて、しからはホイスの運命はどうであるかを聞いて見たい気にならざるを得ない。(朝評, 1, 43)
- 彼は、さう教へられてみれば、慥かに自然が光彩の錦織であることを發見した敏感者であったけれども、その同じ色彩的敏感は、色が無いやうに見える黒の中にも、他人の眼には閉ざされた無量の色彩的魅力を發見して、常にこれに愛して已まなかつたやうに思はれる。(世, 1, 109)

[~も~だけれども ~も~だ]

- 爲替のレートは重大であるが、クリップスがいうようにそんな力のあるものではない。「イギリス經濟の構造的欠陥はむしろ外にある。それは戦争によって変形した変形經濟がそのまま維持されていること、そのため健全な安定を恢復するのに力となる健全な自然的過程が阻止されていることにある。この阻止はむしろ外部からも来ているけれども、内部とくに政府の政策にも責任がある。」と。(世, 1, 42)
- 「急に何か用事でも」馴れた言葉にも何か不安がこもってゐた。「年始の挨拶もあったけれど、実はな……」と老女は急に聲を落したと思ふと、「ま

た道子が、この年暮に、S市の警察で掴まったんだよ。もう裁判にも廻ったさうだから、今度はたゞでは済むまいと思ふんぢゃ」(婦友, 1, 52)

- 「長唄のお稽古も始めようと思っておりますけれど、レコードを聞くのがとても楽しみなんですの。」(婦友, 1, 23)

②次に来る叙述の場面・題目などを持ち出し、また、前おきを述べて、次の叙述に続けるつなぎとする。

- 共同経営や協同組合がどのような将来をもつか、また富農層が土地制度の裏をくぐっても再び寄生地主化する方向をとるか、それとも資本家的な農業企業家として成長する方向をとるか。北海道には後者の途への可能性が少くとも内地府縣よりは大きいのではないか、というような重要な問題がのこされているけれども、これらについての農業経済学者たちの判断はいかがなものであろうか。(朝評, 1, 134)

- 要するに、第二次大戦後ポンドはなお世界的地位を維持しているけれども、それは右のようなドルの巨額な政治借款のおかげであって、その基礎がなくなれば、それは土崩瓦解する理由を十分に内包しているのである。(世, 1, 34)

- 終戦後いろいろの改革が行われたけれども、そのことごとくが必しも立派に運用されているとはいえぬようである(読, 1.27, I)

- 言いかえれば、ホイス、アデナウアーの課題は、まことに切なるドイツ國民の課題であるけれども、その課題のうちには、ドイツの力だけでも、西歐の力だけでも、そしてそれだけではどうしても解かれない問題がふくまれているのである。(朝評, 1, 46)

- これは多分分科会の仕事であろうけれども、その分科会では、これまた國民に納得のゆくように、十分に検討してもらいたいものである。(読, 1.31, I)

- そういう試みはドイツ近代史をつらぬいて殆どすべての大事件の場合になされた試みであったけれども、成功の例よりは失敗の例の方が多かったのである。(朝評, 1, 45)

- 「あのころ作らせましたものなんですけど、やはりアチラのものは何ですか、ふしぎにいつまでも型が崩れませんのね」(文, 1, 181)

- 「イタリアはアメリカの資本を投下してもらうことが早くて 人絹工業が日本よりも早く回復したので 将来日本の人絹輸出の強敵になるだろうという見込なのです。合成繊維の方はやっておりますけども 非常に小規模で 大して日本より進んでいるとはいえますまい。」(科, 1, 68)

- 「実は今日の事態から申せば甚だ勝手な言い分だけれども、公爵はなるべく早く参内して後繼内閣の奏請をして戴けないものかしら。」(世, 1, 64)
- 不人情な言葉に聞えるかも知れぬけれども、現地のある人が、内地から海のものとも山のものともわからぬ無経験者を受入れて、その代りここにおけば十分有能な開拓者たり得る農家の二、三男をルンペンにして、結局内地の工場へ行かせてしまうような結果になるのを惧れていたことは、敢えて紹介しておく必要があるであろう。(朝評, 1, 126)
- それにつけて書かねばならないのはフランス人の、よく働く事です。私の狭い経験ですけれど、定められた時間はきっちりと守って仕事によく精を出します。(文, 1, 140)
- 「あたしも教へられたんですけど、芸者って、たとへ馴染のひとがゐても、客のある場合は、客にサービスをして、すぐにはなじみの方に立って行かないといひますわ。」(文, 1, 212)
- 「何でも台本はどぎつものだったようですね。僕は検閲の係の人に聞いたけれど、このカットのおかげで、意外に佳い作品になったと言っていましたよ。」(婦友, 1, 163)
- 「社長がいらっしゃるのに済みませんが、あたし今日三時から早引けさしていただきたいんですの……」(婦友, 1, 63)
- ③内容の衝突する事がらを対比的に結びつけ、前件に拘束されずに後件が存在することを表す。(既定の逆説条件)
- 自分は驚いて、すぐ東京の総理大臣官邸に電話をかけたが、ゴタゴタの最中で、話の判る人間はほとんど全部日本間に行つてゐるのだらう、「何者かに狙撃されたけれども、生命に別條はないらしい」といふ以外、少しも詳細が判らない。(世, 1, 61)
- クリップスは負担の公平な分配を唱えたけれども、新たに設定せられる配當所得の課税によって、「大まかな公平」が得られるなどいうことはゴマカシである。(世, 1, 43)
- しかし彼はこの招待を虚心に受けるべきかどうかについて非常に考えた。知識人同志の一切の会話は平等を必要とするけれども、四年間フランスの國土を占領していた人人に対して、この平等を氣易く与えることは彼には困難だったからである。(世, 1, 94)
- かれはレヴェラーの急進的な要求をしりぞけたが、それは主義としては立派であつたけれどもその時代のイギリスでは政治上実行できない要求であつたから、歴史家はその点でかれを道徳的に責めるのは不當であると思う。(世, 1, 20)

- かれは国王に頭を下げて詫げれば釈放してやるといわれたけれども、自分が一旦議会で言明した言葉は議会自体にかかわるもので他のいかなる權威にも関係ないと主張して、ロンドン塔のなかに留った。(世, 1, 17)
- 途中で閑談もあって夕方になったけれどもまだ決定しない。(文, 1, 54)
- 右派左派ともに、英國に建設さるべき社会主義は、西歐民主主義の傳統すなはち個人の自由を確保しうるやうな性格のものでなければならぬと信ずる点において一致してゐるけれども、共産主義とソ聯に対しては、右派がこれらに対して強い反対と不信を示してゐるのに反して、左派はそれらに反感を持たず、それらとの協調をも辞さない態度をあらはしてゐる。(文, 1, 66)
- 米ソの冷い戦いは現在世界を二分しているけれども、しかし人間の生命と基本的人権を尊重すべき人道に區別はあるべき筈がない。(時, 1.6, I)
- 子供のころからきかん坊で、ワンバクではヒケをとったことがない。体は小さいけれども、ガキ大将だった。年上の子と喧嘩したって負けたことがなかった。(婦友, 1, 179)
- 重い型着が私のために作られた。鋼鉄とカンヴァスを組合せたしろものだったが 效き目はなかった。その次には もっと嵩(かさ)ばった締付具もつけて見たけれど これも私の曲った脊骨をうまく支えてはくれなかった。(科, 1, 25)
- 秘書の方に来意をつけていますと そこにひょこりと髪は白いけれど若々しい中肉中背の人が出て来ました。(科, 1, 75)
- ハルピンは帝政ロシア時代、大陸侵略の拠点として発達した町でした。回々教寺院の円屋根に十三夜の月が白く冴えて、石だゝみの多い通りのたゞずまいにさえロシアの面影が偲ばれる、寂しいけれど美しい町でした。(婦友, 1, 71)
- 「相當経済的に辛かったのでしょうけれど、ちっともそんな風を見せませんでした。」(婦友, 1, 171)
- 「はじめに、名護藏太の知合のもと申しあげましたけど、ほんとうは、わたくし、藏太の妻でございますよ」(文, 1, 212)

〔～は～だけれども～は～だ〕

- 「お色気は結構だけれど、エロはよろしくない。」(婦友, 1, 163)
- ところがさういふ日のことだから、一陣の突風で、餌を沢山のせた蓋が海へ吹き飛ばされてしまった。蓋は板だから波の上に浮いてゐるけれど、餌は海底深く沈んでしまった。(文, 1, 159)
- 日本に覇は無くなったけれども日本に國防はなければならぬ。獨立国と
- けれども

- して生きてゆく限り国防は国の呼吸として存在するものだ。(文, 1, 111)
- 「パトロンは研究所以外にソルボンヌに行ったり、文部省に行ったりする用事があるけれど、私選はこゝで働くと言う契約で入って来ているわけですからね。」(文, 1, 137)
- この事件の実際の意味は、イギリス国王エドワード三世は、法の違反者を赦免することはできたけれども、法を無視することはできなかったということである。(世, 1, 16)
- 「以前は、約束の日に社長さんがいらっしゃらないと、ちっとしてゐられなくて、会社まで出向いたものですけど、こちらに移つてからは、もうそれほどの熱心さもなくなって……」(文, 1, 211)
- ドイツの学者でも、ゾムバルトは当初からマルクスに對する批判を忘れず、しまいには激しいマルクス攻撃者となったけれども、始めは明かにマルクスのファンとして出発した。(文, 1, 29)
- 「経験者がゐますからね。チャリソコ、ノビ、置引、サギ……それをみんなお互に教へあふんですよ。われわれ、こゝに入るときは一つのことしか知らなかったけど、出るときは一通り何でもできるやうになって出るんです。」(婦友, 1, 86)
- それから自分は齋藤總理の處に出て、荒木陸軍大臣の留任は、理論としては当然いけないけれども、實際としては必要である所以を詳しく説明したところ、～(世, 1, 67)
- 戦時中の四分三厘社債などは、一流物には発行し得たけれども、二流以下では発行価格や手数料等に於て若干の繰をつけてもなかなか消化されなかった。(時, 1, 18, I)
- 公式の統計では現在十二、三万頭とか聞いたけれども、各農家で二頭、三頭と飼いはじめて、實際には道内にもう三〇万頭を超えているらしい。(朝評, 1, 131)

〔～ではあるけれども etc.〕

- また自然地理に興味を持ったり、しまいには海洋学の本まで讀んだ。だから、非常に浅いものではあるけれども、自然科学的な方面のすべてに非常に興味を持ち出した。(文, 1, 105)
- この文章を、何度目かで、讀むのであるが、よむたびに、すでに六十に年のとどく私ではあるけれど、やはり、涙ぐましい気になり、心の底から、感動するのである。(文, 1, 187)
- フランス革命に遅れること一世紀半、アメリカが獨立を宣言してから四分の三世紀になんなんとする今日、他力によって與えられた自由ではあつた

けれど、この自由が本来ならば暗たんたるべき敗戦の祖國に明るい光明を点じたのであった。(経, 1.29, I)

- なるほど國際連合は憲章を持って大多数の國々を包含してはいるけれども、ソ連の常用する拒否権の如きものがあって一片の決議すら満足に行うことができない。(東, 1.6, I)
- 個人の資格で来たやうな体裁にはなつてゐたけれど、実は陛下の思召を伝える為だった、といふことが後で判った。(世, 1, 62)
- 現実に世界政治は制度化されてはいないけれども、およそ人類の生存と共同の福祉のために発揚されるそれらの措置は、実は世界政治の精神と規模をもってわれわれに訴え、かつ迫って来るのである。(東, 1.6, I)
- いかにも北海道は、内地の府県にくらべて格段に歴史の短い新開地にはちがいないけれども、北海道にかぎって、戦時以來の略奪的經營、濫伐、濫掘、濫獲の例外であり得たことであろうか。(朝評, 1, 118)
- お父さんも、お母さんも、仕ごとで忙しいには相違ないけれども、とにかくできるだけしばしば學校を訪ねて、こどもの勉強ぶりを自らたしかめなければならぬ。(朝評, 1, 16)

④補足的挿入を表わす。

- さうすると、突如として陛下は、日本人は、(或は日本民族はとおっしゃったのかも知れぬが、その辺はよく憶えないけれども)南方から来たといふぢやないかね、といふ様なお言葉があった。(文, 1, 15)

〔けれども〕(接続詞としての用法)

- ごく最近において自殺が多く発生するのは、年末年始という物のきまりをつける時期であるだけに經濟的理由が大きく作用していることは容易に想像できる。けれどもそれらの自殺の中に戦後的なものもないわけではない。(東, 1.26, I)
- 本来 放射性をもつ物質は科学の力によつてもまだ少ししか発見されていないが その一つであるラジウムは すでに40年余にわたつて ガンの治療に使用されて來ている。けれどもラジウムは一つには極めて稀れなものであり また使用するに危険なものでもある。(科, 1, 29)
- 各民族の言葉が、民族同士をへだてている。いろいろの哲学が、しばしば相互の了解を妨げている。けれども聖ポールの忘れがたいあの有名な言葉の通り、慈悲というものは、われら人間に共通の言葉なのである。(朝評, 1, 34)
- この堺の求交は別段私に同志になれといふほどの意味ではなかつたであらう。また堺と親しく交つても、私はマルクシストにはならなかつたであら

う。けれども、それによって色々變った見聞はしたかも知れない。(文, 1, 30)

- 「私はあの原子爆弾で、五人の肉親を奪われましたが、そのためにアメリカを恨むという気持は、すこしも起りませんでした。戦争だから仕方がないと諦めていたのかもしれませんが。けれど、今となって私は、あの投弾を決定された人にお尋ねしてみたいことが一つあります。」(婦友, 1, 127)
- 尖鋭なコンミュニズムの理論に対し、何と弱々しいものでしょうか。けれど、この私にはそれ以外の道はないのです。(文, 1, 138)
- ですから、パリの町中へ出掛ける暇は全くないと云ってよいでしょう。けれど、始めたばかりの実験がうまく軌道に乗り出して来たならば、気持も大分軽くあちこちにも出られるだろうと思っております。(文, 1, 136)
- 「うん、けど、いい香水のむせ返るようなのも悪くないね。官能的で刺戟的で……」(婦友, 1, 119)

〔だ(です)けれども etc.〕(接続詞としての用法)

- 「増井の小父様ってひとは、なにかことをするとなればけちけちはしないわ。それに呼び寄せたのなら腹はきまってるし、それぞれの手筈だってちゃんとしててよ。そんな人ですもの、だけれどなぜ林町へは訪ねて行かなかったの。さうすれば直接説明もできたし、返事だって早く貰へたぢゃないの。」(世, 1, 150)
- 「悪いことはもうしないって気にはならないの。」「なりますよ。だけど手に職はないし、働かせてくれるところもないし、普通の世間に歸れば暮らせませんよ。」(婦友, 1, 86)
- 「そうです。母は自分を捨て、子供のことだけを考えて暮すような人でした。そして、僕はそれを感謝しています。けれどね、僕は僕の母がそうだからといって、すべての女の方にそうおなりなさい——などは言いたくありませんよ。」(婦友, 1, 44)
- 「プリンストンでは、日本の方がいらっしゃいましたか。」「いえ、私達だけでしたの。ですけど、研究所の皆様はとても御親切にしてくださいるので、寂しいなどと思ったことはありませんでした。」(婦友, 1, 45)

〔II〕 終助詞

①事実と反対の事からの実現を願う気持。

- 「ねこのことばがにんげんにつうじるといいんだけど」(少女ク, 11, 17)

②はっきり言うのをはばかりの気持で言います。

- 司会「まずお若いところで、久我さんはカルタを取ったことがあります

- か？」久我「いえ、ございません。」司会「京さんは？」京「お話には聞いてますけれど……」笠置「フーン、時代が違うのね。」(婦友, 1, 162)
- 「ベネシリンと同じさ、イギリスで生れて、アメリカに渡り、今は日本で出来てるサンブーンを知らないかね」「サンブーンなら知ってるわ、前から欲しいと思ってるんだけど」「ホラ、買って来たよ、さあ、今日から計畫産卵だ」(婦友, 1, 235)
- 「さっきの水原先生のお話ですが、少し封建的だといふお説が出てみますけど……」(婦友, 1, 51)
- 「あなたのくらしを、おびやかに来たのでは決してありませんのよ。でも、やっぱりおびやかすことになりますわ、お話してゐる内には、いくらかわたしの気持も判って貰へるやうに思ふんですけど……」(文, 1, 203)
- 「あの子の惱みが、判らないといふのでもないんですけど……」(文, 1, 211)

③けいべつ・なげやりの気持のこめられる場合。

- 「そんな顔をなさらないで……ちっとも恨んでなんかいませんわ。と言って、藏太がお世話になってゐるからって、お礼を申し上げるのでは、かへってをかしいでせう。どっちにしても、わたしの立場はをかしいものですけど。気まぐれだと思つて戴きたいの、あなたをお訪ねしたことは。」(文, 1, 213)
- 「ビタミンBうって救心のむと、ほんとは中毒しないんだけど」など、中毒の原因がそっちの方へ転嫁されている有様である。(文, 1, 120)
- 「口に出せないで、きっと達ちゃんは、悩んでゐると思ひますわ。お気の毒に」「でも仕方ないんですもの。気にはしてますけど」(文, 1, 210)

12. こそ (係助詞)

①主格の提題。強調の意がある。

- あの人こそ、夢にまで待った私の騎士、とうとうりした彼女は、～(映, 6, 12)
- この飛行機こそ、日本中の野球ファンが待ちに待った、サンフランシスコ・シールズ野球團一行二十五名を乗せたパン・アメリカン・クリッパーでした。(野少, 12, 14)
- しかし全観衆が、やれやれと思つたのもつかのま、つぎにあらわれた四番スタインハワーの一撃こそ、まさにものすごいものでした。(野少, 12, 25)
- また、一面には家庭婦人は、若い女性と違って、着実に責任をもって仕事

が出来ることは確かなのです。それを裏付けるものこそ貴女方の実力以外ないといえましょう。(婦画, 12, 97)

○一個の人間がいかに生きたか、またいかに社会に貢献し、あるいは害を及ぼしたか、ということこそ大切であるのに、～(世, 5, 39)

〔～こそは〕

○それこそは、一般産業界において極く少数の巨大獨占資本のみの救済のため「集中生産」と「企業合理化」の名の下に強行しつつあるところの民族産業、中小商工業者への負担転嫁であり、したがって、労働者の大量首切への犠牲転嫁の一環でなければならない。(エコ, 5.11, 10)

〔それこそ〕(副詞的用法)

○長い間、家庭の主婦として過して來られた方々には、イキナリ外の勤めを持つということとは、それこそ環境の一大改革でもない限りは、とても望めることではないでしょう。(婦画, 12, 96)

〔～こそ〕(強めて言いさし、終助詞的なはたらきをさせる。)

○「昨日はお邪魔いたしました。」「いや、こちらこそ。おかまひしないで、失礼しました。」(ロマ, 12, 59)

○世界でいちばん高い山エベレスト。何万年の雪におおわれた神秘の山エベレスト。世界中の登山家はわれこそと一番乗りをくわだてた。だが、誰も途中までしかのぼれなかった。(野少, 12, 72)

②主格以外の語を強める。(副詞・接続詞その他いろいろの語につく場合。)

○来年こそは、この好調子を大いに活躍させて、旧態を一新させるべく、張り切っております。(婦画, 12, 104)

○巨人の打順は三番の青田です。デンプシーもさかんに足もとをかためて、こんどこそけんめいの力投です。(野少, 12, 24)

○五郎投手は、はじめて知った伝統精神に、いまこそ夢からさめた人のように、ほろほろと涙をこぼした。(野少, 12, 84)

○現代の批評精神は社会的現実を卸下すると同時に、個人的現実をも卸下しなければならず、それゆゑにこそ、ふたたび個人の誠実が問題になってきたのにほかならぬ。(人, 5, 85)

○苦しいけいこのなかにこそ、大選手が生まれるのだ。(野少, 12, 84)

○そこには、良子の生命がけの表現を托した美術があり、また自己というものとの開花をその粧いの中でこそ信じるのだ。(婦画, 12, 102)

○それだけに、オドールさん一行の、することなすことは、これからの日本

と米国のおつきあいに大きな関係をもつわけであり、それだからこそ、オ
ドールさんいろいろな気をつけているのでしょう。(野少, 12, 14)

○打明けたところ、家屋敷から家財、庭木のはてまで雀六の自由になるもの
は悉く、担保に入れてしまった後なればこそ、みすみす空怖ろしい高利を
承知で最後の縄綱、一途に眼差して罷り出ましたるなれど、～(新,
3, 133)

○「おのれの極道で身代あらかた摺り潰し、家屋敷もこのていたらく、もう
叱ってもどうしても、おのれから覺らぬうちは無駄と諦めて、それでもせ
めて、この身の死後にすぐに物乞ひにもさせたいと思へばこそ、老い
の身に無理な働きもしてあるものを、それを、おのれは、親の死の期限を
切って死十倍などいふ途法もない莫迦金借りをって……。」(新, 3, 141)

〔～こそ～すれ(するが)〕

○また巨人の中島右翼手は、今でこそベンチにいてほとんど試合に出ません
が、わかい元気なころには、しばしば猛打をはなつて二度もホームラン王
と打撃王になったことがあります。(野少, 12, 116)

13. こと(終助詞)(女性専用)

①断定。(「ことよ」の形)

- 「仕事のじゃまをしてはいけないことよ。」(少年ク, 8, 32)
- 「男らしくないことよ。」(少年ク, 8, 33)
- 「髪の毛がこんなに濡れてることよ。」(人, 10, 101)
- 「いいよ、いいことよ」(婦朝, 6, 26)

②感動。(余情がこもる。)

- 「アラきれいにさいたこと」(ひま, 6, 28)
- やっと受付を通過して売場には来たけれど随分とものすごい人だこと、天
井の飾りだけしか見えやしないわ。(ひま, 12, 67)
- 「詩的だことねえ!」(少女ク, 9, 42)
- 「綺麗な花ですこと」(婦画, 6, 27)
- 「まあ、お知り合とは奇遇ですこと。」(婦友, 6, 56)

③発問。(同意を求める気持、相手の納得を柔らかく強制するニュア
ンスをもつ。)

- 「すてきじゃないこと? 入学するまえにお友だちになれるなんて。」(少
女ク, 3, 53)
- 「ねえさん、それならこれから三人して、このうちをよくしらべてみない
こと?」(少女ク, 3, 23)

- 「アッ！ それからねえ少女クラブの後援会を作りませんこと、すてきな方たちとグループになっておたよりすることなど少女時代の思い出になっていいと思うわ。」(少女ク, 3, 160)

14. こととて (接続助詞) ((連体形につく))

○理由・根拠を表わす。順説条件 (既定)。

- ぼくはすこしおくれて、おっさんの家を訪問した。すっかり勝手を知っていることとて、さっさとあがりこんで、客間の方へ行った時だ、こういう大きな笑い声がひびいてきたのは——。(野少, 12, 101)
- 研究所や大学のころとちがって内務省や厚生省では、多勢の衛生技術者の大先達として公衆衛生の現場に働かされていたこととて『春というものはいかんなによいものか日にひたりつつ庭にのみ』居りたい博士に『来でもよいと思ふ男が日曜のわが門口をはいり来る見ゆ』といった風に、招かざる客が名利にとらわれた、中には軽いコルサコフ的の症状さえ備えた人物までが、夫妻を悩ましたに、ちがいない。(婦画, 12, 84)

15. さ

[I] 終助詞

- ①軽くあっさりと言いはなす。(形式的には断定の助動詞に代置される位置に用いられる。既定の事実であって、今さらどうにもならない、当然の事、自明のこととして言い表わす。それについてとやかくいう事はできぬ、というような傍観的な、なげやりのニュアンスをももつ。男性語的なひびきがある。)
- 「皮肉な運命さ」(文, 7, 71)
- 「まるで嵐取りに入った嵐さ。」(文, 8, 85)
- 「中央へ、マニラを死守したと、つじつま合わせるだけの、ていのいい捨石さ。」(文, 8, 85)
- 「それに、おモー様の場合は、お側室も、クラ一人っきりで、簡単なものさ。」(婦友, 9, 34)
- 「まあ、バチンコでも、弓でもおなじことさ。」(少年少女, 7, 73)
- 「じっと考えていると、それさえ、すっぱりとやっつけてしまえば、明日からでも君と平和に暮せるさ……。」(婦朝, 10, 80)
- 「弘子の事だからアテにはしないが、まあ飽きるまでいるがいいさ。」(ひま, 8, 61)
- 「まあいいさ、何も愛嬌だ。」(新, 10, 14)

- 「こんなことじゃないかと思つたからようすをうかがつたのさ」(婦生, 12, 122)
- 「あれは、相手がスローボール・ピッチャーだったからさ。」(少年ク, 10, 18)

〔～とさ・～つてさ〕(他人の話の紹介。または、無関心の態度を示しながら、冷然とあざけるニュアンスをこめる場合。)

- むかし、ある所に、おじいさんとおばあさんが、あつたとき。(資料外)
- 「あいつ、あの声でノド自慢に出たんだつてさ。」(資料外)

②質問・反問・反ばく(疑問の意を表わす語とともに用いられる。)

- 「何さ?」(婦友, 6, 57)
- 「いやだ、こわい人つて何さ。」(人, 9, 5)
- 「どうしてさ、おとうさんのお友だちなのに?」(銀, 8, 40)
- 「じゃ何処へ寝るのさ」(スタ, 7, 71)
- 「じゃ、どうして ぼくがみがわりだつてこと、わかつたのさ。」(幼ク, 9, 41)

〔 II 〕 間投助詞

○語勢を添える。(相手の注意を引きとめるようなニュアンス。)

- 「それがさ、俺もつい先頃までそんな気がしてたんだよ。」(文, 7, 71)
- 「だからさ、そろそろもうべーちゃんをほかの部屋で寝かさなければならぬいんて言ひだすほど、さういふ点で神経質な君が、一方、どうしてあんな露骨な話を、平氣の平左でべーちゃんの前でおっばじめるのか……」(文, 6, 82)
- 「だつてさ、三重子つたら、おとうさんが帰つたら困るような顔するんだもの」(銀, 8, 40)

16. さえ(係助詞)

①ある事物を、極端な、予想外の場合として強調的に例示する。それによって、他の一般の場合を暗示する。

(イ)主格の提題。

- ～それが測候所の記録と殆ど一致しているという報告さえある。(科, 5, 36)
- 不安定が不安定としてとらへられるだけならば、それはなんの不安定でもなく、一種の安定感さへ生れるであらう。(人, 5, 84)

〔～さえも〕

○七十七才の今日でさえも、まだその身ごなしと毅然とした歩き方は、彼が生まれながらの運動家であることを示している。(ダイ, 8, 48)

(ロ)主格以外の提題。

○「諸君には申しわけない。舞台上で写真をとられるより、ここで諸君にとられる方が私はうれしい……」と、感激の涙さえためて、ファンの中にとびこみました。(野少, 12, 8)

○あまつさえ菅原は肩をいためて、野球をさえあきらめねばならぬ身となった。(野少, 12, 68)

○主人には書斎があり、子供には遊び場があり、女中にさえ女中部屋というスペースが設けられてる。しかし主婦室のある住宅はきわめて少い。(婦画, 12, 92)

〔～さえ～だから〕

○大人でさえ胃腸を損うことが多いのですから、敏感な赤ちゃんの胃腸はちょっとした異常にもすぐ影響され、忽ち下痢を起してしまいます。(婦友, 6, 86)

②ある一つの条件があれば、それだけで十分ある結果を生ずるということが期待される場合、〔～さえ～ば〕の形で、その条件を表わす。

○これは、ソ連側の政治部員というのがいて、暇さえあれば、ソ連の政治機構や、理想を教えこむのです。(婦画, 12, 90)

○だがこれは、みんなが本式の投球術をすっかりおぼえてからのことで、子どものうちはまだそんなまねはせず、スピードのある球で、コントロールさえよければよいのだ。(野少, 12, 64)

○ミシンさえ踏めれば誰でもいいというわけにはいきません。(婦画, 12, 97)

○そこでアルバイトといった程度の仕事なら、お家において上手に時間の繰り廻しさえつければ大いの方にはすぐ出来ます。(婦画, 12, 96)

○道具さえ持っていればお子さんのある家庭も可能です。(婦画, 12, 96)

○せむしの老人さえつかまえば、きつとどろぼう団もつかまえることができると、みんなは考えた。(野少, 12, 88)

○あなたが好きでさえあれば、馴れるにつれて上達します。(婦画, 12, 96)

○この貿易を、輸出入がほぼ同じになるように、何かうまい手を用いさえすれば、前にあげたような品物を、沢山にもってこられることになります。しかし、いまは何とも仕様のないことです。(婦画, 12, 87)

○一時停滞ぎみの貿易関係の仕事など、近く復活さえすれば、あなた方の手は貿易振興になくはならぬものとなりましょう。(婦画, 12, 97)

17. し (接続助詞) (終止形につく)

① 共存事実を列叙し、互いに呼応させて強調の意を含ませる。

- 昨年十月卅日発行された新制高校社会科用教科書「民主主義」(上)はその内容が反共的であるというので、左翼陣営が問題視し、一部にはこの教科書撤回運動もある。衆議院の委員会などでも共産党代議士から質問があったし、日教組は直接高瀬文相に撤回方を申入れたという。(東, 5.6, I)
- 「ぼかぼか あたたかい羽ぶとんは できたし、ネズミや 小ザルは こともみたいに なつてくれるし、あの かくだいめがねがあれば どんなものでも 大きくみえるし……。」(幼ク, 8, 18)
- 「映画は見ないし、劇も見ないし、滅多にお酒も飲まない。」(婦朝, 6, 27)
- 「妻と別れることだって、離婚を宣告した時の愁嘆場が見たくないといった、エゴイズムなものだし、会社をやめることだって、失業して、土方に落ちぶれることが怖ろしいという氣持で、いままで、うじうじしてたんだね」(婦朝, 10, 8)
- 「龍沢君、わしもね岡田所長の数多い偉大な業績には心から頭を下げているし、わし個人としても所長の指導よろしきにより今日あることの得ているのをいつも感謝しているのだがね。」(宝, 8, 38)
- 「室戸台風の時に風速50mにちょっとたりないという記録がありますし琉球列島なんかは非常に強い風が吹くところで これは石垣島だと思いますが 平均風速で50mを越しています。」(科, 9, 11)
- 「そうですね、しゃべったり、ラジオをきかせてくれたり、タバコの火をつけてくれたり、一定の時間をきめておけば、ちゃんとご飯もたくし、味噌汁もつくります。」(少年少女, 10, 46)
- 「立ってる人も一人もないし、座席のあいているのも一つもないよ。」(少年少女, 7, 90)
- 「いっておくが、浮わつた心でいうのでもないし、四十五才の男の感傷でもない。」(キン, 6, 84)
- 「僕も幸福になりたいし、康子さんも幸福にしてあげたいのだ。」(キン, 6, 84)

② 二つ以上の事実を並べ挙げて、それらの累加を材料(理由)とする立論(判断)を導く。

- 「屋根があるしどうせ明日は早いし、パークの方が便利なんだ。」(スタ, 7, 72)

- 「毎晩々々兄さんが酔っ払ふものだから、朝は学校へ行く時は寝てゐるし、毎晩学校から帰る時は、外に出てゐるし、一日中お父さんの顔を見ない日がつづくて。」(新, 7, 11)
- 「日本では、研究を続けさせてくれたり、それを役立たせてくれるやうな会社なんかないやうですし、技術的に言へば職工にはかなはないし、意味ないさうですよ。」(新, 10, 77)
- 「ロマンチックで、たのしそうで——私の空想したよりすばらしいところだわ、空気はきれいだし、おいしい牛乳はあるし……。」(ひま, 8, 60)
- 「私、何度も東京へ出て来たいと思ったの、いろいろ用をしなければならぬし、あなたにはぜひ会いたいし——けれど疎開する時の汽車の旅のあんまり苦しかったことを思い出すとぞっとして怯えてしまって——」(婦生, 9, 23)
- 「どうじゃ、島はよいところじゃろがな、たまき、おひさまはあたたかいし、花はさくし、はちみつはふんだんにあるし——。」(少女ク, 8, 23)
- 「おぢいさん、もう薬はいらん、痛みも治ったし、熱もない」(人, 10, 85)

〔～だし～だから(なので)〕

- 「いや実は、友人に誘われてきてみたんですが、どうしたものか、友人がきませんし……知った方もいなくて、アレなものですから、かえろうと思ったのですが……折角だからどなたかに一度だけでも踊っていただこうかと思ひまして……」(婦画, 8, 54)
- 「はあ……でも、もうこれからかえることにいたします……そろそろ電車もなくなりますし、それにもしお友達でもこなかったら、一晚中弱っちゃいますから……」(婦画, 8, 54)
- 「われわれの方の要求から行きますと 山の方は観測員もおりませんししかも川の流量を規定するのは山の雨量がかなり関係しますから そういった平地の雨から山の雨量をある程度換算できると非常に都合がいいと思うのですが……」(科, 9, 12)
- 「わたらの米は、かけ引なしに50%についてよこすがな、奴は土地の有力者だし、警察も知っているから、あんたらの手におえねえ。」(豊, 12, 28)
- 「そりゃさうでせうさ、あの時万里ちゃんは七つで、お式にもつれて行きはしないし、やっとお墓詣りさせたくらみだから、自分にもお郷里は今度がはじめてみたいなものですよ。」(世, 8, 77)
- 「佐藤君の考へてゐられるところを生かすやうに努めながら、内容はすっかり書き改めてゐるんです。むつかしいし、それに一日のうち二時間し

かペンをとることを許されてゐないので、進みが遅いのです」(世, 9, 95)

○ちょっとした事件は、その時その場でいわゆる年貢をおさめたり、近ごろのヤミ商売も、寝ごみを襲われるほど規模の大きいものでなかったのに、根岸兄妹が自分に隠して、何かしていた、その巻きぞえだと、銀作はかたく信じこみ、安心していたのである。所轄の警察で、警視庁から出張した役人が、住所氏名や、かんたんに経歴をたずね、二枚ばかり聴取書をつくらせて帰った。(人, 12, 119)

③一つの事実を挙げて、他を言外に呼応させ、その全体を材料(理由)とする立論(判断)を導く。この場合、理由として挙げる材料が一つで他を言外に暗示している形のため、円曲になる。しかも、一つ挙げたその事だけで、十分に判断・立論の材料となり得るというニュアンスをも持つ。

○しかし、世界平和に責任ある四国外相は、この世界の重大な岐路に立って国交調整に全力をつくすであろうし、われわれは世界平和のため、その成功を期待しつつ今後の経過を見守りたいのである。(朝, 5.7, I)

○「結婚したらもっと苦しいだらうし、結局お姉さんみたいなのがいちばん利巧ね」(ロマ, 6, 55)

○「嘘ウ書くわけには行かないし、誰か一人殺しますか?」(宝, 7増, 61)

○「わたしは、この身体で旅も出来ないし、ここに残って、運命に従います」(婦生, 7, 46)

○「近くですし、木工所の方へお世話願えませんかしら」(文, 9, 90)

○「やはり少しうちの雑誌にはどうかと思われるし、なお僕ももう一度よく読み返してみるよ。」(ロマ, 6, 63)

○「まだからだの方もはっきりしませんし、もう少し考えさせていただけませんかしら」(文, 9, 87)

○「お霜が用のひまや、夜ねてからきかしてくれる、くりかへしたお囃話に、もうあきたらない年になってゐましたし、毎日曜の聖書の話が、待たれてなりませんでした。」(新, 7, 52)

○「そりゃわたしだって猫をかぶらないとはいへないし、かぶる時にほんなにでも上手にかぶって見せるけれど、かぶらないですむひとの前では決してかぶりはしない。」(世, 1, 148)

④言いさし。(前項の変形したもの。後続すべき立論を控えめに言外

に響かせる。終助詞的用法。)

- 「ああ いい湯だった せっけんはもったし！ わすれものはない！」(ロマ, 12, 40)
- 「ハンドバッグもいいけれどこれでまだ間に合うし……」(スタ, 11, 91)
- 「もう、からだの方もよくなりましたし……」(文, 9, 89)
- 「でも、あたしだって、むこうの学校へいけば、一人じゃなくなるしー」(少年少女, 10, 63)
- 「そんな、お客さまが御存じの訳もないし……じゃア、自然に取れたのかしら……」(婦友, 6, 41)

18. しか (係助詞)

○特定の事物以外のものを全く否定する。(常に必ず否定の語と呼応して用いられる。)

(イ)主格につく場合。

- 次期国会までに民自と民主犬養派との合同はあり得るかも知れないが、犬養氏と行動を共にするのは十名ぐらいしかないと思う(朝, 6.20, I)
- いまや国民党軍は正規、非正規軍のすべてを合せても五十万人前後しか残っていない(朝, 6.20, I)
- この型では空中線の鋭い受信方向からの空電しか記録されないから～(科, 5, 37)
- 六疊ひと間で、机と本箱だけしか道具はなかった。(野少, 12, 122)

(ロ)主格以外につく場合。

- 吉田内閣の反共政策は強権弾圧としかみられない(朝, 6.20, I)
- ～, 四年制大学に落第した学校の救済策としか受取れなくて面白くない。(朝, 5.6, I)
- 世界中の登山家はわれこそ一番乗りをくわだてた。だが、誰も途中までしかのぼれなかった。(野少, 12, 72)
- ～, 対岸の火であってはならぬはずのものではあるが、事実是对岸の火でしかなかったのである。(人, 5, 85)

19. しも (係助詞)

①特に取り上げて強調的に示す形の提題。

- これをしも「児童の健康及福祉に有害でなく、且その労働が軽易である——労基法第五十六条一」といえる作業であろうか……(キン, 7, 32)
- このやうな事情のもとに、戦傷を負うた兵の気持にもなって見て下さい。

上長の無頓着に較べるなら、その人の誤った判断や無智の方がまだしも救し易いのです。(新, 3, 61)

②〔だれしも〕(肯定の意味の語と呼応して全面肯定を表わす。体言対当の資格で使われることもある。)

- さういへば、おそらくだれしも気づくにさういない。(人, 5, 84)
- 遠く祖国を憶ひ、父母、妻子、恩愛の絆絶ちがたきは、誰しも持つ個人の感情である。(新, 3, 145)
- 5対2のまま最終回をむかえ、だれしもが南海の勝利なると思ったのも、つかのまの夢、～(野少, 12, 102)

③〔かならずしも〕(否定の意味の語と呼応して部分否定を表わす。)

- どちらかといえば、貴女には古風にみえる短冊なども教養のひろさであつて、かならずしも机の上の实在主義文学論とぶつかりあつて、チグハグな感じをあたえるとは思えないからである。(婦画, 12, 94)
- ～、会議の前途は必ずしも樂觀を許すまい。(朝, 5.7, 1)
- 繰出不振の向きから、家庭にまわる仕事も、近頃めつきり少くなつたようですが、それに代る新しい仕事を、あなたの腕と才能でどんどん開拓して下さい。婦人の職業、それは必ずしも外で動らくものばかりではないのですから。(婦画, 12, 97)
- ベスト・セラーかならずしも良書ではない、などとマジメくさつていふ人間がゐる。(新, 3, 66)
- だがこの自明のことが、アメリカでだけは、かならずしもさうではないのだから面白い。(新, 3, 66)

20. ずつ(副助詞)

①等量の事物として反覆されることを表わす。

- 博士は待っている患者を一人ずつよび入れて～(婦画, 12, 103)
- 切ったカードは裏を向けて左の手に持ち一枚ずつめくつて表を向け、左に一枚、右に一枚……と順に二列にならべてゆきます。(婦画, 12, 95)
- 副食物は、卵黄 $\frac{1}{4}$ 箇から始めます。これは固茹や生はいけません。半熟玉子や卵黄だけの茶碗蒸などにして、 $\frac{1}{4}$ くらいずつ増してゆき、約十日で全卵一箇が食べられるようにします。(婦友, 6, 86)
- 全粥が食べられる頃になれば、マッチ箱大の食パンに上質の天然バター塗ったものや、(あれば薄切のチーズを添える)ごく軟かく煮た良質のうどんもよく、餅も軟かく煮て少しずつあげます。(婦友, 6, 86)
- この練習を半時間くらいずつ毎日やると、その効果はめきめきあらわれて

くるよ。(野少, 12, 65)

②等量の事物として配当(割当)されることを表わす。

○ウェストダーツ…縫方は肩ダーツと同じですが、一カ所でたくさんつまみず、量によっては半身頃で二本ずつ、つまり四本にふり分けると、体になじんだふくらみが出ます。(婦友, 6, 73)

○前記各法案においては、いずれも、弁護士資格を原則として「日本国民たる成年者であって、司法修習生の修習を終えた者」とした上(各案の第四条)若干ずつの例外を規定している(同第五条)のであって、～(法, 5, 51)

[～に～ずつ]

○芽が出揃ったら、徒長しないように日当りのよい所に出して、本葉三四枚のころ六センチ平方に一株ずつ移植します。(婦友, 9, 93)

○「数えてみたら、足りないんだ。三人に二つずつぐらいしかないんだよ。」
(資料外)

21. すら(係助詞)

○ある事物を、極端な(多くは最小限の)、予想外の場合として強調的に例示する。それによって他の一般の場合を暗示する。

(1)主格の提題

○言っている言葉の一つ一つに、深い意味があるどころか、その言葉通りの意味すらありはしない。(スタ, 12, 83)

○ささやかなる滴すら、流れゆけば海となる。(ひま, 12, 6)

○失くした私すら気がつかなかったのだから友達が知らうはずはない。(文, 12, 16)

○実は泣きついてきたから、例の五百円口を法金と称し、勿体ぶって貸し与へたものの、鬨伽を寄進しないばかりか、肝腎の法金の方も返さない。それどころか、村の思想浮薄の青年共と語らって、ひそかに不隠の形成すらある。(文, 12, 114)

[～すらも]

○ささやかなる滴すら、流れゆけば海となる。愛の小さきわざすらも、地をば神の国となさん(ひま, 12, 6)

[～すらが](このように係助詞のあとに格助詞のつく形はめずらしい)

○日本より知らない我々すらが、「夜寒む」という俳句の季語を思い出す十月末の夕刊の見出し「寒くて寒くて歯が痛い」(東京新聞)という両君の

記事は、みごと郷愁を感じさせる、秋の夜長らしい読物であった。(新, 12, 42)

- 日本人という東亜の文化圏の中に育った人間が、西洋文明——それを生みだした本家本元の西洋人すらがほとんどもてあましてしまっているもの——をわずか半世紀ほどのあいだに処理し損ねたからとて、あるいはそれほどの大きな恥辱でもないかもしれない。(新, 12, 17)

(ロ) 主格以外の提題。

- さしづめ川中島でいきなり上杉謙信に切りつけられた武田信玄といったところだ。いや、信玄はとっさに、さっと軍配で太刀をうけとめたが、森の石松はその軍配を出すことすら忘れていた。(野少, 12, 69)
- その変なかたちは類似のものすら見たことがないので、誰れかが持ってみればそれは即ち私のものと断じてもいい位のゲテものだった。(文, 12, 15)
- さういふわけで、私の如きは大いに努力をして、どうやら文学のテキストを読む程度に漕ぎつけたとでも言ひたいが、事實は、甚だよく自らを知ってゐて、努力上達の希望すら持てなかったといふ方が当ててゐる。(文, 12, 78)
- 実際に理窟をいう人に負けるし、公開の席上でもものを喋れないし、文章どころか名前すら満足に書けない。(文, 12, 63)
- しかし、慶応は法政をやぶっただけで、東大にすらストレートで負けるというみじめさ。(野少, 12, 112)
- ボックスのいちばんうしろに立ち、プレートにもっとも近いところで両足を大きく開いてかまえるそのスタイルは、大下、別当のスマートなフォームを見なれた目には、ちょっと、ぎごちないようにすら見えます。(野少, 12, 17)
- われわれはその第一段に成功し、第二段に失敗した。これから第三段にふみだすところである。われわれがやがてはこの課題を解決できるとはいへそうにはない。成否は問うことができない。むしろ、問うまでもない、といたいくらいですらある。(新, 12, 18)

[～すらも]

- また木枯しが 吹いてきて
思い出すらも 吹きとばす (野少, 12, 79)

22. ぜ (終助詞)

○話の内容について軽く念を押し、注意を喚起する。(男性専用)

ぜ

(イ)親しみのニュアンスのこもる場合。(友人などのような親しい間柄で用いられる。)

- 「よかったといってたぜ。」(新, 8, 83)
- 「じゃア、明日もこの辺だぜ。」(キン, 10, 103)
- 「いや、そうでもないぜ。」(少年ク, 10, 18)
- 「木谷さん、あしたはひとつ、大きなホームランたのむぜ」(野少, 8増, 106)
- 「さあ、しまつていこうぜ。」(幼ク, 7, 53)
- 「——いま政党倶楽部から連絡があつたんだが、新公民党の麻野専蔵が支翁組の猪之口万平と会つてゐるぜ」(宝, 7増, 61)
- 「汽船は二時に港について三時に出港する、その間の一時間で写真をとつてくるんだぜ。」(少年ク, 12, 49)

(ロ)どうだといても言わんばかりの勝ち誇つたような気持、また、相手を見下すような気持のこもる場合。

- 「この大将だつて、あんまりまともぢやありませんぜ。」(新, 10, 124)
- 「鈴勘さんとこじゃあ、何時、お計ちゃんを山長へ嫁にやつたんだつて、お嫁さんのヤミなんてのもあるんだろかなんて、みんないゝ噂はしてませんぜ」(キン, 7, 20)
- 「しかし博士、あと十分たつとあんなにいる新聞記者がどこどこと写真をとりにやってくるんですぜ」(少年ク, 12, 51)

23. ぞ (終助詞)

①自分の判断を自分に言い聞かせる。ひとりごとに用いる。(男性専用)

- 「タヌキ汁のかわりにキツネ汁が食えるぞ。」(銀, 7, 71)
- 「おや、またなにかなげたぞ」(少年ク, 11, 15)
- 「おや、白ペンキがあるぞ。」(少年ク, 11, 14)
- 「こいつはいけるぞ。」(新, 8, 80)
- 「ウヘー うわぎを人のととりちがえたらしいぞ」(ロマ, 12, 41)
- 「はて、おかしいぞ……？」(少年少女, 10, 15)

②話の内容について念を押して主張する。対等または目下の相手に對する言い渡し・おどかし・警告などの語気を含む。(男性専用)

- 「おい、あれは吉岡だぞ」(野少, 9, 69)
- 「ばかめ つつた魚にえさやるばかはないぞ」(ロマ, 12, 103)
- 「試合を見に来たんだぞ。練習見に来たんぢやねえぞ。」(ロマ, 12, 99)
- 「手をあげろっ にげようつたつてだめだぞ」(少年ク, 11, 52)

- 「——陛下の御前ですぞ！」(世, 7, 78)
- 「だらしがなかったぞ、君らは——。」(婦友, 6, 74)
- 「なんにもしていませんでしたとはいわさんぞ。」(野少, 6, 49)
- 「おまえも、おまえの友だちも、もうこんなことをしてはいかんぞ。」(野少, 6, 50)
- 「かくすと しょうちしないぞ。」(幼ク, 10, 40)
- 「見つけたっ こんどこそはにがさないぞ」(少年ク, 11, 54)
- 「泣くとこれで殺してしまふぞ」(世, 9, 85)

③反 語

- 今日、あらゆる統制を撤廃しても社会の混乱を招く事はないと、何人が確言できようぞ。(資料外)

24. だけ (副助詞)

①限度を画する形で程度を示す。

- しかし実質は、他の条件はそのままにしての繰入金停止は、特別会計にそれだけの負担を加重することであり、～(エコ, 5.11, 10)
- 民主主義ということばならばだれもが知っている。しかし、民主主義のほんとうの意味を知っている人が、どれだけあるだろうか。(東, 5.6, 1)

〔～ば～だけ〕

- 金をもうければもうけるだけ、人間がいやしくなるのが一般である。(資料外)

〔～だけそれだけ〕

- あの店は、高い。が、値が高いだけそれだけ品が安いことも確かだ。(資料外)

〔できるだけ〕

- 「～、大いに発言して頂く機会をできるだけ作るという編集部の意図だろうとおもいます。」(法, 9, 16)

〔～だけのことはある〕

- この家族会議は毎日曜の午後開かれた。そしてときとしてはあわや喧嘩騒ぎになろうとしたこともあったが、会議を開くだけのことはあった。(ダイ, 6, 96)

〔～だけあって〕(素質・能力・ねうちが相応に發揮されている事態。)

- 「だがしかし、さすがは天才画家瀧沢栄二君の作だけあって、こりゃすばらしい傑本図だ。」(宝, 8, 37)

〔～だけに〕(「～であるから、なおのこと」というような意味。接続

助詞と見ることもできる。)

- ～中共側がこのような人物に協力を求めたことは初めてであるだけに特に注目される(東, 6, 6, I)
- ～殊に化学株がしばらく買われなかっただけに高圧、カーバイト、旭電化などが注目されて売買高も増加の傾向となった(東, 6, 6, I)
- 数日前の本会議は全く醜態の極みであった。まさかあゝという態度で予算委員会に臨むこともあるまいけれども、冷静な判断と透徹した理解を必要とする事柄だけに、冷静な、慎重な態度で検討してもらいたい。(読, 1, 31, I)

②範囲をそれに限定する。

- ことに教育部門に関しては、学校だけが教育する場ではないのである。(朝, 5, 6, I)
- ～、このときは夏の間だけは牛乳、山羊乳などで捕い、～(婦友, 6, 86)
- 半熟玉子や卵黄だけの茶碗蒸などにして、～(婦友, 6, 86)
- 官僚だけの教育でもなく、教育者だけの教育でもない。(朝, 5, 6, I)
- 強いて、微笑を顔にうかべようとしたのですが、それも口のあたりが不自然にひきつっただけのことでした。(ひま, 6, 52)
- われわれは終戦後余りにも形式的な改革だけにとらわれて、実質的な内容の充実を忘れてしまった感がある。(朝, 5, 6, I)
- ～、何となく二人だけで話したくなったので～(映, 6, 13)
- われわれは法律や習慣や礼儀の許す範囲内において、われわれの好きなことを言ったり、行ったりすることが出来るだけである。(世, 4, 22)
- 不安定が不安定としてとらえられるだけならば、～(人, 5, 84)
- 中等学校はすべて高校に昇格しようとし、高校はすべて大学に昇格しようとした結果、形式だけ整ってもひどく内容の貧弱な新教育制度が出来上がるのである。(朝, 5, 6, I)
- 学制上の形式を整えただけで教育の内容もこれにともなって向上すると考えることは大いなるあやまりである。(朝, 5, 6, I)
- ～、外から与へられた自由は、それだけでは自由の条件たるに止まり、～(世, 4, 22)
- この事を世に知らせるだけでも、この録音は特ダネ以上の価値がある。(キン, 7, 32)
- ～、さういふ手のかゝる患者さんもわたしにだけは機嫌よくなさるやうになりました。(宝, 9増, 104)
- ～、今度は光枝の方から、くいくいと大岡にだけ打ち込んで行くやうに見えました。(宝, 9増, 108)

〔～だけで（-は）ない〕

- ことは教育部門だけではない。(朝, 5.6, I)
- ～, これは中国人民の勝利であるだけでなく全世界人民の勝利である
(朝, 6.20, I)

25. たって (だって) (接続助詞)

○ある動作・作用・状態を条件として提示し、内容上衝突する後件に結びつける。(逆説条件。)

(イ) 用言(形容動詞以外の)の連用形につく場合。前件が無益・無用のものとされ、とんじやくの要なきものとして扱われる。

- 「なにをいったって だめですよ。」(幼ク, 10, 41)
 - 「今どき五千円や六千円の月給貰ったって何にもなりゃしないわよ。」(ロマ, 6, 55)
 - 「今更そんな事云ったって, 仕方がない。」(ロマ, 6, 49)
 - 「おいら家がないんだから, どこへいったって, へいきだよ。」(少年ク, 9, 27)
 - 「その草野という家, いくら探したってないんですもの。」(宝, 7, 73)
 - 「苦しんだっていいじゃないの。」(婦朝, 10, 79)
 - 「あかい琥珀といったっていいと思うわ。」(少女ク, 9, 41)
 - 「死んだって帰るものか。」(少年ク, 9, 27)
 - 「他人が全部, いや地球上の人間が一人残らず死んだって俺は死なん。」(文, 7, 71)
 - 「向うであきらめなくなつて, 私は別れるつもりよ。」(ロマ, 6, 49)
 - 「三月三日がお休みじゃなくなつてさびしくないわ。」(少年少女, 7, 65)
- (ロ) 用言の終止形につく場合。この場合は, “と言っても” “としても” の意を表わす。(形としては, 前に促音を伴い, 「ったって」の形が多い。)
- 「箆筒売るつたつてさうさっ急には売れやしませんよ。」(文, 9, 121)
 - 「なんて申し上げるつたつて, 旦那さまが, 会社の者の妻君だつて, 仰言つた通りにして置くより他はないじゃないの……」(婦生, 6, 40)
 - 「古いつたつて, 大差はないよ。」(宝, 10, 68)
 - 「手をあげろっ にげようつたつてだめだぞ」(少年ク, 11, 52)

26. だつて (係助詞)

① 一見特別のもののように見える事物が, やはり例外ではないこと,

他の一般の場合と同趣の事情に属することを示す形での提題。「～もやはり」「～であっても」の意。極端な場合を示すことにもなる。

(イ)主格の提題。

- 「でも、あたしだって、むこうの学校へいけば、一人じゃなくなるし——」
(少年少女, 10, 65)
- 「こっちだって、日曜娛樂版だからね。」(婦画, 9, 86)
- 「お前が月田と仲のいいらしいことは、俺は百も承知だが、お前だって、俺の娘だ——まさか、俺の敵側の男と、そんなやうな関係になるなんてことは、夢にも思へなかったんだ。」(ロマ, 8, 39)
- 「おにいさんだってきつとうれいと思ふにきまっていますわ。」(文, 9, 119)
- 「だけれどもね、美穂ちゃん——そんな暢気なことを言っではいられないかもしれないよ、修ちゃんがあつた通りだからね、美穂ちゃんがお聲さんをもらって、家を継がなければならぬかも知れないよ、お父さんだって、もうあんな年だからね」(ロマ, 9, 88)
- 「ここの大將だって、あんまりまともぢゃありませんぞ。」(新, 10, 124)
- 「わざと口笛吹く奴だつていふかも知れないよ。」(文, 8, 79)
- 「今熱病で死にかけている奴らだつて、自分だけは死なんと固く思ひこんでいるんじゃないか……。」(文, 7, 71)
- 「ねこだつてさんぼぐらいしなくちゃ」(少女ク, 11, 16)
- 「どうぶつだつてせいいはみとめてもらいたいよ」(少女ク, 12, 18)
- 「かうやって暮してゐることだつて、たいしたことだよ。」(人, 9, 4)
- 「御飯をつけるのだつて、お父さんを一ばん初めにつけて、長男を次につけて、母親なんか一番おしまいね。」(婦友, 7, 34)

〔いくら～だつて〕

- 「いくら警視庁だつて年がら年中大物種がある筈アありませんよ。」(宝, 7増, 61)

(ロ)主格以外の提題。

- 「だから、今だつてこのとおり、わたしの目の前には、はっきりあの駒草がさいているのね。」(少女ク, 9, 41)
- 「昨日だつて四百匹とった。」(文, 7, 71)
- 「——今のこの時勢は、よほど勉強して考えてみないと、親にだつて知らないことが随分沢山あるものね。」(スタ, 6, 16)
- 「どうせ、疑られたのなら、同じことだ、濡れてしまおうって樽屋おせん

みたいな妙な気が若旦那にだっておこるかも知れないですわ」(キン, 7, 19)

- 「いまの探偵小説にだつて、これに勝る文学味はない。」(宝, 9 増, 132)
- 「ぼくの壮行の意味ではなく、全力をあげてぶつつかれれば、どんな強いやつにだつて勝てるという信念を、さいごに生徒たちに教えてやるつもりです。」(少年ク, 6, 43)
- 「でも、途中までだつていい、一しょにね」(少年少女, 10, 59)

◎代表的提示。「も」に比べて、たとえばひらきなおるような強めの語調をもつ。

(イ)一対の語を挙げ、それらを代表とする他のすべての場合に通じさせる。

- 「もう会社だつて、役所だつて、みんなもえちまってるんですよ。あんたがたは、認識不足ですよ」(人, 9, 19)
- 「おかあさん、ねえ、おかあさん、いつ東京に帰るの？ もうお友だちはみんな帰っちゃったわよ。浦上さんだつて、杉山さんだつて……。」(少女ク, 10, 32)

(ロ)不定称の指示語につき、肯定の語と呼応して全面肯定を表わす。

- 「悪いわ、無理強いするの、歌なんて気が向いた時じゃなくちゃ歌えやしないわ、お母様たちみたいに言ったら、誰だつて歌えなくなるじゃないの」(ひま, 10, 69)
- 「女の子の十四っていえば、なんだつてチャアともう…」(文, 6, 82)
- 「ねぐらはいくらだつてあるさ、五反田迄行きゃ百円で泊れるぜ」(スタ, 7, 72)

(ハ)不定称の指示語、または数・分量・程度を示す語につき、否定の語と呼応して全面否定を表わす。

- 「勿論、誰だつて死にたくなんかないですよ。」(人, 8, 40)
- 「そりゃ誰だつて始めから自分が死ぬなどゝ本気になって考える奴はおるまい……。」(文, 7, 40)
- 「でもね、うちのおかみさんは、わたしのしたことに いつべんだつてはんたいしたことはありませんよ。」(幼ク, 9, 13)
- 「木ッ葉塚のキツネはな、とつてもふるギツネでな、仙蔵さんもセドのお冬お婆さんも。それから、いつぺえだまされたけど、人にゃ一度だつて姿みせたことねえとよ。」(銀, 7, 69)

27. だの (並立句詞)

○並列・列挙する。(体言または体言対当のものを)

(イ)〔～だの～だの〕の形。

- 有り合わせの飛行機は、赤トンボの練習機までかき集めて特攻装備をするし、櫻花だの、橘花だのと言った特攻兵器が正規に計画され、生産が始まる。(文, 12, 95)
- 「そうよ、へんねエー、胡瓜だのキャベツだの買うのは平気で、お寺は恥しいなんておかしいわ」(ひま, 12, 36)
- 「とうちゃんだの、ねえちゃんだの、ケンイチさんだの、さがしに来てくれたのさ。」(幼ク, 10, 58)
- 「東だの西だの、北だのっていうけど本当は、地球に東西南北があるわけじゃないでしょ、只、人間がつけてるだけなのよ」(ひま, 12, 36)
- 「どこまでが日本で、どこまでが中国だの、アメリカだのソビエットだのって勝手にワクをはめて、喧嘩したり、戦争したり、バカねエー」(ひま, 12, 37)
- 「新品を持って来いだの、新品でなければいやだの、云うのなら、学校をやめさせちまえ。」(婦画, 12, 67)

(ロ)〔～だの～など〕の形。

- その後も二三度逢って、ますます由美に夢中になった慧子は、日曜だといふのに珍らしく早起きをして、江の島へ買出しに出かけ、海老だの鮑さざえなどを仕入れて来た。(ロマ, 12, 58)
- 彼は学生時代から非常に熱心な研究家で、合成樹脂だのベークライトなどの新しい製法や応用法を発明し、～(ロマ, 12, 62)
- 上級生の方が賄の徳さんのお手傳いをして、葡萄だの栗などを盛ったお皿を、一人一人の前に配って下さって、西村生徒監や日本の古典文学がお得意の深見先生のお話を聞いて、夜おそくまで楽しく遊びましたの。(ひま, 12, 44)

28. たら(ったら)

〔I〕係助詞

○話題として人を提示し、非難・難詰の対象とする。(「てば」に同じ。)

- 「薫さんたら、なによ、このかつこうは……。」(少女ク, 9, 42)
- 「どうしたんでしょうね、おとうさんたら。」(銀, 8, 33)
- 「だってさ、三重子つたら、おとうさんが帰ったら困るような顔するんだもの」(銀, 8, 40)

〔II〕 終助詞

○注意を促がし、じれったい気持ちで呼びかける。(「てば」に同じ。)

○「ちょうど おねえさんもでていったし ねえおじいさんたら」(幼ク、3, 13)

○「菅原くんたら、聞えないの」(野少、9, 70)

29. たり (だり) (並立助詞)

①用言を並列して、"あるいは～し、あるいは～する"の意をあらわす。

(イ)〔～たり～たりする〕の形。

○従ってわれわれは、実際の社会生活では、何でも好きなことを言ったり、したりすることは出来ない。(世、4, 22)

○われわれは法律や習慣や礼儀の許す範囲内において、われわれの好きなことを言ったり、行ったりすることが出来るだけである。(世、4, 22)

○数絵はお嬢さまのあいてをして、トランプをひらいたり、おはじきをしたりして子供のようにあそびました。(ひま、6, 54)

○～、論者がことさらに理想論を今直ちに実現すべしと強調したり、いたずらに過去論に低迷したりする態度を去り、虚心に、～(法、5, 51)

(ロ)〔～たり～〕の形。

○～小学校を出て上級中学に進むものと、高小へ行ったり、すぐ実業につくものとの間に、～(朝、5.6, I)

○～、年甲斐もなく馬鹿な学生みたいな恰好をしたり、態度をしてみせるが、～(映、6, 13)

②一つの動作・作用を一例として挙げ、他のものを言外に暗示する。

〔～たりする〕の形。

○その為にスーザンのボーイ・フレンドのジェリイの気を悪くさせたりした。(映、6, 13)

○「どうしたの？ 飛びたいの？ みんな、おばかさんねえ。そんなにさわいだりして。お姉さまがびっくりなさるわよ。」(ひま、6, 54)

30. つつ (接続助詞) (動詞の連用形につく))

①二つの動作が同時に行われる場合の接続。(「ながら」の①に同じ。)

○父兄の負担を軽くしつゝ、实际社会に早く子弟を送り出すという年限短縮の要求からいっても、～(朝、5.6, I)

○しかし、世界平和に責任ある四国外相は、この世界の重大な岐路に立って

国交調整に全力をつくすであろうし、われわれは世界平和のため、その成功を期待しつつ今後の経過を見守りたいのである。(朝, 5.7, 1)

○前者はドイツの国内経済について生産計画の立案, 原料の割当などをドイツ当局に行わしめつつ, これを監督統制し, 後者は原料の輸入, 輸出入資金の保管に当たるとともに, 一切の輸出入にたいして同機関の事前の許可をうけることを要求してきた。(エコ, 11. 21, 15)

○平和運動というものが、ただ、仲間が集まって「民衆は平和を愛するのだ」と叫びあいつつ自己自身に陶醉してよいものならば、こんな容易なものはない。(朝評, 12, 42)

○これに対して欧米の結果は、常に一定の差を保ちつつ、それに平行して並ぶのである。(科, 11, 32)

○左図はグアム島基地のB-29が高度 3200 mを保ちながら毎時間風向 風速 気圧 気温などの各気象要素を測りつつ進み 台風限らしいものにぶつかった場合(～) (科, 11, 5)

[～つつある] (動作・作用が継続中であることを表わす。「～している」の意。)

○このソ連の封鎖も、米英側必死のベルリン空輸の成功によって効果は薄らぎ、また西欧側の独自の西独工作の推進によって、これを取引の具とすることも困難となりつつあった。したがって問題はソ連が今や無意味となりつつあるベルリン封鎖を何時、いかなる意図をもって解除するかにあったのである。(朝, 5.7, 1)

○一方マライ連邦をはじめ近くには従来以上に米不足に悩みつつある地域が少くない。(エコ, 11. 11, 20)

○また今回は発行社債の四億円をもって設備資金の拡張に充当し、技術の刷新によって低コスト生産を可能ならしめるべく重大転機に順応する体勢を整えつつある。(エコ, 11. 11, 37)

○現在中共は南方人民銀行を設立して人民券で今まで発行されていた裕民券新産券などの回収を行いつつあるが、すでに潮梅地区では金銀外貨の管理弁法を公布している。(エコ, 11. 11, 41)

○中華人民共和国成立を中外に宣言した中共はすでにソ連および東欧諸国から承認され、政治的、外交的に中央政府としての発展の道を進みつつあるが、これに並行して経済建設は最も緊急を要する大きな課題となっている。(エコ, 11. 21, 26)

○あるものは生活水準が低下し、都市に農村に不平が起っているといふ、あるものは国民生活は非常に安定し向上しつつあるという。(エコ, 11. 21,

27)

- 田舎の人たちは彼等の古い穀が砕けてゆきつゝあることを感じている。(朝評, 12, 54)
- わが国でも最近一二のメーカーが試作し実用になりつゝあるようであるがこれは現在のボディの欠点を除去するという要求に対する合理的な技術的解決法の一つといえよう。(科, 11, 21)
- さらに北京とモスクワ間の経済協定として赤軍の満洲からの撤去物資が食糧と引きかえに満洲にもどされつゝあるとのニュースや、ソ連の五十億ルーブル借款借用説なども乱れとんでいる。(朝評, 12, 16)
- 全選は、九月の上諏訪中央委員会で、共産派と再同派(正統派全選)にハッキリ分裂したが、正統派全選は三分の二以上の優勢な支持を獲得しつつある。(朝評, 12, 59)

②二つの動作が相応しない事態の接続。「ながら」の②に同じ。

- 以上、限られた数字で全体の傾向を推す危険を十分知りつつ、この報告を認めた。(朝評, 12, 6)

[つつも]

- 見ては悪いと思いつつも、わたくしの目は、ひとりでに、開かれた日記のページにそまがれる。(資料外)

31. って

[I] 格助詞

①次に来る動作・作用の内容を示す。「と(格助詞)」の④に同じ。

- 「一九〇〇年の博覧会へいった人が、とてもよかったって言ってるね。」(文, 8, 58)
- 「知らないっていえないのに。」(銀, 8, 39)
- 「ぼくが初めて高橋さんの所へ、弟子にしてくれつて頼みにいったら、まず十日ばかり脚を訓練して来いつていわれたでしょう。」(婦生, 8, 36)
- 「二た言目には、結婚生活に毒された、つておっしゃるけど……生活のために才能をすりへらしたつて云うけど、それはこっちのセフリじゃないの。」(婦生, 9, 123)
- 「だつておとうさんが、つむのはおよしつて、おっしゃったんですもの。」(少女ク, 9, 41)
- 「あんたは、同じベッドの上で、可愛いのに、他人には渡せないのつて、無理に夫婦約束をさせた女をもうお忘れになったの？」(ロマ, 9, 107)

って

- 「こんなことじゃないかって、あたしもう、いくども考えながら掃ってきたのよ。」(宝, 7, 148)
- 「一生のうちに女のひとはいろいろの髪を結ふつて、新聞に出てましたが、うまいことを言ったものですね。」(新, 10, 8)
- 「村芝居で勘平をやっていたら、塚本のおかあさんが見物に来ていて、この人なら娘のむこにちょうどいいつてきめてしまったんですつて。」(少年ク, 7, 57)
- 「お上手だつて賞めてたわ」(ひま, 10, 70)
- 「フラフラ歩いてて金が取れりゃ一番いい商売だつて思つて来るんだね。」(婦生, 8, 36)
- 「今日の『おとぎ列車』にゆきたくても満員でゆけない人が大ぜいできたつてきいたけど、来年からはもっとみんなでのしめるようにできないかなあ。」(少年少女, 7, 65)
- 「東京へ行つてお父さんと一緒に生活するのを楽しみに帰つて来たのに、当てが外れたつて泣くのよ。」(新, 7, 11)
- 「大学を出なければ損だからつて、勉強してるんです。」(新, 10, 77)
- 「……なにしろこの人は、安雄さんどころでなく退屈がつて、病院から逃げ出すつてきかないのよ……」(婦友, 6, 75)

②語(または文)が、次に来る語を、同格の(または内容を説明する)関係で修飾することを表わす。

- 「『子供の日』つて祝日をつくつたのは、世界ではじめてだつてね。」(少年少女, 7, 65)
- 「ええ、陣屋の塚本さんつて家は大金持よ。」(少年ク, 7, 57)
- 「風つて奴は、造化の歌作みたいなものだね。」(人, 6, 14)
- 「さうです、あと九時間です、退屈ですなあ、夜汽車つてやつは。」(人, 8, 40)
- 「じゃ、どうして、ぼくがみがわりだつてこと、わかつたのさ。」(幼ク, 9, 41)
- 「更めて君に聞かされないでも、それくらい知ってるがね、一人っ子つてものは、どうしたつて多少年令よりはおくれてるんだ。」(文, 6, 82)
- 「用つてほどのことぢゃないけど……」(ロマ, 6, 55)
- 「肉弾三勇士つてのがありましたね。」(人, 8, 41)
- 「そんじょそこらにあるつて代物じゃないの、古いのなんのつて、とても年代物なんだから、すぐわかつてよ。」(キン, 10, 101)

- 「マルクス兄弟とかチャップリンが、いつも苦虫かみつぶしたような顔してるってこと分ったよ。」(婦画, 9, 86)
- 「その、行かないほうが無事だらうってのは。」(新, 10, 125)

〔II〕 係助詞

①語(または文)を主格に立たせて話題とする。(「～というのは」の意。)

- 「お郷里の姦つて凄いですわね、省三さん。」(世, 8, 76)
- 「人の誕生つて、毘廬なもんだわね。」(婦画, 7, 74)
- 「いやだ、こわい人つて何さ。」(人, 9, 5)
- 「いいものつてこれ？」(少年少女, 10, 60)
- 「彼氏つて、誰なのよ。」(新, 7, 14)
- 「コロつて、ぼくの犬だよ。」(幼ク, 9, 59)
- 「アップル・キャンディ・バター・カルピスつてなんだかしってる？」(少女ク, 6, 33)
- 「万一のことつて、あたしが逃げだすとでもいふ意味？」(ロマ, 8, 33)
- 「波浮の港つて、こういうところなのよ。」(ひま, 7, 66)
- 「沖さん、テスは柵の突のような唇をしていたんですってね、柵の突のよう唇つてどんなのかしら。」(ひま, 8, 61)
- 「気違い病院つて、どんな感じだった？」(宝, 9, 37)
- 「まあ あんなの美人かしら、男つて点が甘いね。」(婦友, 11, 74)
- 「いい人をもらうつて、なんのこと？不良よ、そんなことをいう人は。」(少年ク, 7, 57)
- 「そんな無茶な話つてないわ。」(婦友, 6, 58)
- 「なんだい いいことつて」(ロマ, 11, 18)

②相手の質問を受けとめて、自分の解答・主張を起すための話題とする。

- 「どうするつて、東京では仕事が見つからないから、当分こちらで暮らすより仕方がないのです。」(世, 8, 78)
- 「誰かつて、決まってるよ。」(新, 10, 76)

〔III〕 終助詞

①他人の話を紹介する。(「～ということだ」の意。)

- 「おかァさん、ねえちゃんは詩をつくってるからだめだつて……」(少女

ク, 11, 14)

- 「よく似合うって、お母様が。」(ひま, 12, 70)
- 「あのね、本でよんだんだけど、やつらは友がくいするんだって……」(少年少女, 10, 12)
- 「島村先生がねえ、おとうさんに学校へ来ていたゞきたいんですって。」(少年ク, 8, 31)
- 「貴女、大変お歌がお上手なんですってね、いつも明子に聞かされてますが、今夜一つご披露なさいな」(ひま, 10, 69)
- 「『子供の目』って視日をつくったのは世界ではじめてだつてね。」(少年少女, 7, 65)
- 「新聞記者になったんだつてね」(少年ク, 11, 51)

〔～だつて〕

○「そしたら、正覚坊、高女の方には庭球部があるんですってねえだつて。」(野少, 9, 70)

○「と言ったら、毎年してるじゃないか、だつて。」(婦朝, 6, 160)

②ひとのこゝばを、おうむ返しにくり返して反問する。

○「へんなところにいるんだな 犯人をつかまえたよ」「つかまえたつて?」(少年ク, 11, 54)

○「さいみんじゅつをかけたつて?」(少年ク, 11, 51)

○「ランドレー君が? 惨殺されたつて?!」(婦画, 8, 49)

○「眸の中に赤いレンズが嵌まったようだつて?」(ひま, 8, 60)

○「——いゝがかりだつて……畜生ッ、よくもそんな白々しいことを。」(ロマ, 9, 107)

○「おまえをたすけた このわたしをたべるんだつて。」(幼ク, 10, 41)

○「買出しですつて?……何をですか……衣類ですかね……」(ロマ, 7, 60)

○「なんですって、いつ、わたしが杉平のバカなんていきました?」(銀, 7, 36)

32. て (て)

〔I〕 接続助詞 (連用形につく。)

①ある動作・作用から次の動作・作用への推移・連続。

○さきの資格審査で不合格となった官公私立専門学校三十一校のほかに、保留や未申請の高等専門学校を合せて約百九十校が短期大学の対称となり、

- 今秋審査にとりかゝって明春から店開きをする予定という。(朝, 5.6, I)
- ここでわれわれはかつて天野一高校長が二年制の前期大学案を提唱して敗れたことを思い起す。(朝, 5.6, I)
- ～、一個の人間が、殊に青春にとむ若者または高位高官にあった老人が死刑の宣言を受け、万歳三唱して絞首台にのぼってゆく～(世, 5, 39)
- ～冷い空気が温い空気の下に筒いこんで下から押し上げるので上昇気流を生じて雷雨となったのをいう。(科, 5, 36)
- ～、何かなしに政府はこれを受取って使っている格好になっていた。(エ, 5.11, 10)
- ～、その結果は兇悪な腕力家が勝利を占めて、多くの善良な人たちが、その圧制の下に自由を失い～(世, 4, 22)
- 見物人が思わず叫び声をあげた瞬間、二少年の体はつばめのように左右に飛びちがって、別々に空中ブランコに飛び移っている。(キン, 7, 32)
- 中さんは如才なく、すぐ立上って外出の支度をはじめた。(キン, 7, 32)
- 遂いにマーガレットは拮据を起してドイツに、「貴方って人は、どこへ行っても騒ぎを起す人のね!」と云ってスーザンと帰る。(映, 6, 13)
- 一方ドイツは夜遅く掃宅して着換えをすまし～(映, 6, 13)
- 続いてジェリイとチェンバレンが捨てざりふを残して去る。(映, 6, 13)
- 私はヘルム大尉その他に厚くお礼を述べ、再会を固く約してお別れする。(婦友, 6, 27)
- お嬢さまは、ふと顔をあげて、じっと数絵をみつめました。(ひま, 6, 54)
- 二人は、首をちぢめて、外套の襟を、たてた。(文, 7, 80)
- それに、そのとき、妙な『いきさつ』から、由比は、その女によく逢ひながら、その女の『あね』芸者と、したしくなって、結婚した、といふやうなこともあった。(文, 7, 80)

〔～から(以来・後 etc.)〕

- 普通離乳の第一歩は、重湯、葛湯、半熟の卵黄からですが、夏は特に大事をとり、まず牛乳に慣らしてから始めた方が安全です。(婦友, 6, 86)
- 然しそのことが多くの人によって強く意識されるようになったのは、恐らく正条植が普及してからのことと思われる。(農, 6, 25)
- 一昨年十二月のロンドンにおける四国外相会議が決裂して以来一年有半、

こゝに再び四国外相会議の開催を見ることになったのは～(朝, 5.7, I)
○～に就いての関心は、恐らく田植が行われるようになって以来の古い問題
であろう。(農, 6, 25)

②原因・理由(順説条件)の意味のこめられる場合。

- ところがこの年限短縮の要望と、旧制の高等専門学校が四年制新制大学の
名に値しない実質をもっていることがからんで、こゝにやむをえず二年制
短期大学を生み出さねばならなくなったのは皮肉な現象である。(朝, 5.
6, I)
- ～殊に化学株がしばらく買われなかつただけに高圧、カーバイト、旭電化
などが注目されて売買高も増加の傾向となった。(東, 6.6, I)
- その時から十五六年まへ、由比が、はじめて、下諏訪(～)に、行って、
十日ほど、たいざいしたとき、宿屋の番頭に、二三日まへに出たのがある
から、(もっとも、「一年ほど、休んでゐたのですが……」)と、すすめら
れて、よんだのが、その女であった(文, 7, 80)
- うらがなしいおもいに誘われて、そんなものおもいにしずんでいるうちに
……(ひま, 6, 52)
- そう言われて、はっと気がついてみると、～(ひま, 6, 54)
- 二人とも～、ふしぎな術にかけられて、すっかり犬になつたつもりで、そ
のへんをはいまわっています。(野少, 6, 42)
- ～、母乳の水分が多すぎて必要な養分が摂りにくくなるために～(婦友, 6,
86)
- ～私はふっと見せられた気がして、微笑が浮ぶ。(婦友, 6, 27)
- ～と云われて彼女はもう有頂天、～(映, 6, 12)
- ～目を覚めたスーザンに声をかけられて、彼女が来ていたことを知って驚
いた。(映, 6, 13)
- ～スーザンが、ディック・ヌージェントの講演を聞いて、夢中になってい
た事を想い出した。(映, 6, 12)
- ～シドニー・シエルドンは、リパブリック・モノグラム、P R C等の会社
の脚本を書いていた人であるが、この一作で四七年度の書下し脚本に対す
るアカデミー賞を獲得して注目を浴びた。(映, 6, 12)
- ～ディックはスーザンに薦められて出場した。(映, 6, 13)
- ～夜間の海上では 上層が急に冷却し 海面上は暖いから 気圧の平衡が
失われて雷雨を生ずることがある。(科, 5, 36)
- ～、四年制大学に落第した学校の救済策としか受取れなくて面白くない
(朝, 5.6, I)

[～てたまらない・～で困る etc.]

○「今日は何だか頭が痛くてたまらない。」(資料外)

○「～洋間のドアとかテーブルで子供が怪我をして困る。」(科, 7, 18)

③方法・手段

○師範学校などを無理をして四年制の学芸大学にしなくても、～(朝, 5, 6, I)

○今におよんであわて、二年制の短期大学を作るぐらいなら、～(朝, 5, 6, I)

○勤労子弟といえども、定時制高校を通じてなり、通信教育を通じてなり、大学へ進学することは決して不可能ではない。(朝, 5, 6, I)

○～予備会議の任務は、～、速かに新政治協商会議を招集して民主連合政府を成立させ、全中国を統一するにある(朝, 6, 20, I)

○われわれの自由は、何を言い、何をなすべきかを、偏見や情欲に支配されないで、われわれの究極の目的からする明察にもとづいて、選択決定するところに成立したのである。(世, 4, 22)

○これは互に直面に交叉した棒型空中線と垂直空中線を組合せて20°くらいの鋭い方向性をもたせ～(科, 5, 37)

○～アメリカではこの方法を引きつぎ、レーダーをも加えてハリケーン(台風)の進路を測ったが～(科, 5, 36)

○今までの気象学は御承知のように 温度や湿度 そして風向 風速など地球上の数多くの測候所で観測し 無電による気象電報はじめ各種の通信機関を動員して互に通報し合って気象要素を集めて天気予報を出しているのである。(科, 5, 33)

○～、ハズミをつけて大車輪のように梯子をクルクルとまわすのである。(キン, 7, 32)

○～、僕たちは一番前の土間に蓆を敷いて席をとった。(キン, 7, 32)

○～、巡査に連れられて入って来たのはスーザンだ。(映, 6, 13)

○～、初め一さじくらい御飯粒を入れておまじりにし、～(婦友, 6, 86)

○すると催眠術師は、いきなり、へんなくすりを二人にぶきかけて、二人を催眠術にかけてしまいました。(野少, 6, 41)

○妹のようにして一緒にくらしていた千鶴子のことでした。(ひま, 6, 52)

○数絵は、まるで光琳の豪華けんらんな金屏風でもめぐらしたような、百花の咲きにおうそのお庭のうつくしさを、書院窓の障子をあげ、青貝をちりばめた文机に肘をつけて、いつまでも、いつまでも、恍惚と眺めているのでした。(ひま, 6, 52)

〔～して〕(強意)

- そのようなことからして空電源の位置決定よりもむしろ 空電の日変化
年変化などの連続的な統計的研究を行うのに適していると考えられる。(科
5, 37)
- ～, 中国人には遺言尊重癖が比較的少ないことをみると, この日本人の性
向は儒教のみを以てしては説明しえない。(世, 5, 39)
- ～……まかり間違えば, 小さい命は一瞬にして碎け散ってしまうではない
か——(キン, 7, 32)

〔～なくして〕

- 個人の誠実などなにほどのことでもない。が, それなくして個人は生きら
れぬのみならず, 社会もまた, それなくして存立しえぬであらう。(人,
5, 85)

〔～を～して～しめる〕

- 私を～して～しめれば, ～(法, 5, 51)

〔あらためて・すべて etc.〕(副詞語尾)

- まずボタン孔の位置をきめてからその裏側に縦布で幅は口寸法より二セン
チ長く, 長さ二センチのキャラコ程度の当布を, 軽く糊で貼ってアイロン
で押え, 改めて孔の位置をはっきり標します。(婦友, 6, 73)
- 数絵が腰をうかせて, おもわず止めようとしますと, お嬢さまは, はじめ
て笑顔をはころばせて, ～(ひま, 6, 52)
- 然らば何が「反共的」で「一方的」であるのかとしいて捜し求めるならば
～(東, 5.6, I)
- 中等学校はすべて大学に昇格しようとし, 高校はすべて大学に昇格しよう
と焦った結果, 形式だけ整ってもひどく内容の貧弱な新教育制度が出来る
のである。(朝, 5.6, I)
- 殊にこの交渉が, 国連の米ソ英仏代表の努力によって成功を見たことは,
世界平和の維持機関たる国際連合にとっても極めて意義深いことであ
った。(朝, 5.7, I)
- 批評精神は, なるほど現実を拒否する。民衆や社会の現実にたいして誠実
ではないと診断される。が, はたしてそれは, 個人にたいする誠実に固執
してゐるからであらうか。(人, 5, 85)
- ～, 吉田内閣の反共政策は強硬弾圧としかみられない, これはかえつて共産
党の思うツボにはまりこんでいることになり対策の貧困を物語るものだ
(朝, 6.20, I)
- このほかに蜂蜜湯, 滋養糖湯などを与えていれば栄養は充分なのでから,

疾して焦ってはいけません。(婦友, 6, 87)

○ヒトリズムやプロレタリア独裁の信奉者にとってこの書が面白くないことは当然であろう。それらに対してこの書は鋭い一撃を食わせているからである。～民主主義を破壊せんとする敵を発見することなしに民主主義の建設はない。あえてこの教科書を高く評価するゆえんである。(東, 5.6, I)

○ころころ, ころころと, 蛙の音がきこえてきます。荒っぽい世のなかのことは, なに一つ, ここまではきこえてきません。——どうしてこんなところへ私が来ることになったのだろうか。おもい出そうとすると, ぼうとしてけだるさにとらわれてしまうのです。(ひま, 6, 52)

○～, それよりもその人間がいかにして憂き世からあの世へ行ったか, つまりその死に方が重視され, ～(世, 5, 39)

④並列・列叙・添加・対比。(形容詞・形容動詞に附く場合も含む。)

○新内閣は「戦争内閣」であって中共とは徹底的に戦う決意である(東, 6.6, I)

○これととも回復期に入った敗戦ドイツ国民の自信が高まるのも当然であって, 今後のドイツ問題処理にはドイツの人心を把握することがいよいよ大切になって来たのである。(朝, 5.7, I)

○めざまし時計の影がくもり硝子にうつって, カチカチ, カチカチと秒針の音がきこえてきます。(ひま, 6, 54)

○工場でしょんぼりとしてひとりぼっちで, 機械の前に立っているにちがいない。(ひま, 6, 52)

○気のせいか, 顔色がすこし蒼組めて, さびしそうで, ～(ひま, 6, 52)

○肝を冷して呆然として見上げている見物人の真上で, 少年たちはユラユラとブランコにゆられながら得意そうに手を振って笑っている。(キン, 7, 32)

○～同時に行われた試験から早生種で分蘖力は強くて穂の小さい豊林1号と, 同じく早生種であるが分蘖力は弱くて穂の大きい北陸11号の試験結果を挙げると～(農, 6, 25)

○しかしもっとも重要にして本質的なことは～(エコ, 5.11, 10)

【～て～て】

○～, ここでの生活は, なに不自由ないと云えばその通りなのですが, 数銭は, やっぱり, 淋しくて, 淋しくて, たまりません。(ひま, 6, 52)

⑤逆説条件。(「のに」の意。)

○われわれが困っている事を十分知っていてやってくれないのだから, しまつにおえない。(資料外)

⑤次の動作・作用の行われる事態・状況・関係事物などを提示する。

(「に関して」「において」など、決まった形のものが多い。)

○われわれは病気の流行を防ぎ、人々の災厄を少くするためには、衛生や防火のことなどに関して、厳重な強制を行わなければならない。(世, 4, 22)

○～, ぼくは《批評精神》について語ってきたのだ。(人, 5, 84)

○これに対して人権や自由を云々するのは、ほとんど無意味である。(世, 4, 22)

○従ってそこに考えられることは、突現の義務を負わされた生活者の発言に比して、はるかに純粋でありうる、～(世, 5, 39)

○それに反してチェンバレンは各種目に勝ってメダルを貰い、鼻高々だ。(映, 6, 13)

○田植に当って稲株を正方形に配置するか長方形に配置するかについての関心は、恐らく田植が行われるようになって以来の古い問題であろう。(農, 6, 25)

○ただ、これらの問題の論議に際して痛感することは、～(法, 5, 51)

○われわれは法律や習慣や礼儀の許す範囲内において、われわれの好きなことを言ったり、行ったりすることが出来るだけである。(世, 4, 22)

○ヒトラリズムやプロレタリア独裁の信奉者にとってこの書が面白くないことは当然であろう。(東, 5.6, I)

○～, ベルリン封鎖および逆封鎖はいよいよ来る十二日をもって解除され、四国外相会議は十三日パリで開かれる。(朝, 5.7, I)

○～, 昨年後半期を通じて世界不安の中心であったベルリン封鎖はここに解除され、～(朝, 5.7, I)

○適末に至って一部化学株に人氣が再燃し始めたが～(東, 6.6, I)

○今におよんであわて、二年制の短期大学を作るぐらいなら、～(朝, 5.6, I)

○～, 一定年間、特定の法律科目に関する教授又は助教等職の職にあってこれを講義研究した者のみを規定し、～(法, 5, 51)

○ひとびとは階級対立の激化にともなふ現実の混乱に直面して、個人の誠実などといふものがなにほどの力も発揮しえぬことを、身にしみておもひしらされてゐる。(人, 5, 85)

○日銀券発行高の増減率は、インフレの一つの重要指標ではあるが、すでにインフレの発展する状態の下においては、現金通過の回転率、また、それと関連して手形流通高、市中銀行の貸出状況など多数の条件を総合せねば

単純には結論しえない性質のものである。(エコ, 5.11, 10)

○梯子の真中に横に鉄棒が通っていて、山高帽に黒背広の二人の少年が梯子の両端に掴まったまゝ、ハズミをつけて大車輪のように梯子をクルクルとまわすのである。(キン, 7, 32)

○続いてジェリイが応召したので別れを告げにスーザンを追って来る。(映, 6, 13)

○正条植は、山口県下や静岡県下に残っている記念碑などから見て恐らく明治の中葉から相当広く行われるようになったものと思われる。(豊, 6, 25)

○ラジオに特有のガーガーという雑音が入ることから考えて 特殊の無線機器を使えばこの正体のはっきりとらえられ その波型から発生源が熱雷か渦雷か或いは風塵などであることが判明し〜 (科, 5, 37)

○~, 他の条件をそのままにしての繰入金停止は, ~ (エコ, 5.11, 10)

[~として] (資格を提示する。)

○~, その六三三四制を一応原則的な建前として受取っても, ~ (朝, 5.6, I)

○~形式的な六三制を金科玉条として固守してきたこれまでの方針に一大反省を求めるものでなくてはならぬ。(朝, 5.6, I)

○I例として、施肥量との関係に就いて農林省農試北陸支場の試験結果を挙げると〜 (豊, 6, 25)

○~空電とは大気中の放電現象によって発生する電波であり 無線工学では "雑音" としていやがられている。(科, 5, 36)

○社会的動物としての人類にとっては, ~ (世, 4, 22)

○~, われわれとして最も注目せねばならぬのは~ (東, 5.7, I)

[~ては] (条件の提示)

○~, 数絵は、夢にしては、あまりになまなましすぎる感情のもってゆき場所がないので困りました。(ひま, 6, 54)

○~, 元へもどるようなことがあっては大変だと, ~ (ひま, 6, 54)

[~てはならない (いけない)]

○いや、対岸の火であってはならぬはずのものではあるが, ~ (人, 5, 85)

○サーカス団のゴロツキ共と争っても、断乎この非道を暴かなくてはならない。(キン, 7, 32)

○~これまでの方針に一大反省を求めるものでなくてはならぬ。(朝, 5.6, I)

○病氣上りのからだで、そんなに急に烈しい運動をして、またもとへもどる

ようなことがあってはいけません。(資料外)

〔～て(一も)よい〕

- ～五年制の高等学校も出来てよい。(朝, 5, 6, I)
- それは社会全体についても、同じように考えられてよいのではないか。(世, 4, 22)
- ～, 且つ, 前掲の最近三カ年間に於ける新弁護士の学歴, 経歴等の程度に鑑みるも, この標準を維持すべく, 維持して可なりと考えるものである。(法, 5, 51)
- ～, それは他のなにもものよりも小説家や詩人のうちにそれが無いといふ事實であるといつてさしつかへあるまい。(人, 5, 85)
- ～, それは自由の古典的な概念であると言ってもよいかも知れない。(世, 4, 22)
- われらにかわつて裁判されているのだという気持ちだけはあつてもよいのではないか。(世, 5, 39)

〔～てほしい〕

- ～, 今後の, 将来における弁護士がいかにあるべきか, また, あつてほしいかといういわば将来論, 理想論と, ～(法, 5, 51)

〔～てやまぬ〕

- ～, つねに不安定を求めてやまぬ精神にとっては, ～(人, 5, 84)

〔従つて etc.〕(接續詞を構成する「て」)

- ゆらいソ連の外交政策は実利本位である。したがつてベルリン封鎖がソ連にとって何等の利益をもたらさない状態になつた場合, 面目にこだわらずそれを捨てることは別に不思議ではない。(東, 5, 7, I)
- 現に, 中央財政における公共土木事業費の削減が, 六・三制関係の建設費をゼロにし, ～, 一切の犠牲負担を学童の父兄その他一般地方民に転嫁しているのではないか。かくして, ますます広汎な国民各層が低賃銀, 失業, 破産により, ～, 餓死的狀態に追込まれている。(エコ, 5, 11, 10)
- なお薄地のものや上仕立のときは, 図のように当布を起し, 当布, 縫込み, 玉縁布の三枚を, 当布の方を見て縫目の際にぐるっとミシンをかけ, 口止りの両端は, 二回ほどミシンでぬつてから, かさばらないように布を裁ち落します。こうして当布も共にぬりことによって, 形のくずれないボタン孔ができるのです。(婦友, 6, 73)
- もし今日, 批評家たることの不幸があるとすれば, それは現代の日本の一般社会人のうちに, をして政治家や科学者のうちに, 批評精神が生きてゐないからであり, ～(人, 5, 85)

○第二の問題、すなわち、前任地における登録制限の可否は、なおさら、理論の問題ではない。而して、政策の問題であるとするならば、それは、その目標を、どこに、どう置かかによって決定される問題である。(法、5、51)

⑦補助用言に連なる用法。(動作・作用の様態の描写)

- ～、自動車は付近の篠田川堤防に乗りすて、あつた(朝、5.19、II)
- ～中共軍は華南の心臓部へひた押しに進撃を続けており～(東、6.6、I)
- 肝を冷して呆然として見上げている見物人の真上で、少年たちはユラユラとブランコにゆられながら得意そうに手を振って笑っている。(キン、7、32)
- 慣れてきたら、初め一さじくらい御飯粒を入れておまじりにし、～(婦友、6、83)
- 個人の誠実が軽蔑される社会は陰惨な猜疑の林立のうちにみづから亡びてゆかねばならぬ。(人、5、85)
- ～、ミシンの一方の糸を抜いて二本でしっかり結んでおきます。(婦友、6、73)
- 一人になったディックは、すっかり憂鬱になってしまった。(映、6、13)
- ～、糸のむすび目を片はしからほどいてやりますと、～(ひま、6、54)
- 離乳にかゝるときは、その前に医師の診察を受けて赤ちゃんの栄養状態を調べてもらいましょう。(婦友、6、86)
- ～、ガン吉の左うでの、おかあさんが持たせてくれた時計がきゅうにジリジリッと鳴りだしました。(野少、6、42)
- ここにおいてもわれわれは、われわれの言いたいと思うこと、したいと思うことを、そのまま言ったり、したりすることによって、われわれの自由が現実になるのではなかったことを、あらためて思い出してみなければならぬ。(世、4、32)
- ～、年甲斐もなく馬鹿な学生みたいな恰好をしたり、態度をしてみせるが、～(映、6、13)

[～てる・でる] (動作・作用の継続していることを表わす。「ている」の熟合した形。動詞、助動詞の「せる」「させる」「れる」「られる」の連用形につく。)

(未然形)

○「まだだれも来てないのね——。」(少女ク、9、40)

○「寝てられますかね。」(新、10、8)

(連用形)

- 「これで半袖でも着てたら、一と晩で赤むくれよ。」(世, 8, 76)
- 「なんだ……, しんだふりをしてたのか。」(幼ク, 8, 34)
- 「知ってますよ, それがあんたの持論でしょう」(世, 8, 62)
- 「おや, えらく, 考えこんでますな。」(キン, 6, 89)
- 「いゝじゃないの, 他に誰も聞いてやしないわ, あの頃はあんなに歌って下さったのに, 勿体ないわ。」(ひま, 10, 68)
- 「櫻村の奴, 今度はあの女房にほんたうに惚れてやがるらしいねえ。」(人, 9, 6)

(終止形)

- 「まだ白ばっくれてる」(キン, 7, 19)
- 「杉ちゃん, ウンメイということを知ってる?」(銀, 7, 36)
- 「さうとうこんでるな……」(ロマ, 12, 40)

(連体形)

- 「あのね, きょうはね, 泳ぎ競争でなくて, だれが一番長く水につかっていることができるか, その競争をやろう」(銀, 8, 30)
- 「日本からお金を送って貰ってる人たちは, フランが下るので喜んでるんだ。」(文, 8, 58)
- 「まるであばれうまにのってるようだ」(少年ク, 11, 53)

(仮定形)

- 「たゞさう思っていれば自然に向うに通じてよ。」(スタ, 6, 41)

(命令形)

- 「やい, いくぢなし, でっけえつらァすんな, すっこんでる, みみずやらう」(新, 7, 51)

【～てらっしゃる・でらっしゃる】(「てる」の敬体。動詞, 助動詞の「せる」「させる」「れる」「られる」の連用形につく。)

(未然形)

- 「ちょっとここで休んでらっしゃらない?」(資料外)

(連用形)

- 「あなたは始めには賽をピンゾロに揃へてといふやうなことを言ってらっしゃいましたね。」(文, 7 増, 36)
- 「どこへ行ってらっしゃったの?」(資料外)

(終止形)

- 「聞いてらっしゃる?」(資料外)

(連体形)

- 「我慢してらっしゃるのよ。」(婦朝, 6, 26)

○「お父さまが、有吉ちゃんのこと、とても気にして、待ってらっしゃるんだから」(宝, 7, 74)

(仮定形)

○「たいした時間じゃないんだから、見てらっしゃればよいのに。」(資料外)
(命令形)

○「～取りこし苦勞をしないで、まあ待ってらっしゃいよ」(銀, 7, 52)

○「おりてらっしゃいッ」(少女ク, 11, 16)

[見てとる・帰って来る etc.]

○批評精神が実践から逃避し、現実の地盤を遊離して、いたづらに悪循環に墮してゆくことのうちに、ひとびとは個人の誠実の限界を見てとる。(人, 5, 85)

○ところへやってきたのが、催眠術師の弟子です。(野少, 6, 43)

○～、折鶴たちも、我を争ってかえってきて、～(ひま, 6, 54)

*[～って] (形容詞および形容詞型の助動詞につく時、この形をとる事がある。)

○「～とても、もうあの席へは顔を出せませんから……恥しくつて……。」
ロマ, 9, 107)

○「魔法使のおばあさんじゃなくつて、アルプスの仙女なのよ。」(少女ク, 9, 42)

*[～ないで]

○「ぼやぼやしないで君からもおねがいしてみてくださいよ！」(婦生, 12, 123)

○「そんなこと気にしないで下さいよ」(婦画, 9, 86)

○「それを聞くと、腹を立てないてはいられない。」(資料外)

[II] 終助詞(「って」の形をもとる。)

①質問・発問(女性専用。動詞・形容詞の連用形につく。)

○「坊や、聞えて、お母さんの鳴らすガラガラよ。」(宝, 9増, 141)

○「あなたに見えて？」(宝, 9増, 143)

○「西奈さんは東京ことばね、東京にいらしたことあって？」(少女ク, 8, 26)

○「あなた、これが信ずることができて！」(宝, 9増, 143)

○「すてきでしょう？ 胸がどきどきしなくつて？」(少女ク, 12, 66)

○「茅野さんが見えていなくつて？」(婦朝, 6, 28)

②自己の立場・意見の主張。〔てよ〕の形。(女性専用。連用形につく。)

○「さう、二月ごろまではたっぷりかかってよ。……」(人, 10, 104)

○「あなたは大学の研究室にいらしたほうが似合つてよ」(宝, 9増, 143)

○「お聞きになったら、なるほどこれが詩人といふ者かとお思ひになってよ、

きっと。」(宝, 7増, 14)

- 「私, おねがいあってよ。それは、『ふたば日記』の風子ちゃんと光子ちゃんをそろって幸福にしてくださいませ。」(少女ク, 12, 124)
- 「妙子さん, きっとあたしがすみれの花をしのぶ草とよんでいることにさんせいしてくれてよ。」(少女ク, 6, 49)
- 「大野さん, 自分では詩人だと仰言ってみてよ。」(宝, 7増, 14)
- 「通やくにでもなって, ちょうほうがられていてよ, きっと。」(銀, 8, 38)
- 「あの丘のうえに行くともっとすばらしくつてよ。」(ひま, 7, 66)
- ③依頼。(「てね(よ)」の形をとることもある。「ないで」ともなる。)
 - 「先生, こんどおまゝごとのおもちゃ買ってきて！」(婦生, 2, 54)
 - 「水をくんで——。」と, みやこ姫は命令した。(少女ク, 3, 128)
 - 「あんなところにいる ちょっとまってえ！」(少女ク, 3, 76)
 - 「だ, だれだ！」と, 低音の二部合唱がさけば「助けてえ！」と, ちらはかれんなソプラノの二部合唱。(少女ク, 3, 62)
 - 「ね, じゃ, ほんとうにいらしてね。」(少女ク, 3, 54)
 - 「そっちの大根一把, 玉ねぎが三箇, タマゴを二箇, これつけといてね」(婦生, 2, 80)
 - 「ついでにガス台のおねだんみてきてね。」(少女ク, 3, 63)
 - 「ね, ガスコンロかってきてよ。」(少女ク, 3, 63)
 - 「ゆうべのことは腹を立てないでね。」(新, 6, 119)

33. て (格助詞)

①動作・作用の行われる空間的な場所・舞台。

- 一九四七年九月にアメリカで封切以来, 興業成績のベスト・テンに入った喜劇である。(映, 6, 12)
- ～これは関東地方で春のはじめによく起るものであるが～(科, 5, 36)
- ～ベルリン封鎖および逆封鎖はいよいよ来る十二日をもって解除され, 四国外相会議は二十三日バリで開かれる。(朝, 5.7, I)
- 馬券は買ひよい新宿で！(東, 5.29, III)
- 空電源Dから出る電波をABCの3点で同時に測定すれば～(科, 5, 36)
- ある日のこと, 彼女は, ナイト・クラブで起った喧嘩の事件を扱った。(映, 6, 12)
- 三疊一間のじぶんの借間で, 二人でかきこむ食事ほど, 美味しいものではありませんでした。(ひま, 6, 52)

- 広川民自党幹事長は十九日朝大阪から岡山に着いたが、車中で参議員選挙法の改正、明春の参議院選挙対策および警察制度改正問題などについて次のように語った(朝、6.20、I)
- 廿七日午後十一時十分ごろ大田区大森三ノ七三久秋初子(二二)さんは大森二ノ七先路上で不良風の男に短刀で腹部を刺され、～(東、5.29、III)
- 二十メートルもあろうかと思われる高い天幕のてっぺんではハシゴ乗りの曲芸が始まっている。(キン、7、32)
- 揚幕の前の木さくの中では、四頭の馬の上にキャルマタ姿の少年少女が客寄せの愛嬌を振りまいている。(キン、7、32)
- ウエストでダーツと同じ意味にギャザーをとる場合は、脇線から約四センチ入りに、その分量によって四五センチの間に寄せてとります。(婦友、6、73)

②動作・作用の行われる抽象的な場所・場面・事態。

- 統一ドイツの問題その他について四国外相会議でソ連がどんな態度を示すか、前途は容易でない。(東、5.7、I)
- これとともに新制大学の審査で不合格となった高等専門学校を救済するために、学校教育法を改正して二年または三年の短期大学を設置することになった。(朝、5.6、I)
- 従ってわれわれは、実際社会生活では、何でも好きなことを言ったり、したりすることは出来ない。(世、4、22)
- ～空電とは大気中の放電現象によって発生する電波であり 無線工学では“雑音”としていやがられている。(科、5、36)
- もちろん博士は「～」と序文でことわってはいるが、～(世、5、39)
- また下痢の中でも離乳期のは特に重くなりやすいのです。(婦友、6、86)
- プロレタリア独裁の下では、存在しうる政党はたゞ一つ、共産党あるのみである。(東、5.6、I)
- さらに一部ではその意図は西ドイツを欧州復興の支柱として再建しようとする手段とさえ見られていた。(朝、5.7、I)
- ～、治安の確保が肝要になった現在、さらにいろいろの点で改正を要する点が出て来た(朝、6.20、I)
- 即ち農林1号では、普通肥料区でも少肥区でも正方形植の方がよい結果を示し、～、北陸11号では全くこれと反対の結果が見られる。(農、6、25)
- 温度について見ると低温ではC量が低下すると言われる。(農、6、6)
- その晩女判事のマーガレットが、彼女の女を愛している地方検事のトミイ・チェンバレンと遊びに出かけた後で、スーザンはディックのアパートを訪

ねた。(映, 6, 12)

〔こゝで・そこで〕(副詞・接続詞的用法)

○ぼくはこゝで、時間と空間との相対性を、さらに相対的にひっくりかえしてみよう。(人, 5, 84)

○～一大反省を求めるものでなくてはならぬ。こゝでわれわれはかつて天野一高校長が二年制の前期大学案を提唱して敗れたことを思い起す。(朝, 5.6, I)

○スーザンがまるっきりデイックに夢中なのを知った～のビーミッシュ博士は、デイックに刑を宣告すれば、スーザンの心の傷手は生涯癒らないから、スーザンが彼に飽きるのを待つ方が得策だと云った。そこでマーガレットは、デイックに対してスーザンと交際すべし、と云う命令を下した。(映, 6, 13)

③動作を行う主体としての組織・団体。

○気象台では東京(大和田)福岡札幌に設置の予定で工事を急いでいる。(科, 5, 37)

○第1図は、福井県農事試験場で調査した長方形植と正方形植の稲の1株莖数に就いての生育相の相違を示したものである。(農, 6, 25)

○陸海軍では航空作戦の資料を得るため空電測定の研究を続けていたが実効の上らぬうちに敗戦となった事実は一般に知られていない。(科, 5, 36)

○大森署で調査中であるが同女は銀座の喫茶店につとめ帰宅の途中襲われたもので同署では痴漢の犯行と見ている(東, 5.29, III)

○～警視庁保安課では近く管下各署に通達、極秘裏に内ていしこの種不徳業者の一せい摘発を行うことになった(東, 5.29, III)

○参議院議員選挙法の改正については、衆議院の選挙法改正委員会および民自党内の選挙法改正委員会の両方で研究を進めている(朝, 6.20, I)

○閻錫山の行政院長指名について当地消息筋では、政府陣営に人物が払底したことを示すものだとみている(東, 6.6, I)

○またアメリカではこの方法を引きつぎレーダーをも加えてハリケーン(台風)の進路を測ったがそれが測候所の記録と殆ど一致しているという報告さえある。(科, 5, 36)

④動作の行われる時期。(「現在では」「今日では」のような限られた語)

○この研究は1936年頃イギリスのW・ワットらによってはじめられ、現在ではヨーロッパ西部や北大西洋の不連続線や低気圧と空電の関係がかなり詳しく調べられており～(科, 5, 36)

○人間が鳥のように空を飛ぶということは、今日では別段誰も不思議に思わ

ないけれども、数十年前までは、科学者の夢だったのだ。(資料外)

⑤期限・限度・基準。

- 他の季節には離乳経過の一日で進むところでも、夏は二三日かけるくらいにしましょう。(婦友、6、86)
- 半熟玉子や卵黄だけの茶碗蒸などにして、 $\frac{1}{4}$ くらいずつ増してゆき、約十日で全卵一箇が食べられるようにします。(婦友、6、86)
- 十万円で売る。(資料外)

⑥動作・作用の行われる際の状態・態度・立場。

- 雨は、きりのようなこまかさに降りこめています。(ひま、6、52)
- 例によって沢枝君はリスのような素早さで、車をとびおりと、木戸番に話をつけて天幕をくぐり抜けて行った。(キン、7、32)
- ～これを一定速度で回転させるもので～(科、5、37)
- ～この状態で結束してゆけば野党勢力の建直しが可能であると観測している(東、6.6、I)
- そうしたまゝで、時間が経ってゆきました。(ひま、6、54)
- 喫茶店の菓子やスシなどが問題になるので、近く新しい規則を出し、ヤミ主食をつかった一切の加工品の製造、販売を厳禁する建前で運営をさせる(朝、5.19、II)
- ～結局これら苦惱や危険の多い途を避けて、不安定ながらも連携妥協による形式で与党戦線の強化を図るほかはないだろう(東、6.6、I)
- ～予算面には、この補給金の形でのみ出していた。(エコ、5.11、10)
- ～、何となく二人だけで話したくなったので～(映、6、13)
- 当時彼らが、適当な金融機関に不自由しているのに気がつくと、三十四歳の若さで、サンフランシスコにイタリー銀行という名前の、小銀行を創立した。(キン、11、123)
- われわれは平等の立場で相互利益、相互尊重の外交関係をたて、全世界の各国人民と友好合作を行い、国際間の通商事業を回復し発展させて、生産の発展と経済の繁栄を達成しなければならない(朝、6.20、I)
- 何となく晴ればれとした気持ちで、僕は沢枝君と顔を見合せてうなづき合った。(キン、7、32)
- ～、デイクは彼をからかう積りで「僕はスーザンを愛してるんだ」と宣言した。(映、6、12)

⑦手段・方法・道具・材料。

- 翌日ビーミッシュ博士はデイクを訪れ、彼が昨夜の事件で気を悩まし、飛行機で旅に出る事を知った。(映、6、13)

- 大阪堺筋で去る十四日正午ごろ女事務員二人を自動車で襲い、銀行から引出したばかりの現金約六万円を強奪したギャング団事件があり、～(朝, 5, 19, II)
 - 心当りへ電話で訊いたが行方が判らない。(映, 6, 12)
 - この輝線を特殊のカメラで撮影しこのフィルムを使って電送写真などを応用すれば～(科, 5, 37)
 - 彼女はヴェイルで顔を隠し、ディックの母親だと偽って彼に面会に来たのだが見破られてしまったのだ。(映, 6, 13)
 - しかし、すっかり馬のつもりになっている催眠術師は、馬のくせまであらわして、あと足でボカリッ!(野少, 6, 43)
 - さて、由比は、～、鯉子に、遠まはしの言葉で、赤ちゃんは、男か、女かと聞くと、～(文, 7, 80)
 - もう一度、前よりは大きな声で呼びますと、「はい。」と、低い、しぼりだすような声で、返事がきこえてきました。(ひま, 6, 54)
 - 南洋在留中国人の大立物陣嘉庚氏以下南洋中国人代表一行は香港から海路天津經由四日北平に到着した(東, 6.6, I)
 - 最近よく見かける切替のところにピンタックをあしらったものは、ちょっとの扱い方で手際よくゆきます。(婦友, 6, 73)
 - 主食は、白米を十倍の水で軟かく煮て裏漉にした濃厚重湯から始めます。(婦友, 6, 86)
 - 非常に栄養が悪ければ、牛乳や造血劑などで栄養をよくしてから始めなければなりません。(婦友, 6, 86)
 - ～、数絵をみている暇が、涙てうるんでもいようなのです。(ひま, 6, 52)
 - 小屋の中は見物人で満員だったが、～(キング, 7, 32)
 - こいつのおかげで、犬のまねをしたのかと思うと、二人とも、くやしさていっぱいです。(野少, 6, 43)
 - 学制上の形式を整えただけで教育の内容もこれにともなう向上すると考えることは大いなるあやまりである。(朝, 5.6, I)
- ⑧理由・根拠・原因・動機。
- 中野税務署の汚職事件を究明中の衆院考査特別委員会～などについてそれぞれ証言を求めた、これで浦和、中野両汚職事件の全容がわかったので～(東, 5.23, III)
 - 子供たちを散々喰い物にしておいて、「勞基法」で子供が使えなくなると邪魔もの扱いにしてボンと捨ててしまう。(キン, 7, 32)

- こいつのおかげで、犬のまねをしたのかと思うと、二人とも、くやしさをいっばいです。(野少, 6, 43)
- 代りにソ連としては米英仏が統一ドイツの処理でドイツ人の不満を買うようになる方が利益と考えたのであろう。(東, 5.7, I)
- 半日の訪問で、ほのぼのと温められた私の心は、こうした熱い祈りの心でいっばいなのであった——(婦友, 6, 27)
- ～シドニイ・シュルドンは、～を書いていた人であるが、この一作で四七年度の書下し脚本に対するアカデミイ賞を獲得して注目を浴びた。(映, 6, 12)
- 翌日ビーミッシュ博士はディックを訪れ、彼が昨夜の事件で気を悶らし、飛行機で旅に出る事を知った。(映, 6, 13)

〔それで・ところで〕(接続詞の用法)

- お嬢さまの寢床は、と振返ってみました。もとより夢のことで、そんなものがある筈がありません。天井や床の間の折鶴も、一羽もみあたりません。それで夢だと自分に言いきかせても、数絵は、夢にしては、あまりになまなましすぎる感情のもってゆき場所がないので困りました。(ひま, 6, 54)
- いひぬけのたくみな批評家にとって、いったい個人の誠実といふものはどこに賭けられてゐるのであろうか。ところで、ぼくがこれまで語ってきたことは、たんなる《批評家の精神》にすぎぬものであったのか。(人, 5, 84)

〔て〕(接続詞としての用法)

- 「て、父は、どこにゐるんですか？」(世, 12, 72)
- 「ところがあれは、はじめおこられた。て、『科学と自由に対する一考察』とつけたした。」(婦画, 9, 86)

〔ては・でも〕(接続詞としての用法)

- 「人口問題の解決法としての避妊も大切であります。これはちょっと微妙で複雑な問題ですから、今日は主として幸福な家庭の設計という面から避妊のお話を願いたいと思います。では避妊薬公認につきまして厚生省の一丁田課長から始めて頂きましょう。」(婦画, 7, 46)
- 「おやぶくめんがとおる ても白ぶくめんだからちがうね」(少年ク, 11, 14)
- 「私達、ても淑やかな女性なんですのよ、普段は、……」(スタ, 8, 16)

34. てば(ってば)

〔I〕 係助詞

○話題として人を提示し、非難・難詰の対象とする。（「たら」に同じ。）

○「父さんてば、赤ん坊に言ひみたいなこと、おっしやるんだもの。」（資料外。）

〔II〕 終助詞

○注意を促がし、じれったい気持ちで呼びかける。（「たら」に同じ。）

○「これを塗っときゃ血が止るんだから、お待ちってば……」（スタ、7、71）

○「ねえってばあ……。」（少女ク、10、32）

35. ても(でも)(接続助詞)(連用形につく。形容動詞にはつかない。))

①未成立の事がらを成立と仮定して条件とし、内容上衝突する後件に結びつける。（仮定の逆説条件。）

○いまや国民党軍は正規、非正規軍のすべてを合せても五十万人前後しか残っていない（朝、6.20、I）

○～参議院で否決されても衆議院で三分の二の再可決で押切る覚悟でやらねばならない（朝、6.20、I）

○いやそれ以上に驚くべきことに、たとへそれが存在しても、その言説はひとりの実際政治をも左右しえないではないか。（人、5、85）

○私が何百何千の言葉をつらねて文章を書いても、こゝに掲げた多美子さんの綴り方ほど「母」なるひとの姿を、無限の慈愛を表現することはできないのだ。（キン、11、103）

○難解な言葉や句を一々字引きでせんさくしないで、飛ばして読んでいっても全体の意味はよくわかる。（キン、11、92）

○この春にも、先頃辞職した大統領直屬経済諮問委員会委員長エドウィン・ノース博士が、七％までの失業率は「正常」だと言明したことがある。六千二百万の労働人口からいえば、四百三十四万人まで失業が出て「正常」だということになる。（朝評、12、21）

○科学、殊に社会科学の著書には、今日不幸にして低級な党派性が余りにもはなはだしくあらわれている。例えば、各方面の有識者の意見を求めた上で、さらに審査するという方法をとっても、極めてすぐれた本がはげれる

恐れなしとしない。(朝評, 12, 44)

- 今日のイギリスやアメリカやインドに中共に対する透徹せる認識を求めても無駄であろう。(朝評, 12, 35)
- 革命情勢とは、敵の抵抗や裏切分子の妨害があっても、それを十分無力化しうるような情勢を言うのだ。(朝評, 12, 60)
- 体重が少くても肥っている小柄な赤ちゃんならよいのですが、～(婦友, 6, 86)
- ～無理をして四年制の学芸大学にしなくても、この二年制の短期大学で十分こなされていたのではなからうか。(朝, 5, 6, I)
- だが、彼の性格には一面戦闘的などころも大にある。仏さまどころか、阿修羅——とまでいかなくても不動明王然たるところがある。(キン, 11, 89)
- しかし、風琴と、小さな中国の田舎街で、小学校の先生をやれるのかと思うと、二三年日本に帰れなくてもいいとさえ思われた。(キン, 11, 83)

〔～としても〕

- 口から外へ声になって出たか、出なかったのかわからないほど、出たとしてもそれは、低い声だったので。(ひま, 6, 52)
- たとえば腸チフスに一度かかれば二度かからないとか麻疹(ハシカ)もたいていの人が子供の時に済ましてしまって二度罹る例は稀であり たとえ二度罹ったとしてもその時は初めとは比較にならないくらい軽く経過することも皆よく知っている。(科, 11, 35)
- これも労働党内閣として到底とり得ない方策だし、またとり得たとしても、労働組合の強い反撃を受けることは必至であろう。(キン, 11, 146)
- 裁判で無罪ときまったとしても、それまで、残された家族などは、ひどくみじめな思いをしなければならぬ。(朝評, 12, 43)
- 新聞は、たとえ事実を歪曲して報道することはないとしても、報道の仕方は様々であり、これを受けとる人々はこれによって影響を受け易いというのが、この人の主張だった。(朝評, 12, 43)

〔～にしても〕

- ～、これであわよくば西欧勢力をベルリンから締め出し、たとえそれが出来なにしてもこれを種に西欧側に再び四国会議を開かせて対独処置をボツダム協定の線にもどさんとするものであったろう。(朝, 5, 7, I)
- バスでは同様のことはいえないにしても、少くとも大型ボディでは従来の構造様式では剛性不足で、例えば天井がおおられたり、側板が横振れするなどの欠点が最近時々起ってきている。(科, 11, 20)
- ちょうど試験を受けるといえば、たとえ自信があるにしてもやはり気持の

よくないのと同じである。(科, 11, 36)

○しかし台風眼の写真の説明にしても わかったようなわからぬような諒解のしかたになる そんな解説が多かった。(科, 11, 58)

○こんどの縁談にしても決して強いるのではないとくどいほど云われている。(キン, 11, 125)

〔どう(なんと)しても〕

○～,これがはっきりしないのに勝手な方法でやると,どうしても失敗しやすいのです。(婦友, 6, 86)

○そのまま,夕暮が近づいた。今日はどうしても,夕飯を食べていってくれというので,もとより私はこぼまなかった。(キン, 11, 80)

○みんなから日本の唄を,と所望された。けれどももともと歌謡の類に縁の薄かった私は,どうしても適当な唄を思い出せなかった。(キン, 11, 81)

○戦後から最近まで,共産党系の労働組合運動(～)の優勢は,なんとしても争われない事実であった。しかるに今や情勢は一変し,また一変しつつあると云ってよい。(朝評, 12, 58)

〔なんと言っても〕

○六三義務教育は何といっても動かすべからざる国民教育の基底である。(朝, 5, 6, I)

○今次大激中に発達した最もすばらしい気象器械の一つは 何といっても暴風の発見と その進路の決定にレーダー(～)を利用することだろう。(科, 11, 3)

○南阿連邦の真の独立はなんといっても工業化の完成以外にはない。(朝評, 12, 24)

○日米間の全区間は他に比を見ない長距離渡洋飛行である。何といっても大西洋に比べると歴史も浅く 天候その他のデータを得る便も少く困難は大きいが これを克服してかくも安全快適な空路を開拓したのは科学の力が最高度に駆使されているのを見るのである。(朝評, 12, 72)

②既定の事がらを条件とし,内容上衝突する後件に結びつける。(既定の逆説条件。)

○(あたしは那珂の家へ行こうとしている……) そう気づいても,もうゆりは躊躇しなかった。(キン, 11, 138)

○それで夢だと自分に言いきかせても,数絵は,夢にしては,あまりになまなましすぎる感情のもってゆき場所がないので困りました。(ひま, 6, 54)

○～,引きとられてきたのですが,どう考えても,夢のようなのです。(ひ

ま, 6, 52)

- サイパンが陥落しても、硫黄島が占領されても、なお「勝利我にあり」と確信して、現実を目をおおっていた結果は吾人の記憶こそお新たなことではないか。(朝評, 12, 42)
- ゆりは眼を閉じても頭は研えるばかりであった。(キン, 11, 130)
- 正力社長を戦犯者にでっちあげる意図で、正力の中傷記事が連日掲載された。それに対して、正力は社長室にいても一言半句の弁駁文すら自分の新聞に書けなかった。(キン, 11, 95)
- 「そいつは師匠にまかせて置くが、あんまりうるさく手を入れねえ方が却って面白くなりそうだな」そう云っても、五瓶はまだ不服そうに、矢立の筆を抜き取って、二つ折の懐紙へ何やらさらさらと書き出した。(キン, 11, 22)
- 樟脳白油からボルネオールを作ろうとする研究も一応は研究室的に進んでいたが、ワニリンの工業実験に全力を尽しかえりみる暇がなかった上に業界の様子をみても、いまとくに急がねばならぬ必要もありそうではなかった。(科, 11, 47)
- 元来バスは真の意味の多量生産が難しいものであるがその特殊性から見ても、この型式は今後のバスの一分野を占めるのではなからうか。(科, 11, 21)
- 良平は会社へいっても仕事が手につかない。(キン, 11, 110)
- 靴は必ず二足を交互に穿く、買う時苦しくても、結局一足ずつ穿き切るよりずっと保ちが良い。(キン, 11, 121)
- 初夏の頃の花壇には、これから盛りにむかう花々の、溢れるような華やかさ新鮮さがただよっていたが、秋はやっぱり、花は美しくても、身をひきしめるさびしさである。(キン, 11, 151)

〔～と言っても〕

- 六三制といっても、その六三制を一応原則的な建前として受取っても、現実の社会の要求の前には段階的な歩みをとらねばならない。(朝, 5.6, I)
- 僕が暮したのは、十一、十二、一月と冬の三ヶ月だったが、冬といっても湖南省の寒さは大したことはない。(キン, 11, 74)
- C I Oの顧問経済学者ロバート・ネーザンは「不況の経済学」——といっても、不況を招来する経済学ではなく、不況を切り抜け、完全雇用をもたらすための経済学という意味だが——として知られた「ケインズ学説」を基礎として、現段階における賃上げ要求の妥当性を証明する報告書を公表した。(朝評, 12, 19)

○民間と言つても、左から右まであり、また、大衆と幹部は同質でなく簡単ではない。(朝評、12, 61)

○成層圏と言つても一万フィートを境としてそれ以上ははっきり恒常風になるわけではない。(朝評、12, 71)

〔それにしても〕(接続詞的用法)

○また、カトリックの坊さんと呼ぼうと叫びだした村人たちも、彼等のうちのある者がもらしたように、その動機は利己的なものであったかも知れない。それにしても、私は興味を持ち、希望を感じた。というのは、この村人たちが少くとも孤立した農村社会の殻を破って、その伝統的な文化を改革する積極的な第一歩を踏みだしたからだ。(朝評、12, 57)

○いや、それだけではない。ついこの間、山際家の祖母の希望で写して送った写真まで、凡そ、ゆりが一人で撮った写真という写真は殆んど全部こゝにあるではないか。それにしても、この写真をいったいどうして友子は手に入れたのであろう？ (キン、11, 139)

○中共の回教地域処理の基本方針が、内蒙古にたいする場合と同様に、少数民族の“自治”を許す線にそうものであることは、いうまでもなからうが、それにしても西北の種族分布は、あまりにも多岐にわたり、ソ連との経済的、政治的因縁は、あまりにも深い。(朝評、12, 14)

③ある条件に対して、いつでもその条件と内容上衝突するような結果が生ずる、という事態における条件を示す。

○外の家人が近づいても私が寄っても、驚いて逃げてゆく鶴が、ふしぎ、多美子さんが手をさしのべると嬉々として向うから寄ってくる、そしてその手にピョンと飛び乗るのである。(キン、11, 103)

○第三は、文字どおりの堅苦卓絶さをもって居ることである。如何なる困難に遭遇しても悲観したり消極的になったりすることはなく、如何なる順境に遡入っても怠惰に流れない良い習慣と、つねに進んで往く意志の強靱さを持っている。(朝評、12, 37)

○機体内の圧力は一万五千フィートの高度でも海面と同じに保たれる。二万五千フィートに上っても、なおかつ海拔三千フィートの程度に保たれる。(朝評、12, 68)

○マーシャル・プランはその特質の一つとして外国為替制度の一時的訂正という効果を持っており、調達は外国通貨で行われても、支払いはすべてドルで為される。(エコ、11.1, 29)

○このほか測風レーダーがあるが これは雲や霧があっても上空の風向風速が測定できるもので これら電波測器の出現は気象学に一新紀元を画そう

としている。(科, 11, 26)

○誰でも自分がいくら負けても、自分達の結婚の成功を計らなければならぬと決心したら、必ず失敗に終ることはない。(ケン, 11, 33)

○それで軽合金を使って極力車体を軽く作るとは入手価格は高くても十分償うことが考えられるのである。(科, 11, 21)

*〔一つでも〕(形容詞および形容詞型の助動詞に接する場合、この形をとる事がある。)

○「いや、読まなくてもいい。」(新, 10, 16)

○「食べて行けても行けなくつても、あの人からお金を借りるの厭なの私——」(婦友, 6, 58)

*〔一でも〕(「見なくてもよい」のように「ない」につく使い方)

36. ても(係助詞)

①はなはだしい場合を擧げて、他の場合を言外に類推させる形での提題。(「でさえ」の意。)

○鯉子は、いはゆる『美人』ではなく、～髪の毛は、すこし『くせ』があるので、ゆひたての時でも、鳥田の『まげ』が、ころもち、投げやったやうに見える。(文, 7, 80)

○政府軍全兵力は現在でも百二十五万ないし百五十万に上り、～(東, 6.6, I)

○そしてそれからでも既に 40 年を闊してゐる。(濃, 6, 25)

②他の一般の場合と違ふようではあるが、結果は例外たりえない、というような事物を提示する場合。(「たとい～であっても」の意。)

○生後七八カ月以後になると母乳の分泌の減ることが多いのですが、このときは夏の間だけは牛乳、山羊乳などで輔い、秋から離乳を始めた方がよいのです。しかし牛乳や山羊乳が手に入らなければ、夏からでも離乳にかゝらねばなりません。(婦友, 6, 86)

○他の季節には離乳経過の一日で進むところでも、夏は二三日かけましょう。(婦友, 6, 86)

○～そのような圧制でも、多くの人々にとっては、たがいに闘争しているよりも、むしろ助けになると考えられるであろう。(世, 4, 22)

○～、司法修習性の修習を終えない者でも、右の標準線と同等又はそれ以上の資格として認むべく、～(法, 5, 51)

〔どんな～でも〕

○千鶴子のいない人生は、どんなたのしいことがあっても心の底から笑えず、どんなおいしいものでも、味わっている気がしないのでした。(ひま, 6,

- ③不定稱の指示語について、全面肯定を表わす。「何でも」「どれでも」「だれでも」「なんでもかんでも」など。
- ～、われわれが見たような、何でも言い、何でもすることが出来るというかたちでは、～(世, 4, 22)
- われわれは、実際の社会生活では、何でも好きなことを言ったり、したりすることは出来ない。(世, 4, 22)
- ④他に、より適当なものがあるかも知れぬが、という気持を言外に含めて、ある事物を例示的に提出する。幾分、投げやりなニュアンスをもつことがある。
- ところで花山博士は、B C 戦犯に対しては、その氏名と刑の執行日時その他に、全く不必要と思われる犯人の出身地と遺族の住所氏名年齢までくわしくしるし(慰問文でも出せという意図だろうか)またA級については～(世, 5, 39)
- ～、まるで光琳の翠華けんらんな金屏風でもめぐらしたような、百花の咲きにおうそのお庭のうつくしさを、～(ひま, 6, 52)
- 持続時間は $1/100$ 秒程度であるからオシログラフでも使わなければ波型の観測は難しい。(科, 5, 37)

37. と

〔I〕 格助詞

①相手・共同者。

(イ)本来、相手・共同者を必要とする動作・作用・状態の相手・共同者。(敵手・置き換えの対象などを含む。)

- 彼女はそこで、ディックと会い。(映, 6, 13)
- そこでマーガレットは、ディックに対してスーザンと交際すべし、と云う命令を下した。(映, 6, 13)
- ～、おくゆかしい薫りが、甘い体臭ととけあって、～(ひま, 6, 54)
- 僕は沢枝君と顔を見合せてうなずき合った。(キン, 7, 32)
- ～、犬養氏と行動を共にするものは十名ぐらいしかないと思う(朝, 6, 20, I)
- ～、同党は民自党とは絶対合同はしないと声明している反面、閣外協力の態度を依然崩してはおらず、～(東, 6, 6, I)
- いわゆるプロレタリアの独裁と結びついたところの共産主義は～(東,

5.6, I)

- サーカス団のゴロツキ共と争っても、斷乎、この非道を暴かなくてはならない。(キン, 7, 32)
- 新内閣は「戦争内閣」であって中共とは徹底的に戦う決意である(東, 6.6, I)
- ～現在ではヨーロッパ西部や北大西洋の不連続線や低気圧と空電の関係がかなり詳しく調べられており従来の気象観測の結果と対照して将来性のあることが実証されている。(科, 5, 36)
- しかし実質は、他の条件をそのままにしての繰入金停止は、特別会計にそれだけの負担を加重することであり、建設公債の発行制限と相俟って、特別会計は成り立たなくなる。(エコ, 5.11, 10)
- 思想はもともと行動と相互連関をなすものであって、～(世, 5, 39)
- 「米と交換で随分な衣料が農家には流れこみましたからね…」(ロマ, 7, 60)
- ～, 特別会計も独立採算制をとらせて、中央財政と形式的に絶縁し、～(エコ, 5.11, 10)
- そして以上の事柄は同化作用即ち光合成とつながりがあるとされている。(農, 6, 6)
- 桿型空中線は桿と平行な到来電波があれば感度最大で～(科, 5, 37)
- 数絵は、千鶴子と一緒に起伏していたあの借間に～(ひま, 6, 54)

【～との～】

- 遺伝子との関係(農, 6, 6)
- 共産党との提携には、難色を示しているが、～(東, 6.6, I)
- その夜マーガレットは、ディックをスーザンとの交際から解放させ様と思ったし、～(映, 6, 13)
- ～ジョージ・キリオン氏は三日夜東京から帰着したが、中共とのこんごの貿易は非常に楽観できると次のように述べた(東, 6.6, I)
- この危険感から、ソ連はベルリンの封鎖を解除し、西欧側との国交調整を希望するに至ったとも見られるのであって、～(朝, 5.7, I)

【～と共に】

- そのとたんに割れる様なノックと共にチェンバレンとマーガレットが飛び込んで来た。(映, 6, 13)
- ～従来取締当局から余り重視されていなかった旅館業者が監視のスキに乗じて再開の声と共に料理屋、待合等並飲食店と同様享楽面の域に進出、～(東, 5.29, III)
- 夏の下痢は、冬の肺炎と共に赤ちゃんの二大強敵といわれます。(婦友,

6, 86)

○～四国外相会議によってソ連は平和的態度を世界に示すとともに、北大西洋条約に伴う米国の対欧武器援助熱の冷却を希望しているであろう。(朝, 5.7, I)

(ロ)必ずしも他者の共同を必要としない動作・作用の共同者。

○そこで彼女はチェンバレンとディックのアパートへ行った。(映, 6, 12)

○遂にマーガレットは痛箱を起してディックに、「貴方って人は、どこへ行っても騒ぎを起す人のね!」と云ってスーザンと帰る。(映, 6, 13)

○その晩女判事のマーガレットが、彼女を愛している地方検事のトミイ・チェンバレンと遊びに出かけた後で、～(映, 6, 12)

②比較の基準としての対象。

○いわゆるプロレタリアの独裁と結びついたところの共産主義は～民主主義とは非常に違った性格を持っている。(東, 5.6, I)

○「私の修学時代と申しますと、皆様と少々かわっております。」(音, 6, 27)

○従って栽培環境によって、正方形種の方がよい結果をもたらす場合と; それとは反対の場合とが生じる。(農, 6, 25)

○～, ぬい止りは肩ダーツと同じ要領です。(婦友, 6, 73)

○～, 従来取締当局から余り重視されていなかった旅館業者が監視のスキに乗じて刑罰の声と共に料理屋、待合等避飲食店と同様享楽面の域に進出(東, 5.29, III)

○～, 右の標準線と同等又はそれ以上の資格を認めるものについては、～(法, 5, 51)

○現代の批評精神は社会的現実を卸下すると同時に、個人的現実をも卸下しなければならず、～(人, 5, 85)

③転化する帰着点。(なりゆく結果, する目標。)

○雷界とは 不連続面において冷い空気が温い空気の下に押しこんで下から押し上げるので上昇気流を生じて雷雨となったのをいう。(科, 5, 36)

○～, これを、裁判官又は検事官となる資格を有する者に限定し、～(法, 5, 51)

○今はMGMの製作担当者となった才入ドアリイ・シェリイの～(映, 6, 12)

○～陸海軍では航空作戦の資料を得るために空電測定の研究を続けていたが実効の上らぬうちに敗戦となった事実は一般に知られていない。(科, 5, 36)

○～資格審査で不合格となった官公私立専門学校～(朝, 5.6, I)

○～約百九十校が短期大学の対象となり、～(朝, 5.6, I)

○～, 無所感選談会とは今後とも一体となり～(東, 6.6, I)

- ～、従って料理を提供する店としてこの法律の適用を受けるのは旅館、外食券食堂、メン類外食券食堂、軽飲食店（大部分の料理飲食店）喫茶店のみとなる（朝、5.19, II）
- 明春の参議院選挙には、民自党としては八十名くらいの当選者を目標とし、残る二十数名の六年議員と合計して百名の参議院内勢力としたい（朝、6.20, I）
- 一連のまとまった食事（洋食なら前菜からデザートコースまで）には一人一枚とする（東、5.19, II）
- このソ連の封鎖も、米英側必死のベルリン空輸の成功によって効果は薄らぎまた西欧側の独自の西独工作の推進によって、これを取引の具とすることも困難となりつつあった。（朝、5.7, I）
- 「京都では、鬨白師実というえらい役人に見出され、その家にひきとられて、のちに元服して名前を平正直とあらため、丹後の國をおさめる人になったの。」（少女ク、6, 55）

④動作・作用・状態の内容を示す。

（イ）次に来る動作・作用（観察・思考・意向・決心・命名・言表などの精神作用）の内容を指定する。

（語の場合）

- ～、吉田内閣の反共政策は強権弾圧としかみられない（朝、6.20, I）
- ～、これは米英仏側の西独政府樹立工作をもってポツダム協定違反と見なすソ連の報復であり、～（朝、5.7, I）
- ～、大学教授については、司法修習生の修習を終えたか否かという規準をあてはめること自体が無意味な、その規準以上のものと認めるが故に、～（法、5, 51）
- これから生れる短期大学は、四年制大学に落第した学校の救済策としか受け取れなくて面白くない。（朝、5.6, I）
- ～、はっと気がついてみると、お嬢さまと思っていたのは、宿にのこしてきた千鶴子だったのです。（ひま、6, 54）
- ヨークの切替えなどのギャザーは、装飾的なものではありませんがやはり胸の張りを美しく見せるものと考えてよいのです。（婦友、6, 73）
- 同氏の考え方は当時旧制高校を温存するものと疑われ、～（朝、5.6, I）
- ～この他モグリと称せられる無許可旅館業者は～（東、5.29, III）
- ～、この一線を標準線と定め、～（法、5, 51）
- それは批評家のものでもあり、科学者のものでもあり、小説家のものでもあり、生活者のものでもある——ましてや一文芸批評家のものと限られは

せぬ。(人, 5, 84)

(女の形をとる場合)

- 閩錫山の行政院長指名について当地消息筋では、政府陣営に人物が扠底したことを示すものだとみている(東, 6.6, I)
- 八百長だったと知ったチェンバレンが～(映, 6, 13)
- 三年制の高校、四年制の大学を全国一律に実施せねばならぬと考えると、余りにも形式主義である。(朝, 5.6, I)
- こいつのおかげで、犬のまねをしたのかと思うと、二人とも、くやしさいでいっぱいです。(野少, 6, 43)
- ～、これら改正案は臨時国会に提案したいが、参議院で猛烈な反対があると予想されるので、～(朝, 6.20, I)
- 民衆や社会の現実に対して誠実ではないと診断される。(人, 5, 85)
- 在野法曹の一員なるが故に今日甲説を主張する諸家は、明日在野の法曹の間に身をおけば、また乙論を支持するものにあらざと何人が保障し得ようか?(法, 5, 51)
- これに対し野党派の社会党は元農相波多野鼎会長の下に部内の左右対立もこのところ緩和状態を示し会期末の国会闘争は全官公、国鉄、農林職組、全信等の支持を受け、組織労働階級の満足を得たと確信しているので、～(東, 6.6, I)
- 既往の実情が然りしが故にかく規定すべしとのみ論ずる者は、～(法, 5, 51)
- われわれが本予算案をもって、インフレを克服するものではなく、それを悪質のものに内証せしめるに過ぎないと断じたのはこのことである。(エ, 5.11, 10)
- 論者が、ことさらに理想論を今直ちに実現すべしと強調したり、～(法, 5, 51)
- それは自由の古典的な概念であると言ってもよいかもしれない。(世, 4, 22)
- ～われわれは、殺人や放火が許されないことをもって、これを自由の制限であり、束縛であると呼ばなければならないであろうか。(世, 4, 22)
- 千鶴子ちゃん、と声を掛けるのが怖ろしくて、～(ひま, 6, 54)
- 当地の文滙報、工商日報、華僑日報の三紙は中国財界の大立物杜月笙氏が陳毅上海軍事管制委員長の要請により近く上海に帰ると報道している(東, 6.6, I)
- 彼女はヴェイルで顔を隠し、ディックの母親だと偽って彼に面会に来たのだが～(映, 6, 13)

〔～う（よう・ん）とする〕

- ～庭下駄に、片足をおろそうとしました。（ひま、6、54）
- ～、客観的効果においては彼等の足跡を残そうとしたことになっている。（世、5、39）
- ～たん庭へ下りようとしたお嬢さまが～（ひま、6、54）
- さらに一部では、その意図は西ドイツを欧州復興の支柱として再建しようとするマーシャル案に対抗する手段とさえ見られていた。（朝、5.7、I）
- 民主主義を破壊せんとする敵を発見することなしに民主主義の建設はない。（東、5.6、I）
- ～、銀行資本を救済せんとする独占資本の階級的収奪政策であった。（エ、5.11、10）

〔～を～とする（として）〕（資格の認定、取扱いの名目。）

- 酵素を主体とする生化学的連鎖反応であるとする、～（農、6、6）
- ～二年制を主とする短期大学を認めねばならなくなったことは～（朝、5.6、I）
- やはり封鎖解除を前提とした四国外相会議再開によって対独処理をボツダム協定の線に引きもどし、～（朝、5.7、I）
- ソ連のベルリン封鎖は西欧側の西独通貨改革を動機として行われたが、～（朝、5.7、I）
- ～、さらにこれを機として世界二分割がますます深まることになるか、～（東、5.7、I）

〔～として〕（立場・資格・名目などの指定。）

- われわれとして最も注目せねばならぬのは～（東、5.7、I）
- 中共としては自国船舶の不足にかんがみ現在よりも多くの外国船が中国に出入することを望んでおり、～（東、6.6、I）
- ～全国各地におこっている税務署員の不正事件の実態について委員会としての結論を出すことになった（東、5.29、Ⅲ）
- 社会的動物としての人類にとっては、～（世、4、22）
- ～、他方内的因子としての遺伝子の問題も～（農、6、6）
- われわれは文部省や著作者の肩を持つつもりはないが、このように見事なものが教科書として発行されたことを喜ぶ。（東、5.6、I）
- ベルリン封鎖解除はかくて西欧ソ連間の国交調整への道を開くものとして世界に一脈の明るさを投じてはいるが、～（朝、5.7、I）
- ～空電とは大気中の放電現象によって発生する電波であり 無線工学では“雑音”としていやがられている。（科、5、36）

○彼女の眼には、スージェントは、無軌道で無作法な男として映った。(映 6, 12)

〔～とすると・としても etc.〕

- 酵素を主体とする生化学的連鎖反応であるとする、当然酵素の生成と色々な形質との相関性とかが考えられ、～(農, 6, 6)
- が、もしさうだとすれば、ひとびとはそこに際限もなく伸びあがる批評精神の循環論法を見いだすにさういない。(人, 5, 84)
- 而して、政策の問題であるとするならば、それは、その目標を、どこに、どう置くかによって決定される問題である。(法, 5, 51)
- 一部の人の利欲追求が、他の人々を不幸にし、その生活を困難にするとしたならば、われわれはその利欲追求を適当に制限したり、また時には禁止しなければならないであろう。(世, 4, 22)
- 教育課程をさらに二年延長せねばならなくなったが、これは特殊な専門的技術教育を要するものとしてやむをえないとしても、一般の大学に四年制のほかに二年制を主とする短期大学を認めねばならなくなったことは、～(朝, 5.6, 1)
- ～、口から外へ声になって出たか出なかったのかわからないほど、出たとしてもそれは低い声だったのです。(ひま, 6, 52)

〔～とあれば〕

○中共としては自国船舶の不足にかんがみ現在よりも多くの外国船が中国に出入することを望んでおり、必要とあれば外国船をチャーターすることも考えている(東, 6.6, 1)

〔～という・と聞く〕(伝聞の意。)

- 衆議院の委員会などでも共産党代議士から質問があったし、日教組は直接高瀬文相に撤回方を申入れたという。(東, 5.6, 1)
- 五月末開かれる日教組全国大会はこの問題を議題の一つにとりあげるだろうという。(東, 5.6, 1)
- すでにスエーデン イタリアなどでは垂直空中線を組合せて一方の輝線を消した単方向性の測定機が完成したと聞く。(科, 5, 37)

〔～という～〕(語または文が、次の語を、同格の、または内容を説明する関係で修飾することを表わす。)

- ラジオ気象学という言葉が散見し出した。(科, 5, 36)
- ～、昨年からイロア(占領地経済復興)資金というファンドも来るようになった。(エコ, 5.11, 10)
- ～、すなわち六一四二円ベースという低賃銀に算定し、～(エコ, 5.11, 10)

- 中心人物はディック・ヌーゼントと云う人気のある画家だ。(映, 6, 12)
- ～ガン吉は、内野ホームランという珍妙なてがらをたて、ホームラン賞にラクダをもらいましたが、～(野, 6, 41)
- ～封鎖という最も危険をはらんだ問題が～(東, 5, 7, I)
- 中間報告を行うという理事会の申合せは～(朝, 5, 19, II)
- ～それが測候所の記録と殆ど一致しているという報告さえある。(科, 5, 36)
- そこでマーガレットは、ディックに対してスーザンと交際すべし、と云う命令を下した。(映, 6, 13)
- われらにかわって裁判されているのだという気持ちだけは～(世, 5, 39)
- ～本書全体の文章は純粋どころではなく、「学究」の文体よりもジャーナリストの文体に近い俗臭のあるものだという事は、「楽鴨の門」(～)とか「楽鴨生活みたまま」といつた低俗な標題のつけ方にも現れており、～(世, 5, 39)

[～との～] (前項の「という」に同じ。)

- 目下問題になっている第一点は全国区の廃止で、全国選挙区は全廃して府県単位一本に改めたいとの意向が強く検討中である(朝, 6, 20, I)
- 簡易裁判所判事及び副検事の兩者については、在野法曹方面において、これを積極的に認むべしとの強い意見があり、～(法, 5, 51)

[～という～] (同じ語をくりかえしてあらゆる何々の意を表わす。)

- お庭の花という花は、こまかい雨にぬれ、しずくをつけて、いっそうあかるい色に映えあっています。(ひま, 6, 52)

[～とは] (「というのは」の意。定義・命題などの主題を示す。)

- 共産主義者のいうプロレタリアの独裁とは実は共産党の独裁である —— (東, 5, 6, I)
- さて 空電とは大気中の放電現象によって発生する電波であり 無線工学では「雑音」としていやがられている。(科, 5, 36)
- 今や、池田大蔵大臣のいうところの「ディスインフレ予算」とは、インフレの階級的収奪政策とデフレの階級的収奪政策とをかねそなえたところの、二重に加重せられた収奪政策にはかならない。(エコ, 5, 11, 10)
- 现阶段において、インフレーションとは、財政を通じて権力的に国民大衆から収奪し、補給金を通じて極めて少数の特定大資本にのみ利潤を保証(赤字を補填)せしめるところの、巨大独占資本の政策にはかならない。(エコ, 5, 11, 10)

- 一体、ディスインフレーションとは何を意味するのか？(エコ, 5.11, 10)
- ～, ぼくたち一般人にとって一個人の誠実とはいったいなにものであらうか。(人, 5, 85)

〔～とは！〕

- 「なに, これは聞き棄てにならん。かしこくも陛下の御ぞんでぼくを不幸呼ばはりするとは！」(世, 7, 78)
- 「めくらにもほどがある。玉帝も玉帝なら, けらいどももけらいども。—あれだけの目を見せても, 未だに目があかんとは！」(世, 7, 80)

〔～といえども(いつでも)〕

- 勤労子弟といえども, 定時制高校を通じてなり, 通信教育を通じてなり, 大学へ進学することは決して不可能ではない。(朝, 5.6, I)
- 六三制といっても, その六三制を一応原則的な建前として受取っても, 現実の社会の要求の前には段階的な歩みをとらねばならない。(朝, 5.6, I)

〔何といっても〕

- 六三義務教育は何といっても, 動かすべからざる国民教育の基底である。(朝, 5.6, I)

〔何となく〕

- 何となく晴れ晴れとした気持で, 僕は沢枝君と顔を見合せてうなずき合った。(キン, 7, 32)
- その夜マーガレットは, ディックをスーザンとの交際から解放させ様と思っただけ, 何となく二人だけで話したくなったのでディックに電話をかけて, あるナイト・クラブで会う事にした。(映, 6, 13)

〔～するともなく〕

- そのころになって, ようやく野球のことをあきらめきったかれは, 毎日なにするともなく, ぼんやりと天井を見つめたきりだった。(野少, 12, 46)
- しかも, だれいともなく, 牛がぬすまれるすこし前には, そのへんにせむしの老人があらわれる, というようになった。(野少, 12, 88)

〔～なしとししない〕

- これくらいの誤差を生ずるおそれなしとししない。(科, 5, 37)

〔～というのは・とすれば etc.〕(接続詞的用法)

- 「きょうからあすへ」ということばはなく, 「きょうもあすも」ということばしか存在しない。というのは, およそ進歩とか発展とかいうものは少しもありえぬ現状だからである。(資料外)
- 釘づけにされた不安定は裏がへしにされたにすぎぬ。とすれば, あすの不安定のほうがけふの安定よりも実感をおびて存在するといふのも, けっき

よくは、安定と不安定とのあひだの相互関係における不安定性を感じとることなのである。(人, 5, 84)

〔～と?〕(おうむ返しに反問する。終助詞的用法。)

- 「な、なんだと!」(少年少女, 7, 94)
- 「なに、孫悟空が出奔したと?」(世, 7, 76)
- 「くやしかったら征めて来いと?」(世, 7, 76)

(ロ)引用語句であることを示す。

- 「鳥のまさに死なんとする、その鳴や哀なり、人のまさに死なんとする、その声善し」と『論語』にあるが、～(世, 5, 39)
- もちろん博士は「私は軍国主義に毒された人々の足跡を残そうなどという意思は、もちろん持っていない」と序文でことわってはいるが、～(世, 5, 39)
- これをしも(児童の健康及び福祉に有害でなく且その労働が軽易である——労基法第五十六条——)といえる作業であろうか……(キン, 7, 32)
- ～, 毛沢東中共主席は開会に当り『本予備会議の開会は急速に新政治協商会議を開き民主連合政府を成立させ、全中国を統一させるために必要な一切の準備をすることである』と述べた(朝, 6.20, I)
- 山口県教組のごときは「文部当局を告訴し、黑白のきまるまでは使わせない」と決議したとかさせたとか伝えられている。(東, 5.6, I)
- 「アッ、ジープが通る。省線電車だ、トラックだ……」と録音自動車の助手台につ立ったまま正広君は盛んにはしゃいでいた。(キン, 7, 32)
- ～, ディックは彼をからかう積りで「僕はスーザンを愛してるんだ」と宣言した。(映, 6, 13)

(ハ)次の動作・作用をおこす心理的前提・動機。(「～と違って」etc.の略形。)

- 然らば何が「反共的」で「一方的」であるかとして捜し求めるならば、～(東, 5.6, I)
- これはしめたと、まよいこんできたラクダを、かくしたのです。(野少, 6, 41)
- そしてスーザンに愛想をつかされる様にと、年甲斐もなく馬鹿な学生みたいな恰好をしたり、態度をしてみせるが、～(映, 6, 13)
- 数絵もあとについて庭に出ようと腰をあげようとしていますと、～(ひま, 6, 54)
- するとスーザンは、ジェリーの軍服姿はきっと素的に違いないわ、とばかり、あっさりディックの事は忘れかける。(映, 6, 13)

(二)動作・作用のしかた・行われ方を示す。

○袖から始まって、スカート後身頃と回を重ねてきましたが、～(婦友, 6, 73)

○「私は小学校五年の時に当時上野の音楽学校の中にありました上野児童音楽学園に入り、そこで尋常科高等科と七年間上野音楽学校入学まで学びました。」(音, 6, 29)

○「メニューの裏表、残らず食べても百円と掛らない。」(文, 7増, 73)

(ホ)副詞語尾。(擬声語・擬態語をうける場合を含む。)

○可愛い彼女のうちに、これほどもしっかりと、地に足をつけた考え方が潜んでいたのかと、目を瞠る思いである。(婦友, 6, 27)

○それに、つくづくと眺めれば眺めるほど、お嬢さまは、うつくしく、けだかく、しとやかなのです。(ひま, 6, 54)

○云ったあとで、ほ、ほ、ほ、ほ、と明るい笑顔を立てました。(ひま, 6, 52)

○正広君は顔をしかめると、コンコンと咳をした。(キン, 7, 32)

○ガンちゃんは、さっそく、つぼからくすりをつかみだすと、むくむくうごきだした催眠術師のかおに、ブーッとふきかけました。(野少, 6, 42)

○心臓はとくくとくとはげしく脈をうっています。(ひま, 6, 54)

○ころころ、ころころと、蛙の音がきこえてきます。(ひま, 6, 52)

○すぐ近くにおいてあるめざまし時計の影がくもり硝子にうつって、カチカチ、カチカチと秒針の音がきこえてきます。(ひま, 6, 54)

○こくりこくりと居纏りをしてから、はっと気がついてみますと、～(ひま, 6, 52)

○山高帽に黒背広の二人の少年が梯子の両端に掴まったまま、ハズミをつけて大車輪のように梯子をクルクルとまわすのである。(キン, 7, 32)

○見る見るガンちゃんの右うでの力こぶがもりもりともりあがってきました。(野少, 5, 42)

○短い日は既にとっぷりと暮れ、お部屋にはあかあかと灯が輝き始めた。(婦友, 6, 27)

○背すじがぞくぞくと寒気立っています。(ひま, 6, 54)

[～とする・として] (「トスル動詞」とでも名付くべきもの。状態を形容する語に用いられる。漢語に「として」のついたものが多い。)

○数絵は、はつとしたのでした。(ひま, 6, 52)

○——きっといま頃は、工場でしょんぼりとしてひとりぼっちで、機械の前に立っているにちがいない。(ひま, 6, 52)

- 数絵は、ここからほつとして言わずにはいられないのでした。(ひま, 6, 54)
- たしかにお嬢さまは千鶴子だったとおもうと、急に気がかりになって、そのまゝじつとしてはいられませでした。(ひま, 6, 54)
- あじさいや、紅椿や、芍薬や、かきつばたなど、花の咲きみだれたひろびろとした庭のなかを、無数の白い紙鶴がとびまわっているふしぎなありさまを、数絵は、びっくりして眺めていました。(ひま, 6, 54)
- 「児童福祉法」が施行されるという御時勢に逆行して、サーカス団ではこんな無残なリンチが平然として行われているのだ。(キン, 7, 32)
- 肝を冷して呆然として見上げている見物人の真上で、少年たちはユラユラとブランコにゆられながら得意そうに手を振って笑っている。(キン, 7, 32)
- ～、それが日本国民に対する「贈与」であるのか、日本政府に対する「貸付金」であるのかは、実は依然として明確ではなく、～(エコ, 5.11, 10)
- ～その「犠牲者」たちが死に直面して仏道に入り、従容として刑を受けた態度を讚美し、～(世, 5, 39)

〔II〕接続助詞 ((終止形につく))

- ①二つの動作・作用の時間的共存・先後の関係。(同時に、または時間的に近接して行われる二つの動作・作用を結びつける場合。)
- (イ)同時(ある動作・作用が行われる。それと同時に、またはくびすを接して別の動作・作用が行われる場合。)
- お嬢さまがふたび庭下駄をばいて、飛石づたいにあるいてゆくと、鶴も前になりうしろになり、むらがつてついてゆくのです。(ひま, 6, 54)
- 二人が汗をかいて指をひっぱっていると社長が屋上のお稲荷さんを参拝にやってきた。(キン, 11, 110)
- ぼったのように匂いづくばってぺこぺこお辞儀をしていると、パチンとスイッチが捻られて、部屋の中がぼっと明るくなった。(キン, 11, 51)
- 数絵もあとについて庭に出ようと腰をあげようとしていますと、部屋の奥から急にものさわがしくなってきました。(ひま, 6, 54)
- 良平が五十円を支払ってドアの外に出ようとすると、老医師は大きい声で「あんな女とぶざけて指輪をはめっこするような患者は罰金だよ。五十円は安いよ」と次の患者と大笑いをした。(キン, 11, 111)
- 起出すと、母はもう食事を済して父を送り出したあとであった。(キン,

11, 136)

- ～、次の間の弟子を呼ぼうとすると「先刻からお待ち申して居りました」と、襖口に彌五郎が手をつかえて顔を出した。(キン, 11, 22)
- 二三曲たてつづけに踊って、卓子へ戻ってくるとつかつかつと、走りよって来たのは鳥栖一郎。(キン, 11, 43)
- 礼運は紹介が終ると、落ち込むようにお母さんの脇のソファに腰を下した。(キン, 11, 77)
- 二日にわたる講演や協議を終えて ほんとした気持で 会場に借りた医師会館を出ると 目の下に神戸の港が開けていて おそい秋の日が ゆるやかに赤く流れていた。(科, 11, 48)
- 路地を廻ると、思いがけず、昔ながらの水車が、ゴトンゴトンと透徹った水を集めては廻っていた。(キン, 11, 83)
- その踏み切りをとほると、わりに広い通りのかなたに、おもひのほか、ちかくに、潮水が、(つまり、諏訪湖が) 見えた。(文, 7, 80)

【と】(接続詞としての用法。)

- 霜田光一助教授の部屋に先生の友達3人が訪れた。と、たちまち先生をはじめ4人で例のマイクロウェブの研究に関する議論が始った。(科, 11, 58)
- (ロ) 継起。(一つの動作・作用が、次の動作・作用の前段階として先行する場合。この場合、両動作は同一の主体によって営まれている。)
- 正広君は顔をしかめると、コンコンと暖をした。(キン, 7, 32)
- 例によって沢枝君はリスのような素早さで、車をとびおりると、木戸番に話をつけて天幕をぐり抜けて行った。(キン, 7, 32)
- ガンちゃんは、さっそく、つばからくすりをつかみだすと、むくむくうごきだした催眠術師のかおに、プーッとふきかけました。(野少, 6, 43)
- そういうとお嬢さまは、畳の上を踏んでいないようなかるさで、ずっと近寄ってゆき、薬びんをもって戻ってくると、半分ばかり入っていた琥珀いろのおくすりを逆さにして、縁先から庭へすててしまいました。(ひま, 6, 52)
- ゆりはその手紙を封筒に入れて、机の端にのせるとそっとピアノの蓋をひらいた。(キン, 11, 132)
- びりときびしく鞭打つように云い放つと、母はまたすっと部屋から消えているのだ。(キン, 11, 137)
- 初夏の箱根の新婚旅行から帰って来ると糸子は田園調布の邸に入った。(キン, 11, 113)

- 新橋駅を出ると、彼は直ぐ神田を目ざした。(キン, 11, 90)
- 劉さんは飲みさしのカプセルのビタミンADを握ったまま、同じように立ち上り、十二三の少女の頭に手をやると、「私の娘です。こちらはね、日本の芸術家で辰野先生」(キン, 11, 77)
- 少女は私の手からスルリと手を引き抜くと、ちょうど、机の上に置かれた筆を取って、卓上の紙の上に、「唐、風、琴」と、思いがけず男のような強い字体で書き込んだ。(キン, 11, 77)
- 目を落して読み終ると、鳥栖は、にッと北叟笑んで、～(キン, 11, 45)

②因果関係をもつ二つの動作・作用を結びつける。(前件について順説条件となる。)

(イ)きっかけ。(一つの動作・作用が次の動作・作用のきっかけとなっている場合。)

- 糸のむすび目を片はしからほどいてやりますと、ほどかれたのから鶴は、羽をばたばたやって庭の方へ飛び立ってゆきます。(ひま, 6, 54)
- ゆりがそっと眼を放すと、待ちうけていたようにミチ子がそばから口をはさんだ。(キン, 11, 140)
- 先生の話がはじまると、多美子さんは眼に全神経を集中して、話をする先生の口の形を見つめる。(キン, 11, 102)
- 震災でこわれた「補聴機」を、多美子さんが欲しがるとなると、さっそく修理してレコードやラジオを聞かせたりした。(キン, 11, 103)
- 私はこの診断に頗る満足して、早速兄にそのことを伝えると兄は笑い出してこう言った。(朝評, 12, 74)
- クレメルが「ブンド」の活動を報告して、この技術的手段を持っていることを語ると代表者一同は思わず羨望の溜息を洩らしたものだ。(朝評, 12, 78)
- さっそく知合の茶道の先生に行ってたのむと、その先生は快く引受けてくれた。(キン, 11, 104)
- 私が学校にいて時々「聞こえない」というと、お母さんは、なんともいえない顔をして、目に涙をため「あゝよし、よし」とおっしゃいます。(キン, 11, 102)
- 「もう出てはいけない。伏せなさい」私が廊下にかけて上って大声で云うと、風琴は子供を抱えて、床に伏した。(キン, 11, 85)
- みづうみ館を見ると、由比は、十三年まへに、ここに、来て、ここで、一泊したことを、なつかしく、思ひ出した。(文, 7, 80)
- そっと頬を撫でてみると、ほんのりと血ののぼっているのがよく分った。

(キン, 11, 138)

○ゆりは松茸をさげて家を出た。家を出るとやっぱり泣きたくて来る。

(キン, 11, 135)

○こんなことを思うと、お母さんをおこらせたり、かなしませてはいけないな、と強く感じます。(キン, 11, 103)

○私達を見附けると立ち上って、「いらっしやい。今日は何事ですか?」と、英語である。(キン, 11, 75)

○こいつのおかげで、犬のまねをしたのかと思うと、二人とも、くやしさいっぱいです。(野少, 6, 43)

【見ると】

○「あの、山里さんからこれをお預りしてまいりました。」見ると、何やら認めた一通のレターペーパー。(キン, 11, 45)

【すると etc.】(接続詞としての用法)

○ひげの男は、砂漠の入口にテントをはって、迷信ぶかい土人をあいてに商売をしている催眠術師です。これはしめたと、まよいこんできたラクダを、かくしたのです。「人のものを自分ののだとは、けしからん」「うそをいっても、だめですよ、ホームラン賞と書いたきれがついてるんだもの」と催眠術師は、いきなり、へんなくすりを二人にふきかけて、二人を催眠術にかけてしまいました。(野少, 6, 41)

○鳥栖は鳥栖で、これまた、目を細めてすっかり気分を出している。そうなると、また人間妙なもので、こっちも負けず劣らず、気分を出してみたくなる。(キン, 11, 43)

【と】(接続詞としての用法)

○母親はその泥鰌を嘴でくわえ、水で洗って、再び雛に与える。が、又、雛は落してしまう。と、母親は、性こりなく、何度でもこれを繰返すのである。(キン, 11, 7)

(ロ)習慣・反覆的事象・既定の事象などにおける条件を表わす。

○「義大夫が大好きで、ひまがあると淨るり本を読むのを楽しみにしていた。」(キン, 11, 92)

○路傍の五目ならべ屋から、いつも五十銭の賭けを捲きあげるので、しまいには彼の歩いて来るのを見ると、五目ならべ屋はそっ方を向くか、もう勘弁して下さいといった。(キン, 11, 95)

○しかし、ここに、重大な誤りがある。一たん起訴されると、公判前であるにもかかわらず、まるで有罪と確定してしまったようなりあつかいをされることである。(朝評, 12, 43)

- 動物が死ぬと、主成分のタンパク質が分解して乳酸を生じ、その量が時間の経過と共に変化する。(《キン、11、113》)
 - 生後七八カ月以後になると母乳の分泌の減ることが多いのですが ～ (《遊友、6、86》)
 - 2本の針金をつかったレッヘル線や同軸ケーブルでマイクロウェーブを送ると、針金上の電流密度が大きくなり電力が熱になって失われる。(《科、11、17》)
 - 鉄などの強磁性体を磁界に入れると 磁界の強さによって吸収が変化しある磁界の下で吸収の極大が起る。(《科、11、18》)
 - 免疫原性(人に免疫を十分に与える能力)の強い菌株から出発したワクチンでも途中の殺菌の方法やその他の製造工程がよくないと、このかんじんな免疫原性を著しく損傷してしまうことがある。(《科、11、37》)
 - 更に十一月に入ると、日教組の大会(十一月十一日)、それから総同盟や産別、新産別の大会が続々と開かれることになる。(《朝評、12、58》)
 - さて、そのせまくなった町を、半町ぐらゐ行くと、左がはの、バラックだての、長屋の売店が、とぎれる。(《文、7、80》)
- (ハ) 順当な結果を伴う条件を仮定する。(仮定の順説条件。)
- この銀行の正味の資産は六〇億ドル以上といわれる。日本の金になおすと、二兆二千億円ほどになる。(《キン、11、123》)
 - 会社を経営するという面において技術的な面を考えるとそうも言えそうであった。(《科、11、50》)
 - 「～小屋にかくれて居るか、兄さんの家へでもかくまって貰うか、姿を見せると面倒だから今の中に逃げてしまっておくんなさい」(《キン 11、27》)
 - そんなわけで指示された方法を忠実に守って製造すればそれで問題はないようなものの、実は研究室内の小規模の試作とはちがって 大量生産となるとそこにまたいろいろの条件が加わってくるから その製品について厳重な検定を行って規格に合っていることを証明してからでないとい市販に出すわけにはいかない。(《科、11、36》)
 - クリップス蔵相の説明によると英国の「安全保有量」は二十億ドルで、これだけは維持しないと英国経済の安全が脅かされるというのだが、それが七月には十六億ドルに減少して安全線を四億ドルも低下してしまっただけである。(《キン、11、144》)
- 〔～という〕
- 渡洋航空というとまだまだ危険を連想する人がある。(《朝評、12、67》)

○渡洋飛行の事故という和前極東委員会議長アチソン氏の遭難が記憶に新しいが、これは軍用機によるもので民間商業機によるものではなかった。
(朝評, 12, 69)

○100 万ワットというと何でもないうだが国内の多数の放送局の電力 (10 キロワット) の 100 倍に当る。(科, 11, 16)

○ここに公正公平な国家検定が施行されなければならない理由がある。ところが検定というどうしても取締りの色彩を帯びてくるから、検定される製造者の側はとかく不合格という不安な予感に襲われてあまり気持のよいものでない。(科, 11, 36)

[~とすると・となると・になると]

○酵素を主体とする生化学的連鎖反応であるとなると、当然酵素の生成とか色々の形質との相関性とかが考えられ、~(農, 6, 6)

○ただし、米国東岸地方への連絡となると北方コースが断然有利である。
(朝評, 12, 72)

○また英国の製品コストを下げるのが危機解決に一番よい方法であることは、経済学者の多くが一様に主張していることだが、さてこれを急速にやるとなると、賃銀を大巾に切下げる必要を生じてくる。(キン, 11, 146)

○筆者はかつて中共延安時代の若い二十代の紅軍將兵を觀察したことがあるが、かれらは財産の私有慾を恥と考へ、甚しいのになると公的財産をもあまり重く見る習慣が身に付かなくて困るくらいであった。(朝評, 12, 37)

[~するとよい・いい]

○たとえば第3図のような場合を考えるとよい。(科, 11, 33)

[悪くすると・ともすると etc.]

○「出どころの判らぬままでは悪くすると遠島になる。何とか工夫は無いだろうか」(キン, 11, 28)

○殊によると母の一生は凄じい利己心の戦いだったのではなからうか。(キン, 11, 136)

○それらはもちろん、ある事象の趨勢を端的にあらわすものであるが、時によると表中の数字の差が微妙なものになって、その趨勢を一目で看取することが出来ないような場合がある。(朝評, 12, 5)

○昨今の日本には、ともすると物質のために貞操を顧みないような浅薄な女性がいる、そのために本当の純愛から出発したものも、不純なものと同ぜられる恐れがある。(婦友, 6, 6)

○速度低下はキリモミにならない程度にする。ややもすると機は降下しようとするから機首を立てなおしながら進む。(朝評, 12, 70)

〔よほど～ないと〕

- 日本人自身が、都会ばかりでなく、田舎を啓蒙することによほど努力しないと、この大きな、そして不幸な割目は拡がるばかりだろう。(朝評, 12, 56)
- というのは この日食は普通の場合とちがって 皆既金環食ともよぶものであって 月の影の最も狭い部分に地球がはいるので地上の影の幅は僅か 1Km 程度でその計算がよほど精密でないとい観測隊は影の外に出て 結局観測を失敗するという事態が起りかねないのであった。(科, 11, 32)

③次の発言の準備としての前おき。(次の立言の根拠を示したり、内容の前ぶれをしたり。)

- 長期復興計画によると、昭和二十八年度の輸出目標は十五億千百万ドルだという。(ケン, 11, 147)
- イギリスの目からみると、マラン内閣は突に「イギリス的なるあらゆるもの」から離脱しようとするポー・ナショナリストの集まりであった。(朝評, 12, 23)
- 1例として、施肥量との関係に就いて農林省農試北陸支場の試験結果を挙げると第1表Aの通りである。(農, 6, 25)
- 結局マイクロウェーブというのは普通のラジオ用の電波の短波や超短波よりも波長が短く 赤外線よりも波長の長い電磁波のことである。もう少し詳しくいうと 波長が数十 cm 以下 1 mm 程度までの範囲のものである。(科, 11, 16)
- 具体的にいうとこの増幅器を用いた装置ではアルト ソプラノに対して コントラファゴット ピッコロの音が出ないことになる。(科, 11, 40)
- 私はみずから徹底的なリベラリストを以て任じている者ですが、そういう立場から言いますと、突にありがたい角度で書かれていると感謝せざざいられません。(朝評, 11, 5)
- ～、更にこういう見地からも種々な外的因子換言すると環境条件による変化等も追求しなければならない。(農, 6, 6)
- 最近のラジオゾンデや飛行機の観測で得られた台風の模範的な垂直構造図を示すと第 16 図のようになる。(科, 11, 29)
- すなわち石井博士以来の日本の掩蔽観測の結果を 整理して図示すると第 2 図のように年々変化してゆく一連の補正值を得た。(科, 11, 32)
- 「今度の場合ですと 爆発のときに噴出口の近くに推積した岩片や火山灰

が 雪どけ水にまじって流れ出して(〜)川が真黒になって水田へ入って 稲作に不都合を起したのです。」(科, 11, 12)

〔〜というと〕(原因・理由を述べる前おき)

○わが方は何故広大な土地, 多数の人民を有しながら, 部隊の衣食軍費を賄い得ないかというと, その原因は我々の過渡的な民主主義にある。(朝評, 12, 28)

○では 直距離をどうして測定するかというと次のようである。(科, 11, 26)

○それで検定はどういう点を狙って行わねばならないであろうかというと 第一に所定の物質を正しく含んでいるかどうかを調べる必要がある。(科, 11, 36)

○ところが これらの菌の正しい数が含まれていることはどうして検べるかという ワクチンは細菌の浮游液である関係から一定の濁りがあるものである。そこでこれを光電比濁計にかけて電氣的に正確に算定する。一方 石炭酸その他の薬品は化学的に定量されるのである。このようにして所定の物質が正確に含まれているか否かが知られることになる。(科, 11, 36)

④起り得べき場合を仮定し, その条件に拘束されずに後件が起ることを示す。逆説条件。「う」「よう」「まい」などの語につく。)

○喜美子さんは, わが子の性格に芽生えてくるものなら, どんなに小さな芽であろうとそれを大切に育ててやる, 又, それが悪い芽であったなら双葉のうちに摘みとってやるのである。(キン, 11, 103)

○「どうしてお師匠さんはそう気が弱いのだろう, お父っさんが何を云おうと構わないじゃありません。」(キン, 11, 23)

○「津の国屋のお千世を源治店へ引き摺り込んだといわれる覚悟で他人が何を云おうと, 二人に交りがなかったら何時かは世間が負けますよ」(キン, 11, 23)

○「十時に起きよう十一時に起きようとおれの勝手だ。」(資料外)

〔〜う(よう)と〜まいと〕

○なんとか法案が国会に提出されようとされまいと, 一般大衆は何も知ってはいないのである。(資料外)

〔III〕並立助詞

○並列・列挙する。

(イ)いくつかの体言を列挙して一団とする。また、組合せを表わす。

(a)〔～と～〕の形。

- 離乳を秋まで延ばしてよい場合と悪い場合とあります。(婦友, 6, 86)
- 従って栽培環境によって、正方形植の方がよい結果をもたらす場合と、それとは反対の場合とが生じる。(農, 6, 25)
- ～この年限短縮の要望と、旧制の高等専門学校が四年制新制大学の名に値しない実質もっていることとがからんで、～(朝, 5.6, I)
- ～、政府側は現在蔣総統を支持する勢力と李宗仁を頂く広西派との二つに割れており、～(東, 6.6, I)
- このような結果を見ると、長方形植と正方形植との何れがよいかと思ひ迷うのも無理からぬところである。(農, 6, 51)
- ベルリン封鎖を解除し、ドイツ問題処理をめぐる四国外相会議を開こうとする西欧とソ連との間の交渉はついに成功し、～(朝, 5.7, I)
- ～、インフレの階級的収奪政策とデフレの階級的収奪政策とをかねそなえたところの、～(エコ, 5.11, 10)
- 既往の実情が然りしが故にかく規定すべしとのみ論ずる者は、立法者の用意と目標とを持たないものである。(法, 5, 51)
- 独裁思想は暴力の哲学に立脚している。これに反して民主主義の持つ哲学は平和と秩序と安全とをたてまゑとしている。(東, 5.6, I)

(b)〔～と～〕の形。

- 独身者と女学生(映, 6, 13)
- 繞いてジェリイとチェンバレンが捨てぜりふを残して去る。(映, 6, 13)
- それから、口数がすくないのと、口のきき方のしづかなのが特徴であった。(文, 7, 80)
- お二人の真実と誠意は、ついにすべてを焼き尽す力をもった。(婦友, 6, 27)
- あわれ、ガン吉とダンちゃんの、あさましいこのすがた。(野少, 6, 42)
- 少女誘拐と地方検事欺打の罪名によるものだが、～(映, 6, 13)
- ～、国家警察と地方警察の連絡がうまくゆくよう改革を考慮していたが、～(朝, 6.20, I)
- ～ドイツ国民の支持と期待を自国の方にひきつけんとするにあると思われる。(朝, 5.7, I)
- これは互に直角に交叉した枠型空中線と垂直空中線を組合せて～(科, 5, 37)
- ディックは、マーガレットとスーザンと、彼女等の大伯父で大審院判事の

サデュウス氏と、伯父のビーミッシュ博士を、ボロ自動車に乗せて、～
(映, 6, 13)

(ロ)動作・作用を並列して強める。

○私は直ちに搜索を始めた、～、我々の友達は元より、君の元傭土人達をも頼んで、ありと凡ゆる処を悉く探し尽した。(宝, 12, 354)

38. とか (並立助詞)

○事物や動作・作用を例示的に並列・列挙する。

(イ)[～とか～とか]の形。

○酵素を主体とする生化学的連鎖反応であるとする、当然酵素の生成とか色々の形質との相関性とかが考えられ、～(農, 6, 6)

○第二点は間接選挙方法の採用の可否で、これには選挙代理人の選出とか、地方公共団体吏員による選挙とかいろいろあるようだ(朝, 6.20, I)

(ロ)[～とか～]の形。

○もっとも本書全体の文章は純粋どころではなく、「学究」の文体よりもジャーナリストの文体に近い俗臭のあるものだという事は、「楽鳴の門」(肉体の門、大学の門、のあとに!)とか「楽鳴生活みたまま」といった低俗な標題のつけ方にも現れており、～(世, 5, 39)

○～、従って所謂酵素始原体とか細胞質内の条件等との相互関係或は染色体と結びついて考察する事等が～(農, 6, 6)

39. ところが (接続助詞) (終止形につく)

①事の成行を發展させるきっかけとなった事情を示す。(助動詞「た」にのみ接続する。順説条件。「ところが」の形をとることもある。)

○男は先きへ床に入ったが、娘がいつ迄ももぢもぢしてゐるので、男が訊いて見たところが、寝る前に、大通りを通る象が見てきたいのだと娘は答へたさうだ。(新, 12, 42)

○「だけど、長官だから、ああは言っても、母艦の半分位いはやられる覚悟はしているものでしょうな」と皮肉を言ったところが、「うん?うん」砲術長の返辭には、妙な貧乏ゆるぎがあったぜ。なんて不得要領なのだ。(新, 12, 89)

○そこを遊廓にしたら金儲けになるといふことになった。その運動を県庁にしたところが、県庁もなかなか許さん。(文, 2, 65)

○さて女郎屋を始めたところが、町民が反対してうるさいから、遊廓の中に巡查駐在所を置いた。(文, 2, 65)

②ある事柄が無益・無用に終るといふ事態を予想させる形で、前件と後件とを接続する。『ところで』に同じ。(逆説条件)

○日本はロシアに勝ったところが、とても日本人の性質ではロシア人を治めることが出来んといつて、あらゆる方面から非戦論を説いたんだ。(文, 2, 78)

40. どころか(接続助詞) ((終止形につく。また、形容動詞の語幹、体言、その他体言対当のものにつく。))

○かりにある事物を挙げて、大仰にそれを否定し、他の事態の叙述を持ち出す拠り所とする。

(用言につく場合)

○二人は駅裏のテニスコートへ毎日出かけたものだ。彼が打てばとんでもないボールを打ち、僕はうしろへ球を拾ひに走り、僕が打てば、彼はまた笹藪へボールを探しに駆け出すといふ有様で、ネットを挟んで相対しながら、プレイを楽しむどころか、容易にお互ひに顔を見ることも出来ぬ拙劣さだった。(新, 12, 30)

○アナトル・フランスの筆だったと記憶するが、大海で難波した舟乗りが、鳥だと思って鯨の背中に乗っかると、ホッと安心するどころか、やにわにカケをおっ始めた、という話がある。(文, 12, 34)

○あれは立派な私刑だ。私は啞然とするどころか恐しくなった。(文, 12, 71)

○あれでは味方にひきいれるどころか、逆に敵の陣営におしやるようなものだ。(文, 12, 72)

○言ってみる言葉の一つ一つに、深い意味があるどころか、その言葉通りの意味すらありはしない。(スタ, 12, 83)

○ところが、その彼が一年経っても死なないどころか、自分で発見した薬をのみ始めてからは、メキメキと効果が現れ、やがて元の通りの身体に還ったのを見て、村の人人は奇異の感にうたれずにはいなかった。(ロマ, 12, 63)

○もし出発点から自分に通していないスポーツをえらんだりすれば、その人はどんなに骨を折っても、選手にはなれないどころか、かえって選手になろうとしてむりをするために、重い病氣にかかったり、ひどい大けがをしたりして、一生好きなスポーツと縁をきらなければならない運命になるかもしれません。(野少, 12, 111)

(体言につく場合)

- いまや状態は変わりました。海外投資の収入どころか、海外からの借金の利子を支払う義務を負ったみじめな国になってしまったのです。(婦画, 12, 86)
- そこで、一同鴨を見に裏庭に出かけるが、鴨どころか、雀一匹いない。(文, 12, 25)
- 実際に理窟をいう人に負けるし、公開の席上でものを喋れないし、文章どころか名前すら満足に書けない。(文, 12, 63)
- どちらも大洋上の一孤島であって、ウェーキは米領、ナウルは英領であったが、こちらが占領以来、航空基地に準備したところであり、今は取残されて半身どころか全身不随という恰好ではあるが、とも角こちらの手中にはある。(文, 12, 91)
- 別に生きているものには適用しないと断りがついていたわけではないが、生きている限りはいかに殊勲を奏しても二段どころか一段だって進級する気づかいのないこと位は、みんなよく知っていた。(文, 12, 93)
- まさに治安維持法第一条第一項に触れる文句になっている。これだと五年以下がないのだ。こいつはとんでもないことになったものだ、と思った。二、三日どころか、場合によれば、永久にとじこめられてしまうかもしれない。(新, 12, 105)
- そしてそういう時の私の内部では劣等感どころか誇らしい優越感で溢れているのでした。(新, 12, 130)
- 離乳というのは、生後七八カ月になると母乳ばかりでは、鉄その他の赤ちゃんの発育に必要な成分が不足してくるためと、今までほど水分を必要としなくなり、母乳の水分が多すぎて必要な養分が摂りにくくなるために始めるのです。母乳自身には変わりなく、決して毒ではありません。それどころか母乳のある方が、下痢したときに治しやすいのです。(婦友, 6, 86)

〔～どころ(-のさなき)ではない〕

- まにあうか、まにあわぬか。たすけるか、死なすか。それは愛馬ジョニーの一步一步と、ジムのうでにかかっている。ジョニーがつまずいてたおれれば、男の命どころではない、ジムはまさかさまに岩だらけの道に落ちこちて、首を折って死んでしまうだろう。(野少, 12, 89)
- もっとも本書全体の文章は純粋どころではなく、「学究」の文体よりもジャーナリストの文体に近い俗臭のあるものだという事は、～(世, 5, 39)
- ウラジオどころの騒ぎではない。さあ！ シベリヤだ。炭礦か、伐採か…

…とにかく日本には選れない。(婦画, 12, 89)

41. ところで (接続助詞) ((終止形につく))

○ある事態が無益・無用に終るか、または食い違う結果を伴うという事を予想させる形で、前件を後件に接続する。(逆説条件。助動詞「た」にのみ接続する。)

○また、実際、気温その他をしらべてみれば直ぐわかることで、札幌と東京とで暑さが同じなどといふ馬鹿げたことはないはずなのだが、さて、さういふ理窟をこねてみたところで、事実、さう暑さを感じないものを、無理矢理「暑い、暑い」と思はうといくら努めてみたって、どうにもなるものではない。(文, 12, 12)

○許す方にしても、普通の攻撃をやらせたところで、効果を上げないで倒されて行く、それならいっそのこと必中の特攻をやらせる方が、統帥という見地から眺めても、寧ろ慈悲だと思われたというのである。(文, 12, 12)

○問題は別のところにある。第二線機をかき集めて特攻をやったところで、所詮めどはない。(文, 12, 95)

○いずれは國家間の意志を押し付け合う為の手段に過ぎるのであるが、戦士として戦場に立てば、当面することは食うか食われるかの殺戮であり、まことに陰惨である。負ければ尙更、勝ったところで、夢見の悪い仕事である。(文, 12, 98)

○此の頃は普通の家庭で女中を置くことなどは容易に出来ない。人口が八千二百万もあるのだから、いくらでも余った人があるそうなのだが、などと言ってみたところで、はじまらない。結局みんなが貧乏になって仕舞ったのであろう。(文, 11, 9)

○どっちみち、君蝶があき子の友達であってみれば、別にあととでとやこうと、云いがかりをつけられたところで知れている。(キン, 11, 43)

○草之助はさういふあどけないおしゃまな節子を可愛いと思った。が、草之助が知った風な口をきいたところで、可愛いといふことはそれだけのことだった。(ロマ, 11, 77)

○若いみなさんに向ってあの詩人が書いているようなしんけんさを以って、日の出から日の入りまでの時間の昼の活動を考えなさいと言ったところで無理でしょう。(ひま, 12, 50)

○「この瞬間に、アメリカの帝國主義政策にたいして少しでもマサツを大きくすることができれば、日本の共産党くらい肉弾に使ったところで惜しくはない——こういうのがコミンテルンの伝統的なやり方だった。」(文, 3,

59)

○少女たちが、いくら早くにげたところで、馬でかけつける役人たちの手をはかれるべくもない。(少女ク, 3, 123)

42. とて

〔I〕係助詞

○ある事物が、例外たり得ずに、他の一般の場合と同趣の事情に属することを示す。(「だって」に近い。)

○この種のいたづらを彼とて予想しないではなかったが、黙って引き下がることは出来なかった。(ロマ, 12, 43)

○しかし邦子とても可愛いゝ子の為を思えば軍平の軍門に降ることは出来なかった。(ロマ, 12, 51)

○ワシントン大学の問題は州立大学であったために州の反共立法によって起ったのだが、私立大学とても決して渡しずかではない。(朝評, 12, 17)

〔II〕接続助詞 (終止形につく)

○ある条件が、正当の理由にならないか、または予想と反対の結果を伴うという事態において、その条件を提示する。(逆説条件。助動詞「た」にのみつく。「たって」参照。)

○しかし化学的にこんな簡単なものができたとして 何のことがあろう。それはサフロールの足を普通の方法で切っただけではないか(～) (科, 11, 44)

○こゝ元大工町の町並は総だおれ、否、鳥取全市内の家の大半が、倒れ或は燃えはじめ、阿鼻叫喚の修羅場と化しているのだ。呼んだとて叫んだとて、誰が助けに来てくれよう。(キン, 11, 97)

○——丸髻に普なじみの慮外なり。これは江戸時代の川柳である。たとえ夜毎に容をむかえる職業婦人であったとて、今は嫁いだ身の上、うかつな口の効きようは許さないと凜然たるところは洗石に日本婦人である。(婦画, 12, 55)

〔～からとて〕 (「からって」の形をもとる。)

○勉強は片ずけてしまうものではありませんが、唯のぼしたからとて心の負担を重らせるばかり、しようという小さなさゝやきの消えぬ間に直ぐとりかゝり、一生懸命にして予定の所まで進んだら、それから休むなり、おたのしみなりに移りましょう。(ひま, 12, 55)

○日本人という東亜の文化圏の中に育った人間が、西洋文明——それを生み出した本家本元の西洋人すらがほとんどもてあましかけているもの——をわずかに半世紀ほどのあいだに処理し損ねたからとて、あるいはそれほど大きな恥辱でもないかもしれない。(新, 12, 17)

○「お兄さんと婚約したからって、弟のあなたを愛する気持はありません。」(宝, 9増, 143)

○「あたまかづがたりないからって、野球はやめるわけにいきません。」(少年ク, 6, 43)

〔さりとして〕

○いったん註文したからには、一日も早く新調の洋服を着て出歩きたいのは誰しも人情であるが、さりとしてただ一度の仮縫ひを、それも投げやりに済ませて、あとは洋服屋任せといふのでは、たうていスマートな着心地のいい洋服の出来上るはずがない。(スタ, 12, 84)

43. とも

〔I〕接続助詞 (連用形につく)

①ある事がらぎを仮定して条件とし、それにかかわらず進行する事態の叙述に結びつける。(逆説条件。文語的な言い方。)

○たとえば中国における中国共産党の驚異的な進出はソ連にとって別に冒險をせずともソ連的勢力の拡大になるのである。(東, 5.7, I)

○時にはこの種の労働法規が、社会法的な性格を持ち、あらゆる雇用条件までも規定する。その場合に模範となっているのはアメリカの立法であるが、その意図は正しくとも、単に法的措置でアメリカ的生活水準を実現しようとするは無謀である。(エコ, 11.1, 29)

○築き上げられた輝かしい業績に拘わらずラーナーの本書は現代厚生理論の集計の観を出でず、その意味において副題「厚生経済学原理」には相応わしくとも、新しい体制の理論として自らを主張するには更に数歩の前進を必要とするのではあるまいか。(エコ, 11.1, 25)

○とくに経験というほどのものでなくとも、日頃井戸端会議でならした舌に、大いに物をいわせて〜(婦画, 12, 96)

○また、諭ひていそいで言葉で愛情をたしかめなくともいいと考へてゐた。(ロマ, 12, 56)

②見積りを表わす。(量を表わす副詞につくこともある。)

○が、それは、——はなやかな呼び声もやはらかな語気も、すくなくとも、英介の場合は、仮面といはなければならないだらう。(ロマ, 12, 60)

○代りにソ連としては米英仏が統一ドイツの処理でドイツ人の不満を買収しようになる方が利益と考えたのであろう。すくなくともベルリン封鎖解除に関するソ連の態度の急変には、そうした判断による意図が窺われているだろう。(東, 5.7, I)

○～, 率直にいったって, 多少とも文学に心のある人には堪えがたい文章だが, ～(世, 5, 39)

〔II〕終助詞

○疑いや反対の余地を全く残さない態度, 「もちろん」と, うけあう気持の表明。

○「行くととも」(野少, 8増, 108)

○「きたとも。」(幼ク, 9, 22)

○「構ひませんとも。」(人, 6, 27)

○これは二三日沼津の有志が僕の所へ頼みに来たから, あゝ結構だとも, 花の盆もやるし, 弔辞も読ませようと, 人をやったのだ。(文, 12, 65)

○「そうだとも, お父さんの言わっしゃる通りだよ。」(ロマ, 7, 76)

44. ども (接続助詞)

○「～といえども」の形で化石的に残存。

○勤勞子弟といえども, 定時制高校を通じてなり, 通信教育を通じてなり, 大学へ進学することは決して不可能ではない。(朝, 5.6, I)

○もちろん, 精神病者といえども社会的なシンボル(言語)を失っていないし, 一般的には精神病になってしまうと真の創作は不可能となる。(新, 12, 38)

45. な

〔I〕終助詞

①禁止。〔終止形につく。〕

○試合中, 数点勝っていてもゆだんするな。(野少, 12, 114)

○「泣くな, 泣くな。」(世, 9, 85)

○「田舎猿だとおもってひとを見くびるな!」(世, 7, 77)

○「谷川君 まアそう怒るな」(婦生, 12, 122)

○「そんなこと 気にするなよ」(少女ク, 12, 18)

○「余計な事するな」(スタ, 7, 71)

②命令・勧告。

(連用形につく場合)

- 「それでよけりゃ、置いてゆきな。」(新, 10, 121)
- 「坊やはよい子だ寝んねしな……」(宝, 9増, 142)
- 「カリ公、気をつけなっ」(少年ク, 11, 53)
- 「俺のオーヴァーとってきな。」(文, 9, 121)
- 「そのへんにあるエイヨウざいでもやっときな！」(ロマ, 11, 117)
- 「早く帰んなよ」(スタ, 7, 71)

(命令形につく場合) (女性専用)

- 「貴女、大変お歌がお上手なんですってね、いつも明子に聞かされてますけど、今夜一つご披露なさいな」(ひま, 10, 69)
- 「どの本でもかまひませんからもって行って下さいな。」(文, 9, 119)
- 「御覧な、怪我をしたじゃないか」(スタ, 7, 71)

③感動。(「なあ」の形をとる事もある。その場合は、感動が深く強い。)

(イ)感動, 詠嘆。

- 「今日一日、こうしていたいな……」(婦朝, 10, 80)
- 「ずいぶん山はひどいなあ……」(少年少女, 10, 18)
- 「それは、すまないことをしてしまったなあ……。」(幼ク, 10, 59)
- 「いつ頃から、足をしばってるんだろくなア」(ロマ, 6, 68)
- 「姉さんも兄さんの官職についている時に亡くなったのなら、さぞ盛大な告別式が出来たんだろくなあ、もうこういう世の中になっては、まるで人情紙の如しだからな……」(婦生, 9, 23)

〔～かな(-あ)〕(願望。)

- 「だれか来ないかなあ——。(少女ク, 9, 40)

〔～がな(-あ)〕(はっきり言うのをはばかりてほかず。または、現状への不満。願望。)

- 「二年や、三年、人生全体からみれば、何でもないと思ふがな。」(新, 10, 77)
- 「このハンモックが、飛行機だといいいんだがなア……」(少年少女, 10, 11)
- 「このへんで花のような紅葉がハハリハハリとくると詩になるんだがなア」(少女ク, 11, 14)
- 「それにしても、君と一緒にいた頃は、まだ闇ブローカーの全盛時代で、一日に五万や十万の儲けは、ザラだったんだがなア。」(ロマ, 10, 19)

〔～と（その他仮定の意を表わす語）いいな（-あ）〕（願望）

○「ぼくは グローブが できるといいなあ。」（幼ク, 10, 21）

〔～と（その他仮定の意を表わす語）な（-あ）〕（願望。前項の省略形）

○家が建てられるとなあ。（資料外）

○早くお父さんが帰ったらなあ。（資料外）

（ロ）軽い断定・主張。

○「こまるな、らんぼうしちゃあ。」（幼ク, 9, 21）

○「房子は絶望して帰ったと思ふな。」（新, 10, 8）

○「いや、やすい方がいいな。」（人, 7, 112）

○「さういふファンクションを、とても果してると思ふんだな。」（文, 8, 60）

○「さっきの かみにりに うたれたんだな。」（幼ク, 8, 34）

○「一九四四年まで十年あてけれど、その十年を見れば明かに初めのはうが面白かったな。」（文, 8, 58）

○「今からじゃおそいよ、夕がたになって、おれたちがばかされちゃ、たまんないからなあ。」（銀, 7, 71）

○「だけど朝日がてりでしたら、やつら行っちゃまうと思ふなあ。」（少年少女, 10, 11）

（ハ）同意を求める、または、相手の返答を誘う。（男性専用）

○「おや、えらく、考えこんでますな。」（キン, 6, 89）

○「結構なお天気でございますな。」（ロマ, 6, 69）

○「一体、そんなに毎日、どこへ出ていくのでせうな。」（文, 6, 89）

○「お嬢さんにお限にかかるのは、初めてでしたな。」（ロマ, 9, 74）

○「さうです、あと九時間です、退屈ですなあ、夜汽車ってやつは。」（人, 8, 40）

○「おい、大村、腹が減ったなあ。」（文, 7, 70）

○「いつだったか、大内君が河上君の遺稿を編集するといったときに、僕があれば発表しない方がいいといったら、発表した方が全貌がわかるからと、君がいったのは、なんの問題だったかな。」（朝評, 9, 103）

〔Ⅱ〕間投助詞（「なあ」の形をもとる。）

○語勢を添える。（男性専用）（言い聞かせるようなニュアンス。）

○「木っ葉塚のキツネはな、とってもふるギツネでな、仙蔵さんもセドのお冬お婆さんも、それから、いっぺえだまされたけど、人にゃ一度だって姿みせたことねえとよ。」（銀, 7, 69）

- 「あれはな、」と僧は少年に説明した。「遠くに出てゐる牛飼ひたちに、戻りの時刻になったことを知らせる旗じゃ。」(新, 9, 71)
- 「黒菅はな、戊辰の戦ひで官軍に滅ぼされた奥路の小さな藩のことで、黒菅では藩士は錦の御旗にさからって、一人のこらず死んだ。」(人, 10, 89)
- 「いや、やっとなもすみませんでしたのでね、ひとつ肩のこりをほぐそうと思うてな。」(ロマ, 9, 74)
- 「おれたち男が擱りに行ってな、女はそのあいだに先生に土器やなんかのことを書いた本を貸してもらったり、役場のなり十さんに聞いたりしたくんだ。」(銀, 7, 66)
- 「おい、八木君ってな、僕の古い学友だ。」(キン, 10, 102)
- 「人生まるでわからないものでしてナ きな子はあべ川と夫婦になりました」(ロマ, 12, 108)
- 「あのなあ、そっちの荷物をよ、今のうちに母屋の中二階にはこんでおいたがええぞ。」(少女タ, 10, 37)
- 「でもな……秋子もこの頃になってあんたのことは諦めたらしいんだよ」(婦友, 6, 74)
- 「しかしですな」と警官は、ニヤリと笑いながら、「だからといって、こんな事件をいちいち取りあげて全国的に手配するなんてわけには、いかんのですよ。」(銀, 7, 52)
- 「はてな このへんになげたんだが どこへいったか……」(少年タ, 12, 15)

46. ながら (接続助詞)

- ①ある動作・作用が継続されると同時に他の動作・作用が平行して行われる事態における両動作を接続する。(動詞の連用形にのみつく。)
- 二人が話しながらかあるいて行くうちに～(野少, 6, 44)
- ソヴェト陣営にも米英陣営にも組しない第三勢力としてのインドの中立的立場を出し、独立自尊の誇りを保ちながら交渉を進めようとネールの苦心が目に見えるようだ。(朝評, 12, 8)
- スマットの夢は、ケープタウンの背後にそびえるテーブル山上で雲に足を洗わせながらアフリカ大陸をにらんだセル・ローズの夢に一脈相通ずるものがあつた。(朝評, 12, 24)
- ～, 向い風を最も少く受け、追風を最も多く受けるにはどうしたらよいかを判断しながら機を進める。(朝評, 12, 71)

- さらに——同じポンド圏にいながら、イギリス商品の輸入を思い切って制限したり、ポンド圏の動搖をみて急いでこれが脱退運動の先頭に立って動いたのもマラン政府だった。(朝評, 12, 22)
 - わが方は何故広大な土地, 多数の人民を有しながら, 部隊の衣食軍費を賄い得ないかという、その原因は我々の過渡的な民主主義にある。(朝評, 12, 28)
 - 唯物論者でありながら物事に対しては戦術の観点から常に主観的に偏曲した解釈をする。(朝評, 12, 39)
 - 野坂は、戦後、共産党は、『組織された労働者と農民の大半を党の影響下におくことができた』とほこりながら、しかも『産業労働者のヨリ一層の獲得と、その確保とが多少おくれた傾きがあった』と述べている。(朝評, 12, 63)
 - しかしこの小説は「私」を主人公としながら、「私」は少しも書かれていない。(朝評, 12, 91)
 - 歌う生徒らの間にまじって、わが子も歌っているのである。耳はきこえぬながら、ふしは整わぬながら、大きく口をひらいて、高らかに歌っているのである。(キン, 11, 105)
 - 民主的労組が、今日、主導権をとりうるようになったのは、自らの努力にもよることながら、実は、共産系労組自身の、いわば落手によるところすくなくししないのである。(朝評, 12, 64)
 - 体裁ばかりで一向に写らないなどととかく評判の悪い極小カメラ界に小型ながら大型と大差ない性能のあるカメラを送ろうと日本のカメラ界で名の知られたM光機が苦心を重ねてこしらえたのがこのカメラ(〜)(科, 11, 25)
 - しかし二死ながら打者は、一番のトービン。(野少, 12, 32)
 - 無得点ながら安打二本。大投手ワール、なにものぞ、これは打てるぞという自信が西軍にみち、試合は期待されます。(野少, 12, 35)
- [~ながらも]
- 戦争はいやだといっているながらも、時がたつにつれて強く反対する気持は起きて来ない。(朝評, 12, 93)
 - 米園における学問の自由の問題は、共産党員は困るという意見が一般的ではありながらも、教師の思想調査は是か非かというより根本的な問題に重心を移して来たかに見える^⑤のである。(朝評, 12, 19)
 - 十一、二歳の恒吾少年は父にすゝめられて——～——熱烈な若い安部牧師の説教をよくは分からぬながらも聴いて感服していた。(キン, 11, 92)

○～結局これら苦惱や危険の多い途を避けて、不安定ながらも連携妥協による形式で与党戦線の強化を図るほかはないだろう（東，6.6，I）

〔しかしながら〕

○そして、強力な願望が、時に現実を無視させるように、彼らに世論調査の結果さえ、方法論の名によって拒否しようとさせるのであろう。しかしながら、現実を無視することが如何に不幸をもたらすかは、今次の大戦で我が痛感したところである。（朝評，12，41）

〔はばかりながら・及ばずながら・残念ながら etc.〕

○アメリカでは波長が数 mm の電波を発生するクライストロンができていますが、わが国では残念ながら 10cm くらいのもしか製品になっていない。（科，11，17）

○シベリアのエニセイ州長官がその皇帝への年次報告の中で、同州には遺憾ながら文盲が非常に多いと書いたところ、時の皇帝アレクサンドル三世が、その報告書のその項に「結構なことだ」と註をつけたというこの一事でも、その頃のロシア人民の状態がどんなであったかが知られるのであった。（朝評，12，73）

○～、国歌についても、抗日戦中国国民党が厭々ながら士気の鼓舞に使った義勇軍行進曲を、むかし国民党が人民に押しつけた元来党歌の三民主義国歌にとって代らせた。（朝評，12，38）

47. など（なぞ・なんぞ・なんか）（副助詞）

①例示と総括。

（イ）一つの事物を例示する。それとはつきりきめず、大ざっぱに言う。他の同種類のものが言外にこめられる事もある。（「例えば」の意。）

○昨年十月卅日発行された新制高校社会科用教科書「民主主義」（上）はその内容が反共的であるというので、左翼陣営が問題視し、一部にはこの教科書撤回運動もある。衆議院の委員会などでも共産党代議士から質問があったし、日教組は直接文相に撤回方を申入れたという。（東，5.6，I）

○あべかわ餅などごくよいものです。（婦友，6，86）

○～このフィルムを使って電送写真などを応用すれば～（科，5，37）

○ヨークの切替えなどのギャザーは、装飾的なものではありませんがやはり胸の張りを美しく見せるものと考えてよいのです。（婦友，6，73）

○ワンピースでスカートが三枚接になっているときなどは、このダーツの縫目の線がスカートの接の線とつながる位置にとります。（婦友，6，73）

- 「十一代さんなぞは、君、十三人もお側室があって、子供が三十八人も、生れたっていふからね。」（宝，7増，34）
- 「シューベルトの未完成なんか大好き。」（音，9，35）
- 「アメリカの場合なんか、伝統としてノン・フィクションが盛んだ。」（人，9，98）

(ロ)並べ挙げたいいくつかの事例の後につけてこれを総括し、また、他の同種類のものをもこめて言う。

- 容疑者中には税務署員一人に対し四人のブローカーを使ってニセ税務署員にばげさせ四十数万円の取附をしていた者や、業者の税金を納めると称して卅数万円を詐取した者その他脱税を内密にしてやると十数万円を取附したものが悪質で～（東，5.29，Ⅲ）
- なお賄賂側は会社，古物商，飲食店などを筆頭に～（東，5.29，Ⅲ）
- ～，その一部は福州，厦門，汕頭などの諸港を含む華南の海岸地帯占領を命ぜられるだろうと～（東，6.6，Ⅰ）
- 非常に栄養が悪ければ，牛乳や造血剤などで栄養をよくしてから始めなければなりません。（婦友，6，86）
- あじさいや，紅椿や，芍薬や，かきつばたなど，花の咲きみだれたひろびろとした庭のなかを，～（ひま，6，54）
- 農村，一般労務者用には必需衣料の作業衣，下衣類，手ぬぐい，地下タビなどを重点配給し，また乳幼児，妊産婦にはサラシ木綿，ネル，毛布などの必需品を，引揚者，生活困窮者には寝具，毛布，洋服などの重点特配を行う（朝，5.19，Ⅱ）
- ～，週初は増資材料の帝国石油，昭和石油などが買われたのを中心に～（東，6.6，Ⅰ）
- ～西独の通貨改革，ソ連のベルリン封鎖，西欧側の空輸対策，北大西洋条約の成立など，めまぐるしい情勢の変化の跡を顧みると，～（東，5.7，Ⅰ）
- ～特殊の無線機器を使えばこの正体をはっきりとらえられ その波型から発生源が熱雷か渦雷か或いは風塵などであることが判明し 3点観測をして空電源の位置を測定すれば 洋上遙かな気象現象や山岳地帯の気象現象の推移を居ながらにして時々刻々知ることができ 台風を早期に発見し その移動経路の記録から予報を行うこともでき また雷雨予報の精度を向上できるなど 資する所は極めて大きいものといわねばならない。（科，5，37）
- 「蚊や蠅なんか見ると、僕はやはり、神なんか無いのだといふ気がして来

るんだ。」(人, 6, 14)

②ある事物を例示し、それを軽しめて扱う言い方。(否定的な内容または反語的な内容を表現し、もしくは、けんそんした言い方をする時に用いられる。)

○「いづれね」と言われて彼女はもう有頂天、ボーイ・フレンドのジュリーの事など忘れてしまうのぼせ方だ。(映, 6, 12)

○貧しい数絵など、かいだこともない、おくゆかしい薫りが、～(ひま, 6, 54)

○ひとびとは階級対立の激化にともなふ現実の混乱に直面して、個人の誠実などといふものがなほほどの力も発揮しえぬことを、～(人, 5, 85)

○私は軍国主義に毒された人々の足跡を羨そうなどという意味はもちろん持っていない(世, 5, 39)

○そうなったとき、世界に平和の実現されるチャンスが多くなるので、私の建築などもそうした機運のさきがけになれば幸せだと思っています。(朝, 6.5, IV)

○「私になぞほんとうはまだわかってやしないんでしょうけれど、憧れはとても強いわ」(婦画, 7, 73)

○「強いられた結婚なんか、したくありませんわね、やっぱり。」(婦友, 7, 35)

○「いや、いや——私、あんな詰らない田舎でなんか、絶対に生活したくないわ」(ロマ, 9, 89)

48. なり

[I]係助詞(「なりと」の形をもとる。)

○例示的提題。他により適当なものがあるかも知れぬが、という気持ちを言外に含める。(「でも(係)」の③に同じ。)

○ぼくになりちょっと言ってくれさえしたらよかったのにねえ。(資料外)

○せめてその瞬間だけなりと、自己を見つめ、みずからを反省する機会たらしめたいとも私はねがっている。(婦生, 2, 49)

○彼は自分の庇護者宛の手紙に、前線へ出して貰ひ度いといふので、《何れへなりと配属させて頂き度い、役には立たなくとも、危険な所なら何処でも結構です》と書いて、～(新, 3, 59)

[II]接續助詞(終止形につく)

①ある動作・作用の直後(ほとんど同時)に、次の動作が行われるという事態の表現において、先行動作を示す。(「や否や」と同義。)

○「オヤッ」彼はその部屋へ入るなり、どきとした風に欄間を見上げた。

(ロマ, 12, 79)

- 節子は彼がまじまじといつまでもみつめてるのが羞しくなって「見ていらん」と云ふなり彼の眼に手をやってぶさいでしまった。(ロマ, 12, 78)
- ②ある動作・状態のままて他の動作をするという事態の表現において、先行の動作・状態を示す。(「た」に接する。)
- 彼は寝床の上に腹這ひになって、枕許の煙草盆に煙草を捨てたなり、ちいっとその絵を見上げてみた。(ロマ, 12, 76)

〔III〕並立助詞

○並列・列挙した中の、どれか一つを選択する意を表わす。

(イ)〔～なり～なり〕の形。

○勤勞子弟といえども、定時制高校を通じてなり、通信教育を通じてなり、大学へ進学することは決して不可能ではない。(朝, 5, 6, I)

(ロ)〔～なり～〕の形。

○得点に大きくひびく打点王は、藤村、川上、別当、西沢、この四人がリーグ最終節までせりあうでしょう。これは三位なり、五位まで表彰すべきだと思います。(野少, 12, 108)

〔大なり小なり〕

○こうやっていままでの家庭婦人は大なり小なり就職ラインでボイコットされて来つづけました。(婦画, 12, 97)

49. なんて

〔I〕格助詞

①次に来る動作・作用の内容を示す。例示的に、または軽しめて。

○お嬢さまはほんとうは、生きていたのです。それに、なぜ、人は、死んだなんて、いゝ加減なりそをつくのでしょう。(ひま, 6, 53)

②同格の関係で次の語を修飾する。無視または軽視する気持を含む。

○「ピンク・フラワーなんて喫茶店、知らないわよ。」(資料外)

〔II〕係助詞

○ある事物を例示し、それを無視または軽視しようとする気持を示す。

○「悪いわ、無理強いするの、歌なんて気が向いた時じゃなくちゃ歌えやしないわ。」(ひま, 10, 69)

○「女にあまったれるなんて、男らしくないわよ。」(少年ク, 8, 33)

50. に

[I] 格助詞

①動作・作用の行われる空間的な場所の定位・位置を示す。いわば、
事物の存在する場所。また、事物を存在させる場所。

- 二人が、三四日、たいざいするつもり、みづりみ館は、その湖水のすぐそばの、右がはに、あった。(文, 7, 80)
- その頃は、その女も『あね』芸者も、下諏訪に、ゐた。(文, 7, 80)
- 戦後名大では愛知県豊川に空電研究所を設け～(科, 5, 36)
- ドイツの歐洲に占める軍事的、經濟的地位は～(朝, 5, 7, I)
- ～、池にかゝった丸太棒の橋を渡る途中、～(映, 6, 13)
- ～、お部屋にはあかあかと灯が輝き始めた。(婦友, 6, 27)
- ひげの男は砂漠の入口にテントをはって、～(野少, 6, 41)
- ～機械の前に立っているにちがいない。(ひま, 6, 52)
- 梯子の真中に横に鉄棒が通っていて、～(キン, 7, 32)
- お嬢さまの顔が、うす闇のなかに灰白く浮きあがったまゝ、～(ひま, 6, 54)
- その踏み切りをとほると、わりに広い通りのかなたに、おもひのほか、ちかくに、湖水が、(つまり、諏訪湖が、) 見えた。(文, 7, 80)
- この便利な瞬時型の測定機を 500km 以上隔った 3 点に設けて～(科, 5, 37)
- ～空間に浮游する雲や塵は皆すべて電荷を有する物質であるところから～(科, 5, 36)
- 強いて、微笑を顔にうかべようとしたのですが、～(ひま, 6, 52)
- 光線については光線を受ける側即ち向陽面に C 量が多く、～(農, 6, 6)

[～において・おける]

- 界雷とは 不連続面において冷い空気が温い空気の下に俯いこんで下から押し上げるので上昇気流を生じて雷雨となつたのをいう。(科, 5, 36)
- ～、さらに「四大国協力の最後の機会」といわれた一昨年十二月のロンドンにおける四国外相会議が決裂して以来一年有半、～(朝, 5, 7, I)
- ②尊敬の意を表すべき主語につける。(「～には」「～におかせられては」などの形)

○天皇陛下には、午前十時三十分、皇居を御出発。(資料外)

③動作・作用の行われる抽象的な場所の定位を示す。①参照。

- すくなくともベルリン封鎖解除に関するソ連の態度の急変には、そうした

判断による意図が藏されているだろう。(東, 5.7, I)

- ～, 予算面には, この補給金の形でのみ出していた。(エコ, 5.11, 10)
- ～ドイツに関する諸問題にはまだ難しいことが多い。(東, 5.7, I)
- ソ連はマーシャル計画や北大西洋条約に見る西欧側の軍事的経済的団結のうち、対ソ包圍戦の危険を感じているばかりでなく、～(朝, 5.7, I)
- ～, つまりその死に方が重視され, そこに究極的な価値判断の規準がおかれる。(世, 5, 39)
- 批評精神が実践から逃避し, 現実の地盤を遊離して, いたづらに悪循環に墮してゆくことの中に, ひとびとは個人の誠実の限界を見てとる。(人, 5, 85)
- ～, われわれは知性の立場に立っているのであって, ～(世, 4, 22)
- 独裁思想は暴力の哲学に立脚している。(東, 5.6, I)
- われわれの自由は, 何を言い, 何をなすべきかを, 偏見や情慾に支配されないで, われわれの究極の目的からする明察にもとづいて, 選択決定するところに成立したのである。(世, 4, 22)
- ～または高位高官にあった老人が～(世, 5, 39)
- ～, 裁判官のうち, 判事補より高い資格を要求されるものに在職した者は, たとえ, 司法修習生の修習を終えていないでも, これに弁護士資格を認めるべく, ～(法, 5, 51)

[～にある]

- ～予備会議の任務は, 必要な準備工作を終え, 速かに新政治協商会議を招集して民主連合政府を成立させ, 全中国を統一するにある(朝, 6.20, I)
- やはり～ドイツ統一を念ずるドイツ国民の希望に拍車を加えることによりて成立一步前にある西独政府樹立の氣勢をそぎドイツ国民の支持と期待を自国の方にひきつけんとするにあると思われる。(朝, 5.7, I)
- したがって問題はソ連が今や無意味となりつつあるベルリン封鎖を何時, いかなる意図をもって解除するかにおつたのである。(朝, 5.7, I)

[～にとゞまる]

- われわれは既に, このいわゆる内面的自由なしには, 外から与えられた自由は, それだけでは自由の条件たるに止まり, ～(世, 4, 22)
- ～, かの政治的自由も, われわれが見たような, 何でも言い, 何でもすることが出来るというかたちでは, 単なる可能性に止まり, ～(世, 4, 22)

[～において・おける]

- しかるに廿四年度予算案においては, これらの援助資金が公然と, 予算面に組み入れられたのみならず, ～(エコ, 5.11, 10)

○現に、中央財政における公共土木事業費の削減が、～(エコ, 5.11, 10)
④動作・作用の行われる時・場合を示す。

(イ)時。

○一九四七年九月にアメリカで封切以来、興行成績のベスト・テンに入った喜劇である。(映, 6, 12)

○～ソ連のベルリン封鎖および西欧の逆封鎖も十二日に解除し、～(東, 5.7, I)

○昭和九年の十月二十九日の、午前八時三十分ごろに、新宿を、出る汽車に、山比は、乗った。(文, 7, 80)

○他の季節には離乳経過の一日で進むところでも、夏は二三日かけるくらいにしましょう。(婦友, 6, 86)

○～これは関東地方で春のはじめによく起るものであるが～(科, 5, 36)

○～, 解放軍は過去三年間に国民党軍五百五十九万を撃滅し、～(朝, 6.20, I)

○このほかに今年度中に輸出不適格品の半そでシャツ, 半ズボン, はだ着, 婦人子供服など約二千万点の放出が期待されているので、～(朝, 5.19, II)

○週央には池田蔵相の減税, 資産再評価に関する談話が出たが～(東, 6.6, I)

○サ系(二〇〇〇)五日目に目黒記念があるので～(東, 5.29, III)

○みづらみ館を見ると、山比は、十三四年まへに、ここに、来て、ここで、一泊したことを、なつかしく、思ひ出した。(文, 7, 80)

○二人は、くらいうちに起きて、毎朝、輸出の麻糸真田の工場にかよっていました。(ひま, 6, 52)

○次期国会までに民自と民主犬養派との合同はあり得るかも知れないが～(朝, 6.20, I)

○離乳にかゝるときは、その前に医師の診察を受けて～(婦友, 9, 86)

(ロ)場合・事態。

○～, 普通施肥量の場合には逆に正方形植がよい結果を得てゐる。(農, 6, 25)

○それにも拘らず今尙正方形植か長方形植かと、田植の度に思い迷う人の多いのはどうしたことであろうか。(農, 6, 25)

○二人は、催眠術師が目をまわしているすきに、テントにとびこんで、さっき自分たちがかけられたくすりのつぼを、さがしだしてきました。(野少, 3, 43)

○～あんなに元気だった正広君が、車からおりた途端に急におとなしくなっ

てしまったので、～(キン、7、32)

- 新中国誕生の基礎となる新政治協商会議の予備会議は十九日北平で中共、諸党派団体代表百三十四名参加の下に正式に開かれた(朝、6.23、I)
- 個人の誠実が軽蔑される社会は陰鬱な猜疑の林立のうちにみづから亡びてゆかねばならぬ。(人、5、85)
- さきの資格審査で不合格となった官公私立専門学校三十一校のほか、保留や未申請の高等専門学校を合せて約百九十校が短期大学の対称となり、～(朝、5.6、I)
- 第一に、中央、地方、特別各会計のそれぞれにおいて行政整理と首切りにより、赤字負担を官公廳職員ならびに現業労働者の犠牲に転嫁している。(エコ、5.11、10)
- 最後に最大党派である緑風会であるが、こゝは全体に保守色が濃く、先日の首相招宴の国会慰労会にも相当多数が臨んでいる(東、6.6、I)
- 次に民主党は来月五日総会を開き部内一本化を期することに決定している(東、6.6、I)
- 明春の参議院選挙には、民自党としては八十名くらいの当選を目標とし、～(朝、6.20、I)
- 全国人民は解放軍を擁護して解放戦争に勝利を得た(朝、6.20、I)
- だがディックはサッカー競争にも、二人三足にも、スプーン・レースにも負けた。(映、6、13)
- ベルリン封鎖解除はかくて西欧ソ連間の国交調整への道を開くものとして世界に一脈の明るさを投じてはいるが、しかし四国外相会議は果してその国交調整に成功し、世界の平和希望にそいうるかどうか。(朝、5.7、I)

〔ここに〕

- ～この年限短縮の要望と、旧制の高等専門学校が四年制新制大学の名に値しない実質をもっていることがからんで、こゝにやむをえず二年制短期大学を生み出さねばならなくなったのは、～(朝、5.6、I)
- 昨年六月十九日、ソ連がベルリン西欧地区の封鎖を実施してから約十ヶ月、昨年後半期を通じて世界不安の中心であったベルリン封鎖はこゝに解除され、さらに「四大国協力の最後の機会」といわれた一昨年十二月のロンドンにおける四国外相会議が決裂して以来一年有半、こゝに再び四国外相会議の開催を見ることになったのは、それだけでも世界平和の上から喜ばしいことといわねばならない。(朝、5.7、I)

〔～だけに。ばかりに etc.〕(全体として接続助詞のようなはたらきを持つ。)

○～、中共側がこのような人物に協力を求めたことは初めてであるだけに特に注目される（東, 6, 6, I）

○労働組合がこれを拒んだ許りに、社会民主党関係の総退陣が起り、それが結局民主主義の敵のために道を開く機縁を作った。（朝, 6, 25, I）

〔～なしに（は）〕（前提の意味。）

○民主主義を破壊せんとする敵を発見することなしに民主主義の建設はない。（東, 5, 6, I）

○社会的動物としての人類にとっては、たがいに助け合うことなしには、単なる生存も困難となるからである。（世, 4, 22）

〔～ことには〕

○ここで何か手を打っておかないことには、後で始末がつかなくなるに違いないのだ。（資料外）

〔～に際して・当って etc.〕

○ただ、これらの問題の論議に際して痛感することは、～（法, 5, 51）

○～、本予算編成にあたっては、～（エコ, 5, 11, 10）

〔～において・おける〕

○すでにインフレの発展する状態の下においては、現金通貨の回転率、またそれと関連して手形流通高、市中銀行の貸出状況など多数の条件を総合せねば単純には結論し得ない性質のものである。（エコ, 5, 11, 10）

○最近におけるソ連側の世界的な平和運動もその反映である。（朝, 5, 7, I）

⑤割合・割当の基礎を示す。

○これを一定速度（気象出現用のものでは 12 分に 1 回転）で回転させるもので～（科, 5, 37）

○～母乳は一日に一回以上与えて夏中は絶やさないこと。（婦友, 6, 86）

⑥動作・作用の到達する地点・状態。

（イ）到達点・行き着く所（時・人なども含めて）・方向。

○広川民自党幹事長は十九日朝大阪から岡山に着いたが、～（朝, 6, 20, I）

○二人は、催眠術師が目をまわしているすきに、テントにとびこんで、～（野少, 6, 43）

○～、くつぬぎ石のうへの庭下駄に片足をおろそうとしました。（ひま, 6, 54）

○～かれが窓のそとに眼を転ずるならば、～（人, 5, 84）

○～不連続面において冷い空気が温い空気の下に匍いこんで下から押し上げるので～（科, 5, 36）

- ～、もしその意味が彼らの手許に通貨が流れて来ないという意味であるならば、～（エコ、5.11, 10）
- ～連立派の動向が注目されるが、～持ち込み次第では与党側にまわる公算も決して少くはない（東、6.6, 1）
- やはり、封鎖解除を前提とした四国外相会議再開によって対独処理をボツダム協定の線に引きもどし、～（朝、5.7, 1）
- ～、週初は増資材料の帝国石油、昭和石油などが買われたのを中心に石油株に人気が集申し、～（東、6.6, 1）
- ～、興行成績のベスト・テンに入った喜劇である。（映、6, 12）
- ～これはかえって共産党の思うツボにはまりこんでいることになり対策の貧困を物語るものだ（朝、6.20, 1）
- にもかゝはず個人の誠実はあきらかに限界に達してゐる。（人、5, 85）
- 今におよんであわてゝ二年制の短期大学を作るくらいなら、～（朝、5.6, 1）
- 週末に至って一部化学株に人気が再燃し始めたが～（東、6.6, 1）

(ロ) 成り行く状態・結果。

- ～中央の対外策がどのようなものになるか、非常に注目を要するものがある。（東、5.7, 1）
- 生後八か月以後になると母乳の分泌の減ることが多いのですが、～（婦友、6, 86）
- 中等学校はすべて高校に昇格しようとし、高校はすべて大学に昇格しようとした結果、～（朝、5.6, 1）
- 二人ともアフリカまできて、ワン公に生まれかわるとは思わなかったのですが、～（野少、6, 42）
- ～、政府側は現在蔣総統を支持する勢力と李宗仁を頂く広西派との二つに割れており、～（東、6.6, 1）
- ～政府軍全兵力は現在でも百二十五万ないし百五十万に上り、～（東、6.6, 1）
- ～批評精神が、個人的現実を卸下するほどに昇華しきらぬため、～（人、5, 85）
- ～民主党は来月五日総会を開き部内一本化を期すことに決定している（東、6.6, 1）

〔～ことになる〕

- ～これはかえって共産党の思うツボにはまりこんでいることになり対策の貧困を物語るものだ（朝、6.20, 1）

〔～になる〕（動作に関する敬語。）

○「いつ頃からお会にならなかったの」（ひま, 11, 4）

〔～するに至る〕

○この危険感から、ソ連はベルリンの封鎖を解除し、西欧側との国交調整を希望するに至つたとも見られるのであって、～（朝, 5, 7, I）

〔われにかえる etc.〕

○とたんに、われにかえつた二人、～（野少, 6, 42）

（ハ）変化・帰着させる状態。

○慣れてきたら、初め一さじくらい御飯粒を入れておまじりにし、粒の量を徐々に増して、～（婦友, 6, 86）

○～, 全国選挙区は全廃して府県単位一本に改めたいとの意向が強く～（朝, 6.20, I）

○東大工学部 of 学生四百人が花山教授から BC 級死刑者の遺書を示され、「例外なく涙して」これをパンフレットに作成したという信じがたい事実（～）も、～（世, 5, 39）

○母と娘に扮したシャーリイ・テンプルとマーナ・ロイ（映, 6, 12）

○大体牛酪乳（～）から始め、次第に二倍に薄めた牛乳に替え、ごく徐々に離乳します。（婦友, 6, 87）

○～, 量によっては半身頃で二本ずつ、つまり四本にふり分けると、～（婦友, 6, 73）

○田植に当って稻株を正方形に配置するか長方形に配置するかに就いての関心は、～（農, 6, 25）

〔～ことにする〕

○その夜マーガレットは、ディックをスーザンとの交際から解放させ様と思ったし、何となく二人だけで話したくなったのでディックに電話をかけて、あるナイト・クラブで会う事にした。（映, 6, 13）

○～彼女がモデルだと云って、アパートの係りの少年に、ディックの部屋へ入れて貰い、彼の帰りを待つことにしたが、～（映, 6, 12）

〔～ま～に〕（「～を～にして」の省略形）

○～, クリーム色、流線型の車体と一二七二五の番号を手懸りに捜査中のところ、～（朝, 5.19, II）

○ソ連のベルリン封鎖は～を動機として行われたが、これは～をもって～と見なすソ連の報復であり、これであわよくば西欧勢力をベルリンから締め出し、たとえそれが出来ないにしてもこれを種に西欧側に再び四国会議を開かせて対独処置をボツダム協定の線にもどさんとするものであったら

う。(朝, 5.7, I)

- かくして、特別会計、地方財政はその赤字を口実にあるいは、大量首切によって、縦に多数職員の犠牲負担を強行するか、～(エコ, 5.11, 10)
- ひげの男は、砂漠の入口にテントをはって、迷信ぶかい土人をあいてに商売をしている催眠術師です。(野少, 6, 41)
- ～、週初は増資材料の帝国石油、昭和石油などが買われたのを中心に石油株に人気が集まり、～(東, 6.6, I)
- なおお暗側には会社、古物商、飲食店などを筆頭にほとんど全部の業種に及んでいる(東, 5.29, III)

〔～にしては(も)〕

- ～、数絵は、夢にしては、あまりになまなましすぎる感情のもってゆき場所がないので困りました。(ひま, 6, 53)
- ～、これであわよくば西欧勢力をベルリンから締め出し、たとえそれが出来なくてもこれを種に西欧側に再び四国会議を開かせて対独処置をボツダム協定の線にもどさんとするものであったろう。(朝, 5.7, I)

〔～にせよ〕

- 政治批評にせよ、芸術批評にせよ、もともと批評とは極北の精神にはかならない。(人, 5, 85)

⑦ 動作・作用の向けられる対象の事物。

(人を目あての動作・作用の相手)

- 中共上海軍事管制委員会のスポークスマンは四日午後外国船出入問題について記者団に次の如く言明した(東, 6.6, I)
- その夜マーガレットは、ディックをスーザンとの交際から解放させ様と思ったし、何となく二人だけで話したくなかったのでディックに電話をかけて、あるナイト・クラブで会う事にした。(映, 6, 13)
- ～、鯉子に、遠まはしの言葉で、赤ちゃんは、男か、女か、と、聞くと、～(文, 7, 80)
- 私はヘルム大尉その他に厚くお礼を述べ、再会を固く約してお別れする。(婦友, 6, 27)
- 衆議院の委員会などでも共産党代議士から質問があったし、日教組は直接高瀬文相に撤回方を申入れたという。(東, 5.6, I)
- 見るに見兼ねたスーザンは、ボーイ・フレンドのジェリイに、ディックを勝たせる様に頼んだ。(映, 6, 13)
- マーガレットがディックを愛しているのを察していた博士は、そこでマーガレットに、旅行に出ると無理に薦めて承知させ、～(映, 6, 13)

- ～、民自党も各府県支部に命じて候補者の整理を開始し、～(朝、6.20, I)
- ～、ディックに刑を宣告すれば、スーザンの心の傷手は生涯癒らないから、～(映、6, 13,)
- ～、これら改正案は臨時国会に提案したいが、参議院で猛烈な反対があると予想されるので、～(朝、6.20, I)
- 例によって沢枝君はリスのような素早さで、車をとびおると、木戸番に話をつけて天幕をくぐり抜けて行った。(キン、7, 32)
- ～、中共側がこのような人物に協力を求めたことは初めてであるだけに～(東、6.6, I)

(事物に向けられる動作・作用の対象)

- ～輝線の長さは 偏向板に加わる電圧に比例するので～(科、5, 37)
- そして生体を舞台として母体になる物質を究明し、これに關与する酵素系による生化学反応の連鎖を考えなければならないが、～(農、6, 6)
- ～、すぐ実業につくものとの間に、その人生行路の上に～(朝、5.6, I)
- 離乳にかゝるときは、その前に医師の診察を受けて赤ちゃんの栄養状態を調べてもらいましょう。(婦友、6, 86)
- ～、今秋審査にとりかゝって明春から店開きをする予定という。(朝、5.6, I)
- ～、民自党も各府県支部に命じて候補者の整理を開始し、清新な人材を選ぶよう選挙対策に着手している(朝、6.20, I)
- さらに一部では、その意図は西ドイツを欧州復興の支柱として再建しようとするマーシャル計画に対抗する手段とさえ見られていた。(朝、5.7, I)
- ～、その「犠牲者」たちが死に直面して仏道に入り、～(世、5, 39)
- ～名大の金原教授が早くから空電と雷雨の關係に着目して～(科、5, 36)
- が、はたしてそれは、個人にたいする誠実に固執してゐるからであらうか。(人、5, 85)
- [～に～せる・させる・しめる] (使役の対象)
- ～、たとえそれが出来ないにしてもこれを種に西欧側に再び四国会議を開かせて対独処置をポツダム協定の線にもどさんとするものであったろう。(朝、5.7, I)
- ～、従来は中央会計より特別会計へ繰入金、地方会計へ配付金をそれぞれ流し、特別会計には建設公債等、地方会計には地方起債等を発行せしめてきたが、～(エコ、5.11, 10)

〔～に関して・ついて・対して・反して etc.〕

- ～, 人々の災厄を少なくするためには, 衛生や防火のことなどに関して, 厳重な強制を行わなければならない。(世, 4, 22)
- ～ベルリン封鎖解除に関するソ連の態度の急変には, ～(東, 5.7, 1)
- ～, ぼくは《批評精神》について語ってきたのだ。(人, 5, 84)
- 中共の貿易代表は目下香港で米人商社筋と貿易の可能性につき協議している(東, 6.6, 1)
- 民衆や社会の現実について誠実ではないと診断される。(人, 5, 85)
- その意味では, この教科書は著述者の持つ志向の高さと民主主義に対する情熱の深さを立証しているともいえる。(東, 5.6, 1)
- これに対し野党派の社会党は元選相波多野鼎会長の下に部内の左右対立もこのところ緩和状態を示し～(東, 6.6, 1)
- 独裁思想は暴力の哲学に立脚している。これに反して民主主義の持つ哲学は平和と秩序と安全とをたてまえとしている(東, 5.6, 1)

〔～に(～も)かかわらず〕

- ～, 著者の主観的意図にかかわらず, ～(世, 5, 39)
- 個人の誠実が軽蔑される社会は陰惨な猜疑の林立のうちにみづから亡びてゆかねばならぬ。にもかゝらず個人の誠実は～(人, 5, 85)

〔それに〕(接続詞的用法)

- この家の主人のたゞ一人のみよりだというので, 引きとられてきたのですが, どう考えても, 夢のようなのです。それに, こゝでの生活は, なに不自由ないと云えばその通りなのですが, 数銭は, やっぱり, 淋しくて, 淋しくて, たまりません。(ひま, 6, 52)
 - しかし, その女は, 芸者であるし, それに, 由比は, その女に, 感情はいくらわかるくしたかもしれないが, 迷惑をかけたことも, 不義理をしたことも, まったくないのであるから, 『もし逢へれば』などと考へるわけは一つもないのであるが, 由比の『ひっこみ思案』の性質のせみであった。それに, そのとき, 妙な『いきさつ』から, 由比は, その女によく逢ひながら, その女の『あね』芸者と, したしくなって, 結婚した, といふやうなこともあった。(文, 7, 80)
- ⑧動作・作用がなんのために行われる(存在する)かの目的を示す。

(イ)動詞終止形(動作性名詞を含む)につく場合。

- われわれは社会の現実と, これを改善するに必要な手段と条件について, ～(世, 4, 22)
- では瞬時に出現消滅し 移動して行く空電源を捉えるにはどうするか。こ

れには最近発達途上にあるブラウン管を利用すれば解決できるというので試作されたのがこの臨時型の測定機である。(科, 5, 37)

○しかし、世界平和に責任ある四国外相は、この世界の重大な岐路に立って国交調整に全力をつくすであろうし、われわれは世界平和のため、その成功を期待しつつ今後の経過を見守りたいのである。(朝, 5, 7, I)

○～、今後のドイツ問題処理にはドイツの人心を把握することがいよいよ大切になって来たのである。(朝, 5, 7, I)

○～#客足#の争奪にあの手、この手の秘策を練っているので～(東, 5, 29, III)

○一連のまとまった食事(洋食なら前菜からデザートコースまで)には一人一枚とする(朝, 5, 19, II)

【～に(～も)～(可能形の動詞)ない】

○出るに出られぬ籠の鳥。(資料外)

○電車は超満員、奥の方に押し込められてしまって、降りようにも降りられない。(資料外)

(ロ)動詞連用形(動作性名詞を含む)につく場合。

○その晩女判事のマーガレットが、彼女を愛している地方検事のトミイ・チェンバレンと遊びに出かけた後で、～(映, 6, 12)

○続いてジェリイが応召したので別れを告げにスーザンを追って来る。(映, 6, 13)

○彼女はヴェイルで顔を隠し、ディックの母親だと偽って彼に面会に来たのだが～(映, 6, 13)

(ハ)【～ために】

○～不合格となった高等専門学校を救済するために、学校教育法を改正して二年または三年の短期大学を設置することになった。(朝, 5, 6, I)

○本予備会議の開会は急速に新政治協商会議を開き民主連合政府を成立させ、全中国を統一させるために必要な一切を準備することである(朝, 6, 20, I)

○われわれは病気の流行を防ぎ、人々の災厄を少なくするためには、衛生や防火のことなどに関して、厳重な強制を行わなければならない。(世, 4, 22)

⑨動作・作用のよりどころ・由来。

(イ)動作・作用の手段としてのよりどころ。

○～、且つ、前掲の最近三カ年間における新弁護士の学歴、経歴等の程度に鑑みるも、この標準を維持すべく、～(法, 5, 51)

○～、四大国の協定にもとづきソ連のベルリン封鎖および西欧の逆封鎖も十二日に解除し、～(東, 5.7, I)

○くらい焼跡の道を、びしょびしょ雨にぬれながら、～(ひま, 6, 54)

○しかし、ラクダにはこりている二人、～(野少, 6, 44)

[～によって(よる・よると etc.)]

○この短期大学の新設によって、六, 三, 三, 四の新学制には大きな例外が認められることになった。(朝, 5.6, I)

○～、それは、その目標を、どこに、どう置くかによって決定される問題である。(法, 5, 51)

○～浜口蔵相のデフレ政策への転換は、それ自身、首切りと低賃銀、労働強化による中小企業の破滅により、銀行資本を救済せんとする独占資本の階級的収奪政策であった。(エコ, 5.11, 10)

○～だから一般の投書その他による協力をお願いしたい(東, 5.29, III)

○同課風紀係の情報によると都内千三百余軒(～)のうち相当数が女中に売春を強要し～(東, 5.29, III)

○外国軍事筋の推定によれば、政府軍全兵力は現在でも百二十五万ないし百五十万に上り、～(東, 6.6, I)

(ロ)動作・状態を構成する内容。

○～、一個の人間が、殊に青春にとむ若者または高位高官にあった老人が死刑の宣言を受け、万歳三唱して絞首台にのぼってゆく——(世, 5, 39)

○くわしくは社会学者の研究にまたねばならないが、一応は、生命尊重と人生享受の観念に乏しく、ヒューマンイズムの欠如にもとづくといえるだろう。(世, 5, 39)

(ハ)比較の基準となる事物。

○～、大衆の一部の人々には新聞記事に似たこの文体が～(世, 5, 39)

○～輝線の長さは 偏向板に加わる電圧に比例するので～(科, 5, 37)

○～、昨年に倍する重税を主として勤労大衆に押しつけるなど、～(エコ, 5.11, 10)

○～政治家は批評をおそれず、その存在を完全に黙殺してゐる。それにくらべれば、ぼくたち十数人の文芸批評家が～(人, 5, 85)

○～この日三井本社などが三菱本社に比しての割安もあり買われた程度で、～(東, 6.6, I)

○～、粒の量を徐々に増して、次第に全粥に近くしてゆきます。(婦友, 6, 86)

[～に違いない・ほかならない etc.]

○馬上の子供たちも表面は朗かそうにキャッキョツと騒いでいるが、一人々々になれば正広君と同じように、悲しい事情のある薄倅な子に違いない。

《キン、7、32》

○～、工場でしょんぼりとしてひとりぼっちで、機械の前に立っているにちがいない。《ひま、6、52》

○さういへば、おそらくだれしも気づくにさういない～《人、5、84》

○～、かゝる措置はとくに予想されていたに相違ない。《朝、5、6、I》

○～、もともと批評とは極北の精神にほかならない。《人、5、85》

〔～にすぎない〕

○通貨増発のごときは、この階級的取奪政策から必然的にもたらされる結果的現象にすぎない。《エコ、5、11、10》

○われわれが本予算案をもって、インフレを克服するものではなく、それを悪質のものに内訌せしめるに過ぎないと断じたのは～《エコ、5、11、10》

〔二〕評価の基準となる事物。〔「にとって」の意〕

○～、鉄その他赤ちゃんの発育に必要な成分が不足してくるためと、～《婦友、6、86》

○（児童の健康及福祉に有害でなく、且その労働が軽易である——労基法第五十六条——）《キン、7、32》

○かつて中学を出て高等学校から大学へ進むためには、選ばれた秀才以外には狭い門であった。《朝、5、6、I》

○～空電の日変化 年変化などの連続的な統計的研究を行うのに適していると考えられる。《科、5、37》

○～四年制新制大学の名に値しない実質をもっていることが～《朝、5、6、I》

○～、率直に言って、多少とも文学に心のある人には堪えがたい文章だが、～《人、5、39》

〔～にとって〕

○溝ノ口から浅草まで一時間のドライブは、正広君にとって生れて初めての楽しい経験だろう。《キン、7、32》

○ヒトリズムやプロレタリア独裁の信奉者にとってこの書が面白くないことは当然であろう。《人、5、85》

○批評家にとって——いやそのまへに、ぼくたち一般人にとって——個人の誠実とはいったいなにものであらうか。《人、5、85》

○社会的動物として人類にとっては、たがいに助け合うことなしには、単なる生存も困難となるからである。《世、4、22》

(ホ)影響をこうむり、作用を受ける場合の、影響・作用の由来・出どころ。

○おもい出そうとすると、ぼうとして、けだるさにとらわれてしまうのです。(ひま, 6, 52)

○「君に教わったとおりにやったけれど、だめだったよ。」(資料外)

〔～に～れる・られる〕(受身関係の出どころ)

○～有川三郎(五〇)さんは～廿五, 六歳ぐらい不良風の男にピストルよりの物で脅され, ～(東, 5.29, III)

○～, 池にかゝった丸太棒の橋を渡る途中, 後から来たジェリイに水中へ突き落された。(映, 6, 13)

○～, ディックはスーズンに罵められて出場した。(映, 6, 13)

○～ディックは～, 目を覚したスーズンに声をかけられて, ～(映, 6, 13)

(ヘ)動機・きっかけ。

○これをわらって見ていたガン吉とダンちゃん, あまりのこっけいさに, こんどはかわいそうになりました。(野少, 6, 44)

○さすがの男も, 二人のきもちにすっかり心をあらためて, ～(野少, 6, 44)

○～, 生活補助費の名目で無理矢理押付けられた少額の借財に断りもならぬという弱点をつかれ, ～(東, 5.29, III)

○～, さらにベルリン空輸の成功や北大西洋条約の成立に自信を高めている西欧側の態度を顧みれば, 会議の前途は必ずしも楽観を許すまい。(朝, 5.7, I)

〔～ゆえに〕

○現代の批評精神は社会的現実を卸下すると同時に, 個人的現実をも卸下しなければならず, それゆえにこそ, ふたたび個人の誠実が問題になってきたのにはかならぬ。(人, 5, 85)

○在野法曹の一員なるが故に今日甲説を主張する諸家は, ～(法, 5, 51)

○既往の実情が然りしが故にかく規定すべしとのみ論ずる者は, ～(法, 5, 51)

(ト)名目・理由。(「として」の意)

○～ガン吉は, 内野ホームランという珍妙なてがらをたて, ホームラン賞にラクダをもらいましたが, ～(野, 6, 41)

○～, 農村, 一般労働者用には必需衣料の作業衣, 下衣類, 手ぬぐい, 地下タビなどを重点配給し, ～(朝, 5.19, II)

⑩動作・作用・状態の行われ方・あり方。

○～二少年の体はつばめのように左右に飛びちがって, ～(キン, 7, 32)

- 梯子の真中に横に鉄棒が通っていて、～(キヤン, 7, 32)
- お嬢さまがふたたび庭下駄をはいて、飛石づたいにあるいてゆくと、～(ひま, 6, 54)
- これは互に直角に交叉した棒型空中線と垂直空中線を組合せて20°くらいの鋭い方向性をもたせ これを一定速度(～)で回転させるもので 各方向から来る空電を方向別 時間別に記録することができる。(科, 5, 37)
- ～女中に売春を強要し#客足#の争奪にあの手、この手の秘策を練っているので警視庁保安課では近く管下各署に通達、極秘裏に内ていし～(東, 5.29, III)
- その長さの半分くらいまで大体同じ深さにぬい、～(婦友, 6, 73)
- ～、裁断は、身頃の中心の布目を曲げないようにタックを予定通りにぬつてからします。(婦友, 6, 73)
- ～、結局血は水よりの例え通りに持ち込み次第では与党側にまわる公算も決して少くはない(東, 6.6, I)
- ～、惱ましいほどに、彼女の鼻をうつのでした。(ひま, 6, 54)
- またこの書は特に共産主義のみを批判しているわけではなく、ヒトラーやムソリニ時代のいわゆるファシズムについても完膚なきまでに批判しているのである。(東, 5.6, I)
- ～、地球は永遠に面熱帯的現実のうちに閉ぢこめられたまゝに終るであらう。(人, 5, 85)
- ～、細かい雨がすきまもなしに降りこめていました。(ひま, 6, 54)

〔～せずにいる〕

- 教絵はこゝろからほっとして言わずにはいられないのでした。(ひま, 6, 54)

〔～とともに〕

- そのとたんに割れる様なノックと共にチェンバレンとマーガレットが飛び込んで来た。(映, 6, 13)
- ～、その後、石油株の一服と共に値がさ株売り、中堅株買入気が台頭し殊に化学株がしばらく買われなかっただけに高圧、カーバイト、旭電化などが注目されて売買高も増加の傾向となった(東, 6.6, I)
- そのシヨウセをこの種系統的寄附割当の強行に求め、ケイサツ施設関係の拡張のための強制寄附割当と共に、一切の犠牲負担を学童の父兄その他一般地方民に転嫁しているではないか。(エコ, 5.11, 10)

〔ともにする〕

- ～、犬養氏と行動を共にするものは十名くらいしかないと思う(朝,

6. 20, I)

〔とくに・ことに etc.〕 (副詞用法)

- たゞし夏ですから特に新鮮で上等なものを選ぶのは言うまでもありません。(婦友, 6, 87)
- ～, 一個の人間が, 殊に青春にとむ若者または高位高官にあった老人が死刑の宣言を受け, 万歳三唱して絞首台にのぼってゆく——(世, 5, 39)
- ベルリン封鎖は実にドイツだけの問題でなく, 東西勢力の全欧州政策にかかる大問題であったのである。(朝, 5. 7, I)
- 一個の人間がいかに生きたか, またいかに社会に貢献し, あるいは害を及ぼしたか, というところ大切であるのに, それよりもその人間がいかにして憂き世からあの世へ行ったか, つまりその死に方が重視され, そこに究極的な価値判断の基準がおかれる。(世, 5, 39)
- そしてそれからでも既に 40 年を閲してゐる。(農, 6, 25)
- 父兄の負担を軽くしつつ, 実際社会に早く子弟を送り出すという年限短縮の要求からいっても, かかる措置はとくに予想されていたに相違ない。(朝, 5. 6, I)
- 今日の日本に, 批評精神は地を払ってついに見られない。(人, 5, 85)
- 安本発表の経済白書は, 単に日銀券発行高の増減のみから, インフレの進行を判断し, 廿三年度を通じて, インフレ進行の鈍化を結論している。(エコ, 5. 11, 10)
- 現に新制中学卒業生の大半の学力低下を伝えられているではないか。(朝, 5. 6, I)
- たとえば中国における中国共産党の驚異的な進出はソ連にとって別に同險をせずともソ連的勢力の拡大になるのである。(東, 5. 7, I)
- それと同様に, つねに不安定を求めてやまぬ精神にとっては, ～(人, 5, 48)
- 二人とも互いに愛情を感じ合っていて楽しんでいる所へ, スーザンが来て, 姉が自分の恋人を盗んだと憤慨した。(映, 6, 13)
- したがって封鎖という最も危険をはらんだ問題が解決されても, それが直ちに冷い戦争の終結を意味するものでないことは外電の解説が伝える通りである。(東, 5. 7, I)
- その踏み切りをとほると, わりに広い通りのかなたに, おもひのほか, ちかくに, 湖水が, (つまり, 諏訪湖が,) 見えた。(文, 7, 80)
- 自動車の中であんなに元気だった正広君が, 車からおりた途端に急におとなしくなってしまったので, 僕はオヤッと思った。(キン, 7, 32)

○時には食パンの軟かいところを細かく砕いて牛乳に入れたパン粥もよいでしょう。(婦友, 5, 86)

○~, 初め一さじくらい御飯粒を入れておまじりにし, 粒の量を徐々に増して, 次第に全粥に近くしてゆきます。(婦友, 6, 86)

○第一に, 中央, 地方, 特別各会計のそれぞれにおいて行政整理と首切りにより, 赤字負担を官公廳職員ならびに現業労働者の犠牲に転嫁している。(エコ, 5.11, 10)

○これをしも「~」といえる作業であろうか……まかり間違えば, 小さい命は一瞬にして碎け散ってしまうではないか——(キン, 7, 32)

〔II〕接続助詞

①前おきを述べて本論の内容の叙述に接続させる。

○~, このような自由の原理は, 要するに内面的な自由のことであって, はじめにわれわれが問題としていた, 国民的自由や政治的自由とは, 何の関係もないと考えられるかも知れない。(世, 4, 22)

○しかし, 一枚皮を剥ぐと, 要するに, 公債, 地方債へのシワヨセの代わりに, 直接人間生産力や民族産業, 中小企業, 農業等へのシワヨセになっていることがわかるであろう。(エコ, 5.11, 10)

○思うに, 世界平和の維持は, 理念だけでは充分ではない。(資料外)

②逆説条件。(〔~もあろうに〕, 212 ページ参照。)

〔III〕並立助詞

○事物を列挙する。

(イ)添加・つきもの・とりあわせ・対比。

○~, 山高帽に黒背広の二人の少年が梯子の両端に掴まったまま, ~ (キン, 7, 32)

○ぼたんに唐獅子, 竹に虎。(資料外)

(ロ)並列・列挙・枚挙。

○「戦争前は, 駅の売子が, “ビールにマサムネ, アンパンにキャラメル”と, どなって歩いたもんだよ。」(資料外)

(ハ)動詞を重ねて, 強意をあらわす。

○風が出て, 波が次第に高くなる。目指す初島はすぐ目の前にせまった。皆張り切って, 漕ぎに漕ぐ。(資料外)

〔~には~するが〕

○「あす来るかい?」「うん, 行くには行くが, 何時に行けるか, ちょっとわからんよ。」(資料外)

〔IV〕終助詞

○惜しむ気持。「(う(よう)に)」の形が多い。

- 「でも、御仲人のあなたが、もっとよく御調べになったら、こんなことは起らなかったでしょうに……ねえ邦男さん。」(ロマ、9、107)
- 「姉さんも兄さんの官職についている時に亡くなったのなら、さぞ盛大な告別式が出来たんだろうになあ、もうこういう世の中になっては、まるで人情紙の如しだからな……」(婦生、9、23)

51. ね(ねえ)

〔I〕終助詞

①軽い詠嘆の気持を含む判断。

- 「いい柄ね、ちょっと見せてえ」(ロマ、6、54)
- 「ばかね、あんたは一人になりゃしない。」(少女少女、10、63)
- 「マア 買ったばかりのテブクロもうなくなしたの！あきれたひとねッ」(ひま、12、28)
- 「マア、素晴らしいお部屋ねエ……」(世、12、78)

〔そう(一だ・です)ね〕(間投詞的な用法)

- 「そうねー関西、九州の方で、北海道迄はまだ参りませんの。」(音、9、34)
- 「そうね、マダムにでも紹介しておもらいなさるといわ。」(宝、9増、14)
- 「あたし？ そうねエ……。じゃ、あなたは、何を今、考えてるの？」(世、12、67)
- 「そうです、しゃべったり、ラジオをきかせてくれたり、タバコの火をつけてくれたり、一定の時間をきめておけば、ちゃんご飯もたくし、味噌汁もつくります。」(少女少女、8、46)

〔～わね(一え)〕

- 「まるで魔法使のおばあさんのようなかっこうだったわね。」(少女ク、9、42)
- 「えらいわねエ、話にきいたけど！」(文、8、79)

②軽い主張、念を押す気持。

- 「沢村投手は、日本の生んだほんとうに偉大な投手だと思いますネ。」(キン、9増、117)

- 「生物の場合には 全く同じものができてないので 人造というほうがいいような気がしますね。」(科, 6, 17)
- 「しかし面白いのは, フランスへ行った人がみんな自分のいった頃のフランスが一番いいと思っていることだね。」(文, 8, 58)
- 「いくら金持ちでも, いくら貧乏人でも, それ相当に楽しめる世界だからね。」(文, 8, 58)
- 「コーヒーと小っちゃなパンだけですからね。」(文, 8, 59)
- 「こっちだって, 日曜娯楽版だからねエ。」(婦画, 9, 86)
- 「冗談も, 云わなきあならんとなると楽じゃないからねエ。」(婦画, 9, 86)
- 「これ聞いた時, 小生は泣いたね。」(ロマ, 6, 70)

③同意を求める。返答を促す。

- 「ずいぶんやられたやうですね。」(文, 7, 38)
- 「しかし, 大分僕よりお若いんですね。」(婦画, 9, 86)
- 「平均風速というと 20 分間の平均風速でしたね。」(科, 9, 11)
- 「竹山さん建物が風でやられる場合は瞬間風速が問題ですね。」(科, 9, 11)
- 「あなたは始めには, 襦をピンゾロに揃へてといふやうなことを前に言ってらっしゃいましたね。」(文, 7増, 36)
- 「われわれのゆく前には, パンがもっとうまかったさうだね。」(文, 8, 59)
- 「厨子王はかなしかったでしょうね。」(少女ク, 6, 55)
- 「あんな大雪星はめったにあらわれないでしょうね?」(少年少女, 8, 42)
- 「じゃ, この頃は取締りがやかましくなって, やりにくいでせうね。」(文, 7増, 38)
- 「わあ きれちゃった ごめんね」(幼ク, 11, 30)
- 「本当にいらっしゃいね。」(婦朝, 6, 27)
- 「もう, こんないたずらはしないね。」(資料外)

④質問・詰問。

- 「なにかかいてありますよ かぎのぼんごうですよ」「なんとかいてあるね」(少年ク, 11, 15)
- 「どうだね やっぱりだめかね」(少年ク, 12, 14)
- 「三人の中では白木君が戦後派のピッチャーだが, 戦争前の野球と較べたら, 今の打撃そのものが, 昔と今と大分違って来ていやしないかね。」(野

界, 7, 20)

- 「いいバッターが出て来たのか、それとも昔の人の技術が向上したというわけかね。」(野界, 7, 20)
- 「なんですね, おかしなことを。」(幼ク, 10, 23)

〔II〕 間投助詞

○語勢を添える。または, 単なる声のつながりのためにさしはさむ。

- 「私ね, 愛ということばが空の星みたいなきれいな事に思われて仕方がないのよ」(婦画, 7, 73)
- 「僕がね, 音楽学校に入学したとき, むこうはね——とここでお茶の間の方を指さしながら——最上級生で, 僕は最下級生でしょう。」(音, 8, 45)
- 「それはね, 菊五郎さんの芸がこわかったのも事実ですが, わたしはわたしなりに, その人の一番素晴らしい芸の発揮されるのは舞台であると思っていましたので, 生じか手を取って教えられるよりも, 舞台を幾度も幾度も拜見して, 自分なりにきわめつくすのが——等いいと考えていたものですから……。」(キン, 10, 91)
- 「そして, そして……私をね, お金持の家へ, お蔭にやろうとしているんです」(ロマ, 9, 98)
- 「僕はね, 大体惚れっぽくてね, 学生時代女に惚れてばかり居たんですよ。」(音, 8, 45)
- 「この間も 会議会で, 『日曜娯楽版は怪しからん』と言ってきた。」(婦画, 9, 86)
- 「それが最近ヒョッコリ出て来てね, 時どき見るんだけども, 五十銭より高いものはないんですよ。」(文, 7増, 72)
- 「もっとも, 私自身もまだまだ子供だと思っていましてね, こんな玩具を喜んで弄っております。」(婦友, 6, 36)
- 「ほんとに鉄火場っていったら丁半が一番の主だったんですがね, 札事のはうが勝負が早いんですよ。」(文, 7増, 36)
- 「でも私達のお友達でね, 在学中に結婚なさった方が一人あるんです。」(婦友, 7, 35)
- 「海老フライが “時価に依る” でね, それ以外の食べ物は全部五十銭です。」(文, 7増, 73)
- 「実はね, 早速その目黒のアパートに寄ってから行くつもりだったんだけどつまらない議論で時間をむだにしたらしいわ」(婦画, 7, 74)
- 「今朝ね, あんたにおわかれのつもりで, これかいたのよ」(少年少女,

10, 63)

- 「しかしね、大人を材料にしてからかうのはどうかね、少しはこっちの人權も認めて欲しいな」(キン, 10, 103)
- 「でもね、これまでとちがって、学校を卒業したんだから、一度は帰らなければね」(ロマ, 9, 88)

〔あのね〕

- 「あのね、七月の十五日が兄さんの誕生日なの。」(婦朝, 6, 27)
- 「あのね、きょうはね、泳ぎ競争でなくて、だれが一番長く水につかっていることができるか、その競争をやろう」(銀, 8, 30)
- 「あのね、本でよんだんだけど、やつらは友くいするんだって……」(少年少女, 10, 12)
- 「おじいさん、あのね、あのね、たまき、お願いがあるのだけれど。」(少女ク, 8, 24)
- 「ちょいとお耳をかして あのね あのね ムニャ ムニャ」(スタ, 12, 101)

〔だね・ですね〕

- 「それは、だね、べーちゃんの……」(文, 6, 82)
- 「巨人大映戦の賑やかな日に挨拶に出てですネ、いろいろとお感じになったことがあったと思うんですが、その見たまま、直感したままの日本野球に対するお感じを、最初に話して貰おうか……」(キン, 9増, 116)
- 「とにかくですネ、死ぬことなんて何でもないことなんですよ、全くさうなんですよ、〜」(人, 8, 40)
- 「これがですネ、文学的に立派なものならまた別ですが——」(ロマ, 6, 63)

52. の

〔I〕 格助詞

①体言について、後続の体言がその体言に所属するものであることを示す。

(イ)所有主。(後の体言が前の体言の持物・属性などの場合。)

- ガン吉のバットからとびだした猛球一ぱつ！(野少, 6, 42)
- 二人とも互いに愛情を感じ合って楽しんでいる所へ、シーズンが来て、姉が自分の恋人を盗んだと憤慨した。(映, 6, 13)

- 離乳にかゝるときは、その前に医師の診察を受けて赤ちゃんの栄養状態を調べてもらいましょう。(婦友, 6, 86)
 - ～, ほのぼのと温められた私の心は、こうした熱い折りの心でいっぱいなのであった。(婦友, 6, 27)
 - 日本女性の優しさ……私はふっと見せられた気がして、～(婦友, 6, 27)
 - いま封鎖解除に応じたソ連の意図については、西欧側にも種々の観測がある。(朝, 5.7, I)
 - ～, これらの点も考え、かつ警察の機動性を発揮し、国家警察と地方警察の連絡がうまくゆくよう改革を考慮していたが、～(朝, 6.20, I)
 - 二人は、首をちぢめて、外套の襟を、たてた。(文, 7, 80)
 - 植物の葉のC量が品種の近似したものについては略々近似していて、～(農, 6, 6)
 - ふしぎ、ふしぎ、くすりのききめはたちまちです。(野少, 6, 43)
 - ～ 中共軍は華南の心臟部へひた押しに進撃を続けており、～(東, 6.6, I)
 - また 輝線の長さは 偏向板に加わる電圧に比例するので 空電の強さをあらわすことになる。(科, 5, 37)
 - 政治協商会議予備会議の任務は、必要な準備工作を終え、～, 全中国を統一するにある(朝, 6.20, I)
 - 池田大蔵大臣が廿四年度予算案の特徴としてあげた第二点は、～(エコ, 5.11, 10)
 - 学制上の形式を整えただけで教育の内容もこれにともなって向上すると考えることは～(朝, 5.6, I)
- (ロ)執筆者・発信者・主催者・主演者など、後の体言の作成行為をなした者。
- まるで光琳の豪華けんらんな金屏風でもめぐらしたような、百花の咲きにおうそのお庭のうつくしさを、～(ひま, 6, 52)
 - ～, ジョージ・サンダース主演のシリーズ物や、ヘンリー・フォンダの「大きな街」などを演出した。(映, 6, 12)
 - 花山教授からBC級死刑者の遺書を示され、～(世, 5, 39)
 - 例えば、前記時報第六号所載の東京高等裁判所の意見書参照(法, 5, 51)
 - ～それが測候所の記録と殆ど一致しているという報告さえある。(科, 5, 36)
 - 週央には池田蔵相の減税、資産再評価に関する談話が出たが～(東, 6.6, I)
 - 同課風紀係の情報によると～(東, 5.29, III)

- 彼の話を聞き、彼のハンサムな姿を見ている中に、年頃娘のスーザンは～
(映, 6, 12)
- ～軍国主義に毒された人々の足跡を残そうなどという意思是、～(世,
5, 39)
- 最近におけるソ連側の世界的な平和運動もその反映である。(朝, 5.7, I)
- ～全国各地におこっている税務署員の不正事件の実態について～(東,
5.29, III)
- ～でローマ法王使節大司教の野外大ミサに参列 (朝, 5.19, II)
- ころころ, ころころと, 蛙の音がきこえてきます。(ひま, 6, 52)
- ～, カチカチ, カチカチと秒針の音がきこえてきます。(ひま, 6, 54)

〔～のせい〕

- ～, 由比の『ひっこみ思案』の性質のせゐであつた。(文, 7, 80)
- うたたねのせいか, 背すじがぞくぞくと寒氣立っています。(ひま, 6, 54)
- 気のせいか, 顔色がすこし蒼ざめて, ～(ひま, 6, 52)

(ハ)所属の団体。(“～に属する”の意。)

- ～の改正については、衆議院の選挙法改正委員会および民自党内の選挙改正委員会の両方で研究を進めている(朝, 6.20, I)
- 民主野党派の苦米地党最高委員会委員長, 橋樑最高委員らは地方遊説のため十九日新潟にきたが, ～(朝, 6.20, I)
- ～, 政府の指導的将領はいずれも個人的利害にきゅうきゅうとしているので, ～(東, 6.6, I)
- 中共上海軍管制委員会のスポークスマンは～について記者団に次の如く言明した。(東, 6.6, I)
- ～, 従つて, 前記衆議院法制局案が, 最高裁判所の裁判官に在職した者のみを挙げるのに対して一步を進め, ～(法, 5, 51)
- ～, 裁判所の精神病医のビーミッシュ博士は, ディックに刑を宣告すれば, スーザンの心の痛手は生漉癒らないから, スーザンとディックを充分に交際させて, スーザンが彼に飽きるのを待つ方が得策だと云つた。(映, 6, 13)
- さて わが国では 名大の金原教授が早くから空電と雷雨の關係に着目して空電観測の研究を続けて来ているし～(科, 5, 36)
- 東大工学部の学生四百人が花山教授からBC級死刑者の遺書を示され, ～(世, 5, 39)
- 監督のアーヴィング・ライスは新人で元來は脚本家であるが, 一九四〇年からRKOの専属監督となり, ～(映, 6, 12)

- サーカス団のゴロツキ共と争っても、斷乎、この非道を暴かなくてはならない。(キン, 7, 32)
- ディックは留守だったが彼女はモデルだと云って、アパートの係りの少年に、ディックの部屋へ入れて貰い、～(映, 6, 12)
- ～、十日ほど、たいざいしたとき、宿屋の番頭に、二三日まへに出たのがあるから、(もっとも「一年ほど、休んでゐたのですが、……」)と、すすめられて、よんだのが、その女であった。(文, 7, 80)

(二)なんらかの関係(人間関係・数量関係・空間関係 etc.)の基点となるもの。

- ～、一切の犠牲負担を学童の父兄その他一般地方民に転嫁しているではないか。(エコ, 5.11, 10)
- そしてこのような克己と自覚の自由において、われわれが自己自身の主となる時、～(世, 4, 22)
- 夏の下痢は、冬の肺炎と共に赤ちゃんの二大強敵と言われます。(婦友, 6, 86)
- 数絵はお嬢さまのあいてをして、トランプをひらいたり、～(ひま, 6, 54)
- その折山に布の厚さの二倍ほどの深さにミシンをかけます。(婦友, 6, 73)
- 本予算案がその作成基礎とする物価に対する折込賃銀を三七〇〇円の一・六六倍、すなわち六一四二円ベースという低賃銀に算定し、～(エコ, 5.11, 10)
- こいつのおかげで、犬のまねをしたのかと思うと、二人とも、くやしさをいっばいです。(野少, 6, 43)
- 飄箆池のはずれに小屋をかけている石橋サーカスの前に着いた。(キン, 7, 32)
- ～ということは、「巢鴨の門」(肉体の門、大学の門、のあとに!)とか「巢鴨生活みたまま」といった低俗な標題のつけ方にも現れており、～(世, 5, 33)
- お嬢さまの膝のうえや、寝床のまわりに落ちるのです。(ひま, 6, 54)
- 界雷とは 不連続面において冷い空気が暖い空気の下に匍いこんで～(科, 5, 36)
- 自動車の中であんなに元気だった正広君が、～(キン, 7, 32)
- ふたたび、時間は空間のうちに没入してしまったのであろうか。(人, 5, 84)

- さうして、その、家と家とのあひだに望まれる、湖水の鉛色の水が、海のやうに、はげしく、波立ち、その湖水のうへに、灰色の雲が、ひくく、たちこんでゐる。(文、7、80)
- 数絵は呼吸をつめて、窓の外へ近よってゆきました。(ひま、6、54)
- 二人が、三四日、たいざいするつもり、みづらみ館は、その湖水のすぐそばの、右がはに、あった。(文、7、80)
- さきの資格審査で不合格となった官公私立専門学校三十一校のほか、保留や未申請の高等専門学校を合せて約百九十校が短期大学の対象となり、
～(朝、5.6、I)

(ホ)存在の場所・位置。

- ～愛知県彌富町の近鉄電車彌富駅で～(朝、5.19、II)
- ～気象台でも北川技官らによって埼玉県大和田の旧海軍施設で破壊を免れた空電測定器をうけついで研究が行われ～(科、5、36)
- 中共軍は五月卅日揚子江河口の崇明島に上陸、～(東、6.6、I)
- さて、そのせまくなった町を、半町ぐらゐ行くと、左がはの、ブラックだての、長屋の売店が、とぎれる。(文、7、80)
- それは、美濃大井町の知人をたづねるのが目的であつたが、その途中で、上諏訪に、一泊する、といふことが、由比の、ひそかな、たのしい、目あての一つであつた。(文、7、80)
- 連合政府の政治的基礎は中共、各民主党派、各人民国体、各界の民主的分子、国内少数民族、海外の中国人である(朝、6.20、I)
- ～、広東香港の政界軍事筋は崩壊しつつある国民党政権はもはや救えない(東、6.6、I)
- ～、ワルソーの東欧外相会議においてソ連の主張が再確認された事実を想起し、～(朝、5.7、I)
- 枕もとのお盆のうえにのせた散薬の袋と水ぐすり、～(ひま、6、52)
- ～、ガン吉の左うでの、おかあさんが持たせてくれた時計が～(野少、6、42)
- ～洋上遙かな気象現象や山岳地帯の気象現象の推移を～(科、5、37)
- ～ヨーロッパ西部や北大西洋の不連続線や～(科、5、36)

(ヘ)抽象的な場所。(“～における～”の意。)

- こゝに論理上の欠陥はほとんどないといえよう。(東、5.6、I)
- 学制上の形式を整えただけで～(朝、5.6、I)

- ～やがては国際間の問題となる日があることを思い、～（東，5.7，I）
- ベルリン封鎖を解除し，ドイツ問題処理をめぐる四国外相会議を開こうとする西欧とソ連との間の交渉はついに成功し，～（朝，5.7，I）
- ～を終った陳毅將軍指揮下の第三野戦軍四十万が～（東，6.6，I）

(ト) 選擇の範圍。（“～の中の～”の意）

- このような結果を見ると，長方形植と正方形植との何れがよいかと思いつうのも無理からぬことである。（農，6，22）
- 栄養のよい場合の離乳法の一例（婦友，6，86）
- 五月末開かれる日教組全国大会はこの問題を議題の一つにとりあげるだろうという。（東，5.6，I）
- 在野法曹の一員なるが故に今日甲説を主張する諸家は，～（法，5，51）
- 現に新制中学卒業生の大半の学力低下を伝えられているではないか。（朝，5.6，I）

〔～分の～〕（分数のあらわし方）

- ～，参議院で否決されても衆議院で三分の二の再可決で押切る覚悟でやらねばならない（朝，6.20，I）

(チ) 存在の時刻・時期。

- 昭和九年の十月二十九日の，午前八時三十分ごろに，新宿を，出る汽車に，由比は，乗った。（文，7，80）
- ～，この一作で四七年度の書下し脚本に対するアカデミイ賞を獲得して注目を浴びた。（映，6，12）
- 明春の参議院選挙には民自党としては八十名くらいの当選を目標とし，～（朝，6.20，I）
- 夏の下痢は，冬の肺炎と共に赤ちゃんの二大強敵と言われます。（婦友，6，86）
- 今日の教育は国民全体のための教育である。（朝，5.6，I）
- ～，現在の軍事情勢は掃討戦の段階に入っており，～（東，6.6，I）
- ～，最近の手数料が実質的に引上げられているため～（東，6.6，I）
- 従来^の気象観測の結果と対照して～（科，5，33）
- しかし，世界平和に責任ある四国外相は，この世界の重大な岐路に立って国交調整に全力をつくすであらうし，われわれは世界平和のため，その成功を期待しつゝ今後の経過を見守りたいのである。（朝，5.7，I）
- またこの書は特に共產主義のみを批判しているわけではなく，ヒトラーやムソリニ時代のいわゆるファシズムについても完膚なきまでに批判し去っているのである。（東，5.6，I）

②体言について、その体言が後続の体言の属性に当ることを示す。

(1)性質・性格・状態。

- ～大部分が廿二、三才の青年、中には芸者を身請けしていた者なども～
(東, 5.29, III)
- 人工栄養、混合栄養の赤ちゃんは、その必要がないわけです。(婦友, 6, 86)
- ひげの男は、砂漠の入口にテントをばって、～(野少, 6, 41)
- 在野法曹の一員なるが故に今日甲説を主張する諸家は、明日在野の法曹の間に身をおけば、また乙論を支持するものにあらずと何人が保障し得ようか?(法, 5, 51)
- さて、そのせまくなった町を、半町ぐらゐ行くと、左がはの、バラックだての、長屋の売店がとぎれる。(文, 7, 80)
- 友禪もようのお振袖を着た、みあげるのもまばゆいほど、神々しい顔立のお嬢さまが、～(ひま, 6, 52)
- 二十ワットの電燈の白い笠がみえています。(ひま, 6, 54)
- 最近に至ってブラウン管利用の直読式の瞬時型測定器が試作されている。
(科, 5, 36)
- 普通離乳の第一歩は、重湯、葛湯、半熟の卵黄からですが、～(婦友, 6, 86)
- ～、その湖水のうへに、灰色の雲が、ひくく、たちこんでゐる。(文, 7, 80)
- ～ブラウン管の螢光板にはそれぞれ上下水平 合成方向の輝線を生ずる。(科, 5, 37)
- ～久秋初子(二二)さんは～、ひん死の重傷を負わされた(東, 5.29, III)
- 民主同盟系の文匯報によれば杜氏は～(東, 6.6, I)
- 簡易裁判所判事及び副検事の兩者については、在野法曹方面において、これを積極的に認むべしとの強い意見があり、(例えば、前記時報第六号所載の東京高等裁判所の意見書参照)又、別に、～(法, 5, 51)
- 三年制の高校、四年制の大学を全国一律に実施せねばならぬと～(朝, 5.6, I)
- ～、保留や未申請の高等専門学校を合せて～(朝, 5.6, I)

[～ての]

- ～、他の条件をそのままにしての繰入金停止は、～(エコ, 5.11, 10)
- ～この日三井本社などが菱本社に比しての割安もあり買われた程度で、～

(東, 6.6, 1)

○社会的動物としての人類にとっては、～ (世, 4, 22)

[～と(へ・から・まで・で etc.) の]

○その夜マーガレットは、ディックをスーザンとの交際から解放させ様と思
ったし、～ (映, 6, 13)

○ベルリン封鎖解除はかくて西欧ソ連間の国交調整への道を開くものとして
世界に一脈の明るさを投じてはいるが、～ (朝, 5.7, 1)

○ただここで問題となることは この型では空中線の鋭い受信方向からの空
電しか記録されないから 極めて短時間に出現し 消滅し かつ方向移動
の激しい空電源からの空電を逸するおそれがあるという欠点をもつことで
ある。(科, 5, 37)

○～協定成立に至るまでのソ連の態度の急変であり、～ (朝, 5.7, 1)

○～, ここの生活は、なに不自由ないと云えばその通りなのですが、～
(ひま, 6.52)

(ロ)材料。(「～でできた～」の意)

○半熟玉子や卵黄だけの茶碗蒸などにして、 $\frac{1}{4}$ くらいずつ増してゆき、約十
日で全卵一箇が食べられるようにします。(婦友, 6, 86)

○～, 池にかゝった丸太棒の橋を渡る途中、～ (映, 6, 13)

○何枚も重ねた綸子や緞子の夜具が敷いてあって、～ (ひま, 6, 52)

(ハ)数量・順序。

○明春の参議院選挙には、民自党としては八十名くらいの当選を目標とし、
残る二十数名の六年議員と合計して百名の参議院内勢力にしたい、～(朝,
6.20, 1)

○一個の人間がいかに生きたか、～ (世, 5, 39)

○～, 四頭の馬の上にキャルマタ姿の少年少女が～ (キン, 7, 32)

○～, このように複雑に見える問題も一つの法則に従っているのである。
(農, 6, 25)

○主食は、白米を十倍の水で軟かく煮て～ (婦友, 6, 86)

○二・三の場合をあげると、～ (農, 6, 6)

○中共としては～にかんがみ現在よりも多くの外国船が中国に出入すること
を望んでおり、～ (東, 6.6, 1)

○～, 補給金を通じて極めて少数の特定大資本にのみ利潤を保証(～)せし
むるところの、～ (エコ, 5.11, 10)

○～, 若干ずつの例外を規定している(同第五条)のであって、～ (法,
5, 51)

- これほどの折鶴を折る間、寝ていたのかと思うと、～（ひま、6、54）
- ～、その人生行路の上にとれほどの明暗があったであろうか。（朝、5.7、I）
- 次に、第二の、前任地における登録制限の問題を考えよう。（法、5、51）
- 〔～（数量を表わす語または不定稱指示語）の～もない〕（完全否定）
- 今日、驚くべきことにひとりの政治批評家も存在しないではないか。（人、5、85）
- ～、個人の誠実などといふものがなほほどの力も発揮しえぬことを、～（人、5、85）
- ～、このような自由の原理は、～のことであって、～とは、何の関係もないと考えられるかも知れない。（世、4、22）
- 機能は自己の性能の伸張以外になんの目的もたぬ。（人、5、84）
- ～ソ連にとって何等の利益をもたらさない状態に～（東、5.7、I）
- （二）サ変動詞の語幹となる体言（主として漢語）について、その体言が、後続の体言に関連する動作内容であることを示す。
- （「～する（した etc.）～」の意）
- 吉村政事件調査の結論で意見対立の参院在外同胞委員会は、～（朝、5.19 II）
- 同島守備の全政府軍は投降した（朝、6.6、I）
- 安本発表の経済白書は、～（エコ、5.11、10）
- 日本ハトレース協会本社後援の函館——東京間七百キロ長距離レースは、～（朝、5.19、II）
- 気象台現用のものでは12分にI回転（科、5、37）
- （ホ）形容動詞の連体形語尾に準ずる用法。
- われわれが本予算案をもって、インフレを克服するものではなく、それを悪質のものに内証せしめるに過ぎないと断じたのはこのことである。（エコ、5.11、10）
- 植物体のC量の変化とかC量に対する外的条件の影響とかについての研究業績は可成の数に及んでいる。（農、6、6）
- ～、右の僅少の例外としては、特定の学校において、一定年間、特定の法律科目に関する教授又は助教授等の職にあってこれを講義研究した者のみを規定し、～（法、5、51）
- いま封鎖解除に応じたソ連の意図については、西欧側にも種々の観測がある。（朝、5.7、I）
- ～、左右両極思想との対比、特に現在における新しい独裁思想の台頭につ

いて、相当のページを割いて注意を与え、～（東、5.6、I）

- しかしもっとも重要にして本質的なことはこれらの多様の流通手段の流通量のうち、ますます多くの割合が、ますます少数の大資本家の手中に歸し、～（エコ、5.11、10）
- この輝線を特殊のカメラで撮影しこのフィルムを使って電送写真などを應用すれば～（科、5、37）
- われわれは平等の立場で相互利益、相互尊重の外交関係をたて、～（朝、6.20、I）
- これをわらって見ていたガン吉とダンちゃん、あまりのこっけいさに、こんどはかわいそうになりました。（野少、6、44）
- 乳しか飲めなかつた赤ちゃんも、いろいろの物が食べられるようになりましたね。（婦友、6、87）
- ～、これをべつ次元からみれば、～（人、5、84）

（へ） 体言についてその体言が後続の体言の範囲・領域を示す場合。

- ～、大衆の一部の人々には新聞記事に似たこの文体が～（世、5、39）
- ～としてこの法律の適用を受けるのは旅館、外食券食堂、メン類外食券食堂、軽飲食店（大部分の料理飲食店）喫茶店のみとなる（朝、5.19、I）
- なお贈附側は会社、古物商、飲食店などを筆頭にほとんど全部の業種におよんでいる（東、5.29、III）
- 本予備会議の開会は急速に新政治協商会議を開き民主連合政府を成立させ全中国を統一させるために必要な一切の準備をすることである（朝、6.20、I）
- ～、帝国主義者、封建主義者、官僚資産階級、国民党反動派を除くすべての人物はわれわれの友人である（朝、6.20、I）
- 貧血は母乳以外の食物や造血劑を与えていけば治ってきます。（婦友、6、86）
- ～、恐らく田植が行われるようになって以来の古い問題であろう。（農、6、25）
- 又、別に、折衷論、すなわち、当分の間、一定期間の在職者について、更に一定の法律に定める試験又は選考を条件として肯定すべしとする見解（～）もあるが、～（法、5、51）

（ト） 目的の事物・関与物を示す。

（a） 目的の事物。（「～のための」の意）

- ～ キャルマタ姿の少年少女が客寄せの愛嬌を振りまいている。(キン, 7, 32)
 - ～ 批評精神の上に断罪の斧をふるふことは～ (人, 5, 84)
 - このソ連の封鎖も、米英側必死のベルリン空輸の成功によって効果は薄らぎ、また西欧側の独往的な西独工作の推進によって、これを取りの具とすることも困難となりつつあった。(朝, 5.7, I)
 - さらに一部では、その意図は西ドイツを欧州復興の支柱として再建しようとするマーシャル計画に対抗する手段とさえ見られていた。(朝, 5.7, I)
 - ～陸海軍では航空作戦の資料を得るため～ (科, 5, 36)
 - ～、さらに「四大国協力の最後の機会」といわれた一昨年十二月のロンドンにおける四国外相会議が決裂して以来～ (朝, 5.7, I)
 - いまなほそれを自己の行動の基準としてゐる自意識家は、～(人, 5, 85)
 - 批評家攻撃の低劣な矢弾が、いまなほさかんに放たれてゐる。(人, 5, 85)
 - 中さんは如才なく、すく立上って外出の支度をはじめた。(キン, 7, 32)
 - 新中国誕生の基礎となる新政治協商会議の予備会議は～ (朝, 6.20, I)
 - ～、さっき自分たちがかけられたくすりのつぼを、～ (野少, 6, 43)
 - 枕もとのお盆のうえにのせた散葉の袋と水くすり、～ (ひま, 6, 52)
 - 二人は、～、輸出の麻糸真田の工場にかよっていました。(ひま, 6, 52)
- (b) “に関する”の意。
- 民主主義の教科書 (東, 5.6, I)
 - そのディックと云う画家が、スーザンの通学しているハイスクールで、絵の講演をすることになった。(映, 6, 12)
 - 吉村隊事件調査の結論で意見対立の参院在外同胞委員会は、～ (朝, 5.19, II)
 - ～第一線官吏の汚職事件の責任などについて～ (東, 5.29, III)
 - ～、それに附随して輸出入補給金の制度が生れており、～ (エユ, 5.11, 10)
 - 統一ドイツの問題その他について～ (東, 5.7, I)
 - 日銀券発行高の増減率は、インフレの一つの重要指標ではあるが、～ (エユ, 5.11, 10)
 - むずかしい仕事の手加減をおぼえてしまうと、～ (ひま, 6, 52)
 - 赤ちゃんの夏の離乳の心得 (婦友, 6, 83)

(チ) 同格の関係で修飾する。

- (a) 同じ内容を違った語で表現して結びつける際のつなぎ。

- そこに御主人のテイラー軍曹が入って来た。(婦友, 6, 27)
- その為にスーザンのボーイ・フレンドのジェリイの気を悪くさせたりした。(映, 6, 13)
- 監督のアーヴィング・ライスは新人で～ (映, 6, 12)
- ～, 資格問題を, 裁判官, 検察官及び辯護士の三者に共通して考えれば, ～(法, 5, 51)
- 西洋婦人の帽子の原料のながい, ながい紐になって, ～ (ひま, 6, 25)
- ～, 農村, 一般労務者用には必需衣料の作業衣, 下衣類, 手ぬぐい, 地下タビなどを重点配給し, ～ (朝, 5.19, II)
- ～高い天幕のてっぺんではハシゴ乗りの曲芸が始まっている。(キン, 7, 32)
- ～, 高等裁判所長官又は判事の職に在った者をも加えるべく, ～ (法, 5, 51)
- ～同時観測を行えば～『当らない天気予報』の悪評を除くことも単なる夢ではあるまい。(科, 5, 37)
- 一体このような問題は, どちらがよいかという問題ではなく, 自然条件や他の栽培条件等の栽培環境に対しどちらが適応するかの問題である。(農, 6, 25)
- ～一二七二五の番号を手懸りに～ (朝, 5.19, II)
- ～, 予算面には, この補給金の形でのみ出していた。(エコ, 5.11, 10)
- それならば, 小説家の名において, あるひは実践家の名において, 限度を知らぬ批評精神のうへに断罪の斧をふるふことは～ (人, 5, 84)
- それこそは, 一般産業界において極く少数の巨大独占資本のみの救済のため「集中生産」と「企業合理化」の名の下に強行しつつあるところの～ (エコ, 5.11, 10)
- ～, 生活補助費の名目で無理矢理押付けられた少額の借財に～ (東, 5.29 III)

[～ところの]

- いわゆるプロレタリア独裁と結びついたところの共産主義は～民主主義とは非常に違った性格を持っている。(東, 5.6, I)
- 今や, 池田大蔵大臣のいうところの「ディスインフレ予算」とは, ～ (エコ, 5.11, 10)
- ～, すべての人々が究極において求めているところのものから, ～ (世, 4, 22)

[～との] (「～という」の意)

○～、全国選挙区は全廃して府県単位一本に改めたいとの意向が強く検討中である。(朝, 6.20, I)

○簡易裁判所判事及び副検事の両者については、在野法曹方面において、これを積極的に認むべしとの強い意見があり、～(法, 5, 51)

(b) 指示代名詞その他指示する語につく場合。

○この家の主人のただ一人のみよりだというので、～(ひま, 6, 52)

○ただ、これらの問題の論議に際して痛感することは、～(法, 5, 51)

○そしてこのようなものが、ソクラテス以来、トマス・アクィナスにおいても、デカルトにおいても、またヘーゲルにおいても、それぞれの仕方で見出される、真の自由の原理なので～(世, 4, 22)

○～、右の標準線と同等又はそれ以上の資格を認めるものについては、～(法, 5, 51)

○そして以上の事柄は同化作用即ち光合成とつながりがあるとされている。(農, 6, 6)

○～前記の協定が成立したことは～(東, 5.7, I)

○～、且つ、前掲の最近三カ年間における新編護士の学歴、経歴等の程度に鑑みるも、～(法, 5, 51)

○空電発生の原因としては次のものがあげられよう。(科, 5, 36)

(リ) 形式名詞に接続する場合。

○今日の教育は国民全体のための教育である。(朝, 5.6, I)

○1例として、施肥料との関係に就いて農林省農試北陸支場の試験結果を挙げると第I表Aの通りである。(農, 6, 25)

○～、中共としては目下のところは軍事行動に忙がしいが、～(東, 5.7, 1)

○即ち農林1号では、普通肥料区でも少肥料区でも正方形植の方がよい結果を示し、～(農, 6, 25)

○プロレタリア独裁の下では、存在しうる政党はただ一つ、共産党あるのみである。(東, 5.6, I)

○～はここに解除され、さらに～の開催を見ることになったのは、それだけでも世界平和の上から喜ばしいことといわねばならない。(朝, 5.7, I)

③述語が連体形で終る節(「～の～する〔活用語連体形〕十体言」の形の主語・対象語を示す。(「～が～すること」P.16, 19 参照。)

(イ)主語

○夏は胃腸の弱る時期、食物のいたみや辛い季節です。(婦友, 6, 86)

○～、すでにインフレの発展する状態の下においては、～(エコ, 5.11, 10)

- ～ 陸海軍では航空作戦の資料を得るため空電測定の研究を続けていたが実効の上らぬうちに敗戦となった事実は一般に知られていない。(科, 5, 36)
- ～, わが国今後の法曹界の辿りつくべき目標と, 現在おかれている地位からそれへの距離とその道程とを, ～ (法, 5, 51)
- そのディックと云う画家が, スーザンの通学しているハイ・スクールで, 絵の講演をすることになった。(映, 6, 12)
- 植物の葉のC量が品種の近似したものについては略々近似していて, ～ (農, 6, 6)
- ～, この原則論に対しては, けだし, 何人も異論のないところであろうが, ～(法, 5, 51)
- ～ 結局これら苦惱や危険の多い途を避けて, 不安定ながらも連携妥協による形式で与党線の強化を図るほかはないだろう (東, 6.6, I)
- 下痢しやすい夏と, 下痢の重くなりやすい離乳期が重なるのですから, 離乳は秋まで延せと言われる理由もおわかりでしょう。(婦友, 6, 86)
- ～, 形式だけ整ってもひどく内容の貧弱な新教育制度が出来上るのである。(朝, 5.6, I)
- それから, 口数がすくないのと, 口のきき方のしづかなのが特徴であった。(文, 7, 80)
- ～, 紫の房のついたたかい枕, ～ (ひま, 6, 52)
- ～, 花の咲きみだれたひろびろとした庭のなかを, ～ (ひま, 6, 54)
- ～, まるで光琳の豪華けんらんな金屏風でもめぐらしたような, 百花の咲きにおうそのお庭のうつくしさを, ～ (ひま, 6, 52)
- ドイツの欧州に占める軍事的, 経済的地位はマーシャル案に見るように戦後いよいよ確認されて来ている。(朝, 5.7, I)
- 千鶴子のいない人生は, どんなたのしいことがあっても心の底から笑えず ～(ひま, 6, 52)

(ロ)対象語

- いひぬけのたくみな批評家にとって, いったい個人の誠実といふものはどこに賭けられてみるのであろうか。(人, 5, 84)
- 「お茶の飲みたい人はいませんか。」(資料外)

④結びつけられる二つの体言のうち, 後者が動詞の連用形またはサ変動詞の語幹となる体言(主として漢語)の場合。

(イ)動作の主語。

- ～彼女はモデルだと云って、アパートの係りの少年に、ディックの部屋へ入れて貰い、彼の帰りを待つことにしたが、～ (映, 6, 12)
- ～、ディックの出入りを止める為に、～ (映, 6, 13)
- ～陳氏らの今回の帰国は毛沢東主席の招きにより中共地区を観察するためである (東, 6.6, I)
- ラジオ気象学の芽ばえ (科, 5, 39)
- ～大衆は博士の指摘によって～ (世, 5, 39)
- ～、その前に医師の診察を受けて～ (婦友, 6, 86)
- ～、鉄その他の赤ちゃんの発育に必要な成分が不足してくるためと、～ (婦友, 6, 81)
- 外国軍事筋の推定によれば、政府軍全兵力は～ (東, 6.6, I)
- ～同時観測を行えば雷雨 台風 不連続線の移動を知り～ (科, 5, 37)
- ～、特に現在における新しい独裁思想の台頭について、相当のページを割いて注意を与え、～ (東, 5.6, I)
- しかし、われわれとして最も注目せねばならぬのは協定成立に至るまでのソ連の態度の急変であり、～ (東, 5.7, I)
- 地方配付金の減少についても同様で、～ (エコ, 5.11, 10)
- ～、それが直ちに冷たい戦争の終結を意味するものでないことは～ (東, 5.7, I)

(ロ) 動作の客語。

- ～崇明島の占領により全江蘇省は中共軍の手中に帰した (東, 6.6, I)
- ～、目下問題になっている第一点は全国区の廃止で～ (朝, 6.20, I)
- 昨年六月十九日、ソ連がベルリン西欧地区の封鎖を実施してから約十ヶ月、～ (朝, 5.7, I)
- ～、家へ帰ればたった一人の妹の、十七才の青春娘スーザンの監督もしなければならぬ。(映, 6, 12)
- ～、民自党も各府県支部に命じて候補者の整理を開始し、～ (朝, 6.20, I)
- あるいは東欧におけるチトー的分子の肅正に力をそそぐためと見ている向きもあるが、～ (朝, 5.7, I)
- ～、妻子に対する愛情の表現に涙をそそぎ、～ (世, 5, 39)
- ディックは困ったが、命令の実行を断れば刑を受けねばならないので～ (映, 6, 13)
- ～、ヤミ主食をつかった一切の加工品の製造、販売を～ (朝, 5.19, II)
- ～、ケイサツ施設関係の拡張のための強制密附割当と共に、～ (エコ,

5.11, 10)

- 現に、中央財政における公共土木事業費の削減が、六・三制関係の建設費をゼロにし、～ (エコ, 5.11, 10)
- ～、特別会計においても建設公債の発行を制限し、～ (エコ, 5.11, 10)
- ～、これは昨年五月のメーデー・スローガンで毛沢東中共主席が新政協会議の開催を提唱してから一年二ヶ月ぶりのことである (朝, 6.20, I)
- ただ、これらの問題の論議に際して痛感することは、～ (法, 5, 51)
- ～、この状態で結束してゆけば野党勢力の建直しが可能であると観測している (東, 6.6, I)
- ～、百四十万人の首切りをやり、～ (エコ, 5.11, 10)

〔～の～し (動詞連用形, サ変動詞語幹漢語) + 体言〕

- ～低俗な標題のつけ方にも現れており、～ (世, 5, 39)
- 前身頃 (～) の纏方 (婦友, 6, 73)
- それから、口数がすくないのと、口のきき方のしづかなのが、特徴であった。(文, 7, 80)
- ～、数絵は、夢にしては、あまりになまなましすぎる感情のもつてゆき場所がないので～ (ひま, 6, 54)
- ～、四年制大学に落第した学校の救済策としか受取れなくて～ (朝, 5.6, I)
- 殊にこの交渉が、国連の米ソ英仏代表の努力によって成功を見たことは、世界平和の維持機関たる国際連合にとっても極めて意義深いことであった。(朝, 5.7, I)
- ヒトリズムやプロレタリア独裁の信奉者にとってこの書が面白くないことは当然であろう。(東, 5.6, I)

(ハ) 動作の対象語。

- ～とは言うものの、金のほしさよ。(資料外)
- ⑤ “ようだ” “ごとし” で受ける場合。
 - この原理は次のようである。(科, 5, 37)
 - ～、最も盛んに広く試験が行われたのは、明治 40 年代のことのである。(農, 6, 25)
 - 例によって沢村君はリスのような素早さで、車をとびおりと～ (キン, 7, 32)
 - 中共上海軍事管制委員会のスポークスマンは四日午後外国船出入問題について記者団に次の如く言明した。(東, 6.6, I)
 - ～検察庁法第一八条一項三号ないし、裁判所法第四二条一項六号及び前段

のごとき規定が設けられていると解すべきであらう。(法, 5, 51)

○通貨増発のごときは、この階級的収奪政策から必然的にもたらされる結果的現象にすぎない。(エコ, 5.11, 10)

〔II〕 並立助詞

○並列・列挙

○「あんたは、同じベッドの上で、可愛いいの、他人には渡せないのって、無理に夫婦約束をさせた女をもうお忘れになったの？」(ロマ, 9, 107)

〔～の～ないの〕

○「汽車の振動に身をまかせて、いい気持ちでいねむりしていたら、綱だなから、ふいになんとか落ちて来て、イヤというほど頭に当たった。痛い痛くないの、すっかりねむけがさめてしまったよ。」(資料外)

〔～のなんの(ぞ)〕

○「そんなじょそこらにあるって代物じゃないの、古いのなんのって、とても年代物なんだから、すぐわかってよ、え、もう今日は朝ッからお弁当ご持参というさわぎなんだから——」(キン, 10, 101)

○「きっと、誰か、色男でもこしらへて、そいつと出歩いては、先生の所へ伺ったのなんぞと、いい加減な、アリバイを作ってるに違ひないんです。」(文, 6, 89)

〔III〕 準体助詞

①用言の連体形に接して、その用言を体言と同じ資格にする。(意味上は、形式名詞「こと」「もの」etc. に同じ。)

○これとともに回復期に入った敗戦ドイツ国民の自信が高まるのも当然であって、今後のドイツ問題処理にはドイツの人心を把握することがいよいよ大切になって来たのである。(朝, 5.7, I)

○～われわれとして最も注目せねばならぬのは協定成立に至るまでのソ連の態度の急変であり、その真意である。(東, 5.7, I)

○～難しい問題に当面するのは明らかであり、～(東, 5.7, I)

○～空電の日変化 年変化などの連続的な統計的研究を行うのに適していると考えられる。(科, 5, 37)

○～、従って、前記衆議院法制局案が、最高裁判所の裁判官に在職した者のみを挙げるのに対して一步を進め、～(法, 5, 51)

○～、それゆゑにこそ、ふたたび個人の誠実が問題になってきたのにほかならぬ。(人, 5, 85)

- とすれば、あすの不安定のほうがけふの安定よりも実感をおびて存在するといふのも、けっきょくは、安定と不安定とのあひだの相互関係における不安定性を感じとることなのである。(人, 5, 84)
- 僕は身うちに憤激の血が逆流するのを覚えた。(キン, 7, 32)
- ～、あとはごく自然にぬい消すのが特徴です。(婦友, 6, 73)
- ところへやってきたのが、催眠術師の弟子です。(野少, 6, 43)
- それから、口数がすくないのと、口のきき方のしづかなのが、特徴であった。(文, 7, 80)
- それは、美濃大井町の知人をたづねるのが目的であったが、その途中で、上諏訪に、一泊する、といふことが、由比の、ひそかな、たのしい、日あての一つであった。(文, 7, 80)

〔体言＋の〕

- 所要時間は二十二時間五分で戦前のより約十時間遅かった (朝, 5.19, II)
- また下痢の中でも離乳期のは特に重くなりやすいのです。(婦友, 6, 86)
- ②判断辞と結びついて、根拠のある説明、理由の提出、回想、二重判断、強調などの意を表わす。
- (イ) 〔～のだ、～のである、～のです〕(「ん」の形にもなる。)
- ～、サーカス団ではこんな無残なリンチが平然として行われているのだ。(キン, 7, 32)
- どうしてこんなところへ私に来ることになったのだろう。(ひま, 6, 52)
- ～、決して氷炭相容れざるとき諸説の対立紛糾を来すことはないように思うのである。(法, 5, 51)
- この輝線の傾きによって方向が示されるのであるが～ (科, 5, 37)
- 母上にはそれが堪えられないのであつた。(婦友, 6, 27)
- ～、Cの生成及び移動の状態を推定する事が出来るのであつて、～ (農, 6, 6)
- それは社会全体についても、同じように考えられてよいのではないか。(世, 4, 22)
- それどころか母乳のある方が、下痢したときに治しやすいのです。(婦友, 6, 86)
- 下痢しやすい夏と、下痢の重くなりやすい離乳期が重なるのですから～ (婦友, 6, 86)
- 数絵は、ここからほっとして言わずにはいられないのでした。(ひま, 6, 54)

- 日がくれかけてきたのでしよう。(ひま, 6, 54)
- 「自費か、公費かは、こっちで決めるんだ。」(新, 10, 106)
- 「毎日ヴァイオリンをひいてるんですって？」(少女ク, 11, 93)

(ロ) [～のか]

- なぜそうなるのか。(世, 5, 39)
- 一体、ディスインフレーションとは何を意味するのか？(エコ, 5.11, 10)
- ところで、ぼくがこれまで語ってきたことは、たんなる《批評家の精神》にすぎぬものであったのか。(人, 5, 84)
- しかし二人は、どうしたら術がとけるのかわからないので、～ (野少, 6, 44)
- こいつのおかげで、犬のまねをしたのかと思うと、二人とも、くやしさをいっばいです。(野少, 6, 43)
- 然らば何が「反共的」で「一方的」であるのかといて捜し求めるならば、～ (東, 5.6, I)

[IV] 終助詞 ((連体形につく))

① 断定の気持を軽く表現する。(女性的用語)

- 「そうそ、あんたにあげたいものがあるの。」(少年少女, 10, 62)
- 「——あたしね、これから先生のところへ行って、さよならしてくるの。——」(少年少女, 10, 63)
- 「厨子王の正道は、佐渡をたずねまわって、とうとうおかあさんをさがしだしたの。」(少女ク, 6, 55)
- 「筑紫へ使をやったけれど、その時にもう死んでいたの。」(少女ク, 6, 55)
- 「あたしがわるいの」(ロマ, 12, 109)
- 「ううんたいしたことないの」(ひま, 12, 29)
- 「私 帰るわ 何もたべたくないの」(婦友, 12, 101)
- 「お父さんのおつとめのつごうなの」(少年少女, 10, 62)
- 「あいにく社用で出張中ですよ」(婦生, 12, 122)
- 「そうね—関西、九州の方で、北海道迄はまだ参りませんの。」(音, 9, 34)

[～のよ] (女性専用)

- 「クリスマスにはいつも、くつしたぶらさげてねるのよ」(少女ク, 12, 19)
- 「今の頭髪の問題だけでなく、家の中で口笛吹いちゃいけないとか、鼻唄歌っちゃいけないとか、さういふ家もあるのよ。」(スタ, 6, 16)
- 「お買物よ、うちでは月給がはいるたびにになにか一つ買ってもらうのよ」(スタ, 11, 90)

- 「いえ、あなたが、可笑しいのよ」(世, 12, 67)
- 「でも私鼻カゼだからにおいわかないのよ」(ひま, 11, 29)
- 「ほんとのサンタクロースじゃないのよ、だからね……ね、ね」(婦友, 12, 53)
- 「いま、赤ん坊が生まれたらしいのよ。」(婦画, 7, 74)
- 「安寿と厨子王の話から思いついたのよ。」(少女ク, 6, 49)
- 「私は盛岡ぐらい迄は行きましたのよ。」(音, 9, 34)
- 「ふしぎとあたしでなきゃあだめなのよ」(少女ク, 12, 16)

②質問・発問。

- 「どこへいくの？」(少年少女, 10, 63)
- 「チミちゃん、ほんといろくちやうの？」(少年少女, 10, 62)
- 「何が悲しいの？」(世, 12, 78)
- 「ねえちゃんまだ詩はできないの？」(少女ク, 11, 15)
- 「主にどういうものをお読みになりますの。」(少年少女, 9, 35)
- 「皆さん、どういう風にして、お嫁さんを探していらっしゃいますの？」(婦友, 10, 40)
- 「今日は何の座談会ですの？」(スタ, 8, 16)
- 「何故ですの？」(音, 8, 45)
- 「それから厨子王はどうしたの。」(少女ク, 6, 55)
- 「アラッ丸子さんどうなさったの」(ひま, 12, 29)

53. のて (接続助詞) ((連体形につく))

○原因・理由・根拠・きっかけなどをあらわす。前件と後件とが、原因・結果、または理由・帰結の関係にあることが、言わば表現者の設定によらなくても明らかな事実であるような事態。従って、その条件としての独立性は、「から」よりも弱い。「から」と違って、「のでだ」「のでです」のような使い方のないゆえんである。(倒置法により「ので」で結ぶことはある。順説条件。)

- 山に近いので、晝間はひどく暑いが、夜は温度がさがる土地だが、それでもむし暑さが残った。(人, 12, 138)
- が、あんまり働いたので私はとうとう病気になってしまい、畑にも田にも出ることができなくなりました。(婦生, 12, 60)
- 白い切下髪が半分隠れるくらい、黒い大きな首巻を首から肩へ巻いているので、顔も下半分は見えないが、しかし、その顔は、よく見ると、眼鼻立ちがきちんと整って、非常に品のある顔をしている。(婦生, 12, 242)

- 周囲に沢山、カフェができて様子が変わるので、その辺の女たちに山田の店を訊ねると、みんな僕の眼つきに恐れをなし、逃げたり店に引込んだり、誰も口を利こうとせぬ。(新, 12, 12)
- 裁判が中々かたづかないので、暇をもて余して毎日のやうに遊びにくる。(世, 12, 57)
- みんな甲板に出て、なんとかという歌(インターナショナル歌のこと)をうたって、波止場の人たちに手をふりました。私はその歌を知らないので黙っていました。(婦生, 12, 61)
- 例えば、ドイツの実例ではこの最低水準が炭坑夫に保証されなかったので出炭高が低下した。(エコ, 12.21, 8)
- 二十年の八月十三日の晝ごろ、ちょうどお盆なので、私は餅をついたりして墓参りの支度をしていると、班長さんが、「暴民が押しよせてくる、避難の用意をしろ」と部落を叫んでまわりました。(婦生, 12, 52)
- 内地も売れるが外地向の方が採算がよいので、チャンスを狙っているわけである。(エコ, 12.11, 37)
- 彼女は聞き手が増えたので、皆んなの顔を一とわたり見て言葉をついだ。(人, 12, 57)
- 他の連中がざわつくので、看守は首をあげて「黙譚してるのか!」としかる。(人, 12, 125)
- 表では巡査がかえってきたのか、板張りをあるく靴の音がしていた。呼びにきたので行ってみると、巡査が十人あまりも事務をとったり雑談していた。(人, 12, 134)
- 曖めでも効果がないところをみると、やはり盲腸のようでもある。かえって曖めるのがわるいかも知れないので、カイロをとって医者のを待った。(人, 12, 137)
- 月があるので、雲の流れる速さがよくわかる。(人, 12, 133)
- 喫茶店の菓子やスミなどが問題になるので、近く新しい規則を出し、ヤミ主食をつかった一切の加工品の製造、販売を厳禁する建前で運営をさせる(朝, 5.19, II)
- 自動車の中であんなに元気だった正広君が、車からおりた途端に急におとなしくなってしまったので、僕はオヤッ、と思った。(キン, 7, 32)
- しかし二人は、どうしたら衛がとけるのかわからないので、頭から水をザブーリ!(野少, 6, 44)

【～というので】

○昨年十月卅日発行された新制高校社会科用教科書「民主主義」(上)はそ

の内容が反共的であるというので、左翼陣営が問題視し、一部にはこの教科書撤回運動もある。(東, 5.6, I)

- この家の主人のたゞ一人のみよりだというので、引きとられてきたのですが、～ (ひま, 6, 52)
- これには最近発達途上にあるブラウン管を利用すれば解決できるというので試作されたのがこの瞬時型の測定機である。(科, 5, 37)
- 妾宅だからと云うので、来るのに忍びないでいるのか……。 (婦生, 12, 118)
- 毛皮は他の小動物に比して飛びぬけて高価であり、高率に回転するというので、ますます有望視されていますから、飼育内職としてご研究ください。(婦生, 12, 212)
- 國府の要人たちは回答白書を書かなきゃ、というので、台湾の蔣介石に訓令をあおいだところ、やがて台湾から指令がきた。(世, 12, 13)

〔あまり～ので〕

- 夕方などよく二階の手摺にもたれて、久吉と、英子は歌った。シューベルトの菩提樹などを、ドイツ語で歌うのであった。あまり度々聞かされるので、彼もあとでは文句を覚えてしまった。(人, 12, 156)

54. のに

〔I〕 接続助詞 ((連体形につく))

- 意味内容の衝突する(食い違ふ)事がらを、対比的・対照的につなぐ。(予想と反対の結果に対する意外・不服の気持をこめて。逆説条件。)
- ～、もう夜の二時近いのに妹がいない。(映, 6, 12)
- 概して相続税の税率は所得税の税率よりも低いのを常とするが、シャープ勧告では所得税の最高税率が五五%であるのに相続税の最高税率は五千万円超九〇%に達している。(エコ, 11.11, 9)
- 遺憾なことは、かかる大改革が行われんとしているのに国民の大多数がその内容を熟知していないのである。(エコ, 11.11, 9)
- さらに驚くべき事実は、アカハタ記者以外は一般商業新聞は勿論、社会新聞の記者さえも入場を拒否され、傍聴席には朝連の人達が約三十名も入場しているのに、地元国鉄労組に対しては民同系だという理由で二枚の傍聴券しか渡さず、東京地区四万の組合員に対し傍聴券をわずか三枚しか割当てず、来賓傍聴席とも赤一色にする作戦であった。(朝評, 12, 63)

- 研究室ではああも簡単に進んだのに工場では イソオイゲノールを純粹に多量に作るができないのであった。(科, 11, 46)
- ゆりは恵まれた環境の一人娘で、他人の眼には高峰秀子のデコちゃんにそっくりらしい。自分ではそうも思っていないのに、日劇の前で、知らない女学生にサインを求められてびっくりしたことがある。(キン, 11, 126)
- この莫大な金が投ぜられたのに、英国の回復はまだメドがつかないし、新たな危機を招いているのは、労働党内閣の社会主義経済によるものだとするのである。(キン, 11, 146)
- そこへ今度はボンド切下げに従ってインド連邦でルビーを切下げたのに、パキスタンでは涼しい顔をしているという異変が起った。(朝評, 12, 8)
- 有罪の判決があるまでは、犯人だか、罪人だかわからないはずだ。黒か白か、と議論がやかましいのに、なんとなく、有罪ときまったようなあつかいをするのは、法治国にあるまじき行き方である。(朝評, 12, 43)
- では何故に我々は、抗日が可能であったのに、抗共が不可能であったか。(朝評, 12, 26)
- 共産党は集権独裁で統治力が強いので、反乱の場合に収める能力も少ない。中央は七十万人の区域をもって、十万の兵の衣食、軍費を賄っているのに、わが方は広大な土地、多数の人民を擁しながら、都隊の衣食、軍費はなお不足である。(朝評, 12, 28)
- 聖徳太子はわが国古典デモクラシーの進歩的先覚者だった。新憲法下で他英雄の肖像は紙幣からも切手からも追放されたのに、太子独り百円札、千円札に残されている所以だ。(文, 11, 69)
- 「ねえ、武智さん、わたしの彼氏、わたしがこれほど思ってるのに、もっともわたしのことを思ってくれないのよ」(新, 7, 14)
- 「この前は右側だったのに、今度は左側だから判りにくいです」(新, 10, 91)
- 一個の人間がいかに生きたか、またいかに社会に貢献し、あるいは害を及ぼしたか、ということこそ大切であるのに、それよりもその人間がいかにして憂き世からあの世へ行ったか、つまりその死に方が重視され、そこに究極的な価値判断の基準がおかれる。(世, 5, 39)
- イタリーは運動や学術の方面でも世界に注目されるような業績をあげています。日本でも、湯川、朝永、両博士や古橋の様な人を出しているのに、映画はどうして、こう馬鹿らしいのでしょうか。(文, 11, 83)

〔～というのに〕

- もう夜も9時近いというのに研究室だけは電燈が消えていない。(科, 11,

49)

- 11月だというのに 真夏の汗を流しながら挨拶に関係官庁を廻ったり 酒をのんだりしなければならなかった。(科, 11, 48)
- 十月卅一日の東京は好天気であった。秋になったというのに雨ばかり降っていた今年、始めて天高しの日であった。(エゴ, 11, 12, 44)
- 県の認める年間適正伐採量は百五十万石、これに相応する能力は一万五千馬力というのに、現有能力はこれに倍する三万馬力もある。資源からいえば当然設備の五割は過剰になるわけだ。(エゴ, 11, 1, 23)

〔よせばいいのに〕

- 五十、六十の立派な男子が、止せばいいのに、「僕はもう少しで憲兵隊に引張られる処だった」とか「俺は軍人達にバリバリ云ひたい事を云ってやった」とか「下手まごつけば、命が危かった」とか、得意気にやにさがってゐるのを見ると、つくづく頼むに足らずと云ふ気がしてくる。(文, 11, 70)

〔II〕 終助詞 ((連体形につく))

①思わざる結果に対するあきらめ切れぬ不服な気持。希望の果たされぬうらみ。

- 「つまんないの。ロシア語なんて知ってなきゃいいのに。知らないっていえばいいのに。ねえおにいちゃん」(銀, 8, 39)
- 「おおせっかくこころざしたのに……」(少女ク, 12, 18)
- 「けっこんまえまでそんな失礼なこといわなかったのに」(ロマ, 12, 108)
- 「なーんだ、君が買ってやったのか。せっかく三を二で割る実験をしてみたのに、」(宝, 8, 69)
- 「何時でもそんな風に歌って下さればいいのに」(ひま, 10, 69)

②なじる氣持、つめよる氣持。(希望・欲求をすてきれずに。)

- 「いらないよ」「アラあげるのに」(婦友, 11, 39)
- 「どうしてさ、おとうさんのお友だちなのに?」(銀, 8, 40)
- 「それどこぢやないですよ。東京ぢゅうが丸焼けになってゐるといふのに」(人, 9, 13)
- 「婚約者同志でいらっしゃいますのに……」(キン, 8, 20)
- 「だめじゃないか。せっかく、うまくおいつめてきたのに——」(幼ク, 7, 51)

55. のみ（副助詞）

○それに限定する意を表わす。

○他方、ますます少数に集中する巨大独占資本家とその代弁者のみが、現在流通通貨のうちの一よよますます圧倒的部分を独占し、豪華な消費能力を取得している。(エコ, 5.11, 10)

○それこそは、一般産業界において極く少数の巨大独占資本のみの救済のため「集中生産」と「企業合理化」の名の下に強行しつつあるところの民族産業、中小商工業者への負担転嫁であり、～ (エコ, 5.11, 10)

○～、司法修習生の修習を終えない、単に簡易裁判所判事又は副検事たるのみに止った者は、～ (法, 5, 51)

○またこの書は特に共産主義のみを批判しているわけではなく、ヒトラーやムソリニ時代のいわゆるファシズムについても完膚なきまでに批判し去っているのである。(東, 5.6, 1)

○～、中国人には遺言尊重癖が比較的少いことをみると、この日本人の性向は儒教のみを以てしては説明しえない。(世, 5, 39)

○～従って料理を提供する店としてこの法律の適用を受けるのは旅館、外食券食堂、メン類外食券食堂、軽飲食店（大部分の料理飲食店）喫茶店のみとなる(朝, 5.19, II)

○安本発表の経済白書は、単に日銀券発行高の増減のみから、インフレの進行を判断し、～ (エコ, 5.11, 10)

○プロレタリア独裁の下では、存在し得る政党はたゞ一つ、共産党あるのみである。(東, 5.6, I)

○既往の実情が然りしが故にかく規定すべしとのみ論ずる者は、立法者の用意と目標とを持たないものである。(法, 5, 51)

○もちろん予算面にもおもてむき組み入れられることなく、いわば影の存在となっていた。たゞ、それに附随して輸出入補給金の制度が生れており、予算面には、この補給金の形でのみ出していた。(エコ, 5.11, 10)

○～極めて少数の特定大資本にのみ利潤を保証（赤字を補填）せしめるところの、巨大独占資本の政策にはかならない。(エコ, 5.11, 10)

〔～のみならず〕

○この書全体の構成、論理、引例、たとえ、および思想が極めて公正で書かれていることはわれわれのみならず一般に認められるところである。(東, 5.6, I)

○が、それなくして個人は生きられぬのみならず、社会もまた、それなくし

て存在しえぬであらう。(人, 5, 85)

〔のみならず〕(接続詞的用法)

○われわれは既に、～、外から与えられた自由は、～、自由としては満足なものではないことを見た。のみならず、かの政治的自由も、～、現実には成り立たないことが知られるであらう。(世, 4, 22)

56. は (係助詞)

① 題目を提示し、敘述の範囲を設定する。(「も」参照)

(イ) 一般的事物に対する判断の主題を提示する。

○ゆらいソ連の外交政策は実利本位である。(東, 5, 7, I)

○今日の教育は国民全体のための教育である。(朝, 5, 6, I)

○帝国主義者、封建主義者、官僚資産階級、国民党反動派を除くすべての人物はわれわれの友人である(朝, 6, 20, I)

○普通鰹乳の第一歩は、重湯、葛湯、半熟の卵黄からですが、～(婦友, 6, 86)

○学制上の形式を整えただけで教育の内容もこれにともなって向上すると考えることは大いなるあやまりである。(朝, 5, 6, I)

○田植に当って稻株を正方形に配置するか長方形に配置するかに就いての関心は、恐らく田植が行われるようになって以来の古い問題であらう。(農, 6, 25)

○しかし、近代民主主義はもはや「ワイマール」ではない。(東, 5, 6, I)

○批評精神は、なるほど現実を拒否する。(人, 5, 85)

○機能は自己の性能の伸張以外になんの目的もたぬ。(人, 5, 84)

○アメリカン・プレジデント・ライン社長ジョージ・キリオン氏は三日夜東京から帰着したが、中共とのこんごの貿易は非常に楽観できると次のように述べた(東, 6, 6, I)

○批評精神が時間のそとにたつて、時間をも空間的に認識するといふことは、これをべつ次元からみれば、より以上に時間を実感するといふことになるではないか。(人, 5, 84)

○個人の誠実が軽蔑される社会は陰惨な猜疑の林立のうちにみづから亡びてゆかねばならぬ。(人, 5, 85)

○現代の批評精神は社会的現実を卸下すると同時に、個人的現実をも卸下しなければならず、～(人, 5, 85)

○現実のうちに深く根を張ってゐない批評精神は——実践から遊離した批評精神は——それなら、このさい徹底的に処断されねばならぬのであらう。

か。(人, 5, 84)

○もしぼくたちのうちにこの機能の活動が中止してしまったならば、地球は永遠に亜熱帯的現実のうちに閉ぢこめられたまゝに終るであらう。(人, 5, 85)

〔～とは〕(命題・定義の主語を表わす。)

○共産主義者のいうプロレタリアの独裁とは実は共産党の独裁である——(東, 5.6, 1)

○さて 空電とは大気中の放電現象によって発生する電波であり 無線工学では“雑音”としていやがられている。(科, 5, 36)

○～, 一面, 現行裁判所法によれば, 「司法修習生の修習を終えた者」とは, すなわち, 判事補任命の資格条件であり(同法四三条), ～(法, 5, 51)

○さういへば, おそらくだれしも気づくにさうゐない——そのやうな不安定性とは, 所詮, 例の釘づけされた不安定であり, 裏がへしにされた安定ではないか, と。(人, 5, 84)

○今や, 池田大蔵大臣のいうところの「ディスインフレ予算」とは, インフレの階級的収奪政策とデフレの階級的収奪政策とをかねそなえたところの, 二重に加重せられた収奪政策にはかならない。(エコ, 5.11, 10)

○政治批評にせよ, 芸術批評にせよ, もともと批評とは極北の精神にかならない。(人, 5, 85)

○批評家にとって——いや, そのまへに, ぼくたち一般人にとって——個人の誠実とはいったいなにものであらうか。(人, 5, 85)

○いや, それよりも前に, そもそもインフレーションとは, 現段階において何を意味するのか? (エコ, 5, 11, 10)

(ロ)特殊な具体的な事物, ことに, 現前のもの・既出のもの・特別の限定詞によって指示されたものなどに関する判断の主題を提示する。
(現前のもの・既出のもの)

○写真は閻行政院長(東, 6.6, 1)

○左端はブラウン管指示器(科, 5, 37)

○部屋のなかば, かなしみのたゞならない気配で一ぱいになりました。(ひま, 6, 54)

○新中国誕生の基礎となる新政治協商会議の予備会議は十九日北平で中共, 諸党派団体代表百三十四名参加の下に正式に開かれた, 毛沢東中共主席は開会に当り『本予備会議の開会は急速に新政治協商会議を開き民主連合政府を成立させ, 全中国を統一させるために必要な一切の準備をすることである』と述べた(朝, 6.20, 1)

- 最近よく見かける切替えのところにピンタックをあしらったものは、ちょっとの扱い方で手際よくゆきます。(婦友, 6, 73)
- ～、私は、前記標準線は、既に裁判所法及び検察庁法によって採用されている一線として合理的なものと考えが故に、新たに定めるべき弁護士資格の水準もこれと一致せしむることが適当であり、～(法, 5, 51)
- ところで、ぼくがこれまで話ってきたことは、たんなる《批評家の精神》にすぎぬものであったのか。(人, 5, 84)
- ところが、こゝに述べられているようなことは世界の多くの国々ではもちろん、日本でも終戦いらいすでに一般知識人の間ではほとんど常識化していることがらばかりである。(東, 5.6, 1)
- 大阪堺筋で去る十四日正午ごろ女事務員二人を自動車で襲い、銀行から引出したばかりの現金約六万円を強奪したギャング団事件があり、クリーム色、流線型の車体と一二七二五の番号を手懸りに捜査中のところ、十七日午後七時半ごろ愛知県彌富町の近鉄電車彌富驛で国警海部地区署員がギャング団四名を逮捕、自動車は付近の筏田川堤防に乗りすてゝあった(朝, 5. 19, II)
- 「アッ、ジープが通る。省線電車だ、トラックだ……」と録音自動車の助手台につっ立ったまま正広君は盛んにはしゃいでいた。～。録音自動車は浅草六区の雑沓を分けて、瓢箪池のはずれに小屋をかけている石橋サーカスの前に着いた。(キン, 7, 32)
- ここはアフリカ。世界遠征野球団にくわわってきたガン吉は、内野ホームランという珍妙なてがらをたて、ホームラン賞にラクダをもらいましたが、そのラクダがあばれ出して、ダンちゃんもろとも、みごと砂漠の中へふりおとされました。ラクダは遠くへ走りさり、二人はとうとうまいごになってしまいました。(野少, 6, 41)
- 全国人民は解放軍を擁護して解放戦争に勝利を得た、解放軍は過去三年間に国民党軍五百五十九万を撃滅し、いまや国民党軍は正規、非正規軍のすべてを合せても五十万人前後しか残っていない(朝, 6.20, I)
- 南洋在留中国人の大立物陳嘉庚氏以下南洋中国人代表一行は香港から海路天津經由で四日北平に到着した、陳氏らの今回の帰国は毛沢東主席の招きにより中共地区を観察するためである(東, 6.6, I)
- 池田大蔵大臣はさる四月四日の衆議院本会議における予算演説の中で、廿四年度予算案の二大特徴として次の二点を力説した。～。池田大蔵大臣が廿四年度予算案の特徴としてあげた第二点は、いままで予算面にあらわされていなかった「援助資金」が今度は予算面にハッキリ姿をあらわしたこ

とである。(エコ, 5.11, 10)

- かつて中学を出て高等学校から大学へ進むためには、選ばれた秀才以外には狭い門であった。今日大学へ進む途は広くあけられている。(朝, 5.6, I)

(特定の人・主人公)

- もちろん、ぼくは批評精神の極北を考へてゐるのだ。(人, 5, 85)
- 従つてわれわれは、実際の社会生活では、何でも好きなことを言ったり、したりすることは出来ない。(世, 4, 22)
- そこで彼女はチェンバレンとディックのアパートへ行った。(映, 6, 12)
- しかし二人は、どうしたら術がとけるのかわからないので、頭から水をザブーリ!(野少, 6, 44)
- ひとびとは効果のために、いまやそれを抛棄してもかまわぬと考へてゐるのであらうか。(人, 5, 85)
- ともかく大衆は博士の指摘によって「真珠湾当時の感情を忘れ」戦犯者に冷淡だったことを恥ぢ、～(世, 5, 39)
- 母上はお二人を許されたのであった。(婦友, 6, 27)
- それに、つくづくと眺めれば眺めるほど、お嬢さまは、うつくしく、けだかく、しとやかなのです。(ひま, 6, 54)
- 広川民自党幹事長は十九日朝大阪から岡山に着いたが、車中で参議院議員選挙法の改正、明春の参議院選挙対策および警察制度改正問題などについて次のように語った(朝, 6.20, I)
- エヴァット濠外相はこのソ連の態度の変化を目して決定的な一歩を踏出したものといひ、～(東, 5.7, I)
- 数絵は、呼吸をつめて、窓の外へ近づいてゆきました。(ひま, 6, 54)
- そのとき、由比は、二十九歳であった。(文, 7, 80)
- 正広君は顔をしかめると、コンコンと咳をした。(キン, 7, 32)
- 例によって沢村君はリスのような素早さで、車をとびおりと、木戸番に話をつけて天幕をくぐり抜けて行った。(キン, 7, 32)

(指示語のついているもの)

- 二年制の短期大学が出来るなら、三年制の高校を二年延長し、旧制高専を横すべりにした五年制の高等学校も出来てよい。これは決して大局的に六三制の建前を崩すことにはならない。(朝, 5.6, I)
- 一個の人間がいかに生きたか、またいかに社会に貢献し、あるいは害を及ぼしたか、ということこそ大切であるのに、それよりもその人間がいかにして憂き世からあの世へ行ったか、つまりその死に方が重視され、そこに

究極的な価値判断の基準がおかれる。こうした態度は今なお日本人の間につよく残っているが、～(世, 5, 39)

○またこの書は特に共産主義のみを批判しているわけではなく、ヒトラーやムソリニ時代のいわゆるファシズムについても完膚なきまでに批判し去っているのである。(東, 5.6, 1)

○この研究は1936年頃イギリスのW・ワットらによってはじめられ、現在では～(科, 5, 36)

○一体このような問題は、どちらがよいかという問題ではなく、～(農, 6, 25)

○が、事実は、このやうな機能主義者にとって、効果が達せられるといふ事態はおこりえぬのである。それはなぜであらうか。(人, 5, 84)

○～、すすめられて、よんだのが、その女であった。その女は、芸名を、鯉子といった。その鯉子は、そのとき、二十一歳であった。(文, 7, 80)

○こゝに挙げた2品種は何れも中生種で、～(農, 6, 25)

○そして以上の事柄は同化作用即ち光合成とつながりがあるとされている。(農, 6, 6)

【～が(その他の接続助詞), これ(その他の指示語)【は～】

○ソ連のベルリン封鎖は西欧側の西独通貨改革を動機として行われたが、これは米英仏側の西独政府樹立工作をもってポツダム協定違反と見なすソ連の報復であり、～(朝, 5.7, 1)

○最後に最大会派である緑風会であるが、こゝは全体に保守色が濃く、～(東, 6.6, 1)

○こうした態度は今なお日本人の間につよく残っているが、このメンタリテイはインテリにおいては、思想の純粋性ないし観念性への好みと密接に結びついている。(世, 5, 35)

○もし今日、批評家たること不幸があるとすれば、それは現代の日本の一般社会人のうちに、そして政治家や科学者のうちに、批評家が生きてゐないからであり、さらにかれをより以上に不幸にさせてゐるものがあるとすれば、それは他のなにものよりも小説家や詩人のうちにそれが無いといふ事実であるといつてさしつかへあるまい。(人, 5, 85)

○～、もしその意味が彼らの手許に通貨が流れて来ないという意味であるならば、そのような事態は、大多数の勤労国民には先刻生じている。(エコ, 5.11, 10)

○～、口から外へ声になって出たか、出なかったのかわからないほど、出たとしてもそれは、低い声だったのです。(ひま, 6, 54)

〔～こそは〕

○それこそは、一般産業界において極く少数の巨大独占資本のみの救済のため「集中生産」と「企業合理化」の名の下に強行しつつあるところの民族産業、中小商工業者への負担転嫁であり、～（エゴ、5.11, 10）

〔～のごときは〕

○山口県教組のごときは「文部当局を告訴し、黒白のきまるまでは使わせない」と決議したとかさせたとか伝えられている。（東、5.6, 1）

○通貨増発のごときは、この階級的収奪政策から必然的にもたらされる結果的現象にすぎない。（エゴ、5.11, 10）

〔～の（こと）は～である〕

○しかし、われわれとして最も注目せねばならぬのは協定成立に至るまでのソ連の態度の急変であり、その真意である。（東、5.7, 1）

○～、そのうち、もっとも注目をひいたのは、いうまでもなく、「米国対日援助見返資金特別会計」である。（エゴ、5.11, 10）

○～結局勝ったのはディックだった。（映、6, 13）

○マーガレットは彼を二十年の刑にしようと思っている中に、巡査に連れられて入って来たのはスーザンだ。（映、6, 13）

○心配になるのは、妹のようにして一語にくらしていた千鶴子のことでした。（ひま、6, 52）

○由比が、そのとき、上諏訪に泊しよう、とおもったのは、その時から十五六年まへに、その町に、たいざいしてゐたをりに、片戀ひをした女に、もし逢へれば、と、かんがへたからである。（文、7, 80）

○然しそのことが多くの人によって強く意識されるようになったのは、恐らく正衆植が普及してからのことと思われる。（農、6, 25）

○ただここで問題になることは この型では空中線の鋭い受信方向からの空電しか記録されないから 極めて短時間に出現し 消滅し かつ方向移動の激しい空電源からの空電を逸するおそれがあるという欠点をもつことである。（科、5, 37）

〔～こと（ほか・はず・つもり etc.）はない〕

○決して氷炭相容れざるごとき諸説の対立紛糾を来すことはないように思うのである。（法、5, 51）

○～結局これら苦惱や危険の多い途を避けて、不安定ながらも連携妥協による形式で与党戦線の強化を図るほかはないだろう（東、6.6, 1）

○そんなはずはない、ぼくは《批評精神》について語ってきたのだ。（人、5, 84）

○われわれは文部省や著作者の肩を持つつもりはないが教科書として発表されたことを喜ぶ。(東, 5, 6, I)

○しかし、その女は、芸者であるし、それに、由比は、その女に、感情はいくらかわるくしたかもしれないが、迷惑をかけたことも、不義理をしたことも、まったくないのであるから、『もし逢へれば』などと考へるわけは一つもないのであるが、由比の『ひっこみ思案』の性質のせみであった。(文, 7, 80)

〔～ほど～はない〕

○三疊一間のじぶんの借間で、二人でかきこむ食事ほど、美味しいものはありませんでした。(ひま, 6, 52)

(ハ) 客語・対象語を題目として提示する。

○また母乳は一日に一回以上与えて夏中は絶やさないと。(婦友, 6, 86)

○するとスーザンは、ジュリーの軍服姿はきっと素的に違わないわ、とばかり、あっさりディックの事は忘れかける。(映, 6, 13)

○私は軍国主義に毒された人々の足跡を残そうなどという意思是、もちろん持っていない(世, 5, 39)

○下痢しやすい夏と、下痢の重くなりやすい離乳期が重なるのですから、離乳は秋まで延せと言われる理由もおわかりでしょう。(婦友, 6, 86)

○今度の税務署の汚職事件摘発は今後も継続的にやるつもりだから～(東, 5, 29, III)

○～、中国人には遺言尊重癖が比較的少ないことをみると、この日本人の性向は儒教のみを以てしては説明しえない。(世, 5, 39)

○目下問題になっている第一点は全国区の廃止で、全国選挙区は全廃して府県単位一本に改めたいとの意向が強く検討中である(朝, 6, 20, I)

○しかもぬい止りは決して返し針にせず、ミシンの一方の糸を抜いて二本でしっかり結んでおきます。(婦友, 6, 73)

○脇上のこのダーツは止りの位置に向けて直線にぬい、～(婦友, 6, 73)

○また、検察官の方面においても、検察庁法一八条三項による二級検事は、たとえ副検事の出身で、修習生の修習は終えざるものについても、前記標準線と同等価値として扱うべきではなからうか。(法, 5, 51)

○～、これら改正案は臨時国会に提案したいが、参議院で猛烈な反対があると予想されるので、～(朝, 6, 20, I)

○～、広東香港の政界軍事筋は崩壊しつつある国民党政権はもはや救えない(東, 6, 6, I)

○～われわれは、実際の社会生活では、何でも好きなことを言ったり、したり

することは出来ない。(世, 4, 22)

○～, 到底新しい教育制度を充実発展させてゆくことはできない。(朝, 5.6, 1)

〔～はこれを〕

○そしてわれわれのそのような努力を防げ、すべての人々が究極において求めているところのものから、人々を遠ざけるような、無智や気まぐれや我ままにもとづく言行は、強くこれを制限しなければならないであろう。

(世, 4, 22)

○～, この標準線に及ばざるものは、すべてこれを否定すべきものとする次第である。(法, 5, 51)

○～, また、簡易裁判所判事及び副検事は、ともにこれを除外すべきものとする。(法, 5, 51)

○～については、司法修習生の修習を終えない、単に簡易裁判所判事又は副検事たるのみに止った者は、右の共通標準線に及ばざるものとして、すべて、これを消極に扱ふべきものとする。(法, 5, 51)

②事情の異なる二つ(またはそれ以上)の判断を対照させて表現する場合、両者の主題を対照的に提示する。(「も」参照。)

(1)〔～は～, ～は～。〕の形。

○～, 政府軍全兵力は現在でも百二十五万ないし百五十万に上り、そのうち百万は本土にあり、残りは台湾に集結している(東, 6.6, 1)

○中等學校はすべて高校に昇格しようとし、高校はすべて大学に昇格しようと焦った結果、形式だけ整ってもひどく内容の貧弱な新教育制度が出来るのである。(朝, 5.6, 1)

○なおメーツの折は、肩とウエストは中央側へ、脇は下に返します。(婦友, 6, 73)

○前者は受信機と回転ドラムの自記装置からなり、後者には方向性をもった空中線を使う回転型と瞬時型がある。(科, 5, 37)

○主食は、白米を十倍の水で軟かく煮て裏漉にした濃厚湯から始めます。～。副食物は、卵黄³箇から始めます。(婦友, 6, 86)

○中さんは如才なく、すぐ立上って外出の支度をはじめた。正廣君の方は——心配した程のことはない。嬉しそうにニコニコ笑っているではないか。(キン, 7, 32)

○参議院議員選挙法の改正については、衆議院の選挙法改正委員会および民自党内の選挙法改正委員会の両方で研究を進めている、目下問題になっている第一点は全国区の廃止で、全国選挙区は廃止して府県単位一本に改め

たいとの意向が強く検討中である、第二点は間接選挙方法の採用の可否で、これには選挙代理人の選出とか、地方公共団体吏員による選挙とかいろいろあるようだ、第三点は選挙運動取締りの緩和で、党や各立候補者の運動をもっと自由にしたい（朝、6.20、I）

○農村、一般労働者用には必需衣料の作業衣、下衣類、手ぬぐい、地下タビなどを重点配給し、また乳幼児、妊娠婦にはサラシ木綿、ネル、毛布などの必需品を、引揚者、生活困窮者には寝具、毛布、洋服などの重点配給を行う（朝、5.19、II）

○～、特別会計には建設公債等、地方会計には地方起債等を発行せしめてきたが、～（エコ、5.11、10）

○即ち農林1号では、普通施肥料区でも小肥区でも正方形植の方がよい結果を示し、北陸11号では全くこれと反対の結果が見られる。（農、6、25）

○肥料要素については窒素が最も関係が深く、加里・燐酸も多少関係する。光線については光線を受ける側即ち向陽面にC量が多く、一般に光線の量に比例し、又波長とも関係する。（農、6、6）

（ロ）〔～は～だが、～は～だ。〕の形。

○雲はあいかわらず低く垂れていましたが、言われた通り、雨は止んでいった。（ひま、6、54）

○～、多少とも文學に心のある人には堪えがたい文章だが、大衆の一部の人々には新聞記事に似たこの文体が却って親しみをます作用をなしていることに注意しなければならない。（世、5、39）

○第二に、横のシワヨセそのものも、極めて深刻になったこと、従来は中央会計より特別会計へ繰入金、地方会計へ配付金をそれぞれ流し、特別会計には建設公債等、地方会計には地方起債等を発行せしめてきたが、本予算案編成にあたっては、一見それとは逆に特別会計に対する繰入金の停止、地方会計への配付金の半減をやり、特別会計も独立採算制をとらせて、中央財政と形式的に絶縁し、したがって、中央より地方、特別へのシワヨセをやめたように見せている。（エコ、5.11、10）

（ハ）〔～はもちろん、～も〕の形。（むしろ類似したものの対照）

○ところが、こゝに述べられているようなことは世界の多くの国々ではもちろん、日本でも終戦いらいすでに一般知識人の間ではほとんど常識化していることがらばかりである。（東、5.6、I）

（ニ）対照語句が「は」以外の形で表現されるか、または、全く表現されていない場合。（対照語句が、「も」で提題されるときは、結果として、事情の類似したものの対照となる。）

- マーガレット・ターナは美しい女判事さんだ。裁判所では山積する事件を裁き、家へ歸ればたった一人の妹の、十七歳の青春娘スーザンの監督もしなければならぬ。(映, 6, 12)
- 共産党は各府県一名の当選を目指して猛運動をすると思うので、民自党も各府県支部に命じて候補者の整理を開始し、清新な人材を選ぶよう選挙対策に着手している(朝, 6.20, I)
- が、それなくして個人は生きられぬのみならず、社會もまた、それなくして存立しえぬであらう。(人, 5, 85)
- 中間報告を行うという理事会の申合せは承認されたが、報告書の内容について再び意見が対立、十九日の委員会にはかることになった(朝, 5.19, II)
- 料飲店はワク附で一応再開の運びとなったが従来取締当局から余り重視されていなかった旅館業者が監視のスキに乗じて再開の声と共に料理屋、符合等軽飲食店と同様享樂面の域に進出(東, 5.29, III)
- また下痢の中でも離乳期のは特に重くなりやすいのです。(婦友, 6, 86)
- 夏の離乳はなぜむずかしいか(婦友, 6, 86)
- 政府軍全兵力は現在でも百二十五万ないし百五十万に上り、そのうち百万は本土にあり、残りは台湾に集結している、本土にある政府軍のうち約半数はかなり良い装備を持っているが、統率の面はゼロだと見られる(東, 6.6, I)
- 一部は著者：ビタミンCと酵素作用(台北農林学会報第五卷, 第二号, 昭和16年)に述べた。(農, 6, 6)

③ 動作・作用などの行われる事態(副詞的修飾語)の提示。

(イ) 条件の提示。「ては」の形。

(a) その都度の条件の提示。

○赤ん坊の寝姿を、ときどき、のぞきに來ては、ニコニコする。(資料外)

(b) 否定の語を予想する条件の提示。

○健康そうにみえていても、病みあがりのお嬢さまに、疲れすぎがあって又、元へもどるようなことがあっては大変だと、数繪は、気が気ではありませんでした。(ひま, 6, 54)

【～てはならない】

○サーカス団のゴロツキ共と争っても、断乎、この非道を暴かなくてはならない。(キン, 7, 32)

○いや、対岸の火であってはいらぬはずのものではあるが、～(人, 5, 85)

○～、一般の大学に四年制のほか二年制を主とする短期大学を認めねばならなくなったことは形式的な六三制を金科玉条として固守してきたこれまでの方針に一大反省を求めるものでなくてはならぬ。(朝, 5.6, I)

(ロ) 事態 (「～としては」「～に関しては」「～においては」 etc.)

○空電発生の原因としては次のものがあげられよう。(科, 5, 36)

○夢にすれば、あまりになまなましすぎる感情のもってゆき場所がないので困りました。(ひま, 6, 54)

○警察制度の改正に関しては、前国会のころ全国地方自治体の代表から、地方警察費が高額に上り維持が相当困難であること、地方警察は情実がからみ悪質警官の罷免も思うにまかせないという事情を聞いた(朝, 6, 20, I)

○いま封鎖解除に応じたソ連の意図については、西欧側にも種々の観測がある。(朝, 5, 7, I)

○～花山博士は、BC級戦犯に對しては、その氏名と刑の執行日時の外に、全く不必要と思われる犯人の出身地と遺族の住所氏名年齢までくわしくするし～(世, 5, 39)

○縫方は肩ダーツと同じですが、一カ所でたくさんつまみず、量によつては半身頃で二本ずつ、つまり四本にふり分けると、体になじんだふくらみが出ます。(婦友, 6, 73)

○～、著者の主観的意図にかかわらず、客観的効果においては彼等の足跡を残そうとしたことになっている。(世, 5, 39)

○～、本予算案編成にあつては、一見それとは逆に特別会計に対する繰入金金の停止、地方会計への配付金の半減をやり、～(エコ, 5, 11, 10)

○社会的動物としての人類にとつては、たがいに助け合うことなしには、単なる生存も困難となるからである。(世, 4, 22)

○～、中国人には道言尊重癖が比較的少ないことをみると、この日本人の性向は儒教のみを以てしては説明しえない。(世, 5, 39)

(ハ) 格助詞につけて、強意のひゞきをこめる用法。

○氏の考えの底には実は教育年限短縮論が横たわっていた。(朝, 5, 6, I)

○週史には池田蔵相の減税、資産再評価に関する談話が出たが～(東, 6, 6, I)

○では瞬時に出現消滅し 移動して行く空電源を捉えるにはどうするか。(科, 5, 37)

○しかし、ラクダにはこりている二人。(野少, 6, 44)

○数繪は、こゝろからほっとして言わずにはいられないのでした。(ひま, 6, 54)

○「児童福祉法」が施行されるという御時勢に逆行して、サーカス団ではこんな無残なリンチが平然として行われているのだ。(キン, 7, 32)

- ただここで問題となることは この型では空中線の鋭い受信方向からの空電しか記録されないから～(科, 5, 37)
- 新内閣は「戦争内閣」であって中共とは徹底的に戦う決意である(東, 6, 6, I)
- 二人ともアフリカまできて、ワン公にうまれかわるとは思わなかったので、～(野少, 6, 42)
- 戦後、アメリカからは、ガリオア(占領地救済)資金その他が来ており、～(エコ, 5, 11, 10)
- 彼らは上になり下になり赤と白の毛の解きがたい東になりながら、獵師たちからはだんだんに遠く、川の方へはだんだんに近く、移っていった。(ダイ, 7, 58)
- もう一度、前よりは大きな声で呼びますと、「はい。」と、低い、しぼりだすような声で、返事がきこえてきました。(ひま, 6, 54)
- 山口県教組のごときは「文部省当局を告訴し、黒白のきまるまでは使わせない」と決議したとかさせたとか伝えられている。(東, 5, 6, I)

(二) 副詞・副詞的修飾語につける用法。

- 日本の問題がやがては国際間の問題となる日があることを思い、～(東, 5, 7, I)
- 時には食パンの軟かいところを細かく碎いて牛乳に入れたパン粥もよいでしょう。(婦友, 6, 86)
- 今はMGMの製作担当者となった才人ドアライ・シェリーの製作にかかる一九四七年度作品、十巻(映, 6, 12)
- きつといま頃は、工場でしょんぼりとしてひとりぼっちで、機械の前に立っているにちがいない。(ひま, 6, 52)
- ～、いままで予算面にあらわされていなかった「援助資金」が今度は予算面にハッキリ姿をあらわしたことである。(エコ, 5, 11, 10)
- テーラード(男仕立)や堅い線のシャツブラウス以外のボタン孔は、婦人服の場合大抵は玉縁に整えます。(婦友, 6, 73)
- とすれば、あすの不安定のほうがけふの安定よりも実感をおよびて存在するといふのも、けつきよくは、安定と不安定とのあひだの相互関係における不安定性を感じとることなのである。(人, 5, 84)
- 監督のアーヴィング・ライスは新人で元來は脚本家であるが、～(映, 6, 12)
- ～、現金通貨の回転率、また、それと関連して手形流通高、市中銀行の貸出状況など多数の条件を総合せねば單純には結論しえない性質のものであ

る。(エコ, 5.11, 10)

○～, 又C量も本質的には種属の特性によるのであって, ～(農, 6, 6)

○ウェストでダーツと同じ意味にギャザーをとる場合は, 脇線から約四センチ入りに, その分量によって四五センチの間に寄せてとります。(婦友, 6, 73)

○離乳にかゝるときは, その前に医師の診察を受けて赤ちゃんの栄養状態を調べてもらいましょう。(婦友, 6, 86)

○～, 弁護士資格条件に関しては, 私は, 僅少の例外を除くの外は, これを, 裁判官又は検察官となる資格を有する者に限定し, ～(法, 5, 51)

④敘述語を提示し, 否定の意味の語を伴って, その範囲に限っての強い否定的主張を表わす。

(動詞助動詞の連用形につける用法。)

○それは批評家のものであり, 科学者のものであり, 小説家のものである——ましてや一文芸批評家のものとかぎられはせぬ。(人, 5, 84)

(漢語サ変動詞に挿入する用法。)

○～, 同党は民自党とは絶対合同はしないと声明している反面, 閣外協力の態度を依然崩してはおらず, ～(東, 6.6, I)

(形容詞連用形につける用法。)

○～, 結局血は水よりの例え通りに持ち込み次第では与党側にまわる公算も決して少くはない(東, 6.6, I)

(「て」に接し, 補助用言に続ける用法。)

○～, 不安定な状態を求める批評精神は, かならずしもそれとかくはることによって, それを安定にみちびかうといふ効果を意識してはゐない。(人, 5, 84)

○～, 同党は民自党とは絶対合同はしないと声明している反面, 閣外協力の態度を依然崩してはおらず, ～(東, 6.6, I)

[～ではない]

○しかし, 近代民主主義はもはや「ワイマール」ではない。(東, 5.6, I)

○またこの書は特に共産主義のみを批判しているわけではなく, ヒトラーやムソリニ時代のいわゆるファシズムについても完膚なきまでに批判し去っているのである。(東, 5.6, I)

○～ "当らない天気予報" の悪評を除くことも単なる夢ではあるまい。(科, 5, 37)

○母乳自身には変わりなく, 決して毒ではありません。(婦友, 6, 86)

[～ではないか]

- 正広君の方は——心配した程のことはない。嬉しそうにニコニコ笑っているではないか。(キン, 7, 32)
- それは社会全体についても、同じように考えてよいのではないか。(世, 4, 22)
- もし、一部の人々からこの教科書が「一方的」と見られるならば、それはこの著述者が従来の教科書に特有なアイマイな表現を使わず、現代と真正面から取り組み、極めて明快に真実を断定している点ではなかるうか。(東, 5.6, I)

⑤譲歩。(「～はするが」「～ではあるが」etc.の形)

- ベルリン封鎖解除はかくて西欧ソ連間の国交調整への道を開くものとして世界に一脈の明るさを投じてはいるが、しかし四国外相会議は果してその国交調整に成功し、世界の平和希望にそいうるかどうか。(朝, 5.7, I)
- 日銀券発行高の増減率は、インフレの一つの重要指標ではあるが、すでにインフレの発展する状態の下においては、現金通貨の回転率、また、それと関連して手形流通高、市中銀行の貸出状況など多数の条件を総合せねば単純には結論しえない性質のものである。(エコ, 5.11, 10)
- 思想はもともと行動と相互関連をなすものであって、いかに美しき思想も実現しえざるかぎり夢ではあつても「思想」ではない。(世, 5, 39)

⑥接続詞の強調(「または」「ないしは」etc.)

- ～新制大学の審査で不合格となった高等専門学校を救済するために、学校教育法を改正して二年または三年の短期大学を設置することになった。(朝, 5.6, I)
- それにとって効果的であるといふことは、他の物もないしは現実のうへにいかなる効果の刻印を押しえたかにあるのではなく、～(人, 5, 84)

〔あるいは・もしくは etc.〕

- ～、従って所謂酵素始原体とか細胞質内の条件等との相互関係は或は染色体と結びつけて考察する事等が必要となつて来るのであって、～(豊, 6, 6)
- かくして、特別会計、地方財政はその赤字を口実にあるいは、大量首切によって、縦に多数職員の犠牲負担を強行するか、もしくは、地方財政の場合に特に顕著に見られるように、地方税を大幅に増徴し、あまつさえ天下り強制的寄附金割当によって、広汎に地方民全般の犠牲負担にシワヨセをはかるかであろう。(エコ, 5.11, 10)

*[-あ] (話し言葉で、こう発音され、会話文で、こう書かれることが、かなり多い)

- 「ほくあ、そのう、あのう……」(野少, 8増, 49)

- 「そいつあ、どうも、よわったなあ……」(女, 9, 120)
- 「それあおどかしてなく、ほんとかも知れないよ。」(婦友, 6, 74)
- 「いくら警視庁だって年がら年中大物種(ビッグニュース)がある筈ありませんよ。」(宝, 7増, 61)

57. ば(接続助詞)((仮定形につく))

- ①未成立の事からを成立したものと仮定し、順当な結果に対する条件とする。(仮定の順説条件。)
 - ～、ディックに刑を宣告すれば、スーザンの心の傷手は生涯癒らないから、～(映, 6, 13)
 - 馬上の子供たちも表面は朗らかそうにキャッキョッと騒いでいるが、一人々々になれば正広君と同じように、悲しい事情のある薄幸な子に違いない。(キン, 7, 32)
 - これに対し野党派の社会党は元農相波多野鼎会長の下に部内の左右対立もこのところ緩和の状態を示し会期末の国会闘争は全官公、国鉄、農林職組全信等の支持を受け、組織労働階級の満足を得たと確信しているので、この状態で結束してゆけば野党勢力の建直しが可能であると観測している(東, 6.6, I)
 - ～ハナマタ60が出れば時計からみてもレースの中心となる(東, 5.29, III)
 - ～、マッチ箱大の食パンに上質の天然バターを塗ったものや、(あれば薄切のチーズを添える)～(婦友, 6, 86)
 - (いけないッ! このまゝ時がたてば自分も、和子もおしつぶされてしまう! それに火でもついて来たら!) (キン, 11, 96)
 - 国民社会全体が絶えず教育問題に関心を持たなければ、到底新しい教育制度を充実発展させてゆくことはできない。(朝, 5.6, I)
 - 持続時間は1/100秒程度であるからオシログラフでも使わなければ波型の観測は難しい。(科, 5, 37)
 - それで従来にもまして嚴重に優良品たることを証明してからでなければ国家はその責任上これを国民に提供するわけにはいかない。(科, 11, 36)
 - ～など多数の条件を総合せねば単純には結論しえない性質のものである。(エコ, 5.11, 10)
 - ～、さらにかれをより以上に不幸にさせてゐるものがあるとすれば、それは他のなにものよりも小説家や詩人のうちにそれがないといふ事実であるといつてさしつかへあるまい。(人, 5, 85)
 - 第二の問題、すなわち、前任地における登録制限の可否は、なおさら、理

論の問題ではない。而して、政策の問題であるとするならば、それは、その目標を、どこに、どう置くかによって決定される問題である。(法, 5, 51)

- 一部の人たちの利欲追求が、他の人々を不幸にし、その生活を困難にするとしたならば、われわれはその利欲追求を適当に制限したり、また時には禁止しなければならぬであらう。(世, 4, 22)
- 国民全体の教育に対する関心が高まるならば、新制度に本当の魂を打ちこむことができるのである。(朝, 5, 6, 1)

〔もし～ば〕

- もし一部の人々からこの教科書が「一方的」と見られるならば、それはこの著述者が従来この教科書に特有なアイマイな表現を使わず、現代と真正面から取り組み、極めて明快に真実を断定している点ではなからうか。(東, 5, 6, 1)
- 我々自身の今日における認識・覚悟はもとより肝要であるが、友邦も中共の武力による世界侵略の野心、反乱の諸要素及び中共の超歴史的超世界的反乱手段などを十分認識することが肝要である。もし、これを認識しなければ、中国の誤りは世界の集権国家以外の国家の共同の誤りに成り変る可能性がある。(朝評, 12, 29)
- もしぼくたちのうちにこの機能の活動が中止してしまったならば、地球は永遠に亜熱帯的現象のうちに閉じこめられたまゝに終るであろう。(人, 5, 85)
- が、もしさうだとすれば、ひとびとはそこに際限もなく伸びあがる批評精神の循環論法を見いだすにさうみない。(人, 5, 84)
- もし雨となれば 放射性微粒子は それぞれの地方へ降下するだろう。(科, 11, 30)
- やや離れた神戸市外に 広い第二工場の建設が始まり もし成功すればワヰリンの工業化はそちらで行われる予定であった。(科, 11, 49)
- もし設計者たちのこの考えが実現されれば こうした戦闘機の操縦士は 直接敵爆撃機の姿を見ることがさへなく レーダーと関連して動作するこの助手が敵機を発見し 撃墜までやってのけてしまうだろう。(科, 11, 56)

〔～さえ～ば〕

- 研究室の連中が毎夜9時すぎまでも帰ろうとしないことを彼は知っていた。身体さえ悪くしなければまあいい。あれが若い科学徒たちの青春の情熱というものなのだろう。(科, 11, 49)
- なにぶん画幅が10×14mmという超小型なので うんと引き伸ばすと粒子

の荒れが目立ってくるがライカの代用をさせようなどという大それた考え
さえ持たなければ 素人でも手軽に使いこなすことができよう。(科, 11,
25)

○これにくらべると 掩蔽による観測は 正確な時刻さえわかれば ごく手
軽に行えるし しかも午環観測に劣らない精密度で月の位置を算出でき
るから 広く実施されているのである。(科, 11, 31)

○母の口形を見さえすれば多美子さんはどんな話でもすぐわかる、聖煙学校
時代一年間の、命がけの訓練の結果であった。(ケン, 11, 102)

〔～ば～ほど〕

○しかしその愛情の底には、愛すようになればなるほど、ゆりを友子に取ら
れまいとする警戒心も高まって来ていたのではなからうか。(ケン, 11,
134)

○つくづくと眺めれば眺めるほど、お嬢さまは、うつくしく、けだかく、し
とやかなのです。(ひま, 6, 54)

○一つめば、つむほど…… —楽しいね (ケン, 11, 15)

〔～ばよい〕

○普通のものであれば レコード盤の中心より少し先に針先が位置するよう
にピックアップを取り付けばよい。(科, 11, 42)

○調整をするにはできれば周波数レコードを用いて 音質を吟味すればよい
のであるが これがない場合は普通の管楽器のレコードでもよい。(科,
11, 42)

○天然色テレビ受信機は普通のテレビ受信機に簡単な転換器をつけばよい
のであって その受信機は天然色テレビは勿論黑白テレビも同様に受信で
きるようになる。(科, 11, 55)

〔～なければならぬ・～ねばならぬ etc.〕

○ところがマウスなどを腸チフス菌で殺そうとするならば その腹腔内に数
億個という数を注射しなければならぬ。(科, 11, 38)

○～、牛乳や造血劑などで栄養をよくしてから始めなければなりません。
(婦友, 6, 86)

○現実のうちに深く根を張ってゐない批評精神は——実践から遊離した批評
精神は——それなら、このさい徹底的に処断されねばならぬのであら
うか。(人, 5, 84)

○くわしくは社会学者の研究にまたねばならないが、～(世, 5, 39)

○個人の誠実が唾蔑される社会は陰惨な猜疑の林立のうちにみづから亡びて
ゆかねばならぬ。(人, 5, 85)

〔～と言えば～〕

- 「まあ、秋が深くなって蝦蟇がいなくなったのが、淋しいといえは淋しいことのひとつだ。」(キン, 11, 73)
- ～, ここでの生活は、なに不自由ないと云えはその通りなのですが～(ひま, 6, 52)

〔あわよくば・ややもすれば etc.〕

- ソ連のベルリン封鎖は西欧側の西独通貨改革を動機として行われたが、これは米英仏側の西独政府樹立工作をもってポツダム協定違反と見なすソ連の報復であり、これであわよくば西欧勢力をベルリンから締め出したと云えそれが出来なすにしてもこれを種に西欧側に再び四国会議を開かせて対独処置をポツダム協定の線にもどさんとするものであったろう(朝, 5.7, 1)
- ただ、これらの問題の論議に際して痛感することは、論者が、ややもすれば、今後の、将来における弁護士がいかにあるべきか、またあってほしいかといういわば将来論、理想論と、現在の弁護士ないし弁護士会——あるいは、も一つ広くいって弁護士制度——の現状がこうであるから従って、これをこうしたら、という現在論、現実論とが、採り上げられる具体問題を異にするごとに、又は、これを論ずる人の立場を異にするごとに、甚しく混線させられているということである。(法, 5, 51)
- まかり間違えは、小さい命は一瞬にして碎け散ってしまうではないか——(キン, 7, 32)
- 中共としては自国船舶の不足にかんがみ現在よりも多くの外国船が中国に出入することを望んでおり、必要とあれば外国船をチャーターすることも考えている(東, 6.6, 1)
- 私はどちらかといえば、職業柄フランス語の方が馴れているのだが、劉さんは、まるで母国語のように流暢に英語を饒舌っていた。(キン, 11, 76)
- 調整をするにはできれば周波数レコードを用いて音質を吟味すればよいのであるが、これがない場合は普通の管楽器のレコードでもよい。(科, 11, 42)

②前おき。(立言の根拠や内容の前おれ。)

- 運転手の視界についていえは注意して設計すれば両者とも大差はない。(科, 11, 19)
- 別の言葉でいえば、ある地点に立てた現実の鉛直線(これは一般には地軸と交わる)との間の角度が垂直線偏差なのである。(科, 11, 32)
- 具体的にいうならばこのソ連の変化が中共にどのような影響を及ぼすか、中共としては目下のところは軍事行動に忙しいが、基本的なものにおいて

結ばれているソ連と中共の関係からして中共の対外策がどのようなものになるか、非常に注目を要するものがある。(東, 5, 7, I)

○発動機出力からいえば普通 75~100 馬力程度で 満員状態で 1 馬力当り 110kg 程度の車輛重量におさえないと 実用上加動力 登坂力で不都合が起る。(科, 11, 20)

○批評精神が時間のそとにたつて、時間をも空間的に認識するといふことは、これをべつの次元から見れば、より以上に時間を突感することになるではないか。(人, 5, 84)

○私をしていわしめれば、論者が、～したり、～したり、～したりする態度を去り、虚心に～と、～と～とを、～しながら論究するならば、決して～来すことけないように思ふのである。(法, 5, 51)

○そして重要なことは 日本での日食にあたっては日本で求めた補正值を使用の方が正しいということが立証された点である。即ち日本の立場でみれば 外国の観測結果は何か間違っているといえるのである。(科, 11, 32)

○極言すれば下手なソプラノは下手なソプラノに 上手なテノールは上手なテノールに音を再現するそういう機器をよい音質の電器なり受信機というわけである。(科, 11, 39)

○博士によれば 危険の原因は10分の1グラムぐらいの小さな粒子で 毎秒 60ないし 80kmの速さで飛んでおり これがぶつかると鋼鉄は爆発的に蒸発する。(科, 11, 52)

○“赤い星”によればバフチヅェニイゼという飛行士が ソ連で設計製作されたジュット機で試験飛行に成功したのが世界最初であるという。(科, 11, 56)

○外国軍事筋の推定によれば、政府軍全兵力は現在でも百五十万に上り、そのうち百万は本土にあり、残りは台湾に集結している(東, 6, 6, I)

〔～ならば・といえは〕(話題の提示)

○民主主義ということばならばだれもが知っている。しかし民主主義のほんとうの意味を知っている人が、どれだけあるだろうか。(東, 5, 6, I)

○本能的な愛情ならばそれは動物も持っている。理性の上の愛情こそ人間の人間らしい尊さなのだ……しかし、その理性の冷さはいまのゆりには堪えがたかった。(キン, 11, 132)

○このように自然発症を起す菌ならばその数は極めて僅かでもその動物を斃すことがわかる。(科, 11, 38)

○ところでニューカリ油の中の何が選鉱油になったり 薬品になったりするか

といえ、それは勿論その主成分であるシオールである。これならば樟脳
白油の中に2割も含まれている。(科, 11, 44)

〔言わば・例えば etc.〕(副詞的用法)

- ももん予算面におもてむき組み入れられることなく、いわば影の存在となっていた。(エコ, 5.11, 10)
- さらにそれを世界的に拡大するならば、ソ連としては危険を伴う冒険を取
えてせぬほうが自己にとって有利であるという情勢判断に基いたのではな
かるうか。たとえば、中国における中国共産党の驚異的な進出はソ連にと
って別に冒険をせずともソ連的勢力の拡大になるのである。(東, 5.7, I)

〔しからば・なぜならば etc.〕(接続詞的用法)

- ～新制高校社会科教科書「民主主義」(上)はその内容が反共的であるとい
うので、左翼陣営が問題視し、一部にはこの教科書撤回運動もある。～。
然らば何が「反共的」で「一方的」であるのかとしいて探し求めるならば
～(東, 5.6, I)
 - ～、かの政治的自由も、われわれが見たような、何でも言い、何でもする
ことが出来るというかたちでは、単なる可能性に止まり、現実には成り立
たないことが知られるであろう。なぜならば、各人が実際にこのような自
由を行使したならば、それは到るところにおいて、人と人との衝突 (bellum
omnium contra omnis) を引き起し、その結果は兇悪な腕力家が勝利を占
めて、多くの善良な人たちが、その圧制の下に自由を失い、全くの奴隷に
なってしまうと考えなければならぬからである。(世, 4, 22)
 - それは批評家のものであり、科学者のものであり、小説家のものであ
り、生活者のものである——ましてや一文芸批評家のもとかぎられ
はせぬ。それならば、小説家の名において、あるひは実践家の名におい
て、限度を知らぬ批評精神のうへに断罪の斧をふるふことは許されぬはず
だ。(人, 5, 84)
 - 辰野氏は、アハハハと笑いだすのである。そう云えば、先程から何の繪だ
ろう、と不審に思っていたのは、蝦蟇の繪だ。(ケン, 11, 70)
- ③きっかけ・根拠・理由などとなる動作・作用を、後件に対する条件
として提示する。(既定の順説条件。)
- 門を出ながら振り返れば、木立の隙間を透し、各病棟の灯が何かをさゝや
くように静かにゆれている。(婦友, 6, 27)
 - そこでレーダーで壁の割合薄そうな層を見付けて突入したが この雲中の
猛烈な上昇気流のため木の葉の如くほろろされて飛行機が空中分解をし
そうなる思いであったが 5～6分後にはこの雲をやっと抜けて気流の静か

な眼中に入った。見れば上には全然雲がなく 下方には高度 800m くらいに片乱雲を伴った層積雲があった。(科, 11, 28)

- 「お千世さんが此処に居る事を米沢町のお父っさんが知ったらどんなに御立腹なさるだろう。それを思うと気がつまって酒も咽を通らないよ」と、悲しげに首を垂れれば、お千世はわざと荒っぽく、「どうしてお師匠さんはそう気が弱いのだろう、お父っさんが何を云おうと構わないじゃありません。」(キン, 11, 23)
 - 「いいえ、もう出て行きますよ」と、男の手を振切ろうとすれば、「おいお千世」「え?」「好い加減にしねえか」(キン, 11, 24)
 - 先生の言葉にも強い感激があった。かえりみれば永い六年であった。(キン, 11, 105)
 - それにくらべれば、ぼくたち十数人の文芸批評家がときをり小説家の憤激を買ってみる事實は、むしろ慶賀すべきことかも知れぬ。(人, 5, 85)
 - 釘づけされた不安定は裏がへしにされたにすぎぬ。とすれば、あすの不安定のほうがけふの安定よりも実感をおびて存在するといふのも、けっきょくは、安定と不安定とのあひだの相互関係における不安定性を感じることなのである。(人, 5, 84)
 - 現在までに 8 発も原子爆弾を爆発させた資料を集積しているアメリカであってみればソ連の爆発を知るとは至極容易なわざであったと思う。(科, 11, 30)
 - どっちみち、君謙があき子の友達であってみれば、別にあとでとやこうと云いがかりをつけられたところで知れている。(キン, 11, 43)
 - 私は劉さんが指差す、その額の方を眺めてみた。夫妻の写真である。そう云われて見れば、何処となしに今の面影を宿してはいるが、実は先程から眺めて、親戚の人の写真とばかり思い込んでいた。(キン, 11, 76)
 - 考えて見れば、国の相違よりも性の相違の方が大きい。(キン, 11, 32)
 - できてみれば何でもなかったようである。それはいつのまにか整備されて来たものようでもある。(科, 11, 50)
 - とすれば、お計ちゃん存在があらためて認識されてくる。あまりに、お計ちゃんを無視しすぎた憾がないでもない。お計ちゃんだって、まごころ一すじであればこそだ。(キン, 11, 46)
- ④ある条件が具あれば、いつでもある順当な結果が生ずるといような場合の条件を示す。(習慣、反覆的事象など。)
- 御覽の通り、僕は今だに独身だ。まあ、半農、半画家という処だろうね。描きたい時に一、二枚の絵を描いて、それに倦きれば花園の手入れにあか

ないというふうだ。(キン, 11, 73)

○たいていの人ば——有名人も無名人も——三、四十年一つ仕事をやっていければ、型の如く功成り名遂げて引退し、ご隠居になり、有名人の場合はいつとはなしに『忘却の海』へ押し流される。(キン, 11, 88)

○国際結婚をすれば、一人は他の一人の国の思想や習慣に従って生活しなければならぬと思う。(キン, 11, 33)

○貧血は母乳以外の食物や造血剤を与えていけば治ってきます。(婦友, 6, 86)

○この誘起電圧を増幅してブラウン管の偏向板にかければ ブラウン管の螢光板にはそれぞれ上下水平 合成方向の輝線を生ずる。(科, 5, 37)

○ヴェニス風の日除け(細い板をすだれのように横にならべてヒモでつなぎ閉じれば板が重なって日光を遮断し開ければ隙間から光線の入るようにしたもの)のような格好の新しいメガフォンが アメリカ音響学会に報告された。(科, 11, 53)

○普通のヴェニス風日除の形では音を焦点に集めることは出来ない。しかしその細板の形を少し変えてやり 全体が平べったい円板となるような形に切っておけば 音波を集束させることができる。(科, 11, 53)

○以上のような方針でワクチンの無害 有効なことを証明できることになるが これは実はその一例であって ワクチンの種類がちがえばその手段は著しく違ってくるのは当然である。(科, 11, 38)

○かようにしてA Bの間隔をブラウン管の受像面で尺度で測れば気球の反射標的までの直距離がでる。(科, 11, 27)

○原子爆発(Atomic explosion)があれば 閃光が走り 放射線を放射し爆風を発生することは 広島と長崎で経験済みである。(科, 11, 30)

⑤ 共存事実を列叙する。

○しかし、子供にとっての「母の胸——」ほど、甘美な憩いの場所はない。こゝには裏切られる心配もなければ追立てられる不安もなかった。(キン, 11, 130)

58. ばかり (副助詞)

① 数量を示す語について、ほどあい・およその程度を示す。

○そういうとお嬢さまは、壘の上を踏んでいないようなかるさで、すっと近寄ってゆき、葉びんをもって戻ってくると、半分ばかり入っていた琥珀いろのおくすりを適さにして、縁先から庭へすててしまいました。(ひま, 6, 52)

②いろいろの語について、範囲をそれに限る。

○ところが、ここに述べられているようなことは世界の多くの国々ではもちろん、日本でも終戦いらいすでに一般知識人の間ではほとんど常識化していることがらばかりである。(東, 5.6, I)

○離乳というのは、生後七八カ月になると母乳ばかりでは、鉄その他の赤ちゃんの発育に必要な成分が不足してくるためと、今までほど水分を必要としなくなり、母乳の水分が多すぎて必要な養分が摂りにくくなるために始めるのです。(婦友, 6, 86)

○～、当のシーズンは益々彼に熱を上げて、まつわりつく許りだ。(映, 6, 13)

〔～ばかりではない〕

○ソ連はマーシャル計画や北大西洋条約に見る西欧側の軍事的経済的団結のうち、対ソ包囲戦の危険を感じているばかりでなく、さらに西欧資本主義国の景気後退を予想するところから、その景気回復策として西欧側がいよいよ軍備強化をはかるものとみて、戦争に対する不安感を強めている。(朝, 5.7, I)

○～、この極北をめざす批評精神は、たんに批評家のものであるばかりではなく、政治家のものであり、科学者のものであり、小説家のものであり、生活者のものでもある。(人, 5, 85)

〔～ばかりか〕

○それが今度はびたりとしゃべらないばかりか、初めはひた隠しに隠してやがんだ。(人, 9, 6)

〔～てばかりいる〕

○「そんなに遊んでばかりいないで、すこしは勉強しなさい。」(資料外)

〔～ばかりに〕(接続助詞の用法。)[たゞそれだけのことが原因となって]の意。

○労働組合がこれを拒んだ許りに、社会民主党閣僚の総退陣が起り、それが結局民主主義の敵のために道を開く機縁を作った。(朝, 6.25, I)

③いまにも～しようとする状態を示す。

○すっかり荷づくりをして、運び出すばかりになっている。(資料外)

〔～んばかり〕(「～ぬばかり」の形も使われることがあるようである。)

○相手は首をかたむけて、まことに不思議なおたずねだといわんばかりの顔をする(朝, 6.23, I)

○壘に顔をすりつけすりつけ、号泣せんばかりの詫びかただった。(宝, 12, 52)

〔～とばかり〕

- するとスーザンは、ジェリーの軍服姿はきつと素敵に違いないわ、とばかり、あっさりディックの事は忘れかける。(映, 6, 13)
- 講和会議というような国民的課題を軽々しく取扱い、それも国会開会中は野党に遠慮してか黙し、閉会となるや待っていたとばかりに一時の政略的党利党略で真面目な国民にあらぬ夢をいだかせたりする(朝, 6.19, II)

④～して間もない状態を示す。

- 大阪堺筋で去る十四日正午ごろ女事務員二人を自動車で襲い、銀行から引出したばかりの現金約六万円を強奪したギャング団事件があり、～(朝, 5.19, II)

59. ばこそ(終助詞)

○強い否定。「～などするものか、絶対に～しない」の気持。(動詞の未然形に附く。)

- 「助けてえッ！」と、家の下敷きになった喜美子さんは声を限りに呼び、力の限り自分の体を押しつけている物を押しつけようとするが、動かばこそ、否、右肩に深く喰い入った柱は益々圧迫を加えてくるのだ(キン, 11, 96)
- かうなると女も幫間も寄りつかばこそ、茶屋は淡茶一杯も出ししぶって、まだ帰らぬかと云はぬばかりのつれない仕打に打って交り、～(新, 3, 139)

60. へ(格助詞)

①動作・作用の向けられる方向・方角。(目標。)

- ～, 中共軍は華南の心臓部へひた押しに進撃を続けており、～(東, 6.6, I)
- ～ ダーツの折は、肩とウェストは中央側へ、脇は下に返します。(婦友, 6, 37)
- ～, 数絵は呼吸をつめて、窓の外へ近よってゆきました。(ひま, 6, 54)
- その湖水のはうからも、その方へむかってあるく二人に、つめたい風が、吹きつけた。(文, 7, 80)
- ～ 鶴は、羽をばたばたやって庭の方へ飛び立ってゆきます。(ひま, 6, 54)
- ～, マーガレットを飛行機の方へやらせる。(映, 6, 13)
- ラッダは遠くへ走りさり、二人はとうとうまいごになってしまいました。

- 浜口蔵相のデフレ政策への転換は、～ (エコ, 5.11, 10)
- ベルリン封鎖解除はかくて西欧ソ連間の国交調整への道を開くものとして世界に一脈の明るさを投じてはいるが、～(朝, 5.7, I)
- ～, その発想者は, 死によって行動化への責任から完全に免れている。(世, 5, 39)
- ～, 恐らく, こうした統制性への憧れと無関係ではないであろう。(世, 5.39)

②動作・作用の向けられる相手・対象。

- 心当りへ電話で訊いたが～ (映, 6, 12)
- ～, こゝにいられる男の方々(～)に日本女性への希望を聞く。(婦友, 6, 27)
- ～, したがって, 労働者の大量首切への犠牲転嫁の一環でなければならない。(エコ, 5.11, 10)
- ～, 地方会計への配付金の半減をやり, ～ (エコ, 5.11, 10)

③動作・作用の帰着点。(「に」に比べて, どちらかと言えば, 帰着点に到達するまでの経過をより強く示す。)

- ディックは, マーガレットとスーザンと, 彼女らの大伯父で大審院判事のサデュウス氏と, 伯父のビーミッシュ博士を, ボロ自動車に乗せて, ピクニックの目的地へついた。(映, 6, 13)
- 裁判所では山積する事件を裁き, 家へ帰ればたった一人の妹の, 十七歳の青春娘スーザンの監督もしなければならない。(映, 6, 12)
- そこで彼女はチェンバレンとディックのアパートへ行った。(映, 6, 12)
- ディックは留守だったが彼女はモデルだと云って, アパートの係りの少年に, ディックの部屋へ入れて貰い, ～ (映, 6, 12)
- お嬢さまが, 部屋へあがってくると, ～ (ひま, 6, 54)
- 一たん庭へ下りようとしたお嬢さまが～ (ひま, 6, 54)
- ～ おくすりを逆さにして, 縁先から庭へすててしまいました。(ひま, 6, 52)
- ～, ダンちゃんもろとも, みごと砂漠の中へふりおとされました。(野少, 6, 41)
- 依然チェンバレンは優勢だが, 池にかゝった丸太棒の橋を渡る途中, 後から来たジェリイに水中へ突き落された。(映, 6, 13)
- 二人が話しながらあるいて行くうちにどうやら道をまちがえたらしく, とんでもないところへ出てしまいました。(野少, 6, 44)
- どうしてこんなところへ私が来ることになったのだろう。(ひま, 6, 52)

- 今日大学へ進む途は広くあけられている。(朝, 5.6, I)
- ～, 大学へ進学することは決して不可能ではない。(朝, 5.6, I)
- ～ 小学校を出て上級中学に進むものと, 高小へ行ったり, すぐ実業につくものとの間に, ～(朝, 5.6, I)
- ～ その人間がいかにして憂き世からあの世へ行ったか, ～(世, 5, 39)

〔ところへ〕(接続詞的用法)

- ところへやってきたのが, 催眠術師の弟子です。(野少, 6, 43)

〔～から～へ〕

- ～, 口から外へ声になって出たか, 出なかったのかわからないほど, ～(ひま, 6, 52)
- ～, 現在おかれている地位からそれへの距離とその道程とを, ～(法, 5, 51)
- 形の教育から質の教育へ(朝, 5.6, I)

61. ほど(副助詞)

①おおよその分量・程度を示す。(数量を表わす語, 「こそあど」, etc. につく。)

- その時から十五六年まへ, 由比が, はじめて, 下諏訪(その頃は, その女も『あね』芸者も, 下諏訪に, ゐた。その下諏訪)に, 行って, 十日ほどたいざいしたとき, ～(文, 7, 80)
- その折山に布の厚さの二倍ほどの深さにミシンをかけます。(婦友, 6, 73)
- 無数の折鶴が重なって糸で釣るされ, すみからすみまで埋もれてみえるくらいなのでした。これほどの折鶴を折る間, ～(ひま, 6, 54)
- ～, その人生行路の上にとれほどの明暗があったであろうか。(朝, 5.6, I)
- 可愛い彼女のうちに, これほどもしっかりと, 地に足をつけた考文方が潜んでいたのかと, 目を瞠る思いである。(婦友, 6, 27)

②ある事がらを挙げ, それによって, 動作や状態の程度を示す。

- が, 政治的実践性に縛られた批評精神が, 個人的現実を卸下するほどに昇華しきらぬため, ～(人, 5, 85)
- おくゆかしい薫りが, 甘い体臭ととけあって, 惱しいほどに, 彼女の鼻をうつつでした。(ひま, 6, 54)
- 数絵は, そうたずねたつもりでしたが, 口から外へ声になって出たか, 出なかったのかわからないほど, 出たとしてもそれは, 低い声だったのです。(ひま, 6, 52)
- ～, みあげるのもまばゆいほど, 神々しい顔立のお嬢さまが, ～(ひま,

6, 52)

〔～ほどのことはない〕

○正広君の方は——心配した程のことはない。嬉しそうにニコニコ笑っているではないか。(キン, 7, 32)

〔なに(不定称の語)ほどの～もない〕

○個人の誠実などなにほどのことでもない。(人, 5, 85)

○ひとびとは階級対立の激化にともなふ現実の混乱に直面して、個人の誠実などといふものがなにほどの力も発揮せぬことを、身にしみておもしろされてゐる。(人, 5, 85)

③程度を比較する基準を示す。

○離乳というのは、生後七八カ月になると母乳ばかりでは、鉄その他の赤ちゃんの発育に必要な成分が不足してくるためと、今までほど水分を必要としなくなり、母乳の水分が多すぎて必要な成分が摂りにくくなるために始めるのです。(婦友, 6, 86)

〔～ほど～はない〕

○働いたあとで、ぐったりと疲れて家にかえってきて、三疊一間のじぶんの貸間で、二人でかきこむ食事ほど、美味しいものはありませんでした。

(ひま, 6, 52)

④事がらや状態の程度の高まるに比例して、それに随伴する事がらや状態が高まる場合。

○人間というものは、金をもうけるほど、けちくさくなるものだ。(資料外)

〔～ば～ほど〕

○それに、つくづくと眺めれば眺めるほど、お嬢さまは、うつくしく、けだかく、しとやかなのです。(ひま, 6, 54)

62. まで(副助詞)

①動作・事がらの至り及ぶところ、到達の終点を示す。

(イ) 場所。

○二人ともアフリカまできて、ワン公にうまれかわるとは思わなかったのですが、～(野少, 6, 42)

○なに一つ、こゝまではきこえてきません。(ひま, 6, 52)

○空電源Dから出る電波をABCの8点で同時に測定すればABCの関係からDまでの距離がわかる。(科, 5, 36)

○御用の方は受付まで。(資料外)

○購読御希望の向は、係までお申出てください。(資料外)

〔～から～まで〕（この場合は格助詞の代理。）

- 溝の口から浅草まで一時間のドライブは、正広君にとって生れて初めての楽しい経験だろう。（キン、7、32）
- ～ 教絵が天井から床の間の方をみわたすと、無数の折鶴が重なって糸で釣るされ、すみからすみまで埋もれてみえるくらいなのです。（ひま、6、54）

（ロ）時期・期限。

- 離乳を秋まで延してよい場合と悪い場合とあります。（婦友、6、86）
- 池田大蔵大臣が廿四年度予算案の特徴としてあげた第二点は、いままで予算面にあらわされていなかった「援助資金」が今度は予算面にハッキリ姿をあらわしたことである。（エコ、5.11、10）
- ～、一般の大学に四年制のほか二年制を主とする短期大学を認めねばならなくなったことは形式的な六三制を金科玉条として固守してきたこれまでの方針に一大反省を求めるものでなくてはならぬ。（朝、5.6、I）
- しかし、われわれとして最も注目せねばならぬのは協定成立に至るまでのソ連の態度の急変であり、その真意である。（東、5.7、I）
- 山口県教組のごときは「文部当局を告訴し、黒白のきまるまでは使わせない」と決議したとかさせたとか伝えられている。（東、5.6、I）
- 「そしてこの苦しみの中に我々兄弟は死ぬまで仲よくしようと何度兄弟愛を誓ったか解らん。」（新、9、73）

〔～までに〕

- 次期国会までに民自と民主犬養派との合同はあり得るかもしれないが、～（朝、6.20、I）
- 「ゆっくり出来るつもりだったけど、三時半までに帰らなければならぬのよ」（ロマ、6、56）

〔いつまでも〕

- 教絵も、なぜか、自分でもわからない泣出しそうな気持で、お嬢さまとむかいあったまま、いつまでもじっと黙りこんでいました。（ひま、6、54）
- 教絵は、まるで光琳の豪華けんらんな金屏風でもめぐらしたような、百花の咲きにおうそのお庭のうつくしさを、書院窓の障子をあげ、青貝をちりばめた文肌には肘をつけて、いつまでも、いつまでも、恍惚と眺めているのです。（ひま、6、52）

〔～から～まで〕（この場合、格助詞の代理。順序の場合を含む。）

- 夕方、5時から8時までには、電熱器を使わないで下さい。（資料外）
- 前菜からデザートコースまで（朝、5.19、II）

(ハ) 程度・限度。

- その長さの半分くらいまで大体同じ深さにぬい、～(婦友、6、73)
- サ系(二〇〇〇)五日目に日黒記念があるのでここはタビトの独占場、ミネノマツがどこまでゆくかというレース(東、5.29、Ⅲ)
- ～、自己の性能を極限にまで展開しえたという手ごたへそのもののうちにある。(人、5、84)

〔～までに〕(程度のはなはだしさを表わす。)

- またこの書は特に共産主義のみを批判しているわけではなく、ヒトラーやムソリニ時代のいわゆるファシズムについても完膚なきまでに批判し去っているのである(東、5.6、Ⅰ)

〔～までも〕(程度のはなはだしさを表わす。)

- 「あなたはそんなにまでもぼくの事を思っ下さるんですか。」(資料外)

〔～までだ・～までのことだ〕

- 「停電したら、寝てしまうまでだ。」(資料外)
- 「そんなに高いのなら、買わないまでのことだ。」(資料外)

〔～までもない・～までのことはない〕

- ～、わが党も共産党とはあい容れないことはいうまでもない(朝、6.20、Ⅰ)
- ～、そのうち、もっとも注目をひいたのは、いうまでもなく「米国対日援助見返資金特別会計」である。(エコ、5.11、10)

〔どこまで〕

- あんな事を言うなんて、どこまでずうずうしいんだろう。(資料外)

〔あくまで〕

- ミスタ・テイラーはあくまでも彼女と共に闘病し、健康の勝利を得てから本当の結婚をするのだ……と、まる一カ年病院で働きながら彼女の全快を待っている。(婦友、6、26)

②極端な場合(心理的極限)を挙げて強調し、他の場合を言外に暗示する。(「さえ」参照)

- ところで花山博士はBC級戦犯に対しては、その氏名と刑の執行日時その他に、全く不必要と思われる犯人の出身地と遺族の住所氏名年齢までくわしくしるし～(世、5、39)
- しかし、すっかり馬のつもりになっている催眠術師は、馬のくせまであらわして、あと足でボカリッ!(野少、6、44)
- あの人こそ、夢にまで待った私の騎士、とうっとりした彼女は、講演が終わった後でディックを握え、自分をモデルに使って欲しくないかと頼んだ。

63. も

[I] 係助詞

①同類として共存するものの提示。

(イ) 事情の類似しているいくつかの事物を、互いに同類のものとしてあわせ提示する。(〔～も～も,〕の形。「は」参照)

(a) 主語。

○その頃は、その女も『あね』芸者も、下諏訪に、みた。(文, 7, 80)

○全く血も涙もない怪しからぬ話である。(キン, 7, 32)

○しかし、その女は、芸者であるし、それに、由比は、その女に、感情はいくらかわるくしたかもしれないが、迷惑をかけたことも、不義理をしたことも、まったくないのであるから、『もし逢へれば』などと考へるわけは一つもないのであるが、～(文, 7, 80)

○この新しい教育制度を生かすも殺すも国民の熱意一つである。(朝, 5.6, I)

(b) 客語・対象語。

○こんなに寒いのに、炭もまきも買えないじゃ、やりきれないな。(資料外)

(c) 副詞的修飾語。(事態の捉題)

○～、むずかしい仕事の手加減をおぼえてしまうと、数絵にとっても、千鶴子にとっても、働くことはそんなにつらいことはありませんでした。(ひま, 6, 52)

○父兄の負担を軽くしつつ実際社会に早く子弟を送り出すという年限短縮の要求からいっても、はたまた現実の高専諸学校の内容からいっても、かかる措置はとくに予想されていたに相違ない。(朝, 5.6, I)

○即ち農林1号では、普通肥料区でも少肥料区でも正方形植の方がよい結果を示し、～(農, 6, 25)

○だがディックは、サック競走にも、二人三足にも、スプーン・レースにも負けた。(映, 6, 13)

○そしてこのようなものが、ソクラテス以来、トマス・アクィナスにおいても、デカルトにおいても、またヘーゲルにおいても、それぞれの仕方で見出される、真の自由の原理なのであると考えられる。(世, 4, 22)

(ロ) 事情の類似したいくつかの判断を共存させて表現する場合に、

それぞれの主題を互いに同類のものとして提示する。(〔～も～、～も～〕の形。「は」参照。)

○全粥が食べられる頃になれば、マッチ箱大の食パンに上質の天然バターを塗ったものや、(あれば薄切のチーズを添える)ごく軟く煮た上質のうどんもよく、餅も軟かく煮て少しずつあげます。(婦友、6、86)

○雨も降るし、風も吹く。(資料外)

〔～が(は)～、～も～〕(接続詞・接続助詞で結ぶ場合もある。まず、ある事がらを提出し、次に、同様の事情のものとして、第二の事がらを提示する言い方。)

○肥料要素については窒素が最も関係が深く、加里・燐酸も多少関係する。(農、6、6)

○戦後、アメリカからは、ガリオア(占領地救済)資金その他が来ており、昨年からはイロア(占領地経済復興)資金というファンドも来るようになった。(エコ、5.11, 10)

○が、それなくして個人は生きられぬのみならず、社会もまた、それなくして存立しえぬであらう。(人、5、85)

○ガンちゃんは、さっそく、つぼからくすりをつかみだすと、むくむくうごきだした催眠術師のおおに、ブーッとふきかけました。ダンちゃんもころえて、おかしな手つきをしながら、～(野少、6、43)

○お嬢さまが、部屋へあがってくると、折鶴たちも、我を争ってかえってきて、～(ひま、6、54)

○二年制の短期大学が出来るなら、三年制の高校を二年延長し、旧制高専を横すべりにした五年制の高等学校も出来てよい。(朝、5.6、I)

○依然チェンバレンは優勢だが、池にかかった丸太棒の橋を渡る途中、後から来たジェリイに水中へ突き落された。又他の父兄も学生達にそれぞれ妨害されて～(映、6、13)

(ハ) 代表的提示。

(a) 一対の語を挙げ、それを代表とする他のすべての場合に通じさせる。

○いなかから、いきなり大都会のまんまん中へほうり出されたんじゃ、西も東もわからなくなるのは、あたりまえじゃないか。(資料外)

○この案には、だれもかれも賛成するにちがいない。(資料外)

○どこもかしこも、どろだらけ。(資料外)

(b) 不定称の指示語につき、肯定の語と呼応して全面肯定をあらわす。

- 民主主義ということばならばだれもが知っている。しかし、民主主義のほんとうの意味を知っている人が、どれだけあるだろうか。(東, 5.6, I)
- ～, 政府の指導的将領はいずれも個人的利害にきゅうきゅうとしているので, ～(東, 6.6, I)
- ～, この原則論に対しては, けだし, 何人も異論のないところであろうが, ～(法, 5, 51)
- 赤ちゃんの体重と便と元気の有無とは, 離乳が正しく行われているかどうかを示す最もよい指針ですからいつも気をつけてください。(婦友, 6, 87)
- しかし誰にも共通なことは, 慎重にやるということです。(婦友, 6, 86)
- 九年制義務教育の機会均等は何人にも保証されねばならぬ。(朝, 5.6, I)
- (c) 不定称の指示語, または数・分量・程度を示す語につき否定の語と呼应して全面否定をあらわす。
- しかしながら, このような自由の原理は, 要するに内面的な自由のことであって, はじめにわれわれが問題としていた, 国民的自由や政治的自由とは, 何の関係もないと考えられるかもしれない。(世, 4, 22)
- ひとびとは階級対立の激化にともなふ現実の混乱に直面して, 個人の誠実などいふものがなにほどの力も発揮しえぬことを, 身にしみておもひしらされてゐる。(人, 5, 85)
- しかし, その女は, 芸者であるし, それに, 由比は, その女に, 感情はいくらかわるくしたかもしれないが, 迷惑をかけたことも, 不義理をしたことも, まったくないのであるから, 『もし逢へれば』などと考へるわけは一つもないのであるが, 由比の『ひっこみ思案』の性質のせみであった。(文, 7, 80)
- 今日, 驚くべきことにひとりの政治批評家も存在しないではないか。(人, 5, 85)
- 極北には現実のひとかけらも存在しない～(人, 5, 85)
- 天井や床の間の折鶴も, 一羽もみあたりません。(ひま, 6, 54)
- ②事情の類似した他の事物の存在を暗示し, 類推させる形で, ある事物を提示する。
- (イ) 当面の事物が, 既知のもの, または予想されたものと同様であることを示す。
- (a) 主語。
- そう言われると救給も, ついその気になり病気でもないお嬢さまを病人あつかいにするはたの人達の方がいけないのだと思いました。(ひま, 6, 54)

- 教絵もあとについて庭に出ようと腰をあげようとしていますと、～(ひま、6, 54)
- 御主人がアメリカの方だからだろう、英語がなかなか達者で、それも大きな強味だろうと思う。(婦友、6, 26)
- それに、そのとき、妙な『いきさつ』から、由比は、その女によく逢ひながら、その女の『あね』芸者と、したしくなつて、結婚した、といふやうなこともあった。(文、7, 80)
- 時には食パンの軟かいところを細く砕いて牛乳に入れたパン粥もよいでしょう。(婦友、6, 86)
- 東大工學部の學生四百人が花山教授からB C級死刑者の遺書を示され、「例外なく涙して」これをパンフレットに作成したという信じがたい事実(一六七頁)も、恐らく、こうした純粋性への憧れと無関係ではないであろう。(世、5, 39)
- ここに挙げた2品種は何れも中生種で、穂数の中層な品種であるが試験の結果も同一の傾向をもっている。(農、6, 25)

〔～もあろうに〕

- 「人もあろうにあの乱暴者にタテをつくとは、君もよっぽど度胸のある男だね」(資料外)
- (b) 客語・対象語。
- ～家へ帰ればたった一人の妹の、十七歳の青春娘スーザンの監督もしなければならぬ。(映、6, 12)
- これらの点も考え、かつ警察の機動性を発揮し、国家警察と地方警察の連絡がうまくゆくよう改革を考慮していたが、～(朝、6.20, I)
- そして生体を舞台として母体になる物質を究明し、之に関与する酵素系による生化学反応の連鎖を考えなければならないが、他方内的因子としての遺伝子の問題も考え合わせる必要があり、更にこういう見地からも種々な外的因子換言すると環境条件による変化等も追求しなければならない。(農、6, 6)
- ～、私は、前記標準線は、既に裁判所法及び検察庁法によって採用されている一線として合理的なものと考えが故に、新たに定めるべき弁護士資格の水準もこれと一致せしむることが適当であり、～と考えるものである。(法、5, 51)
- なるほど、二十四年度予算案は、一応、一般会計から赤字公債を排除し、復金債発行をも停止し、～(エコ、5.11, 10)
- ～アメリカではこの方法を引きつぎ レーダーをも加えてハリケーン(台

風)の進路を測ったが～(科, 5, 36)

(c) 副詞的修飾語。(事態の提示)

○～, それだけでも世界平和の上から喜ばしいことといわねばならない。殊にこの交渉が, 国連の米ソ英仏代表の努力によって成功を見たことは, 世界平和の維持機関たる国際連合にとっても極めて意義深いことであった。(朝, 5.7, I)

○それは社会全体についても, 同じように考えられてよいのではないか。

(世, 4, 22)

○ここにおいてもわれわれは, われわれの言いたいと思うこと, したいと思うことを, そのまま言ったり, したりすることによって, われわれの自由が現実になるのではなかったことを, あらためて思い出してみなければならぬ。(世, 4, 22)

○ここでも米英仏が難しい問題に当面するのは明かであり, ～(東, 5.7, I)

○～, そのため党内にも委員十名程度の警察制度改革委員会をつくり, 成案を得て臨時国会に提出する方針である(朝, 6.20, I)

○光線については光線を受ける側即ち向陽面に量が多く, 一般に光線量に比例し, 又波長とも関係する。(農, 6, 6)

○その湖水のほうからも, その方へむかってあるく二人に, つめたい風が, 吹きつけた。(文, 7, 80)

○今度の税務署の汚職事件は今後も継続的にやるつもりだから～(東, 5.29, III)

(ロ) 当面の事物を, なんらかの妥当な領域に含まれるものとして含蓄的に提示するだけで, 何と同様であるかは, はつきりと示さない形。

(当然・順当の結果を招く題目の提示, 周知・既知の話題の提示, などの場合が多い。)

(a) 主語。

○ドイツの欧州に占める軍事的, 経済的地位はマーシャル案に見るように戦後いよいよ確認されて来ている。これとともに回復期に入った敗戦ドイツ国民の自信が高まるのも当然であって, 今後のドイツ問題処理にはドイツの人心を把握することがいよいよ大切になって来たのである。(朝, 5.7, I)

○このような結果を見ると, 長方形植と正方形植との何れがよいかと思ひ迷うのも無理からぬところである。(農, 6, 25)

○長い中国の内戦もいまや急速に終結に近づいている(東, 6.6, I)

○六三制の頂点をなす四年制国立大学の審査もほぼ完了し、合格した六十八新制大学がこの六月ごろから発足する見込となった。(朝, 5.6, I)

○この新制大学を法的に裏づけする国立学校設置法も国会に提出された。(朝, 5.6, I)

○これに対し野党派の社会党は元農相波多野鼎会長の下に部内の左右対立もこのところ緩和の状態を示し、組織労働階級の満足を得たと確信しているので、～(東, 6.6, I)

〔～もいいが〕

○「映画を見に行くのもいいが、あの人ごみのことを考えると、ちょっと二の足をふまざるを得ないネ。」(資料外)

〔～かもしれない〕

○次期国会までに民自と民主犬養派との合同はあり得るかもしれないが、～(朝, 6.20, I)

○それは自由の古典的な概念であると言ってもよいかも知れない。(世, 4, 22)

〔それも〕(副詞的用法)

○強いて、微笑を顔にうかべようとしたのですが、それも口のあたりが不自然にひきつただけのことでした。(ひま, 6, 52)

(b) 密語・対象語。

○下痢しやすい夏と、下痢の重くなりやすい離乳期が重なるのですから、離乳は秋まで延ばせと言われる理由もおわかりでしょう。(婦友, 6, 86)

○こうすれば夏の離乳も安心してできます。(婦友, 6, 86)

○また 吹雪や風塵——これは関東地方で春のはじめによく起るものであるが——も電荷をもつ微粒子が運動するものだから これらから空電が発生することも容易に理解されよう。(科, 5, 36)

(c) 副詞的修飾語。(事態の提示)

○したがって問題はソ連が今や無意味となりつつあるベルリン封鎖を何時、いかなる意図をもって解除するかにあったのである。いま封鎖解除に応じたソ連の意図については、西欧側にも種々の観測がある。(朝, 5.7, I)

○売買仕法にもどうやら慣れて、商内もやや円滑化し、～(東, 6.6, I)

○～ハナマタ 60 が出れば時計からみてもレースの中心となる(東, 5.29, III)

〔～ともいえる etc.〕(控えめな主張を表わす。)

○その意味では、この教科書は著述者の持つ志向の高さと民主主義に対する情熱の深さを立証しているともいえる。(東, 5.6, I)

○これはひとつの束縛であり、自由の制限であるとも考えられる。(世, 4, 22)

○この危険感から、ソ連はベルリンの封鎖を解除し、西欧側との国交調整を希望するに至ったとも見られるのであって、～(朝, 5.7, I)

〔～てもよい〕(許容の意味を表わす。)

○それは自由の古典的な概念であると言ってもよいかも知れない。(世, 4, 22)

○われらにかわって裁判されているのだという気持ぐらひはあってもよいのではないか。(世, 5, 39)

③あまり目立たぬものや極端な思いがけぬ事例を提示することによって、包含される領域がそれにまで及ぶという誇張の意味あいを表現する。(「さえも」「すらも」「さすがの～も」の意を表わす。)

○貧しい数銭など、かいだこともない、おくゆかしい薫りが、甘い体臭ととけあって、痛ましいほどに、彼女の鼻をうつのでした。(ひま, 6, 54)

○昨年十月三十日発行された新制高校社会科用教科書「民主主義」(上)はその内容が反共的であるというので、左翼陣営が問題視し、一部にはこの教科書撤回運動もある。(東, 5.6, I)

○容疑者中には税務署員一人に対し四人のプロローカ―を使ってニセ税務署員にばけさせ四十数万円の収賄をしていた者や、業者の税金を納めると称して三十数万円を詐欺した者その他脱税を内密にしてやると十数万円を収賄した者などが悪質で大部分が二十二、三歳の青年、中には芸者を身請けしていた者などもある(東, 5.29, III)

○中共としては自国船舶の不足にかんがみ現在よりも多くの外国船が中国に出入することを望んでおり、必要とあれば外国船をチャーターすることも考えている(東, 6.6, I)

○～、その時における稲垣通産相以下七、八名の連立派の動向が注目されるが、同党は民自党とは絶対同盟はしないと声明している反面、閣外協力の態度を依然崩してはおらず、結局血は水よりの例え通りに持ち込み次第では与党側にまわる公算も決して少くはない(東, 6.6, I)

○社会的動物として人類にとっては、たがいに助け合うことなしには、単なる生存も困難となるからである。(世, 4, 22)

○この便利な瞬時型の測定機を 500km 以上隔った点に設けて連絡を密にして同時観測を行えば雷雨 台風 不連続線の移動を知り “当らない天気予報” の悪評を除くことも単なる夢ではあるまい。(科, 5, 37)

○さすがの男も、二人のきもちにすっかり心をあらためて、～(野少, 6, 44)

- みあげるのもまばゆいほど、神々しい顔立のお嬢さまが、～(ひま, 6, 52)
- 大人でさえ胃腸を損うことが多いのですから、敏感な赤ちゃんの胃腸はちょっとした異常にもすぐ影響され、忽ち下痢を起してしまいます。(婦友, 6, 86)

④叙述語を提示し否定の意の語を伴って、強い否定的主張を表わす。

- ～、もう見向きもしないで、～机を積み上げてみた。(世, 12, 53)
- お嬢さまの顔が、うす闇のなかに仄白く浮きあがったまま、下をさしうつむいて、微動もしないのです。(ひま, 6, 54)

⑤おおよその程度の例示。(推量・疑問などの意味の語が後続する。)

- 二十メートルもあろうかと思われる高い天幕のてっぺんではハシゴ乗りの曲芸が始まっている。(キン, 7, 32)

⑥強調。

- われわれは終戦後余りにも形式的な改革だけにとらわれて、実質的な内容の充実を忘れてしまった感がある。(朝, 5.6, I)
- これほどもしっかりと、地に足をつけた考え方が潜んでいたのかと、目を瞠る思いである。(婦友, 6, 27)
- ミスタ・テイラーはあくまでも彼女と共に闘病し、健康の勝利を得てから本当の結婚をするのだ……と、まる一カ年病院で働きながら、彼女の全快を待っている。(婦友, 6, 26)
- ～、生活補助費の名目で無理矢理押付けられた少額の借財に断りもならぬという弱点をつかれ、次々にドン底に追い込まれている(東, 5.29, III)
- ～、ひとびとはそこに際限もなく伸びあがる批評精神の循環論法を見いだすにそらない。(人, 5, 84)
- ～スーザンに愛想をつかさされる嫌にと、年甲斐もなく馬鹿な学生みみたいな恰好をしたり、態度をしてみせるが、～(映, 6, 13)
- ～、細かい雨がすきまもなしに降りこめていました。(ひま, 6, 54)
- ～結局これら苦悩や危険の多い途を避けて、不安定ながらも連携妥協による形式で与党戦線の強化を図るほかはないだろう(東, 6.6, I)

〔～よりも〕

- 中共としては自国船舶の不足にかんがみ現在よりも多くの外国船が中国に出入することを望んでおり、～(東, 6.6, I)
- もっとも本書全体の文章は純粋どころではなく、「学究」の文体よりもジャーナリストの文体に近い俗臭のあるものだという事は、～(世, 5, 39)
- そのようなことからして空電源の位置決定よりもむしろ空電の日変化

年変化などの連続的な統計的研究を行うのに適していると考えられる。

(科, 3, 37)

○いや、それよりも前に、そもそもインフレーションとは、現段階において何を意味するのか？ (エコ, 5.11, 10)

○さらにソ連は復興途上何よりも戦争を怖れている。(朝, 5.7, I)

○～、さらにかれをより以上に不幸にさせているものがあるとすれば、それは他のなにもよりも小説家や詩人のうちにそれがないといふ事実にあるといつてさしつかへあるまい。(人, 5, 85)

○といふことは、かれは効果にたいするよりも、機能にたいして忠実だといふことにならぬだらうか。(人, 5, 84)

○そしてそのような圧制でも、多くの人々にとっては、たがいに闘争しているよりも、むしろ助けになると考えられるであろう。(世, 4, 22)

[～にも拘らず]

○そしてそれからでも既に40年を問してみる。それにも拘らず今尙正方形植か長方形植かと、田植の度に思ひ迷ふ人の多いのはどうしたことであらうか。(農, 6, 25)

○個人の誠実が軽蔑される社会は陰鬱な猜疑の林立のうちにみづから亡びてゆかねばならぬ。しかもかわらぬ個人の誠実はあきらかに限界に達してゐる。(人, 5, 85)

[～にもせよ]

○しろうとのぼくらには、到底判らない世界であるにもせよ、トバクというヤクザ的存在が、日本の民主化の成長をむしろむしばんでいることだけは確かである。(資料外)

[～までもない]

○～、わが党も共産党とあい容れないことはいうまでもない (朝, 6.20, I)

○すでに周知のように、二十四年度の総合予算には、沢山の特別会計が設けられているが、そのうち、もっとも注目をひいたのは、いうまでもなく「米国対日援助見返資金特別会計」である。(エコ, 5.11, 10)

[ややもすれば・ともすると etc.]

○～、これらの問題の論議に際して痛感することは、論者が、ややもすれば今後の、将来における弁護士がいかにあるべきか、また、あってほしいかといういわば将来論、理想論と、現在の弁護士ないし弁護士会——あるいは、もう一つ広くいって弁護士制度——の現状がこうであるから従って、これをこうしたら、という現在論、現実論とが、採り上げられる具体問題

を異にするごとに、又は、これを論ずる人の立場を異にするごとに、甚しく混線させられているということである。(法、5、51)

- 昨今の日本には、ともすると物質のために貞操を顧みないような浅薄な女性がいる、そのために本当に純愛から出発したものも、不純なものと同差される恐れがある。(婦友、6、26)

[II] 接続助詞

- 時間的な、または量的な見積りを表わす。「(とも) (接) の②に同じ」(形容詞の連用形につく)

○今夜は、遅くも新宿駅到着二十一時と、家を出る折、見積っていた。(新、3、10)

○この調子で降り続けば、今夜の雪は、少くも十センチは積もるだろう。
(資料外)

64. もの (終助詞)

- 不平・不満・うらみの意をこめ、理由を述べて反ばくし、訴え、あまえる気持。「だって」「でも」などと呼応することが多い。

○「だって、貴方と最初にお目にかかった時、これを着てみたんですもの。」
(ロマ、10、19)

○「だって、とぶのが、ぼくのしごとだもの。」(幼ク、9、24)

○「だって、くやしいんですもの！」(少年少女、10、11)

○「だって、私やはり本当に愛してゐてくれる人とでなければダメだといふことが、つくづく分ったんですもの」(ロマ、6、49)

○「でも荷田さんのお兄様はお偉いんですもの。」(婦朝、6、26)

○「こればかりはイヤよ……私にとって過去の思い出がこもった品ですもの」(婦生、9、123)

○「コーヒーをぐいと飲んで、ドーナッツをばくばくとやってそれで、はいさようなら、なんですもの。」(少女ク、6、40)

○「ほら、ちゃんとなあなたのお菓子も運んで来てみますもの。」(人、10、104)

○「こんなときには、貴君を頼りにする外、どこも頼って行くところないんですもの。」(ロマ、6、49)

○「貴君なら、私の気持よく知ってみて下さるんですものね」(ロマ、6、49)

65. ものか (もんか) (終助詞)

○強く反ばくし、きっぱり否定する。(反語。)

- 常夏のインドから来たばかりなのに寒くないことがあるものか、負け惜しみだらう、とだれしも考へたらしいが、～(文, 12, 13)
- たとえ医者ではないまでも、物理科学を専攻した研究家が結核などに負けてなるものか。(ロマ, 12, 62)
- そして、その行為が、もうこの家においてやるものかという意志をいよいよ決定的にしていった。(キン, 11, 138)
- それは母に関するかぎり何の嘘もない事実だったのだ。その偉大な努力の裏にどうして憎しみなどあるものか。(キン, 11, 141)
- 「なにが、おかしいことがあるものか。」(銀, 8, 27)
- 「いまごろふくめんしてもまにあうものか、こんどは、にがさんぞ」(少年ク, 11, 14)
- 「死んだって帰るものか。」(少年ク, 9, 27)
- 「うん、やろう！負けるもんか」(銀, 8, 30)
- 「薬の金があるもんか、おぬしはそれを心配して薬をのまうとせなんだらうが、そんな気兼ねをすするで死にたうならあね」(人, 10, 87)
- 「出るもんか。テングさまなんて、この世にいるもんか。」(銀, 7, 65)
- 「じょうだんいいなさんな、海の中まではいれるもんか。」(少女ク, 3, 74)

〔～も～も～ものか〕

- 「痛いもへちまもあるものか。」(資料外)

〔もの(ん)ですか〕[※](丁寧体)

- 「だれが来るものですか。」(少年ク, 6, 43)
- 「あつてたまるものですか。」(少女ク, 9, 41)
- 「マルボにゆけるもんでですか。」(世, 9, 101)

66. もので(もんで)(接続助詞)((連体形につく))

○原因・理由をあらわす。「ので」に近いが、いくらか強い。順説条件)

- 「おじいさんのやつ、死んだと思っていたおまえが、たったひとりの孫のおまえが帰ってきてくれたもので、あんまりうれしくてね、毎日おまえといっしょに遊ぶのにむちゅうになっていたものだよ。」(少女ク, 8, 24)
- 「私、踊れませんの……ダンスなどとは縁のない田舎に、ずっと育てて参りましたもので……」(キン, 8, 20)
- 「もつとも、きょうはひとりだけ、見のがしちゃったがね。あいてが、かけ足だったもんで。」(少女ク, 3, 61)
- 「あんまりいとお天気なもんで、つい浮かれちゃって。」(ひま, 10, 63)

67. ものなら（接続助詞）（終止形につく）

- それがきっかけとなって、事の成行きが大変な事になる、というような事態における仮定の条件を示す。（順説。）（未来形の語を受ける。）
- その話も、もっともなことだし、うっかりことわろうものなら相手をおこらしてしまいそうな意気ごみなので、北見のおじさんはこころよくその厚意を受けとったのであった。（少女ク、12、23）
 - うっかり克巳さんに口をきこうものなら後で梅ちゃんにひどい目に逢うから、気を付けなさいよ（婦生、2、40）
 - うちの子供が外へ出て、下の階級の言葉を覚えて来ようものなら、お母さんが喧しく訂正してゐる。（文、12、80）
 - ところで、こんな具合に、自他の生命を軽視する連中でありながら、あなたが若し、彼等に向って、新しい戦争のおこる可能性を語りでもしようものなら、あなたの目玉も抜いて呉れんぜ勢ひでいきり立つのですから、不思議です。（新、2、58）

68. ものの（接続助詞）（連体形につく）

- ある事からの存在・成立を一応容認・譲歩し、それにもかかわらず別の事からの存在・成立する事を主張しようという事態における前件・後件の接続。（逆説条件。）
- さてバザーには来たものの、何にも買わないで余興まで見せて置き、マリちゃんにあきられるとシャクだから、一通り平げて、おひるのサイレンと共にスタコラお家に帰りました。（ひま、12、69）
 - 何か士気振作のとき、“殊死奮戦……”とか書いたことがあった。あとで麾下の某部隊に連絡に行った時、その指揮官が、「これは君が起案したのだろうが、殊死とはどういう意味かね」と訊ねられた。書きは書いたものの、さてそう改めて聞かれて見ると、はてそんな言葉があるのかなと怪しくなってくる。（文、12、97）
 - やっと立ちあがりはしたものの、その男はまだまっ青な顔色をして、息をきらし、足をぶるぶるふるわせている。（野少、12、89）
 - 男は、そうはいったものの、瀧田に、立ちはだかられているので、どうすることもできない。（少年ク、12、42）
 - リスアニアは参加を承諾したものの、なぜか代表は送って来なかった。（朝評、12、77）
 - メタルがいいときはコールを助け、コールがいいときはメタルを救い、二

者は一社の内幕で持ちつ持たれつの採算でやって来たものの肝心なめの
本家が潰れ、役員も現業課長も一本より二本がええということに傾いた。

《エロ、11.1, 34》

- 「さわくな。よくあることなんだ。何でもありゃしないよ」といったもの
の、改めて残忍な意欲を持直す博士の頬から、いくらか色が失われた。
（婦画、12, 104）
- それほど苦勞して陸相の更迭をやってみたものの、併し杉山氏がその地位
にあった場合と、どれだけ、軍部に対する近衛氏の希望が充たされたかと
いへば、それでも、だめだったのである。（文、11, 59）
- はたせるかな、第一回戦には八対六で勝ち、第二回戦には十二対三で大敗
したが、この決勝戦には第四回の総攻撃に一拳四点をあげ、いま第七回
に二点をゆるしたものの、この得点を守って、そのままおしきろうという
のである。（野少、12, 112）
- 男は笑顔になったものの、ひどく、あわてていた。（少年ク、12, 41）
- 飛行機ができてから、久しく悩んだ潜水艦対策が屋間はともかくも直ぐ発
見できるものの、夜間はどうにもならないというので、どこの海軍でもそ
の方には随分苦勞したものだ。（東、7.7, I）
- こういう事情を考えると増税よりも減税の方向にすすんでいるもの
の、問題の重点は租税の軽減よりも租税の合理化に存している。（エロ、
11.11, 7）
- 小島頼子も、友子も、こうなって行っただろうと、一足とびはなれて思
うものの、却ってそう思うことが一つの暗示となって縛ってくる。（婦画、
12, 102）
- ひところ新聞が書き立てたので、当局も放っておけず、武装警官まで繰出
したが、追うやさっと消えるものの、警官のいない所を見すまして五分と
かゝらぬ間に、ハッタ、ハッタの商売を始めるのだから、どうしようもな
い。（文、12, 35）

〔～ようなものの〕

- ああ、何ということを使うのかと、君は思う。ヒステリーだと思っ
てしまえばいゝようなものの、そう思おうとしても、言われた言葉が頭に引か
かり、君はついドキッとしたり、腹を立てたり、コン畜生と思ったりす
る。（スタ、12, 83）
- 偶々著述家や社会運動家の社会であったからよいようなもの、常識的な庶
民の社会はこういう人間を第一一人前に通用させるかどうかさえ分ら
ない。（新、12, 20）

〔～とはいうものの〕

- 大多数の級友と同様殿下も同じ学習院の高等科に進級されるとは云うものの、やはり此の卒業式は殿下の生涯にとって一つの段階を終えた事を示す標であります。(文, 11, 20)
- なんときれいな美人揃いとはいうものの、このおれが戀するほどの姫はござらぬ。(婦画, 12, 52)

69. ものを (接続助詞) ((連体形につく))

- うらみや不平・不満・反ばくあるいは惜しむ気持ちをこめて前件を提出し、後件に結びつける。(逆説条件。)
- 三十七の大二郎君に、まだ二十で、ネンネエの千鶴では、少し年令がちがうようだが、戀愛に年令はあるまい。あれほど双方が一心こめて思いつめているものを、まとまるものならば、まとめてやりたい……。《ロマ, 12, 73》
- 只今申上げたやうな、崇高な種類の自殺者と、極端な対照をなす者に、まるで自分では死ぬ心算もないのに、他人の思惑を気にしたり、うっかり軽はずみの拳に出たりして、生きてゐれば何かの役に立つものを、何の役にも立たずに死んでしまふ無数の人達があります。(新, 3, 56)
- 文学者とは何んでありませうか？ あまりにも屢々、それは気に入られようと苦心する人であります。専ら自ら信ずる所を書いたらよささうなものを、それは書かずに、人の気に入るだらうと信ずる所を書くのであります。(新, 3, 54)

〔～もの〕(終助詞的用法もある。)

- 「長い将来ですもの、一時諦めて親の言う通りに服従していこうという気持ちになっても、長い間にはきっと不満が出て、後悔すると思いますわ。」(婦友, 7, 36)

70. や

〔I〕接続助詞 ((動詞の終止形につく))

- ある動作・作用が行われると同時に、他の動作が行われる場合、前件と後件を結びつける。
- しかし、ロディジアニは第一球を打って三壘ゴロ、藤村、おうと、それをつかむや、三壘ふんでモーションはやく二壘へ球をおくって、まともみごとなダブル・プレーに西軍はピンチをのがれました。(野少, 12, 40)
- つづく二壘のロディジアニも、オドール監督の左腕が大きくまわっている

のを見るや、すばらしいスピードで三疊をこえて本疊へとびこみました。

(野少, 12, 23)

○松岡君は、ふりかえって、両手をあげ、じっとぼくたちを見わたした。そして、一同の気がそろったとみるや、さっと、指揮棒をふりおろした。

(少年ク, 12, 37)

○大船停車直前、彼女はプラスチックのハンドバックから小箱を出し、停車したと見るや、まるで専門医のような素早さで、しなやかな左腕にブスッと細い小さな針を刺した。(文, 12, 39)

[~やいなや]

○「ようし！」とこたえるやいなや、ふたりの警官のたくましい体あたりで、たちまち、がんじょうなドアもメリメリとおしあけられてしまいました。

(少女ク, 3, 62)

○……十九世紀に入るやいなや、タンゴという名前で、ブエノス・アイレスの街頭や、カフェーから、全世界のひとつの胸に流れていった音楽、～(婦画, 12, 100)

[II]並立助詞

○事物を並列・列挙する。(体言または体言対当のものに限る。)

(~や~。~や~や~ etc.)

○盆地や山の斜面が太陽の直射によって温まり～(科, 5, 36)

○しかし牛乳や山羊乳が手に入らなければ、～(婦友, 6, 86)

○これは固茹や生はいけません。(婦友, 6, 86)

○われわれは文部省や著作者の肩を持つつもりはないが、～(東, 5.6, I)

○ヒトリズムやプロレタリアの独裁の信奉者にとってこの書が面白くないことは当然であろう。(東, 5.6, I)

○～, 保留や未申請の高等専門学校を～(朝, 5.6, I)

○お嬢さまが、部屋へあがってくると、折鶴たちも、我を争ってかえってきて、お嬢さまの膝のうえや、寢床のまわりに落ちるのでした。(ひま, 6, 54)

○これに対して人権や自由を云々するのは、～(世, 4, 22)

○～, 社会を破壊や混乱から守り、～(世, 4, 22)

○～, したがって、恣意や偏見や我意がたゞ現実的な効果の名によって見のがされてゐる実状であつてみれば、～(人, 5, 85)

○われわれは法律や習慣や礼儀の許す範圍内において、～(世, 4, 22)

○～, 無智や気まくれや我ままにもとづく言行は、～(世, 4, 22)

(～や～など)

- 喫茶店の菓子やスシなどが問題になるので、～(朝, 5, 19, II)
- 半熟玉子や卵黄だけの茶碗蒸などにして、～(婦友, 6, 86)
- 監督のアーヴィング・ライスは新人で元来は脚本家であるが、一九四〇年からRKOの専属監督となり、ジョージ・サンダース主演のシリーズ物や、ヘンリー・フォンドの「大きな衝」などを演出した。(映, 6, 12)
- ～, 牛乳や造血劑などで栄養をよくしてから～(婦友, 6, 86)
- あじさいや、紅椿や、芍薬や、かきつばたなど、花の咲きみだれたひろびろとした庭のなかを、無数の白い紙鶴がとびまわっているふしぎなありさまを、教絵は、びっくりして眺めていました。(ひま, 6, 54)

(～や～そして～)

- 今までの気象学は御承知のように 温度や湿度 そして風向 風速などを地球上の数多くの測候所で観測し 無電による気象電報はじめ各種の通信機関を動員して互に通報し合って気象要素を集めて天気予報を出しているのである。(科, 5, 36)

(～や～や)

- あれやこれやと、いろいろ考えてみたが、どうしてもわからない。(資料外)

〔III〕終助詞

- ① 勧誘・命令。(勧誘の場合は、未来形に、命令の場合は命令形につく。)
 - 「帰ろうや」(野少, 9, 69)
 - 「よっちゃん、遊ぼうや」(ロマ, 7, 74)
 - 「お前の親爺自慢なんて、間接的にお前の自惚れじゃないか、よせやい」(キン, 10, 103)
- ② 詠嘆。(相手へとも自分自身へともつかぬ方向に、いはば、そっぽを向いて、または、軽く言い放す気持。)
 - 「まあいいや、しっかりやろう」(野少, 8増, 106)
 - 「つまんないや ベビちゃんにあげよう」(少女ク, 12, 17)
 - 「知らない人と会ふの面倒くさいや」(文, 6, 119)
 - 「わけないや」(少年ク, 11, 15)
 - 「これじゃやきゅうはできないや」(少女ク, 12, 17)
 - 「それならおもしろいや。」(少年少女, 19, 11)
 - 「甘ちよろい亭主だな 見ちゃいられないや」(婦友, 11, 75)

○「歩けない三吉とは遊べないや」《ロマ, 17, 74》

[IV]間投助詞

①呼びかけ。

○「そら、うさちゃんや、朝ごはんあげよ。」《少女ク, 9, 40》

○「一郎や、ものをたべすぎるくらいからだに悪いものはないんだよ」《銀8, 28》

○「丸子やおつけものだしてちょうだい」《ひま, 11, 29》

②副詞について、意味を強める。

○ひとびとは効果のために、いまやそれを抛棄してもかまはぬと考へてみるのであろうか。《人, 5, 85》

○一森は、またもや進退に窮する思ひで、扉口に、釘付けになった《ロマ, 12, 25》

○そうはいうものの、ピッチャーにも、でき、ふできがあります。ましてや、この東西対抗のような大試合では、出てくるバッターも、出てくるピンチ・ヒッターも、いづれおとらぬ好打者ぞろいということになると、ピッチャーの気づかれが出て、ふだんの力が出ないことがあります。《野少, 12, 54》

○不思議な胸さわぎがした。——もしや？ 彼女のアタマの中を、その一瞬「險の母」の映像が走馬燈のように去来した。《ロマ, 12, 72》

○その名は永久にアメリカ野球史に、アメリカ国民の胸にとどまって、あとにつづく選手にとって、かならずやよき模範となることであろう。《野少, 12, 56》

71. やら

[I]副助詞

○疑問の意を表わす語について、不確かな事物であることを示す。

○手をふり顔をゆがめてなにか叫んでみるがなんのことやら分らない。《新, 12, 68》

○急進分子だけが「天皇制を倒せ！」ということをやいだすのですが、一般には、何のことやらさっぱりわからない……。《婦画, 12, 90》

[~はどこへやら]

○嘗ての強がりやブライドはどこへやら、今は二箇の大福餅に心を動かされるのであった。《新, 12, 106》

[どうやら]

- 二人が話しながらあるいて行くうちにどうやら道をまちがえたらしく、とんでもないところへ出てしまいました。(野少, 6, 44)
- ピエロは、どうやら着つけがすんだ。次ぎは「仔鹿物語」の主役、仔鹿のバンビを作らねばならぬ。(少女ク, 12, 83)
- そのめしたきも、どうやら、一人まえになったころ、大阪にはいったのだが、～(少年ク, 12, 62)
- 明方から雨はやんで、どうやら今日は少しは晴れ間のみえそうな朝である。(新, 12, 124)

〔何やら〕

- 何やら、謎めかしい言葉を残して、生仏はちゃうど脊骨のあたりに羽根でも生えてきたやうに、うきうきと竜谷寺の方に帰っていった。(文, 12, 115)
- 月の魔術……そうか、この森に不思議があるとすれば、あの妖しい月光や、この美しい泉や、それに何やら秘密めいた小暗い木立など……それらが人を幻想の世界に誘うのだらう。(ひま, 12, 12)
- この生仏が村道を白足袋にフェルト裏の雪駄、袷袢の袖の中に珠数をつまぐりながら、何やら行ひすました顔で歩いてゆくと、～(文, 12, 106)

〔いつのまにやら〕

- 私はこの歌が好きで好きで、何だか、今まで、自分でも知らないうちに、自分一人で心のすみに温めておいたものが、一度にこの歌とともに軀を切って溢れ出したように、歌うことの喜びをつくづくと感じながら、伸び伸びと、今までの空想に描いたまゝに、心のまゝに感情のほとばしるまゝに、身体中を熱くしていつの間にかやら手をあげたり、足踏みしたりして、心から癒けこんで歌っていました。(スタ, 12, 37)

〔～とやら〕(はっきりに言わずにぼかす。)

- 小野中尉とやらに鬨斗付で引取って貰ふことにきめ、心静かに朝の読経に移るのである。(文, 12, 111)
- 曾て霞ヶ浦ではパイロットの採用に適性検定とやらをやっていた。(文, 12, 89)
- 私は当時学生の指導官であった飛行長の山口三郎中佐を思い出す。大兵肥満、柔道六段とやらで、見るからに豪快の風貌であったが、～(文, 12, 88)
- 最初の第一回は何でも失敗して海中に転落したとかいうのだが、海から這い上ると、ひるまず、すぐさま第二回をやったのけて、無事着艦に成功したというので、当時の艦隊長官が褒賞したとやらの話が残っている。(文,

〔II〕並立助詞

○事物をあれこれと列挙する。

- それまでにも、偵察やら、味方残存兵力の救出やらに、度々潜水艦は派遣されているが、悉く消息不明となっている。(文, 12, 100)
- これが未遂に終わった剣作戦の荒筋であるが、その準備期間に、いろいろの人達が視察やら連絡やらで、三沢基地を訪れ、隊員を激励していた。(文, 12, 100)
- お姫さまは、おどろきやら、うれしさやら、はずかしさで、夢心地でした。(少女タ, 12, 103)
- ～、今年はどうした風の吹きまわしか、約二週間ばかり前から、おせじを云うやら、おだてるやらすかずやら、いろいろと手をかえ品をかえ等して、いたって面倒臭がりやのあたしに、とうとう○学院復興増築記念バザー入場券お一人一枚限りタイマイ拾円也というのを二枚おしつけてしまいました。(ひま, 12, 66)
- あくる十三日は、前々からとどいていた野球道具のしらべやら、かるい体操などをしてコンディションをととのえた一行は、いよいよ十四日午後、後樂園球場で初練習をおこなうことになりました。(野少, 12, 16)
- 浅妻船は三年生、禿は中学一年、それから童謡舞踊やら、西洋舞踊、入れ替り立替りあらわれるゴメンメンはすごい豪華版でおめいのさめる様な美しさでしたわ。(ひま, 12, 68)

〔III〕終助詞

○想像を働かす。

- その顔をぬつと胸所から、つきだして、「おうい、めしだよ。」と、叫ぶと、乗組員はうんざりしてしまうのだ。——きょうは、どんなものをくわせるやら。だが、ときどき、思いがけないごちそうがある。(少年タ, 12, 63)
- これも十幾年前ののんびりした時代の話だ、今は年をとったのか、銀婚式近い妻を連れて互ひに酒を味はふやうになったが、さて結婚式など挙げぬ我々、いつから数へて銀婚式になるのやらとこの間も首をひねったものである。(新, 12, 26)

72. よ (終助詞)

○強調の意味を表わす。

(イ)断定、言い張る、言い聞かせる気持で念を押す。

- 「あら、もうお眼覚めになったの？まだ八時よ。」(ロマ, 10, 19)
- 「自動車で、五分ぐらゐの辛抱よ。」(新, 6, 89)
- 「大いに君達の基本的人権は尊重するよ。」(キン, 10, 103)
- 「むしろ国内で、この暗黒時代を過ぎてゆくことの方がよっぽど苦しいよ。」(人, 9, 5)
- 「それだけで、念仏も甲辞もいらぬよ。」(新, 10, 7)
- 「大丈夫だよ」(スタ, 7, 71)
- 「こればかりはイヤよ、……私にとって過去の思ひ出がこもった品ですもの……」(婦生, 9, 123)
- 「ここだけの話ですけど富子さんに云っては駄目よ」(新, 7, 14)
- 「あのマダム、炬燵の中で僕の手を握りしめて離さなかつたよ。」(新, 7, 13)
- 「あの方は大学の先生で、グレキア文学を受け持ってみなさるフランス人だよ。」(新, 9, 72)
- 「二十分ほど前に、瀧田先生に呼ばれて、向ふの書齋へ行つたっきり、まだ帰って来ないんですよ。」(人, 10, 105)
- 「もういいと思つて 水からあがってきても、すぐまた あつくなるので、また出かけるのでしょうよ。」(幼夕, 8, 15)
- 「言葉つきでも分りますよ。」(ロマ, 9, 107)
- 「世の中は、そう勝手気儘にはなりませんよ。」(ロマ, 9, 106)
- 「ロシア語を知ってるからよ。」(銀, 8, 38)
- 「篤、自動車に気をつけるんだよ。」(新, 10, 76)

[~のよ] (女性専用)

- 「東京へ行ってお父さんと一諸に生活するのを楽しみに帰つて来たのに、当てが外れたつて泣くのよ。」(新, 7, 11)
- 「だから、嫌になつちゃふのよ。」(新, 7, 14)
- 「今までにも、なんど島から逃げだして正太さんところへ行こうと思つたかわからないのよ。」(ロマ, 9, 98)
- 「ねえ、武智さん、わたしの彼氏、わたしがこれほど思つてるのに、ちつとも思つてくれないのよ。」(新, 7, 14)
- 「大野さんの十八番が出たから今日はお酔ひになつたのよ、きつと。」(宝, 7増, 16)
- 「でももう今日は、お味噌を買ふお金もなかつたのよ。」(ロマ, 10, 19)

○「主人のお許しをもらひまして、ちょっとここまで足をのびしましたのですのよ。」(ロマ, 9, 74)

〔～てよ〕〔女性専用〕

- 「さう、二月ごろまではたっぷりかかってよ。」(人, 10, 104)
- 「あなたは大学の研究室にみらしたほうが似合ってよ。」(宝, 9増, 143)
- 「そんじょそこらにあるって代物じゃないの、古いのなんのって、とても年代物なんだから、すぐわかってよ。」(キン, 10, 101)
- 「お聞きになったら、なるほどこれが詩人といふ者かと思ひになつてよ、きっと。」(宝, 7増, 14)
- 「通やくにでもなつて、ちょうほうがられていてよ、きっと。」(銀, 8, 38)
- 「妙子さん、きっとあたしがすみれの花をしのぶ草とよんでいることにさんせいしてくれてよ。」(少女ク, 6, 49)
- 「あの丘のうえに行くともっとすばらしくてよ。」(ひま, 7, 66)

〔～ことよ〕〔女性専用〕

- 「髪の毛がこんなに濡れてることよ。」(人, 10, 101)
- 「でも、あんたのねうちあがることよ。」(少年ク, 7, 56)
- 「いいのよ、いいことよ。」(婦朝, 6, 26)
- 「男らしくないことよ。」(少年ク, 8, 33)

〔～わよ〕〔女性専用〕

- 「でも変人だから、きっと困るわよ。」(婦朝, 6, 26)
- 「お金は時々まとめてきれいに下さるわよ。」(宝, 7増, 14)
- 「ええ、貴方が買っていらっしやらなければ、ないわよ。」(ロマ, 10, 19)
- 「だってこの間、三寸二分だったわよ、計ったら。」(スタ, 8, 16)
- 「豊子ちゃんが泣いてみたわよ。」(新, 7, 11)

(ロ) 疑問の意を表わす語と呼応して、疑問の意に相手をなじる気持を添加する。

- 「膝ぐらゐが何だよ。」(文, 8, 82)
- 「なに言つてんのよ！」(文, 6, 82)
- 「ま、なんですよ、この子は……。」(少女ク, 10, 34)
- 「何処へ行くんだよ。」(スタ, 7, 71)
- 「あら、どうしたのよ、有吉ちゃんも友杉さんも……。」(宝, 7, 73)

(ハ) 命令、依頼の気持を少し強める。〔動詞・助動詞の命令形、または、命令・禁止の助詞「な」に接続する〕

- 「おい、あがれよ。」(新, 8, 78)
- 「止めるなんて云わずに、考え直しておくれよ。」(婦友, 6, 58)
- 「考えても見ろよ。」(文, 7, 71)
- 「つまらない取りこし苦勞をしないで、まあ待ってらっしゃいよ。」(銀, 7, 52)
- 「およしなさいよ。」(スタ, 7, 71)
- 「それに、あれごらんよ、ほら。」(少年少女, 10, 60)
- 「けれどもお婆さん、よくきいてくださいよ。」(宝, 7増, 258)
- 「今夜おいしいシチュー作るから牛乳頂戴よ。」(ひま, 8, 60)
- 「早く帰んなよ。」(スタ, 7, 71)
- 「そういうなよ。」(キン, 7, 20)

(二) 勧誘・ねだり。(意志を表わす助動詞「う」「よう」につく。)

- 「朝めしくったら行こうよ。」(銀, 7, 71)
- 「フジ子、このおうむは、かわいそうでもだれかにさし上げて行こうよ。」(少女ク, 10, 33)
- 「そのひまにおりてにげようよ。」(少年少女, 10, 12)
- 「ビフテキをたべようよ。」(新, 6, 89)
- 「さあ、もういゝかげんにして飯にしようよ。」(人, 9, 6)
- 「良子さん、早目に行きましょうよ。」(婦画, 7, 73)
- 「今日は、らくな話でいきましょうよ。」(婦画, 9, 86)

[～てよ。～てよ] (連用形につく。助動詞「ない」には、終止形に「でよ」がつく。)

- 「きょうから？もうしばらく待ってよ。」(婦画, 7, 74)
- 「安壽と厨子王の話？おもしろそうね。話してよ。」(少女ク, 6, 49)
- 「じゃ、ここへ所と名前をかいっててよ。」(婦画, 7, 73)
- 「何でもいゝから来てよ。」(ひま, 8, 61)
- 「おねえさま、お食事にしてよ。」(ロマ, 6, 70)
- 「ねえ、もう奥さんなんて云わないでよ。」(ひま, 7, 66)
- 「そうかんたんにおとうさんをころさないでよ。」(銀, 8, 38)

73. より (格助詞)

① 動作・状態に関する比較の標準・基準を示す。

- ～, 裁判官のうち、判事補より高い資格を要求されるものに在職した者は、～(法, 5, 51)
- 所要時間は二十二時間五分で戦前のより約十時間遅かった(朝, 5, 19, II)

- ～、夢が現実より純粹でありうるように。(世, 5, 39)
- 「ふうん、写真より綺麗じゃないよ。」(世, 12, 72)
- 「しかし、大分僕よりお若いんですね。」(婦画, 9, 86)
- 「ロマンチックで、たのしそうで——私の空想したよりすばらしいところ
だわ、空気はきれいだし、おいしい牛乳はあるし……」(ひま, 8, 60)

〔～よりは・～よりも〕(強意的用法)

- もう一度、前よりは大きな声で呼びますと、～(ひま, 6, 54)
- 「街頭でメーターを拾うよりは、ずっと経済的です」(婦生, 6, 42)
- 「更めて君に聞かされないでも、それくらい知ってるがね、一人っつって
ものは、どうしたって多少年齢よりはおくれてるんだ。」(文, 6, 82)
- 中共としては自国船舶の不足にかんがみ現在よりも多くの外国船が中国に
出入することを望んでおり、～(東, 6.6, 1)
- そしてそのような圧制でも、多くの人々にとっては、たがいに闘争してい
るよりも、むしろ助けになると考えられるであろう。(世, 4, 22)
- 「職業柄、お顔よりも齒なみの方が気になりまして……」(婦友, 10, 40)
- 「いやだわ、私、家を継ぐなんて——伯母さん、世の中が変ったのよ、家
よりも人間の方が大事だわ」(ロマ, 9, 88)

〔～よりかも〕

- 「おかあちゃんのおかお、ミツコ だいすき。」と、ミツコちゃんは と
ても まじめに いうのです。「そうお。」と、おかあさんが にっこり
なさいますと、「ええ、ええ。とつても。」と、ミツコちゃんは 力をい
れて、「おかしよりかも、おたまごよりかも。」(幼ク, 2, 34)

②ある事物について述べる際、比較対照の引合いに出した語を示す。

(「～に比べてむしろ～」の意を表わす。「よりも」の形をもとる。)

- 「しかし、僕より、君のはうが、いくらか、寛大らしいな。」(文, 7, 82)
- 「あんたは着物より洋服の方が似合ふわ」(ロマ, 6, 54)
- 「詩より、繪をおやりなさい。」(婦友, 7, 52)
- 「無関心というより現在の農村経営が、その必要を認めないのです。」(キ
ン, 7, 88)
- 「こりゃ、私が二時間教室でしゃべるよりこれを見せた方が、よっぽど生
徒に效くと思ったヨ」(映, 8, 22)
- そのようなことからして空電源の位置決定よりもむしろ 空電の日変化
年変化などの連続的な統計的研究を行うのに適していると考えられる。
(科, 5, 37)
- もっとも本書全体の文章は純粹どころではなく、「学究」の文体よりもジ

ジャーナリストの文体に近い俗臭のあるものだという事は、～(世, 5, 39)

- 一個の人間がいかにかに生きたか、またいかに社会に貢献し、あるいは害を及ぼしたか、ということこそ大切であるのに、それよりもその人間がいかにかに憂き世からあの世へ行ったか、つまりその死に方が重視され、そこに究極的な価値判断の基準がおかれる。(世, 5, 39)
- といふことは、かれは効果にたいするよりも、機能にたいして忠実だといふことにならぬだらうか。(人, 5, 84)
- とすれば、あすの不安定のはうがけふの安定よりも突感をおびて存在するといふのも、～(人, 5, 84)

〔何よりも〕

- さらにソ連は復興途上何よりも戦争を怖れている。(朝, 5, 7, I)
- ③位置・時間・程度などについて境界を立て、それの一方の範囲を総括して述べる際、境界となる語を示す。
 - いや、それよりも前に、そもそもインフレーションとは、現段階において何を意味するか？(エコ, 5, 11, 10)
 - 「先生より前にだれか日本でロボットつくった人がいますか？」(少年少女, 10, 48)
- ④否定の意の語と呼応して、それ以外のものを否定する意を表わす。(この特殊の場合として「ほかない」に続く用法がある。)
 - 「どうするって、東京では仕事が見つからないから、当分こちらで暮らすより仕方がないのです。」(世, 8, 78)
 - 「どうしても融通が附かなかったら、仕方がないわ、お店止めるより——」(婦友, 6, 58)
 - 「それはそうかも知れないがね、だって修ちゃんが駄目なら、美穂ちゃんに頼るよりほかないんだからね」(ロマ, 9, 88)
 - しまった。と思ったがもうおそい。なん万人の中から、あの少女をさがすことは、思いもよらぬことなので、おいしいけれど、あきらめるよりほかなかつた——(少女ク, 3, 78)
 - 「やはり今度も、柳屋さんへ御無心を言ふよりほかに仕方がありませんわ。」(人, 6, 27)
 - 「なんて申し上げるたって、旦那さまが、会社の人の妻君だって、仰言っただけでいらっしたんだもの、旦那さまの仰言っただけにして置くより他はないじゃないの……」(婦生, 6, 40)
 - 「この石段道よりほかに、山の村へ行く道がないのよ」(ひま, 7, 66)

⑤動作・作用の時空の出発点・基點。(文語的な言い方)

- 左よりシャリーイ・テムブル、ケイリー・グラント、マーナ・ロイ、一人置いてハリイ・ダズエンボート、ルディ・ヴァレ。《映、6、13》

〔～より～へ〕

- ～、従来は中央会計より特別会計へ繰入金、地方会計へ配付金をそれぞれ流し、～(エコ、5.11、10)
- ～、したがって、中央より地方、特別へのシワヨセをやめたように見せている。(エコ、5.11、10)

〔もとより〕

- お嬢さまの寢床は、と振返ってみましたが、もとより夢のことで、そんなものがある筈ありません。(ひま、6、54)
- 薬餌の世話はもとより、氷嚢のつめかえ、便器の始末までなにかもひとりなので、眠る暇もなく、～(婦生、2、51)

⑥副詞的用法。

- ～、出来れば、これを常によりよい生活に導くためには、～(世、4、22)
- ～、さらにかれをより以上に不幸にさせてみるものがあるとすれば、～(人、5、85)

74. わ(終助詞)

①話の内容について、軽く主張する。詠嘆の意は、かなり薄れ、むしろ、表現をやわらげ、まるみをつけるひびきを持つ場合が多い。

(女性専用)

- 「はっきりお断りするわ。」(宝、9増、143)
- 「おうちのお手つだいなど私たちでできることをして、その上であそんだらいいと思うわ。」(少年少女、7、66)
- 「おさかなが、すいすい泳いでいるわ。」(宝、9増、141)
- 「いいわ、そうになったら、私、自分で働くから」(ロマ、9、88)
- 「いや、いや——私、あんな話らない田舎でなんか、絶対に生活したくないわ」(宝、7増、89)
- 「いやだわ、私、家を継ぐなんて——伯母さん、世の中が変ったのよ、家よりも人間の方が大事だわ」(宝、7増、88)
- 「あたくしもはじめは珍らしくて、よく歩いたものだけど、いまでは見馴れてしまったわ。」(ひま、7、66)
- 「なんだか……おかしいですわ、ねえ、ふふふ……」(婦画、8、54)
- 「たとひお仕送り頂けなくっても、私、どうにかやって行きますわ」(人、

6, 26)

○「だって、仕方がありませんわ。」(ロマ, 10, 19)

〔～わよ〕〔女性専用〕

○「わたしもひっぱるわよ！」(少年少女, 10, 13)

○「だれだってつんできたくなるわよ。」(少女ク, 9, 41)

○「いいわよ, いいわよ。」(少年少女, 10, 60)

○「いゝえ, そんなことないわよ。」(文, 6, 82)

○「女にあまられたるなんて, 男らしくないわよ。」(少年ク, 8, 33)

○「おかあさん, あんなこと迷信だって, 先生がおっしゃったわよ。」(少女ク, 10, 35)

○「もうお友だちはみんな帰っちゃったわよ。」(少女ク, 10, 32)

○「だってこの間, 三寸二分だったわよ, 計ったら。」(スタ, 8, 16)

〔～わね(-え)〕〔女性専用〕

○「出ても長男だから, こまるわね。」(少年ク, 7, 57)

○「ですから, あんなにノンキらしく遊んでばかりみて, 行末が案じられるわね」(新, 6, 88)

○「性教育も, あわせてやっていただきたいわね。」(婦画, 7, 74)

○「人の誕生って, 嚴肅なもんだわね」(婦画, 7, 74)

○「まるで魔法使のおばあさんのようなかっこうだったわね。」(少女ク, 9, 42)

○「お郷里の蚊って凄いですわね, 省三さん。」(世, 8, 76)

○「強いられた結婚なんか, したくありませんわね, やっぱり。」(婦友, 9, 35)

○「社の方の奥さんが, お見えになっていたって言うわねえ……」(婦生, 6, 41)

○「えらいわねエ, 話きたいけど！」(文, 8, 79)

○「すてきだわねえ！」(少女ク, 9, 42)

○「よくいらっしゃいましたわねえ」(新, 7, 13)

②詠嘆・驚きなどの気持ちを表わす。

○石を持ち上げて見たら, いるわ, いるわ, こんなにたくさん, アリがいるとは思わなかった。(資料外)

○降るわ, 降るわ, 一面の銀世界だ。(資料外)

75. を (格助詞)

①他動性の動作・作用の目的・目標。

を

(234)

- 六三制は確かに全国民に教育の機会均等の途を開いた。(朝, 5.6, I)
- 繞いてジェリーとチェンバレンが捨てざりふを残して去る。(映, 6, 13)
- ～, 正方植の方がよい結果をもたらす場合と, それとは反対の場合とが生じる。(農, 6, 25)
- サーカス団のゴロツキ共と争っても, 断乎, この非道を暴かなくてはならない。(キン, 7, 32)
- それに反してチェンバレンは各種目に勝ってメダルを貰い, 鼻高々だ。(映, 6, 12)
- 二人は首をちぢめて, 外套の襟を, たてた。(文, 7, 80)
- お嬢さまは, ふと顔をあげて, ちっと数繪をみつめました。(ひま, 6, 54)
- すると催眠術師は, いきなり, へんなくすりを二人にふきかけて, ～(野少, 6, 41)
- 貧血は母乳以外の食物や造血劑を与えていけば治ってきます。(婦友, 6, 86)
- 次に, 第二の, 前任地における登録制限の問題を考えよう。(法, 5, 51)
- 民主主義を破壊せんとする敵を発見することなしに民主主義の建設はない。(東, 5.6, I)
- 批評精神は, なるほど現実を拒否する。(人, 5, 85)
- ～このフィルムを使って電送写真などを応用すれば 刻々に変化する空電の実体をキャッチすることも可能である。(科, 5, 37)
- 父兄の負担を軽くしつつ, 實際社会に ～(朝, 5.6, I)
- 中共軍は五月卅日揚子江河口の崇明島に上陸, 六月二日崇明県城を占領(東, 6.6, I)

〔～まも〕

- ～アメリカではこの方法を引きつぎ レーダーをも加えてハリケーン(台風)の進路を測ったが ～(科, 5, 36)
- ～, その言説はひとりの實際政治をも左右しえないではないか。(人, 5, 85)
- 批評精神が時間のそとにたつて, 時間をも空間的に認識するといふことは, ～(人, 5, 84)
- ～, 廿四年度予算案は, 一応, 一般会計から赤字公債を排除し, 復金債発行をも停止し, ～(エコ, 5.11, 10)

〔～ま～せる・させる〕(使役の助動詞「せる」「させる」参照。)

○数繪が腰をうかせて、おもわず止めようとしますと、お嬢さまは、はじめて笑顔をほころばせて、～(ひま, 6, 52)

○～スーザンは、ボーイ・フレンドのジュライに、ディックを勝たせる様に頼んだ。(映, 6, 13)

○本予備会議の開会は急速に新政治協商会議を開き民主連合政府を成立させ、全中国統一をさせるために必要な一切の準備をすることである(朝, 6.20, I)

〔をして～しめる〕

○私をしていわしめれば、～(法, 5, 51)

〔～を～れる・られる〕(間接的受身。助動詞「れる」「られる」参照。)

○～有川三郎(五〇)さんは～、現金三千元、腕時計、背広上下をはぎとられた(東, 5.29, III)

○～、はたらく階級は通貨を奪われていたのである。(エコ, 5.11, 10)

○～、その一部は福州、厦門、仙頭などの諸港を含む華南の海岸地帯占領を命ぜられるだろうと～(東, 6.6, I)

〔～(動作性の名詞)をする〕

○～別に冒険をせずとも～(東, 5.7, I)

○以上のような判断をすると、～(東, 5.7; I)

○本予備会議の開会は急速に新政治協商会議を開き民主連合政府を成立させ、全中国を統一させるために必要な一切の準備をすることである(朝, 6.20, I)

○～明春から店開きをする予定という。(朝, 5.6, I)

○こくりこくりと居睡りをしてから、はっと気がついてみますと、～(ひま, 6, 52)

○由比が、そのとき、上諏訪に一泊しよう、とおもったのは、その時から十五六年まへに、その町に、たいざいしてゐたをりに、片戀ひをした女に、もし逢へれば、と、かんがへたからである。(文, 7, 40)

〔～を～とする(として)〕

○～、さらにこれを機として世界二分割がますます深まることになるか、～(東, 5.7, I)

○これに反して民主主義の持つ哲学は平和と秩序と安全とをたてまゑとしている。(東, 5.6, I)

○～、四年制大学を動かすべからざる原則とする考え方にとらわれた～(朝, 5.6, I)

- ～、一般の大学に四年制のほかには二年制を主とする短期大学を認めねばならなくなったことは形式的な六三制を金科玉条として固守してきたこれまでの方針に一大反省を求めるものでなくてはならぬ。(朝, 5.6, I)
- ～明春の参議院選挙には、民自党としては八十名くらいの当選を目標とし、～(朝, 6.20, I)
- ～大半がこれを本業とし、～(東, 5.29, III)

〔～を～にする〕

- ～、ベルリン封鎖解除を基にするソ連の態度の急変が～(東, 5.7, I)
- 子供たちを散々喰い物にしておいて、～(キン、7, 32)
- ～公共土木事業費の削減が、六・三制関係の建設費をゼロにし、～(エコ, 5.11, 10)
- ～、他の条件をそのままにしての繰入金停止は、～(エコ, 5.11, 10)

〔～を～に〕(「～を～にして」の省略形)

- ～、週初は増資材料の帝国石油・昭和石油などが買われたのを中心に石油株に人気が集中し、～(東, 6.6, I)
- ～、これであわよくば西欧勢力をベルリンから締め出し、たとえそれが出来ないにしてもこれを種に西欧側に再び四国会議を開かせて対独処置をボツダム協定の線にもどさんとするものであったろう。(朝, 5.7, I)
- ～、クリーム色、流線型の車体と一二七二五の番号を手懸りに捜査中のところ、～(朝, 5.19, II)
- かくして、特別会計、地方財政はその赤字を口実にあるいは、大量首切によって、縦に多数職員の犠牲負担を強行するか、～(エコ, 5.11, 10)
- なお贈賄側は会社、古物商、飲食店などを筆頭にほとんど全部の業種に及んでいる(東, 5.29, III)
- ひげの男は、砂漠の入口にテントをはって、迷信ぶかい土人をあいてに商売をしている催眠術師です。(野少, 6, 41)

〔～を見る・～をめぐる etc.〕

- ～、こゝに再び四国外相会議の開催を見ることになったのは、それだけでも世界平和の上から喜ばしいことといわねばならない。(朝, 5.7, I)
- 殊にこの交渉が、国連の米ソ英仏代表の努力によって成功を見たことは、世界平和の維持機関たる国際連合にとっても極めて意義深いことであった。(朝, 5.7, I)
- ベルリン封鎖を解除し、ドイツ問題処理をめぐる四国外相会議を開こうとする西欧とソ連との間の交渉はついに成功し、～(朝, 5.7, I)

〔～をもって・～を目して・～を逼じて etc.〕

- したがって問題はソ連が今や無意味となりつゝあるベルリン封鎖を何時、いかなる意図をもつて解除するかにあったのである。(朝, 5.7, I)
- ～, ベルリン封鎖および逆封鎖はいよいよ来る十二日をもつて解除され、四国外相会議は二十三日バリで開かれる。(朝, 5.7, I)
- ～, これは米英側の西独政府樹立工作をもつてボツダム協定違反と見なすソ連の報復であり、～(朝, 5.7, I)
- ～われわれは、殺人や放火が許されないことをもつて、これを自由の制限であり、束縛であると呼ぶなければならないであろうか。(世, 4, 22)
- エヴァット露外相はこのソ連の態度の変化を目して決定的な一步を踏出したものといひ、～(東, 5.7, I)
- ～, 昨年後半期を遥じて世界不安の中心であったベルリン封鎖はこゝに解除され、～(朝, 5.7, I)
- ～, インフレーションとは、財政を通じて権力的に国民大衆から取奪し、補給金を通じて極めて少数の特定大資本にのみ利潤を保証(～)せしめるところの、巨大独占資本の政策にほかならない。(エコ, 5.11, 10)

[～を～(サ変語幹漢語)中]

- ～有川三郎(五〇)さんは同区宮前町一七一先きき通行中、～, 現金三千元, 腕時計, 背広上下をはぎとられた(東, 5.29, III)
- 中野税務署の汚職事件を究明中の衆院考査特別委員会は～(東, 5.29, III)

[大事をとる・我を争う・気をくさらす etc.]

- ～, 夏は特に大事をとる、～(婦友, 6, 86)
- 師範学校などを無理をして四年制の学芸大学にしないで、～(朝, 5.6, I)
- ～, 折鶴たちも、我を争つてかえってきて、～(ひま, 6, 52)
- 二人は催眠術師が目まわしているすきに、～(野少, 6, 43)
- 翌日ビーミッシュ博士はディックを訪れ、彼が昨夜の事件で気を驚らし、飛行機で旅に出る事を知った。(映, 6, 13)
- ～沢枝君はリスのような素早さで、車をとびおりと、木戸番に話をつけて天幕をくぐり抜けて行った。(キン, 7, 32)
- ～, 当のシーズンには益々彼に熱を上げて、まつわりつく許りだ。(映, 6, 13)
- ～シーズンに變想をつかさされる様にと、年甲斐もなく馬鹿な学生みたいな恰好をしたり、態度をしてみせるが、～(映, 6, 13)
- ～, 批評精神は地を拂つてついに見られない。(人, 5, 85)
- これは特殊な専門的技術教育を要するものとしてやむをえないとしても、

～(朝, 5.6, I)

②臨時に他動性を帯びた自動詞の目的・目標。

- 上海杭州地区一帯の掃討を終った陳毅將軍指揮下の第三野戦軍四十万が～
(東, 6.6, I)
- 気象台では東京(大和田)福岡 札幌に設置の予程で工事を急いでいる。
(科, 5, 37)

③自動性の動作(移動性のもの)の行われる場所・時。

(イ)経路・舞台。

- くらい焼跡の道を、びしょびしょ雨にぬれながら、数繪は、千鶴子と一緒に起伏していたあの借間に辿りついたのです。(ひま, 6, 54)
- ガンちゃんとダンちゃん、思わぬ事件から思わぬくすりを手に入れ、おそわったとおりの道を、もとの野球場さしてもどっていきます。(野少, 6, 44)
- さて、そのせまくなった町を、半町ぐらみ行くと、左がはの、バラックだでの、長屋の売店が、とぎれる。(文, 7, 80)
- 依然チェンバレンは優勢だが、池にかゝった丸太棒の橋を渡る途中、～
(映, 6, 13)
- 二人ともアフリカまできて、ワン公にうまれかわると思わなかったのですが、ふしぎな術にかけられて、すっかり犬になったつもりで、そのへんをはいまわっています。(野少, 6, 42)
- 花の咲きみだれたひろびろとした庭のなかを、無数の白い紙鶴がとびまわっているふしぎなありさまを、～(ひま, 6, 54)
- その踏み切りをとほると、わりに広い通りのかなたに、おもひのほか、ちかくに、湖水が、(つまり、諏訪湖が、)見えた。(文, 7, 80)
- ～、自動車で箱根、鎌倉をへて横浜へ、～(朝, 5.19, II)
- ～、もはやただに購買力低下という生やさしい状態をとおこし、～(エ、5.11, 10)

(ロ)起點。

- 例によって沢枝君はリスのような素早さで、車をとびおると、～(キン, 7, 32)
- 昭和九年の十月二十九日の、午前八時三十分ごろに、新宿を、出る汽車に、由比は、乗った。(文, 7, 80)
- 門を出ながら振り返れば、～(婦友, 6, 27)
- かつて小学校を出て上級中学に進むものと、～(朝, 5.6, I)

○かつて中学を出て高等学校から大学へ進むためには、～(朝, 5.6, I)

○個人主義の亡霊がぼくたちを去ってしまった今日、～(人, 5, 85)

(ハ)自動性の動作・作用の行われる時間の幅・長さ。

○そしてそれからでも既に 40 年を闊してゐる。(農, 6, 25)

○～池のみぎわは、かきつばたがいまを盛りです。(ひま, 6, 52)

○戦争中の、あの苦しい何年間かを、よくもまあ、がんばり通したものだと思ひながら感心することもある。(資料外)

④対象語格を示す。(普通は「水が飲みたい」のように、「が」とあるべき所。)

○～、われわれは世界平和のためその成功を期待しつつ、今後の経過を見守りたいのである。(朝, 5.7, I)

第二部 助動詞

1. う

①意志を表わす。(四段活用の動詞、助動詞の「ます」の未然形につく)

(終止形)

- 「フアン きな子さんにオーバーを贈ってうんといわそう」(ロマ, 11, 83)
- 次に一番多い前身頃の打合せに作る場合を取り上げてみましょう。(婦友, 6, 73)
- どこのお嬢さま?と、聞き直そうと思いましたが、～(ひま, 6, 53)
- 私は軍國主義に毒された人々の足跡を残そうなどという意志は、～(世, 5, 39)

〔～うとする〕

- ～四國外相会議を開こうとする西欧とソ連との間の交渉は～(朝, 5, 7, 1)
- 客観的効果においては彼等の足跡を残そうとしたことになっている。(世, 5, 39)
- 一方ディックは夜遅く帰宅して着換えをすまし寐酒を一杯やろうとした時、目を覚めたスーザンに声をかけられて、彼女が来ていたことを知って驚いた。(映, 6, 13)
- 「送るとそれがまた生きるようなことになったり、投手がそれを防ごうとしていろいろの手を用いるので、いい打者なら球を選ぶ、ねばった方がいいです」(野少, 7増, 6)
- 「安くあげのお稽古ですね……どうして、あなたほどの人が菊五郎に直接手を取って貰って教わろうとしなかったのですか。」(キン, 10, 91)

②勧誘を表わす。(①に同じ)

(終止形)

- 「さあ、みんな帰ろう。」(ロマ, 6, 63)
- 「ぼくのうちでおもしろいことをしてあそぼう」(幼ク, 11, 30)
- 「さあ、しまっていこうぜ。」(幼ク, 7, 53)
- 「さあ車内討論会をはじめましょう。」(少年少女, 7, 65)
- 「ゆっくりのぼりましょうね。」(ひま, 7, 66)

〔～うでは(じゃ)ないか〕

- 「やろうじゃないか!」(文, 7, 70)
- 「それじゃ、これから運動場の方へ出ていっしょに遊ぼうじゃないか。」(少女ク, 7, 32)

③推量・想像を表わす。(用言に直接につくよりも、「であろう」「だろう」「でしょう」などの形の方が多く用いられる。)《四段活用の動詞、形容詞、形容動詞、助動詞の「ます」「です」「た」「たい」「ない」「だ」「ようだ」「そうだ」などの未然形につく。》

(終止形)

○この機会に全篇を通読できれば、真の興味更に倍加するものがあろう。

(宝, 8, I)

○すくなくともベルリン封鎖解除に関するソ連の態度の急変には、そうした判断による意図が藏されているだろう。(東, 5, 7, I)

○「十八日に出たきりで出てないんだから、梶岡が出るということは決定的でしょう」(野少, 7増, 13)

○……対独処置をボツダム協定の線にもどさんとするものであったろう。

(朝, 5, 7, I)

○～, この原則論に対しては、けだし何人も異論のないところであろうが、～(法, 5, 51)

○「向うにも手順があるだろうからね」(婦画, 7, 73)

(連体形)

○勿論、わが国の保守的分子の間に占領当局に対する反感が比較的強いであろうことは何人も容易にこれを想像し得る。(法, 5, 巻頭言)

[～うとする] (動作・作用が実現の寸前にある状態を描写する言い方)

○数日來の暖かさで、梅の花が今にも開こうとしている。(資料外)

[～うと(が)、～うと(が)～まいと(が)、あろうことかあるまいことか etc.]

○「しかし……、本人がどう思いこもうと、それと実際とは又別だろう」(文, 7, 71)

○「新民法だろうとなんだらうと、俺は、金貝甲三流にやって行くんだ。」

(婦生, 6, 43)

[～うものなら]

○その話も、もっともなことだし、うっかりことわろうものなら相手をおこらしてしまいそうな意気込みなので、北見のおじさんはころよその厚意をうけとったのであった。(少女夕, 12, 23)

○「うっかり克己さんに口をきこうものなら後で梅ちゃんにひどい目に逢うから、気を付けなさいよ」(婦生, 2, 40)

[～うに]

○「でも、御仲人のあなたが、もっとよく御調べになったら、こんなことは

起らなかったでしょうに……ねエ邦男さん。」(ロマ, 9, 107)

○「姉さんも兄さんの官職についている時に亡くなったのなら、さぞ盛大な告別式が出来たんだろうになあ、もうこういう世の中になっては、まるで人情紙の如しだからな……」(婦生, 9, 23)

○～, 相手もあろうに、徳球覚に色目をつかうとは、余りに滑稽なカリカチュアであると、人はいかも知れない。(朝評, 9, 22)

④疑問・質問・反語の意味を表わす。(「うか」の形か、疑問詞と呼応する形か。)(③に同じ。)

(終止形)

○また、検察官の方面においても、検察庁法一八条三項による二級検事は、たとえ副検事出身で、修習生の修習は終えざるものについても、前記標準線と同等価値として扱うべきではなからうか。(法, 5, 51)

○師範学校などを無理をして四年制の学芸大学にしなくても、この二年制の短期大学で十分こなされていたのではなからうか。(朝, 5.6, I)

○二十メートルもあろうかと思われる高い天幕のてっぺんでは～(キン, 7, 32)

○しかし赤ちゃんは肥ってきたでしょうか。(婦友, 6, 87)

2. ごとき

①ある事物が他の事物に似ているという意味を表わす。文語的な言い方。(体言に助詞の「の」のついたもの、用言および文語系の助動詞「ざる」「たる」「なる」などの連体形、または、更にそれに「が」のついたものにつく。)

(連用形)

○ドストエフスキーに出てくる売笑婦ソーニャの如く、スタンダールに出てくる侯爵の娘マチルドの如く、傲岸であれ。(スタ, 6, 29)

○～, あたかも現世に於ける嬰兒の如く、甚だたよりない存在である。(宝, 8, 12)

(連体形)

○私をしていわしめれば、論者が、ことさらに理想論を今直ちに実現すべしと強調したり、いたずらに過去論に低迷したり、現状論に拘泥したりする態度を去り、虚心に、わが国今後の法曹界の辿りつくべき目標と、現在おかれている地位からそれへの距離とその道程とを、比較考慮しながら論究するならば、決して氷炭相容れざるごとき諸説の対立紛糾を来すことにはないように思うのである。(法, 5, 51)

②内容を指示することを表わす。ある事物が他の事物に等しいという関係。文語的な言い方。(①に同じ。)

(連用形)

○～早生種で分蘗力は強くて穂の小さい農林1号と、同じく早生種であるが分蘗力は弱くて穂の大きい北陸11号の試験結果を挙げると第1表Bの如くで第1表Aの場合とは著しくその趣が違ふ。(農, 6, 25)

(連体形)

○大学教授については、司法修習生の修習を終えたか否かという規準をあてはめること自体が無意味な、その規準以上のものと認めるが故に、二級検察官の任用資格に関する検察庁法第一八条一項三号ないし、裁判所法第四二条一項六号及び四項前段のとき規定が設けられていると解すべきであらう。(法, 5, 51)

③例示の意味を表わす。文語的な言い方。(①に同じ。)

(連用形)

○家長の權威の如く、法によって基礎づけられた慣習上又は道徳上の權威。
(法, 5, 43)

(連体形)

○衆議院の委員会などでも共産党の代議士から質問があったし、日教組は直接高瀬文相に撤回方を申入れたという。山口県教組のごときは「文部当局を告訴し、黒白のきまるまでは使わせない」と決議したとかさせたとか伝えられている。(東, 5.6, 1)

○通貨増発のときは、この階級的取奪政策から必然的にもたらされる結果的現象にすぎない。(エコ, 5.11, 10)

○例えば、大学教授のときについては、前記各法案ともに、いずれもこれを積極的に肯定するのであるが、～(法, 5, 51)

3. させる

①使役の意味を表わす。(上一段活用・下一段活用・カ行変格活用の動詞の未然形につく。)

(未然形)

○この投書が度重なると院長は大使館を介して投書を止めさせようとした。
(新, 12, 48)

○どうして私は日本に生活しながら、日本映画を殆んど見ないで来たのかと考えさせられました。(ひま, 12, 77)

○「奥さんを人目にふれさせまいとして、樟脳を入れて、しまってる家庭

！」(婦友, 7, 52)

(連用形)

- そのうえ、船の中にある食物の名を書きならべた紙を出して、ほしいものに○をつかせ、それをたべさせてくれました。(少年夕, 12, 99)
- 赤ちゃんが満足するまで十分に食べさせてください。(婦友, 6, 87)
- 久慈捕手は、その調子だ、とはげましながら、なお四球五球つづけざまに投げさせたが、～(野少, 12, 82)
- 手柄はたてさせたい。然し、かわいそうでならない。(新, 12, 92)
- 貴下は多少ミステークされるであります。理由を述べさせていただきます。(文, 12, 36)

(終止形)

- 和田さん邸のメニューは出来るだけ日本のものと、変らないものを食べさせるといふ事を主眼とし、三度の食事は米を主食とした。(新, 12, 40)
- たとえば、日曜日に作業係りの方で枯枝を集めさせるといふと、警備隊の方では、日曜は外へ出ることは罷りならぬ。俺の方では送ってゆかん、という。これでは日本人は外へ出られません。(婦画, 12, 89)
- 久慈捕手は、その調子だ、とはげましながら、なお四球五球つづけざまに投げさせたが、手をあげて投球をやめさせると、くるりとまわれ右して、すたすたと監督のところへかえって来た。(野少, 12, 82)

(連形体)

- ～そういう人たちに退屈を感じさせる事は禁物です。(ひま, 12, 18)
- つまり米屋に下駄を買って来いと命じたり、スキー用の馬油の購入等一切合切の用を弁じさせるのださうである。(新, 12, 29)
- これを日曜日の夕飯に食べさせるわけです。これはほんとうに喜ばれた。(婦画, 12, 91)
- 小うるさいお客さんと、洋服屋に悲鳴を挙げさせるやうでなければ、真に洋服道のシキキをまたいだ紳士とは言い難い。(スタ, 12, 84)

(仮定形)

- そんなきたないもの、早く棄てさせればいいのに。(資料外)

(命令形)

- あの男には、あそこの棚を見させる。(資料外)

②動作を尊敬する意味を表わす。〔①に同じ。〕

(未然形) = [させられる] の形。最近はあまり使われないようである。

- 思えば千有余年の間、端正な、おごそかな御顔には悟り切った静かな微笑をたたえさせられ、私共がひたむきに愛情を覚える御像なのでございま

す。(資料外)

(連用形) = 「させ給う」の形。最近はあまり使われないようである。

4. ざる

○打消の意味を表わす。文語的な言い方。(動詞、形容詞、文語系の助動詞の「たる」「なる」などにつく。)

(未然形)

○聞かざらんとしても、隣室の話し声が耳について離れぬ。(資料外)

(連体形)

○～、この標準線に及ばざるものは、すべてこれを否定すべきものとする次第である。(法, 5, 51)

○～、単に簡易裁判所判事又は副検事たるのみに止まった者は、右の共通標準線に及ばざるものとして、すべて、これを消極に扱うべきものとする。(法, 5, 51)

○～、また、検察官の方面においても、検察庁法一八条三項による二級検事は、たとえ副検事出身で、修習生の修習は終えざるものについても、前記標準線と同等価値として扱うべきではなからうか。(法, 5, 51)

○～、いかに美しき思想も実現しえざるかぎり夢ではあっても「思想」ではない。(世, 5, 39)

○私をしていわしめれば、論者が、ことさらに理想論を今直ちに実現すべしと強調したり、いたずらに過去論に低迷したり、現状論に拘泥したりする態度を去り、虚心に、わが国今後の法曹界の辿りつくべき目標と、現在おかれている地位からそれへの距離とその道程とを、比較考量しながら論究するならば、決して氷炭相容れざるごとき諸説の対立紛糾を来すことはいやうに思うのである。(法, 5, 51)

[～べからざる]

○六三義務教育は何といっても動かすべからざる国民教育の基底である。

(朝, 5.6, I)

○～、四年制大学を動かすべからざる原則とする考え方にとられた圧倒的な意見の前に～(朝, 5.6, I)

5. しめる

①使役の意味を表わす。(動詞、文語系の形容動詞、文語系の助動詞の「ざる」「たる」などにつく。)

(未然形)

○第一に指摘せらるべきことは、法範疇は右のように展開をとげしめられるとともに、～(法, 9, 30)

○他の何「人」によっても制限されたり、その支配を一面的ならしめられることがない。(法, 9, 29)

(連用形)

○～, 従来は中央会計より特別会計へ繰入金, 地方会計へ配布金をそれぞれ流し, 特別会計には建設公債等, 地方会計には地方起債等を発行せしめてきたが, ～(エコ, 5.11, 10)

(終止形)

○われわれが, 本予算案をもって, インフレを克服するものではなく, それを悪質のものに内証せしめるに過ぎないと断じたのは～(エコ, 5.11, 10)

(連体形)

○～, 補給金を通じて極めて少数の特定大資本にのみ利潤を保証(赤字を補填)せしめるところの, ～(エコ, 5.11, 10)

○「過重な課税は土地改革計画を水泡に帰せしめるやも知れぬ……(エコ, 8.11, 32)

(仮定形)

○私をしていわしめれば, ～決して氷炭相容れざるごとき諸説の対立紛糾を来すことはないように思うのである。(法, 5, 51)

②動作を尊敬する意味を表わす。(動詞の未然形につく。)

(未然形) = [しめられる] の形。最近はあまり用いられないようである。

(連用形) = [しめ給う] の形。最近はあまり用いられないようである。

6. せる

①使役の意味を表わす。(四段活用・サ行変格活用(「信ずる」「論ずる」の類を除く)の動詞の未然形につく。)

(未然形)

○「文部当局を告訴し, 黒白のきまるまでは使わせない」(東, 5.6, I)

○「それをねえちゃんにいわせようなんて, ズイブンずるいじゃないの。」(銀, 7, 37)

○～, 売春させられている女たちは～(東, 5.29, III)

(連用形)

○マーガレットがディックを愛しているのを察していた博士は, そこでマーガレットに, 旅行に出ると無理に薦めて承知させ, 飛行場に行った。(映, 6, 13)

○「私が東京へ出ていたら朋子のお母様のこと、みすみす死なせはしなかったわ」(婦生, 9, 23)

○「突然お伺いして、本当にお騒がせして申し訳ございません」(世, 12, 72)

○その為にスーザンのボーイ・フレンドのジェリーの気を悪くさせたりした。(映, 6, 13)

○「私も失礼させて戴きます」(婦友, 7, 52)

(終止形)

○～、近く新しい規則を出し、ヤミ主食をつかった一切の加工品の製造、販売を厳禁する建前で運営をさせる(朝, 5.19, II)

○「年増を泣かせるとはすごい腕だ。」(新, 8, 83)

○「でも、おこらせるといけないわ。」(少年少女, 10, 11)

○「一体麦を早播させるからこんななのだ」(農, 12, 10)

○「しかしフランスの安飯屋っていふのはおいしいものを食はせるね。」(文, 8, 59)

(連体形)

○「今の大阪の女は、家の中には相変らず昔ながらの伝統があるけど、一步外へ出たら近代的な生活がすでに始まっている、その矛盾をうめること、調和させることが難しいですね。」(婦友, 7, 34)

○～これを一定速度(～)で回転させるもので～(科, 5, 37)

○「声を出させるのはどのようにして?」(少年少女, 10, 47)

○「本予備会議の開会は急速に新政治協商会議を開き民主連合政府を成立させ、全中国を統一させるために必要な一切の準備をすることである」(朝, 6.20, I)

○～スーザンはボーイ・フレンドのジェリーに、ディックを勝たせる様に頼んだ。(映, 6, 13)

(仮定形)

○「従来の観念からして、女は子供を生む機械であると、婦人科的な処置を以て産児調節をやって来ましたが、私にいわせれば、その考え方は根本的に間違っていると思うのです。」(キン, 7, 89)

(命令形)

○「ひと通り喋るだけ喋らせる」(宝, 9増, 55)

②動作を尊敬する意味を表わす。(①に同じ。)

(未然形) = 「せられる」の形、最近はあまり使われないようである。

○～戦死者遺族の弔問に樂忙を極める身でみらせられるから～(文, 12, 108)

(連用形) = 「せ給う」の形、最近はあまり使われないようである。

7. そうだ(そうです)

①様態, すなわち、「～という様子だ。」「今にも～するような様子だ。」などの意味を表わす。「そうです」は、丁寧な言い方。(動詞, 助動詞の「せる」「させる」「れる」「られる」の連用形に, また, 形容詞, 形容動詞, 助動詞の「たい」「ない」の語幹につく。また, 「ない」「よい」につく時は, 「なさそうだ」「よさそうだ」となる。)

(未然形)

○あの人, いかにも健康そうだろう。(資料外)

○あの人, じょうぶそうでしょう。(資料外)

(連用形)

○そうおもうと, 千鶴子がかあいそうで, おもわず嗚咽しそうになるのです。 (ひま, 6, 55)

○正広君の方は——心配した程のことはない。嬉しそうにニコニコ笑っているではないか。(キン, 7, 32)

○健康そうにみえていても, 病みあがりのお嬢さまに, 疲れすぎがあって又, 元へもどるようなことがあっては大変だと, ～ (ひま, 6, 54)

○馬上的子供たちも表面は朗かそうにキャッキャッと騒いでいるが一人々々になれば正広君と同じように悲しい事情のある薄幸な子に違いない。(キン, 7, 32)

○「ロマンチックで, たのしそうで——私の空想したよりすばらしいところだわ, 空気はきれいだし, おいしい牛乳はあるし……。」 (ひま, 8, 60)

○値段が高そうでしたので, 買いませんでした。(資料外)

(終止形)

○「傑作が出来そうだ」(婦画, 6, 55)

○「吉岡にいわれそうだぜ。」(野少, 9, 69)

○「誤解ばかりではなさそうだな!」(音, 10, 26)

○「おかげで, さっきまでのモヤモヤが一度にフっ飛びそうですよ」(宝, 9増, 40)

(連体形)

○「どこか強そうなチームに申しこんで, 大いに試合をやったらよからう。」(少年ク, 6, 43)

○「世界的なホームラン王になりそうなんだからな。」(少年ク, 9, 41)

○「もうそろそろ退院できそうですよ。」(資料外)

(假定形)

- 「雨が降りそうなら、かさを持って行けばいいじゃないか。」(資料外)
- 〔そうね、そうよ、そうもない〕〔語幹用法〕
- 「フン、中国美人の秘話か……面白そうね、これエロ小説？」(世, 12, 78)
- 「でも、菊池さんは、京子ちゃんを先生の方へとられて了って、何だかつまらなそうね。」(人, 10, 104)
- 「どうやら詩ができそうよ」(少女夕, 11, 15)
- 「今日、——雨がふりそうよ」(少年少女, 10, 59)
- 「生きていることは耐えてゆけそうもない気がするのよ。」(婦朝, 10, 80)
- 「一寸試合がはじまりそうもありませんが。」(ロマ, 12, 98)
- ②伝聞、すなわち、「～という事(話)だ。」の意味を表わす。〔動詞、形容詞、形容動詞、助動詞の「せる」「させる」「れる」「られる」「そうだ(様態)」「みたいだ」「たい」「ない」「ぬ」「だ」「た」などの終止形につく。〕
- (連用形)
- インドに一番似ているのは浅草だそうで、「雑然と物を売っている商人達の姿に淡いノスタルヂャーを感じる」(新夕刊)そうである。(新, 12, 42)
- 私の夫も野坂参三氏に入党を進められた事があるそうである。(新, 12, 22)
- 僕は深田久彌君に鎌倉へ住むように説きすすめたが、物価が高いそうじゃないかといって聞き入れぬ。(新, 12, 29)
- (終止形)
- その上奏文は近衛さんが湯河原で自分で書かれたものだそうだ。(文, 12, 52)
- 何でも、ソ連を頼りにして、ソ連に頼らなければいかぬ、というようなことを申上げたそうだ。(文, 12, 53)
- 近衛という人は馳き上手だそうだから瞞されてはいけないと思ったけれども、そうではなかった。(文, 12, 49)
- 一晩歩いたのに、捕われた地点は、収容所から僅か八キロのところだったそうです。(婦画, 12, 89)
- 長官が赤城鑑長時代、濟州島沖で、発艦させた飛行機が、嵐にあってすっかり行方不明になったことがあったそうですね。(新, 12, 89)
- 長途の旅をつづけた象は、白屋の雑踏を避けて、深夜の東京をしずしずと上野動物園へ歩を運んだそうよ。(新, 12, 42)

〔そうよ etc.〕〔語幹用法〕

○「その上にすみれの花をのせてあったそうよ」(少女ク, 6, 55)

8. た (だ)

①動作・作用が過去に行われた(経験を含む)という意味を表す。

〔動詞, 形容詞, 形容動詞, 助動詞の「せる」「させる」「しめる」
「れる」「られる」「ない」「ます」「たい」「らしい」「そうだ(様態)」
「ようだ」「だ」「です」などの連用形につく。〕

(未然形)

○～, たとえそれが出来ないにしてもこれを種に西欧側に再び四国会議を開
かせて対独処置をポツダム協定の線にもどさんとするものであったろう。

〔朝, 5, 7, I〕

○「若い時始めてモデルに来てもらった時でも, 今度程, 興奮はしなかつた
ろう。」(婦画, 6, 54)

○「いま, おおかみが, ここをにげていったろう, どっちへいったか。」(幼
ク, 10, 40)

(終止形)

○新行政院長閻錫山將軍は四日台北で中央社記者と会見, 新内閣の方針を次
のように語った(東, 6, 6, I)

○ある日のこと, 彼女は, ナイト・クラブで起った喧嘩の事件を扱った。
(映, 6, 12)

○最初彼女の母上はこの結婚に強く反対された。(婦友, 6, 26)

○広川民自党幹事長は十九日朝大坂から岡山に着いたが, ～(朝, 6, 20, I)

○「あの人の全集は残らずよんだ。」(宝, 9 増, 133)

(連体形)

○ここでわれわれはかって天野一高校長が二年制の前期大学案を提唱して敗
れたことを思い起す。(朝, 5, 6, I)

○殊に化学株がしばらく買われなかつただけに～(東, 6, 6, I)

○「沢村投手は, 日本の生んだほんとうに偉大な投手だと思いますネ。」(キ
ン, 9 増, 117)

○「宇宙の大きさは, 二十億光年だということを読んだことがあります,
どうしてはかりますか。」(少年ク, 6, 52)

(仮定形)

○「水面40アールに僅か0.2kgの割合で空中から撒布したら魚や蟹がたくさん
死んだ。」(科, 8, 57)

○行けと言うから行ってみたら、誰もいなかった。(資料外)

②動作・作用が完了または実現する意味を表わす。(①に同じ。)

(未然形)

○制作に取りかかってから一カ月半もたつのだから、もうそろそろでき上ったろうと思う。(資料外)

(終止形)

○この新制大学を法的に裏づけする国立学校設置法も国会に提出された。(朝, 5.6, I)

○ラジオ気象学という言葉が散見し出した。(科, 5, 36)

○この短期大学の新設によって、六, 三, 三, 四の新学制には大きな例外が認められることになった。(朝, 5.6, I)

○この危険感から、ソ連はベルリンの封鎖を、解除し、西欧側との国交調整を解除し、西欧側との国交調整を希望するに至ったとも見られるのであって、～(朝, 5.7, I)

(連体形)

○われわれは終戦後余りにも形式的な改革だけにとらわれて、実質的な内容の充実を忘れてしまった感がある。(朝, 5.6, I)

○～、ここにやむをえず二年制短期大学を生み出さねばならなくなったのは、皮肉な現象である。(朝, 5.6, I)

○したがってベルリン封鎖がソ連にとって何等の利益をもたらさない状態になった場合、面目にこだわらずそれを捨てることは別に不思議ではない。(東, 5.7, I)

○二年制の短期大学が出来たら、三年制の高校を二年延長し、旧制高专を横すべりにした五年制の高等学校も出来てよい。(朝, 5.6, I)

○学制上の形式を整えただけで教育の内容もこれにもなまって向上すると考えることは大いなるあやまりである。(朝, 5.6, I)

(仮定形)

○～、全鍋の頃になったら果汁から、おろし林檎に移しましょう。(婦友, 6, 87)

○しかし二人は、どうしたら術がとけるのかわからないので、～(野少, 6, 44)

○下痢もしないのに体重が増えぬようでしたら、それは食餌の量が不足しているのです。(婦友, 6, 87)

○母が聞きつけて尋ねたら、あれは風ですと答えましょう。(資料外)

〔～たならば〕

○一部の人の利欲追求が、他の人々を不幸にし、その生活を困窮にする

としたならば、われわれはその利欲追求を適当に制限したり、また時には禁止しなければならないであろう。(世, 4, 22)

○もし、ぼくたちのうちにこの機能の活動が中止してしまったならば、～
(人, 5, 85)

[～たらよい・いい]

○「そこで今日は、すでに結婚生活を営んでゐる人達や、これから結婚しようとする人達のために、この夫婦間の性格の相違はどう解決しよう調和させたら良いか、といふ点に就いて、両先生からお伺ひしたいと存じます。」
(ヌタ, 10, 82)

○「おうちのお手つだいなど私たちでできることをして、その上であそんだらいいと思うわ。」(少年少女, 7, 66)

③動作・作用(または、その結果)が継続して存在する状態にあることを表わす。「ている」「である」で置き換えることができる。(①と同じ。)

(連体形)

○同氏の考え方は当時旧制高校を温存するものと疑われ、四年制大学を動かすべからざる原則とする考え方にとらわれた圧倒的な意見の前に敗れたものであったが、～(朝, 5, 6, I)

○一連のまとまった食事(洋食なら前菜からデザートコースまで)には一人一枚とする。(朝, 5, 19, II)

○多少とも文学に心のある人には堪えがたい文章だが、大衆の一部の人々には新聞記事に似たこの文体が却って親しみをます作用をなしていることに注意しなければならない。(世, 5, 39)

○この便利な瞬時型の測定機を500km以上隔った3点に設けて～(科, 5, 37)

○～、池にかゝった丸太棒の橋を渡る途中～(映, 6, 13)

○したがって封鎖という最も危険をはらんだ問題が解決されても、それが直ちに冷たい戦争の終結を意味するものでないことは外電の解説が伝える通りである。(東, 5, 7, I)

○～、母乳、牛乳のような蛋白質と脂肪に富んだ食品を減らすのですから、～(婦友, 6, 87)

④確認・強意。(詠嘆の気持を含むことがある。)(①と同じ。)

(終止形)

○「良ちゃんは今年いくつだったっけ？」(ロマ, 6, 65)

○「私、知らないのよ、あなた、どこだったかしら」(ロマ, 9, 89)

(連体形)

○ここにおいてもわれわれは、われわれの言いたいと思うこと、したいと思うことを、そのまま言ったり、したりすることによって、われわれの自由が現実になるのではなかったことを、あらためて思い出してみなければならぬ。(世, 4, 22)

○それはもともとかれらにとって対岸の火ではない。いや、対岸の火であってはならぬはずのものではあるが、事実是对岸の火でしかなかったのである。(人, 5, 85)

○ところで、ぼくがこれまで語ってきたことは、たんなる《批評家の精神》にすぎぬものであったのか。(人, 5, 84)

[こ(そ・ど)うした, ああした, ~といった etc.]

○「愛の灯よ！すべての人の心にも明るく輝き、私の澄んでゆく健康と自由の世界に、一刻も早くお還りになることができますように……」——半日の訪問で、ほのぼのと温められた私の心はこうした熱い斬りの心でいっぱいなのであった——(婦友, 6, 27)

○代りにソ連としては米英仏が統一ドイツの処理でドイツ人の不満を買うようになる方が利益と考えたのであろう。すくなくともベルリン封鎖解除に関するソ連の態度の急変には、そうした判断による意図が窺われているだろう。(東, 5.7, I)

○「あれは密室トリックだけだが、全体のトリックのああしたものを作って、そしてその隙間を見つけようという、遠大な計画をたてているというわけ。」(宝, 10, 66)

○それにも拘らず今尙正方形植か長方形植かと、田植の度に思ひ迷ふ人の多いのはどうしたことであらうか。(農, 6, 25)

○もっとも本書全体の文章は純粋どころではなく、「学究」の文体よりもジャーナリストの文体に近い俗臭のあるものだということは、「巢鴨の門」(肉体の門, 大學の門, のあとに!)とか「巢鴨生活みたまま」といった低俗な標題のつけ方にも現れており、~(世, 5, 39)

○「~, 身体のひまな時は大抵二十五興行の二十日間位, 忙しい時でも五日間は, 今日はこの席, 明日はあの席, 階下で, 二階でといった風に, 毎日席を変えて拝見いたして居りました。」(キン, 10, 91)

9. だ

①断定・指定の意味を表わす。判断辞の代表的なもの。〔体言, 準体助詞, その他体言対当のものにつく。たゞし, 未然形・假定形は, 動詞, 形容詞, 助動詞の「せる」「させる」「しめる」「れる」「ら

れる」「た」「たい」「ない」「ぬ」「らしい」の終止形につく。]

(未然形)

- 「おや、なんて小さな花だろう。」(幼タ, 9, 22)
- すくなくともベルリン封鎖解除に関するソ連の態度の急変には、そうした判断による意図が蔵されているだろう。(東, 5, 7, I)

(連用形)

- 武智さんだつたら、留置場へでもどこへでも行くつもりだつたわ。(新, 7, 13)
- 第三点は選挙運動取締りの緩和で、党や各立候補者の運動をもっと自由にしたい(朝, 6.20, I)
- 今日の教育は国民全体のための教育である。官僚だけの教育でもなく、教育者だけの教育でもない。(朝, 5, 6, I)
- いや、対岸の火であってはならぬはずのものではあるが、事実は対岸の火でしかなかったのである。(人, 5, 85)
- 「あっ、若様でいらっしゃいますか。」(婦友, 9, 37)
- 「……すると前から、さういふことには興味をお持ちになってみたわけて？」(スタ, 8, 52)
- いや、それ以上に驚くべきことに、たとへそれが存在しても、その言説はひとりの実際政治をも左右しえないではないか。(人, 5, 85)

(終止形)

- 窓々呼物の障害物競走だ。(映, 6, 13)
- 食べるものがいっぱいだったんだもの。(ひま, 6, 55)
- 御主人がアメリカの方だからだろう、～(婦友, 6, 26)
- 「これは計数管だけでもって来たので何も反応しませんがちゃんとした装置だとジャーとなりますよ。」(科, 8, 11)
- そうだ。お医者にかかるお金なんかあるはずがない。(ひま, 6, 55)
- 「どうだ、この宋端の艶は。」(新, 8, 85)

(連体形)

- でも、このお嬢さまは、いったい誰なのだろう。(ひま, 6, 53)
- 「～何しろキウリの出荷は短期間なので、てんでに荷造まですると、キウリを作る暇がないのです。」(農, 6, 59)
- 半日の訪問で、ほのぼのと温められた私の心は、こうした熱い祈りの心でいっぱいなのであった——(婦友, 6, 27)

(假定形)

- 二年制の短期大学が出来るなら、三年制の高校を二年延長し、旧制高専を

横すべりにした五年制の高等学校も出来てよい。(朝, 5, 6, I)

○「これならあぶなくないよ」(幼ク, 11, 30)

○国民全体の教育に対する関心が高まるならば、新制度に本当の魂を打ちこむことができるのである。(朝, 5, 6, I)

○～ということが知られるであろう。なぜならば、各人が実際にこのような自由を行使したならば、それは～(世, 4, 22)

○「なんなら、ぼくの座敷へごらんにおいでなさい。」(ロマ, 9, 74)

○「いえ、正太さんとなら、死んだっていいわ」(ロマ, 9, 98)

〔なんだか〕

○「何だか、ムシムシするわね……」(世, 12, 67)

○「でも何だか心配ですから……」(ひま, 10, 70)

○「そり思わない？何だかこう、ちっとも生活的でなくって血の通わない、冷いような——」(婦画, 7, 73)

〔だが etc.〕(接続詞的用法)

○厚木飛行場でお二人とも勤務中結ばれた。だが結婚は名のみである。(婦友, 6, 26)

○「8を2でわれば4だよ。だから4のかぎで……、おや、ろかない」(少年ク, 11, 15)

○「だからどいつで、こんな事件をいちいち取りあげて全国で手配するなんてわけには、いかんのですよ。」(銀, 7, 52)

○「中間子は天然のものと同じだということになっていますから、さききの定義でいえば人工でしょうね。だけれども、ただ違うのは合成したのではなく逆なんです。ぶっこわしたものです。」(科, 6, 173)

○「ええ、だけどなかなかそうは行かないでしょ。」(少年少女, 9, 90)

○「いけないのはやっぱりわかってないからよ。だつたら枝さきを教えたげるから、三べんまわってオジギをきなさい。」(銀, 7, 37)

○「だつて、くやしんですもの！」(少年少女, 10, 11)

〔～では〕(判断の前提を取らず、「だと」に置き換える)

○これは普通、全部に寸法を標して張りついで、それではどうしてもいくらか狂いが出ますから、～(婦友, 6, 73)

○われわれは既にこのいわゆる肉面的自由をすれば、外から与えられた自由は、それだけでは自由の条件たるに止まり、自由としては満足なものではないことを見た。(世, 24, 22)

○の離乳をいふのは、生後七八の月になるを母乳ばかりでは、鉄その他の赤ちゃんの発育に必要な成分が不足してくるためと、(早ませば水分を必要と

しなくなり、母乳の水分が多すぎて必要な養分が薄りにくくなるために始めるのです。(婦友, 6, 86)

- 「実は私の家は医者で農業もやっていたものですから、私自身中学の制帽をかぶって田の草を取りました。それが今日も尚、手で田の草を取っています。これでは五人の子供より七人の子供の方が有難いにきまっている。」(キン, 7, 88)

〔～じゃ〕(「では」のつづまった形。)

- 「三月三日じゃ東北の方はまだ雪があって全国で催しができないから五月五日にしたんだってさ。」(少年少女, 7, 65)

〔～では(じゃ)ない〕

- 「真知子さんは、僕を信じて此処へきたんじゃないんだ。」(キン, 8, 20)
- 「アメリカの場合にはそうじゃなくて、小説を読まない人がドキュメントふうのものを読むこともあるのじゃないでしょうか。」(人, 9, 98)
- 「いゝじゃないの、他に誰も聞いてやしないわ、～。」(ひま, 10, 68)
- 「やろうじゃないか！」(文, 7, 70)

②間投助詞的用法。

(終止形)

- 「それは、だ、お前がいけないんだよ。」(文, 6, 82)
- 「……さう思ふならば、だ、君には、まづもって、自分自身のことで、もっともっと気をつけなければならぬ点がある筈だぜ」(文, 6, 82)

〔だね〕

- 「それは、だね、べーちゃんの……」(文, 6, 82)

③間投詞につけて、自己の態度をきわだたせる。

(終止形)

- 「イイーだ！」(少年少女, 10, 11)

10. たい

○願望・希望の意味を表す。(動詞、助動詞の「せる」「させる」「しめる」「れる」「られる」の連用形につく。)

(未然形)

- さぞ会いたかろうと思うと、ふびんでならない。(資料外)

(連用形)

- ～、何となく二人だけで話したくなったので～(映, 6, 13)
- 「いや、いや——私、あんな詰らない田舎でなんか、絶対に生活したくないわ」(ロマ, 9, 89)

○「いや、死にたくはない、勿論、誰だって死にたくなんかないんですよ。」
(人, 8, 40)

○「それで、お父さんのいる北海道にはやくかえりたくて、夜、ふとんの中でなきました。」(少年少女, 9, 64)

○「だから一度お会いしたかった。」(婦画, 9, 86)
(終止形)

○明春の参議院選挙には、民自党としては八十名くらいの当選を目標とし、
残る二十数名の六年議員と合計して百名の参議院勢力にしたい。」(朝, 6,
20, I)

○「しかし、生きたいけれど到底生きられるあてのないどたん場の気持、そ
いつがおそろしいんですよ。」(人, 8, 40)

○「僕も幸福になりたいし、康子さんも幸福にしてあげたいのだ。」(キン,
6, 84)

○「今日一日、こうしていたいな……」(婦朝, 10, 80)

○「どうせ、この車も、近く献納するんだから、お名残りに、一度、飛ばし
てみたいよ」(婦友, 9, 36)

(連体形)

○「じつは、今夜わざわざ来ていただきましたのは、あなたのお嬢さんです
な、お嬢さんのことにつきまして、その、お耳に入れたいことがありまし
て——」(宝, 7増, 268)

○「そうそ、あんたにあげたいものがあるの。」(少年少女, 10, 62)

○「薬をしたい気持なんて、最初から持って居りませんの。」(人, 6, 26)

○「行きたいんだけど、まだ一度も行ったことがないんだ」(野少, 8増,
95)

○「音楽で、センスとよく云いますが、ホントに理窟では駄目ですわね、羨
しなんか、自分で歌い度い様に歌っているんですが、それでいゝんですわ
ね」(音, 10, 27)

(仮定形)

○行きたければ、かってに行け。(資料外)

〔～たがる〕(語幹に動詞を作る接尾語「がる」のついたもの。)

(未然形)

○「あの娘が、表から入りたがらなかったからです」(宝, 7, 10)

(連用形)

○では、サダが帰りがつてみると思ったのは、自分の思ひ違ひであったの
か——(宝, 7増, 44)

- 「はっきり物の見えた人だと思ひますが、非常に学びたがり、知りたがつた、さういふ意味で探究心のあつた人だと思ひます。」(新, 1, 25)
(終止形)
- 又レフリーにしても労働関係の本質を理解しないため、成るべく当事者の自主的解決に任せるのがレフリーの任務であることを忘れて、やたらに笛を吹きたがる。(法, 5, 1)
(連体形)
- もちろん酒巻のやうな、漁色家を通つてゐる男が見たがる芝居なら、おほよそ見当はつく。(宝, 9 増, 24)
(假定形)
- そんなに食べたがれば、どんな母親だって食べさせずにはいられないと思ひます。(資料外)

11. たる

- 指定の意味を表す。文語的な言い方。(体言および体言対当のものにつく。)
(未然形)
- ことばを素材として芸術にかゝはるかぎり、なにもものも文学たらざるをえず、文学たらねばならぬ。(人, 5, 88)
- 誠実な人間たらんとする意志が批評を書き、芸術を正しく位置づけようといふこゝろみが小説を書く。(人, 5, 88)
(連用形)
- なにゆゑつひに自己批判たりえぬのであらうか。(人, 5, 86)
- ～, さういふこゝろみを通じてなほ芸術家たりうるためにはどうしたらいいかといふことだったので。(人, 5, 87)
(連体形)
- 近衛は末次の承諾を求めるに当り、予め海軍大臣たる米内に語ることなく、直接末次に交渉した。(文, 8, 43)
- もし今日、批評家たること不幸があるとすれば、～(人, 5, 85)
- ～, 単に簡易裁判所判事又は副検事たるのみに止つた者は、右の共通標準線に及ばざるものとして、すべて、これを消極に扱ふべきものとする。(法, 5, 51)

12. です

- ①断定の意味に話手の聞手に対する敬意・丁寧さの加つた形。すなはち・です
(260)

わち、「だ」の丁寧体。(体言、準体助詞、その他、体言対当のものにつく。ただし、未然形は動詞、形容詞、助動詞の「せる」「させる」「しめる」「れる」「られる」「た」「たい」「ない」「ぬ」「らしい」の終止形に、また、終止形は、形容詞、助動詞の「た」「たい」「ない」「ぬ」「らしい」の終止形につく。)

(未然形)

○「その人は、うんどうの、せんしゅてしょう。」(幼ク、7、50)

○「どうすればいいのてしょう。」(幼ク、7、23)

○「しかし赤ちゃんは肥ってきたてしょうか。」(婦友、6、87)

(連用形)

○おもい設けないよろこびにはずんだ聲音てした。(ひま、6、55)

○しばらくは抱きあったまゝ、口も利かせませんでした。(ひま、6、55)

○「戦争が終つてすぐ、乳母と二人で広い満洲を放浪しはじめた時からでしたの。」(婦生、7、45)

○「学生時代からとてもオペラが好きでして、藤原オペラの「椿姫」を見たのが最初てした。」(音、6、26)

(終止形)

○そのほか豆腐や、納豆をつぶしたものなどもよい食品です。(婦友、6、87)

○南瓜やじゃが芋の裏漉、トマトの汁もよいのですが、便が少しゆるむこともあります。(婦友、6、87)

○「——およしなさい、もう寒いですよ。」(ロマ、9、107)

○「その草野という家、いくら探したってないんですもの。」(宝、7、73)

○「冬がきたからです。」(少女ク、7、29)

○「……どうです、大抵成功なさいましたか、貴女がおやりになつてみて？」(スタ、8、52)

(連体形)

○「何故てすの？」(音、8、45)

〔**なんですか**〕(問投詞的用法)

○「何てすか、妾は大連生れでございますから、こちらはさっぱり不案内で……」(世、12、72)

○「でもね、なんてすか、様子普通じゃないようなんですよ。」(新、10、124)

〔**ですから** etc.〕(接続詞的用法)

○「私もやはりヴァーファベニッヒ先生でした。そして主にドイツリードをやりました。修学途中でもって勤長にとられ、その他外人教師がいらっしゃらなくなりましたので其の間、浅野千鶴子先生にも、一寸おつきしまし

た。——ですから自然音楽の範囲は、ドイツものを多くいたしました。」
〔音, 6, 29〕

- 「ぼくは戦争前からずっと長いことやって来ていますが、終戦後の一年はそれほどでもなかった。けれども去年から今年にかけて、ぐっと打撃が上って来ている。ですから一チームのピッチャーは、八人ぐらいいいなくちゃ足りないのじゃないかと思えますね。」〔野界, 7, 20〕

②間投助詞的用法。

(終止形)

- 「そこでです、ふしぎに思ふ事があるのですが。」〔資料外〕
- 「しかしてす、なかなかそうはいきませんよ。」〔資料外〕

〔ですな etc.〕

- 「これがですな、文学的に立派なものならまた別ですが——」〔ロマ, 6, 63〕
- 「しかしてすな」と警官は、ニヤリと笑いながら、「だからといって、こんな事件をいちいち取りあげて全国に手配するなんてわけには、いかんのですよ。山田氏が四、五日したら帰ってくると自分からいってるんですから疑わしい筋は一つもありません。つまらない取りこし苦勞をしないで、まあ待ってらっしゃいよ」〔銀, 7, 52〕
- 「今度水原さんが、八年ぶりにシベリヤから帰られて、そのまま後樂園の、巨人大映映の賑やかな日に挨拶に出てですネ、いろいろとお感じになったことがあったと思うんですが、その見たまま、直感したままの日本野球に対するお感じを、最初に話して貰おうか……」〔キン, 9 増, 116〕
- 「とにかくですな、死ぬことなんて何でもないことなんですよ、全くさうなんですよ、〜」〔人, 8, 40〕

13. ない

- ①打消の意味を表わす。(動詞、助動詞の「せる」「させる」「しめる」「れる」「られる」の未然形につく。)

(未然形) = 「——なかるう」という形は、同意の「ないだろろう」という形があるために、あまり使われないようである。

- 社会学とか経済学とかにかんする論文だったら、ロシア共産党の書記長が執筆したとしても別に奇異の感を与えなかるうが、言語及び言語学にかんする論文だというのだから、たれの目にもたゞごとならず映るに相違ない。
〔資料外〕

(連用形)

- 赤ちゃんはお腹一杯になれば食べなくなるのです。(婦友, 9, 87)
- これから生れる短期大学は、四年制大学に落第した学校の救済策としか受取れなくて面白くない。(朝, 5.6, I)
- 師範学校などを無理をして四年制の学芸大学にしなくても、この二年制の短期大学で十分こなされていたのではなからうか。(朝, 5.6, I)
- 乳しか飲めなかつた赤ちゃんも、～(婦友, 6, 87)
(終止形) = 「ないで」の形も、便宜上、ここに含める。
- 心当りへ電話で訊いたが行方が判らない。(映, 6, 12)
- 国民社会全体が絶えず教育問題に関心を持たなければ、到底新しい教育制度を充実発展させてゆくことはできない。(朝, 5.6, I)
- 新政治協議会結成は現在のところ早急に実現されるとは見受けられない(朝, 6.20, I)
- 「おとうさん、早く帰らないと、ことしもまた寒くなっちゃうよ」(銀, 8, 39)
- われわれの自由は、何を言い、何をなすべきかを、偏見や情欲に支配されないで、われわれの究極の目的からする明察のもとづいて、選択決定するところに成立したのである。(世, 4, 22)
(連体形)
- 一通りの愛情では到底できないことである。(婦友, 6, 26)
- ところがこの年限短縮の要望と、旧制の高等専門学校が四年制新制大学の名に値しない実質もっていることがからんで、～(朝, 5.6, I)
- 胃腸が食品に慣れないために下痢することもありますから、～(婦友, 6, 87)
- ～、助からないのは、はたらく大衆である。(エコ, 5.11, 10)
- ～、物質のために貞操を顧みないような浅薄な女性が～(婦友, 6, 26)
(假定形)
- 国民社会全体が絶えず教育問題に関心を持たなければ、到底新しい教育制度を充実発展させてゆくことはできない。(朝, 5.6, I)
- 持続時間は $1/100$ 秒程度であるからオシログラフでも使わなければ波型の観測は難しい。(科, 5, 37)
- 「大学を出なければ損だからって、勉強してるんです。」(新, 10, 77)
- 「売らなければお金に困るわ」(婦生, 9, 24)
- 「——眼に見えないものですヨ、見えもしなければ聴こえもしない、牛に赤い布を振ってみせるとか、小心な女を怒鳴りつけるとか、さういふんぢゃない、投射なんだ。」(宝, 7増, 241)

[～にすぎない。～かも知れない, etc.]

- 通貨増発のごときは、この階級的収奪政策から必然的にもたらされる結果的現象にすぎない。(エコ, 5.11, 10)
- 次期国会までに民自と民主犬養派との合同はあり得るかも知れないが、犬養氏と行動を共にするものは十名ぐらいしかないと思う。(朝, 6.20, I)
- ～、これは特殊な専門的技術教育を要するものとしてやむをえないとしても、～(朝, 5.6, I)
- 「とちゅうで とまるわけには いかないんだ。」(幼ク, 9, 24)
- ～、もともと批評とは極北の精神にほかならない。(人, 5, 85)
- ～、うれしくてうれしくてたまらなくなってきました。(ひま, 6, 58)
- ～泣き言を並べるだけではいけない。(朝, 6.14, I)
- 「あたしゃ、この年まで、お前に、そんな隠しごとをされるとは思いもよらなかつた。」(キン, 7, 19)

[～なければならぬ etc.]

- ～、更にこういう見地からも種々な外的因子換言すると環境条件による変化等を追究しなければならぬ。(農, 6, 6)
- 現実のうちに深く根を張ってゐない批評精神は～、このさい徹底的に処断されなければならぬのであろうか。(人, 5, 84)
- ～蛋白質と脂肪に富んだ食品を減すのですから、その代りになるものをあげなければなりません。(婦友, 6, 87)
- ～、ひどくならないうちに必ず医療を受けなければいけません。(婦友, 6, 87)
- サーカス団のゴロツキ共と争っても、断乎、この非道を暴かなくてはならない。(キン, 7, 32)
- 「シューベルトを独逸語で歌わなくてはいけないと思っているのは日本だけです。」(音, 10, 27)
- 六三制といっても、その六三三四制を一応原則的な建前として受取っても、現実の社会の要求の前には段階的な歩みをとらねばならない。(朝, 5.6, I)

[～なければよい・いい]

- 「たとへば、真金がこのまま、この家に帰って来なければいいんでせう」(ロマ, 6, 49)

[～なくてもよい]

- 「これじゃあ、べつに人をやとわなくても よいかな。」(幼ク, 10, 22)
- 「しんばいしなくてもいいよ、光子さん。」(少女ク, 7, 31)

- 「よかったら、いろんなお話をしながら、……私、無理に踊らなくてもいいんですもの……、お話を、伺いながら、私の方の用件の済むのを待っててもいいですよ」(キン, 8, 20)

② 勧誘・依頼の気持ちをこめた質問・意味を表わす。(①に同じ。)

- 「いらっしゃらない？」(婦朝, 6, 27)
 - 「今日、一しょにかえらない？」(少年少女, 10, 58)
 - 「家によってくれない？」(少年少女, 10, 62)
 - 「まわりみちしてくれない？」(少年少女, 10, 59)
 - 「お勤め口見つけて下さらない？」(ロマ, 6, 65)
- 〔～ないか〕〔ない〕に比べ、した手の気持や柔らかさが薄い。
- 「船長、食はないか。」(新, 8, 80)
 - 「起きないか。」(新, 8, 83)
 - 「その鼠を僕にくれないか。」(人, 6, 10)
 - 「掃りには必らず誘うから、待っていてくれないか。」(キン, 8, 20)
 - 「ひとつ、君から話してくれないか？」(キン, 6, 84)

③ 〔～ないかな (-あ)〕〔～ないかしら〕の形で、願望の意味を表わす。(①に同じ。)

- 「あの先生、おれのモデルにならないかな。」(宝, 7増, 14)
- 「だれか来ないかなあ——。」(少女ク, 9, 40)
- 「おかしただけでなくて、もっと なんでも ほしいものが でてこないかなあ。」(幼ク, 10, 21)
- 「そうねえ、まじないをいって 戸をあけたら、ねむりにんぎょうが でてこないかしら。」(幼ク, 10, 21)
- 「誰か来てくれないかしら、兄さんのお嫁さんに」(婦朝, 6, 26)

14. なる

- 指定の意味を表わす。文語的な言い方。(体言および体言対当のもの、形容動詞の語幹などにつく。)

(未然形)

- 技術とはたんなる小説作法ではない——誠実に生きる方法のことにほかならぬ。(人, 5, 86)
- ～、一応明瞭にその解決の方向を示している。それのみならず、これよりも遙かに強く財産権を制限したワイマール憲法第一五三条のような規定を生み出す社会的必要についてさえ、～(法, 9, 12)

(連用形)

- それこそ、背信的行為にほかなりません。(資料外)
(連体形) = 「～という～」「～にある～」などの意味に用いられる。
- しかるに本来哲学的世界観的な原因をもつこの傾向を大衆化する要素として、キリスト教そのものの中に千年王国説なるものがあつたということが～(新, 1, 38)
- 京都なる鈴木先生に一筆啓上。(資料外)
(假定形)
- 「真砂子が八時四十五分頃までに死んでおれば、涼子は不利、それ以後なれば百八十度の転回です。」(宝, 9増, 62)

15. ん (ん)

- ①打消の意味を表わす。(動詞, 形容詞, 助動詞の「せる」「させる」「しめる」「れる」「られる」の未然形につく。)
(連用形)
 - 政治家は批評をおそれず、その存在を完全に黙殺してゐる。(人, 5, 85)
 - ～、それはこの著述者が従来の教科書に特有なアイマイな表現を使わず、現代と真正面から取り組み、極めて明快に～(東, 5, 6, I)
 - 「それはこの頃僕の妻がすっかり元気がなくなり、食慾もすすまず、何となくいらいらして来たのだ。」(婦画, 6, 55)
 - 「そうです、研究所は終戦をまたず、あの復活祭の夜を最後として事実上壊滅してしまっていたのです」(宝, 8, 36)
(終止形)
 - 機能は自己の性能の伸張以外になんの目的ももたぬ。(人, 5, 84)
 - 以上のような判断をすると、ベルリン封鎖解除を基にするソ連の態度の急変が極東にも影響を及ぼさないとはいえぬ。(東, 5, 7, I)
 - ～ただし外国船に対しては中国諸港間の貨客輸送は許されぬ(東, 6, 6, I)
 - ～無理矢理押付けられた少額の借財に断りもならぬという弱点をつかれ、～(東, 5, 29, III)
(連体形)
 - ガンちゃんとダンちゃん、思わぬ事件から思わぬくすりを手に入れ、～(野少, 6, 44)
 - さらにそれを世界的に拡大するならば、ソ連としては危険を伴う冒険を敢えてせぬほうが自己にとって有利であるという情勢判断に基いたのではなからうか。(東, 5, 7, I)

○～空電測定の研究を続けていたが実効の上らぬうちに敗戦となった事実は一般に知られていない。(科, 5, 36)

○いや、対岸の火であってはならぬはずのものではあるが～(人, 5, 85)

○食品の種類は偏らぬように。(婦友, 6, 87)

(假定形)

○～, 多数の条件を総合せねば単純には結論しえない性質のものである。(エユ, 5.11, 10)

[～ません]

○赤く変色しても、害はありません。(婦友, 6, 87)

○含水炭素ばかりの食餌でも赤ちゃんは肥るし、下痢もしません。(婦友, 6, 87)

○～, ひどくならないうちに必ず医療を受けなければいけません。(婦友, 6, 87)

○ただし夏ですから特に新鮮で上等なものを選ぶのは言うまでもありません。(婦友, 6, 87)

○「構ひませんとも。」(人, 6, 27)

○数絵は、もう躊躇っていることができませんでした。(ひま, 6, 55)

[～ねばならぬ etc.]

○新しい草ぶくろには、新しい酒を盛らねばならぬ。(朝, 5.6, I)

○九年制義務教育の機会均等は何人にも保証されねばならぬ。(朝, 5.6, I)

○くわしくは社会学者の研究にまたねばならないが、～(世, 5, 39)

○～形式的な六三制を金科玉条として固守してきたこれまでの方針に一大反省を求めるものでなくてはならぬ。(朝, 5.6, I)

○～, 個人的現実をも卸下しなければならず、～(人, 5, 85)

[思わず、～のみならず etc.]

○見物人が思わず叫び声をあげた瞬間、～(キャン, 7, 32)

○国民社会全体が絶えず教育問題に関心を持たなければ、到底新しい教育制度を充実発展させてゆくことはできない。(朝, 5.6, I)

○「他人が全部、いや地球上の人間が一人残らず死んだって、俺は死なん。」(文, 7, 71)

○「いや、あと半月足らず、節句までの約束です。」(ロマ, 9, 89)

○そしてそれからでも既に40年を闊してゐる。それにも拘らず今尙正方形植か長方形植かと、田植の度に思ひ迷ふ人の多いのはどうしたことであらうか。(遊, 6, 25)

○「私は勿論河上さんを尊敬するが、それに誇らざる榊田君の人物にも敬服し

ておる。」(朝評, 9, 103)

○戦争中ならいざ知らず, 平和恢復後, 一個の人間が, ~ 死刑の宣言を受け, ~ 絞首台にのぼってゆく ~ (世, 5, 39)

○ところがこの年限短縮の要望と, 旧制の高等専門学校が四年制新制大学の名に値しない実質をもっていることがからんで, ここにやむをえず二年制短期大学を生み出さねばならなくなったのは, 皮肉な現象である。(朝, 5.6, I)

○が, それなくして個人は生きられぬのみならず, 社会もまた, それなくして存立しえぬであらう。(人, 5, 85)

○「どうか悪しからず~」(婦画, 8, 54)

[ほかならぬ etc.]

○「ほかならぬ君のことだ何んとかしてあげたいが~」(婦生, 12, 123)

○全く血も涙もない怪しからぬ話である。(キン, 7, 32)

○その夜只ならぬ音を立てて帰って来たマーガレットとスーザンを見た伯父のビーミッシュ博士は, ~ (映, 6, 13)

○~, とりわけ中小商工業者が積極的にこの運動を推進しているのは誠に無理からぬのではあるが, ~ (朝, 6.16, I)

[~ずに]

○「でも~行く先もいわずに, とつぜんいなくなるなどという例はこれまで一度もなかったし, そんなことをされる人でもぜんぜんありませんので~」(銀, 7, 52)

○「時計をめずらしがって, 腕時計でももっているものなら, 交換品もくれずにとつてゆくので, 時計は家の中にかくしておいた。」(少年少女, 9, 65)

○「よけいなことをいわずに, 帰れ」(銀, 7, 55)

② [~ません?] の形で, 勧誘, 依頼の気持ちのこもった質問を表わす。

○「資本, もう少し貸して置いて戴けません?」(婦友, 6, 57)

○終点で降り省線にのりかえ, 新宿につくと, 「お茶をのみません?」とやす江さんが誘った。(婦生, 6, 54)

[~ませんか, ~ませんかしら]

○「ネット裏買いませんか」(ロマ, 12, 98)

○「近くですし, 木工所の方へお世話願えませんかしら」(文, 9, 90)

16. ふうだ (ふうです)

○ある事物が, 何かに似た状態にある, ~という様子である, という

ような意味を表わす。「こ(そ・あ・ど)んなふう」に「～いうふうに(な)」の形で用いられることが多い。(用言の連体形につく。)

(連用形)

○～、もしこんな風にいわれたのでは詰りません。(婦生、2、108)

○「それはどういうふうに違うでしょうか～」(婦生、2、188)

○～、人は死に——という風で、これから何回か～(朝、6.24、I)

(終止形)

○「いつでもあんなふうだから、困ってしまう。」(資料外)

(連体形)

○「ああいうふうなもの見方ですね。」(新、1、10)

○つつましく、人知れずに夫の活躍を見ているといったふうなのは～の奥さん花子夫人である。(キン、10、147)

17. べし

○当然の意味を表わす。文語的な言い方の残存。(動詞、助動詞の「せる」「させる」「しめる」「れる」「られる」の終止形につく。また接続する動詞、助動詞が文語の終止形の場合もある。)

(未然形) = 「べからず」の形で、禁止の意味を表わす。

○六三義務教育は何といっても動かすべからざる国民教育の基底である。

(朝、5.6、I)

(連用形)

○果して然らば、裁判官のうち、判事補より高い資格を要求されるものに在職した者は、たとえ、司法修習生の修習を終えていないでも、これに、弁護士資格を認めるべく、従って、前記衆議院法制局案が、最高裁判所の裁判官に在職した者のみを挙げるのに対して一步を進め、高等裁判所長官又は判事の職に在った者をも加えるべく、また、検察官の方面においても、検察庁一八条三項による二級検事は、～、前記標準線と同等価値として扱うべきではなからうか。(法、5、51)

○～、且つ、前掲の最近三カ年間における新弁護士の学歴、経歴等の程度に鑑みるも、この標準を維持すべく、維持して可なりと考えるものである。

(法、5、51)

(終止形)

○～、論者が、ことさらに理想論を今直ちに実現すべしと強調したり、～

(法、5、51)

○～更に一定の法律に定める試験又は選考を条件として肯定すべしとする見

解(～)もあるが、～(法, 5, 51)

- ～ マーガレットは、ディックに対してスーザンと交際すべしと、云う命令を下した。(映, 6, 13)

(連体形)

- 今日、驚くべきことにひとりの政治批評家も存在しないではないか。(人, 5, 85)
- 「そうしてこれからのわれわれの音楽運動としてもどうしても歌劇は盛にするべきものであると思います。」(音, 6, 26)
- ～, 新たに定めるべき弁護士資格の水準もこれと一致せしむることが適当であり、～(法, 5, 51)
- ～ 株価にはこの日三井本社などが夔本社に比しての割安もあり買われた程度で、特にみるべき影響も示さなかった(東, 6.6, I)
- ～, わが国今後の法曹界の辿りつくべき目標と、～(法, 5, 51)

18. まい

- ①否定的意志を表わす。(四段活用の動詞, 助動詞の「ます」の終止形, 四段活用以外の動詞, 助動詞の「せる」「させる」「しめる」「れる」「られる」の未然形につく。)

(終止形)

- さすがに私は自分の莫迦正直が口惜しくて、何故私も一番いい着物を着て来なかったのかと思うと、妙に気が沈み、それをお友達に気付かれまいと、心の中で焦っていました。(ひま, 12, 25)
 - すると作業係りがきて、まだ一日の定量の仕事を遂行していないので帰すまいとして、「この日本人たちは、怠け者で、一日の仕事を遂行していないから帰っちゃいかん」という。(婦画, 12, 90)
 - 暗号長は長官の顔を見まいとするのである。見るのは卑屈である。(新, 12, 88)
 - 「奥さんを人目にふれさせまいとして、樟脳を入れて、しまっている家庭！」(婦友, 7, 52)
 - 具体的な日本人の事はさし障りがあるから言ふまい。(新, 12, 22)
- ②否定的推量を表わす。(①に同じ。)

(終止形)

- ～'当らない天気予報,, の悪評を除くことも単なる夢ではあるまい。(科, 5, 37)

- ～、会議の前途は必ずしも樂觀を許すまい。(朝, 5.7, 1)
- 「今日中に標本図を仕上げませんと、恐らくこれも明日まではもつまいと思えます。」(宝, 8, 37)
- 「白陽の大倉のボールは、とても打てまい。」(少年ク, 10, 18)
- 「終戦後、男女の風儀がすたっとは申せ、何も、そこまで流行を模倣することもありませんまい。」(文, 6, 89)

〔～う(よう)と(が)～まいと(が)、あろうことかあるまいことか〕

- 日が照ろうと照るまいと、どちらでもかまわない。(資料外)
- 「起きようと起きまいと、おれの勝手だ。」(資料外)

19. ます

○話手の聞手に対する丁寧な気持の表現を示す語。(動詞、助動詞の「せる」「させる」「しめる」「れる」「られる」の連用形につく。)

(未然形) = 「ません(ぬ)」 「ましょう」 の形でのみ用いられる。

- 「心にはかけながら、あれっきり、御無沙汰致して居りますが、決して、戦時中からの御恩を忘却したわけではありませぬ。」(文, 6, 89)
- 千鶴子の声にはまちがいありません。(ひま, 6, 55)
- 元気のない赤ちゃんはありませんか。(婦友, 6, 87)
- 「近くですし、木工所の方へお世話願えませんかしら」(文, 9, 90)
- 次に一番多い前身頃の打合せに作る場合を取り上げてみましょう。(婦友, 6, 37)
- 「さア、おばちゃんといっしょにおんもで遊びましょう」(ロマ, 6, 70)
- (連用形)
- 二人が話しながらあるいて行くうちにどうやら道をまちがえたらしく、とんでもないところへ出てしまいました。(野少, 6, 44)
- 乳しか飲めなかった赤ちゃんも、いろいろの物が食べられるようになりましたね。(婦友, 6, 87)
- 「音楽学校は始めからでなく後半期から入りまして二年後は卒業でした。」(音, 6, 27)
- 「では、避妊薬公認につきまして厚生省の一丁田課長から始めて頂きましょう。」(婦画, 7, 46)
- 「そのころ背のとても高いおすもうさんで、出羽嶽文治郎という人がいますね。」(少年ク, 9, 40)
- 「はじめまして。」(婦友, 6, 36)

○「待ってました」(ひま, 10, 69)
(終止形)

○ころすると感じのよいピンクックが出来上ります。(婦友, 6, 73)

○便がよければ離乳食を進めますが、もし下痢をしたら乳だけにし、～(婦友, 6, 87)

○胃腸が食品に慣れないために下痢することもありますから、二三日は～(婦友, 6, 87)

○「私の修学時代と申しますと、皆様と少々かわっております。」(音, 6, 27)

○「ほら、ちゃあんとあなたのお菓子も運んで来ていますもの。」(人, 10, 104)

(連体形)

○「痛感いたしますことは、使い方をよく教えるということですね。」(婦画, 7, 46)

○「～実は、この子の父に、この子の生長ぶりを一目見ていただきたいと申しますが、妾共の～」(世, 12, 72)

○「いつも家にひっこもっていますので、子供達の母の会に、時々よその奥さまとお目にかかりますだけで、中江博士の奥さまも、やはり子供をとおしてのお知合でございます」(婦友, 7, 52)

○「あと幾日かで、あたしも娘にさよならしますのよ、お星さま」(母マ, 6, 69)

○「父が前から探偵事務所をやってをりますんですけど、～」(スタ, 68, 52)

(仮定形)

○できますれば、明日おろかがいいたいと存じます。(資料外) 人二〇
(命令形) = 敬語的表現の語にしかつかない。

○「あなたもご相伴なさいませ。」(婦友, 7, 50)

○「ごめん下さいませ」(婦友, 11, 75)

○「どうぞ守ってやってくださいませ」(野少, 9, 69)

○「いらっしゃいませ!」(人, 9, 116)

20. みたいだ (みたいです)

①ある事物が他の事物に似ているという意味を表わす。(体言「または、用言の連体形につく。)

(未然形)

○「あの雲、ちょっと、ヒツジみたいだろう？」(資料外)

(連用形)

○私は自分が叱られてゐるみたいに頭を下げた。(宝, 9増, 35)

○「～一回しか廻っていないのに二回廻っているように……、ちらちら光る。～余計しかけみたくて二回一べんに廻して～」(婦生, 2, 62)

(終止形)

○「さう、我々、至って女らしいわね、自分で褒めるみたいだけど、」(スタ, 8, 17)

(連体形)

○「冗談ぢゃない、そんな女学生みたいな甘い夢を見てゐる時代ではないんだ。」(宝, 9増, 143)

○「俺なンざァこれでも金融会社の重役さまなンだから笑はせるみたいなのンさァ」(宝, 9増, 23)

【みたい・みたいね etc.】(語幹用法)

○「なんだか、あたしの顔を睨んでほっているみたい。」(キン, 10, 50)

○「まるで新婚みたいね」(婦生, 2, 132)

②例示の意味を表わす。(①に同じ。)(あまり多くは用いられないようである。)

(連体形)

○「大変な山師でありながらなかなか芸術家であり、科学の力をしてそれを種にして人を欺したりもうけたりしている。あの人の描いた焼物がありますし、それから油絵の西洋婦人の図などというのがありますし、通信博物館にエレキテルという函がございますね。それから本草の博物史みたいなもの、劇作や戯文、そのほかありとあらゆることをやっている。」(新, 1, 11)

○「～、私らみたいな、いろんな重荷になるような条件や周囲があるから～」(婦友, 7, 36)

③不確かな、または円曲な断定、時に推定の意味を表わす。(①に同じ。)(あまり多くは用いられないようである。)

(終止形)

○「かぜをひいたみたいだ。」(資料外)

21. よう

①意志を表わす。(四段活用以外の動詞、助動詞の「せる」「させる」「しめる」「れる」「られる」の未然形につく。)

(終止形)

- 「あしたの試合にホームランを打ったら、山羊を一びきあげよう」(野少, 8増, 108)
- 次に、第二の、前任地における登録制限の問題を考えよう。(法, 5, 51)
- ぼくはこゝで、時間と空間との相対性を、さらに相対的にひっくりかへしてみよう。(人, 5, 84)
- 由比が、そのとき、上諏訪に一泊しよう、とおもったのは、その時から十五六年まへに、その町に、たいざいしてゐたをりに、片思ひをした女に、もし逢へれば、と、かんがへたからである。(文, 7, 80)
- マーガレットは彼を二十年の刑にしようと思っている中に、～(映, 6, 13)

〔～ようとする〕

- いったい、この教科書は「はしがき」に「～」と断っている通り、ほんとうの民主主義の意味を分り易く解説しようとするものである。(東, 5.6, I)
- さらに一部では、その意図は西ドイツを欧州復興の支柱として再建しようとするマーシャル計画に対抗する手段とさえ見られていた。(朝, 5.7, I)
- 中等学校はすべて高校に昇格しようとし、高校はすべて大学に昇格しようとした結果、～(朝, 5.6, I)
- 「きみが川をとびこえようとしたとき、ほうりだしていったのは ぼくの犬だよ」(幼ク, 10, 59)

②勧誘を表わす。(①に同じ。)

(終止形)

- 「じゃあ、のびっくらをしよう。」(幼ク, 9, 22)
- 「さあ、もういゝかげんにして飯にしようよ。」(人, 9, 6)
- 「うん、それがいい、また折をみて、二人でゆっくり考へよう」(宝, 7増, 241)
- 「ピフテキをたべようよ」(新, 6, 89)

〔～ようでは(じゃ)ないか〕

- 「そんなにしんばいなら、ひとつ、かけをしようじゃありませんか。」(幼ク, 9, 13)

③推量・想像を表わす。(①に同じ。)

(終止形)

- こゝに論理上の欠陥はほとんどないといえよう。(東, 5.6, I)
- ～、従ってそれは、結局、司法政策の問題であるとされよう。(法, 5,

51)

○また吹雪や風塵——これは関東地方で春のはじめによく起るものであ
——も電荷をもつ微粒子が運動するものだから これらから空電が発生す
ることも容易に理解されよう。(科, 5, 36)

○空電発生の原因としては次のものがあげられよう。(科, 5, 36)

○ここでも米英仏が難しい問題に当面するのは明らかであり、こうした世界
情勢を勘案すると、ソ連の態度が急変したのは世界的な客観的条件を考慮
した結果によるといえよう。(東, 5, 7, 1)

(連体形)

○生きていけば十分能力を発揮できようものを、惜しい事をした。(資料外)
〔～ようとする〕(動作・作用が実現の寸前にある状態を描写する言い
方。)

○秋の日はつるべ落としと言われるが、日は早くも西の山に没しようとして
いる。(資料外)

〔～ようと(が)、～ようと(が)～まいと(が)〕

○「そのためにどんな苦勞をしよう、ひとにはさも御生樂に見えるら
しいから。」(世, 8, 78)

〔～ようものなら〕

○もちろん彼が倒れて頭蓋を打ちでもしようものなら致命的になる。(ダイ,
5, 112)

○うちの子供が外へ出て、下の階級の言葉を覚えて来ようものなら、お母さ
んが噓しく訂正している。(文, 12, 80)

○ところで、こんな具合に、自他の生命を輕視する連中でありながら、あな
たが若し、彼等に向って、新しい戦争のおこる可能性を語りでもしようも
のなら、あなたの目玉も抜いて呉れんぞ勞ひでいきり立つのですから、不
思議です。(新, 2, 58)

④疑問・質問・反語の意味を表わす。「(「ようか」の)形か、疑問詞と呼
応する形か。)(①に同じ。)

○在野法曹の一員なるが故に、今日甲説を主張する諸家は、明日在野の法曹
の間に身をおけば、また乙論を支持するものにあらずと何人が保障し得よ
うか?(法, 6, 51)

22. ようだ(ようです)

①ある事物が他の事物に似ているという意味を表わす。「ようです」
は、丁寧な言い方。〔体言に助詞の「の」のついたもの、連体詞の「こ

の」「その」「あの」「どの」など、動詞、形容詞、形容動詞、助動詞の「せる」「させる」「しめる」「れる」「られる」「ない」「ぬ」「たい」「た」などの連体形につく。）

(未然形)

○「けさの霜は、きっと雪のようだろうよ。」(資料外)

(連用形)

○無邪気で快活で、フランス人形のように可愛い。(婦友、6、26)

○二少年の体はつばめのように左右に飛びちがって、～(キン、7、32)

○「現在、戦争や平和についての、いろいろな評論や理論は、大掃除のほこりのように湧き立っていて……」(婦画、9、39)

○「何しろ生活が非常に苦しくて、自分一人が精いっぱいですからこれからの結婚は以前のように簡単には運ばないんですよ。」(婦友、10、40)

○裏口の戸をがたがたと開け、三疊の襖をひらいて、飛び込むように部屋へ入ってゆきました。(ひま、6、55)

(終止形)

○「まるであばれうまにのってるようだ」(少年ク、11、53)

○「まるで、夢の中にいるようです。」(資料外)

(連体形)

○「まるで魔法使のおばあさんのようなかっこうだったわね。」(少女ク、9、42)

○「このへんで花のような紅葉がハリハリとくると詩になるんだがなァ」(少女ク、11、14)

○例によって沢枝君はリスのような素早さで車をとびおると、～(キン、7、32)

○低い、しぼりだすような声で、返事がきこえてきました。(ひま、6、55)

○「マルクス兄弟とかチャップリンが、いつも苦虫かみつぶしたような顔してるってこと分ったよ。」(婦画、9、86)

(假定形)

○「おれの顔がネズミのようなら、きさまの顔はキツネのようだ。」(資料外)
〔～ようね、～ようよ etc.〕(語幹用法)

○「まるでかわいい仙女のようよ。」(少女ク、9、41)

②内容を指示することを表わす。ある事物が他の事物に等しいという関係。(①に同じ。)

(連用形)

○この原理は次のようである。(科、5、37)

- 苦米地委員長は次のように語った (朝, 6.20, I)
- 以上のように多くの課題があるが～ (農, 6, 6)
- 「御承知のように、逮捕状は今年になってからは警察官から直接請求されることになりましたが、そのため現在では逮捕状の請求について特に問題が多い。」(法, 10, 5)
- なお薄地のものや上仕立のときは、図のように当布を起し、～(婦友, 6, 73)

(連体形)

- 以上のような判断をすると、ベルリン封鎖解除を基にするソ連の態度の急変が極東にも影響を及ぼさないとはいえない。(東, 5.7, I)
 - 具体的にいうならばこのソ連の変化が中共にどのような影響を及ぼすか中共としては目下のところは軍事行動に忙がしいが、基本的なものにおいて結ばれているソ連と中共の関係からして中共の対外策がどのようなものになるか、非常に注目を要するものがある。(東, 5.7, I)
 - 中共は対外貿易の再開を熱望しておりそれを促進するような措置をとっている、～(東, 6.6, I)
- ③例示の意味を表わす。(ある事物が他の事物に関する一例であるような関係。)(①に同じ。)

(連用形)

- ドイツの欧州に占める軍事的、経済的地位はマーシャル案に見るように戦後いよいよ確認されて来ている。(朝, 5.7, I)
 - 「この様に栽培が上手だと、大体病気が少いから銅製劑でいいのです。」(農, 6, 60)
- (連体形)
- 玉子に慣れたら、黄粉、鶏や牛の肝臓の裏漉、大豆味噌の味噌汁、煮干粉、ひらめ、かれい、きすのような脂肪の少い魚肉などを、一品ずつ慣らしてゆきます。(婦友, 6, 87)
 - 「ワールド・シリーズのような大事な試合になれば、三日目か五日目に出ますね」(野少, 7増, 13)
 - 「電波探知機のようなのは使わないのですか？」(科, 9, 13)
 - 杜月笙氏は上海財界の最大の巨頭であり、中共側がこのような人物に協力を求めたことは初めてであるだけに～(東, 6.6, I)
 - 「こっちから言ったことに答えるようなことはできないのでしょうか？」(少年少女, 10, 47)

- ④不確かな、または円曲な断定の意味を表わす。(①に同じ。)

(連用形)

- 「、最も盛んに広く試験が行われたのは、明治 40 年代のこのようである。(農, 6, 25)
- 「思いなしか純子さんの瞳は、きらきらと濡れているように私には思われた。(婦友, 6, 26)
- 「つまり、公債発行、日銀券増発を技術的に抑止する方法がとられているように見える。(エコ, 5, 11, 10)
- 「下痢もしないのに体重が増えぬようでしたら、それは食餌の量が不足しているのです。(婦友, 6, 87)

(終止形)

- 「第二点は間接選挙方法の採用の可否で、これには選挙代理人の選出とか、地方公共団体吏員による選挙とかいろいろあるようだ。(朝, 6, 20, I)
- 「何処かで君を見たようだな……」(婦友, 6, 74)
- 「しかし中国に住んでいる外国人の見方にくらべて、全世界の対中共視は、あまり香ばしくないようです。」(朝評, 8, 5)
- 「「おかしいな、べつにどこもわるくはないようですが……。」(幼ク, 7, 34)

(連体形)

- 「俺には彼の氣持がよく判るような氣がする。」(文, 7, 71)
- 「馬鹿に判ったような顔して一人で思っているんじゃないかしら。」(音, 3, 35)
- 「私が入った昭和十四年ころは夢中だったが、今考えて見ますと、昔の人のバッティングというものは、どこか荒いような感じがしていますが、今のバッターは非常にシユアなんです。」(野界, 7, 21)
- 「あたし、チミちゃんにちがいないような氣がしてたんだけど、チミちゃんたら、自分の顔かいたりするものだから——」(少年少女, 10, 63)
- 「でもね、なんですか、様子が普通じゃないようなんですよ。」(新, 10,

(定形)

- 「君が行くようなら、この荷物を届けてもらおうか。」(資料外)
- 「うね、～ようよ etc.」(語幹用法)
- 「何だか、縁起が悪いようね……」(婦生, 6, 41)
- 「お疲れのようね。」(人, 7, 94)

23. らしい

①推定または円曲な断定の意味を表わす。(動詞、形容詞、助動詞の「せる」「させる」「しめる」「れる」「られる」「たい」「ない」「ぬ」「た」の終止形、形容動詞、助動詞の「そうだ(様態)」の語幹、体言および準体助詞の「の」などにつく。)

(連用形)

○丁度ここで前の列車に故障があったらしく、列車は除行をはじめました。

(婦画, 12, 88)

○バザーと食堂はつきものらしく、売場の方が淋しくてもこいばかりは大繁昌しています。(ひま, 12, 69)

○彼らは、そのやうな、やゝ秘密な思想を口にし、その信奉者であることに、多分の楽しさを感じてゐるらしかつた。(新, 12, 34)

(終止形)

○思考の網をくぐり、懐疑の輪をぬけて、決勝点へ駆けてゆく、スポーツなのだ。今日の批評家は、さう考へてゐるらしい。(新, 12, 32)

○「よく降るね。」と、壯夫さんはいつでもいう。東京の人だから、雪があまりすきでないらしい。(少年ク, 12, 92)

○けさ早く帰ったはずの松本くんがまだいたので、おとうさんは、おやっと思つたらしい。(野少, 12, 96)

○「しかし、僕より、君のはうが、いくらか寛大らしいな。」(文, 7, 82)

○松本くんは、おとうさんの用たしで、章吉のおとうさんのところへ来たのらしい。(野少, 12, 92)

(連体形)

○電話が通じる間、砲術長がトップから下りて来ながら、上に残っている高射長に、話しかけているらしい声が聞えて来た。(新, 12, 93)

○「お前が月田と仲のいいらしいことは、俺は百も承知だが、お前だって、俺の娘だ——まさか、俺の敵側の男と、そんなやうな関係になるなんてことは、夢にも思へなかつたんだ。」(ロマ, 8, 39)

○機は東京湾を一路南へくだっています。漁船らしい白帆がまるで動かないように足もとに見えます。(野少, 12, 75)

(假定形) =あまり使われないうである。

②ある事物が、いかにもそのものにふさわしい様子をしている、または、何かにきわめて似ている、という意味を表わす。(①に同じ。たゞし、体言につくことが多い。)

(連用形)

○「まったく、君らしくもなく、変てこなキンキラ声を出してゐるンで、あ

- やふく、お見それ申すところだったよ」(宝, 9増, 22)
- 「お嬢様らしくふるまっているけど、あの方、奥様よ。」(資料外)
(終止形)
- 「そう言うところは、いかにも苦勞人らしい。」(資料外)
(連体形)
- ～, 洋画家らしい極く自然なエチケットで、泰三は～(婦生, 2, 65)
(仮定形) =あまり使われないようである。

24. られる

- ①受身の意味を表わす。(四段活用・サ行変格活用以外の動詞、助動詞の「せる」「させる」の未然形につく。)
- (1)動作・作用の直接的受身。他動詞につき、その他動詞の目的語が主格に立つ場合。
- (未然形)
- さう思ふ切なさに加へて、責任のない其の場きりの言葉で子供のやうにあやしなだめられなければならぬ自分を思ふ惨めさはサダの心に僅かに残る最後の自制までも奪ひ去り、～(宝, 7増, 39)
(連用形)
- この研究は1936年頃イギリスのW・ワットらによつてははじめられ 現在ではヨーロッパ西部や北大西洋の不連続線や低気圧と空電の関係がかなり詳しく調べられており～(科, 5, 36)
- 今日大学へ進む途は広くあけられている。(朝, 5.6, I)
- ～, 最近の手数料が実質的に引上げられているため優良値かさ株買が困難となっているからである(東, 6.6, I)
(終止形)
- が、事実、このやうな機能主義者にとつて、効果が達せられるといふ事態はおこりえぬのである。(人, 5, 84)
- 「御多忙のところをどうも——こんど避妊薬が公認され、又妊娠中絶公認の法案が国会にかけられるなど産児調節の問題がやかましくなりましたので、避妊薬を中心とした避妊のお話をうかがいたいと存じます。」(婦画, 7, 46)
(連体形)
- この短期大学の新設によつて、六, 三, 三, 四の新学制には大きな例外が認められることになった。(朝, 5.6, I)
- 「どのみち、日本軍は、明日にもあそこに追ひつめられるのだらうな。」

(文, 8, 82)

(仮定形)

○この城は、この方面から攻められれば、一たまりもないのだ。(資料外)

(命令形) =あまり用いられない。

(ロ)動作・作用の間接的受身。(イ)と同様、他動詞につくが、その他動詞の目的語が目的格に立つ場合。すなわち、主格は別に存立し得る。(基本的には「～が～を～られる」の形。)

(未然形)

○せっかくの創意を、まねられないようにしたいものだ。(資料外)

(連用形)

○「三振王なんて、あだ名をつけられているんだ」(野少, 8増, 95)

○「内緒ごとを見られちゃった」(婦友, 12, 100)

(終止形)

○「～、生じっか手を取って教えられるよりも、舞台を幾度も幾度も拝見して、自分なりにきわめつくすのが一等いいと考えていたものですから……」(キン, 10, 91)

(連体形)

○「私何でも姑に相談しますが、教えられることばかりです。」(婦友, 8, 55)

(仮定形)

○あのノートを棄てられれば、もう代りがない。(資料外)

(命令形) =あまり使われない。

(ハ)動作・作用の利害関係(迷惑の場合が多い)に関する受身。(自動詞につく。)

(未然形)

○ベニシリンのおかげで、女房に寝られずにすんだ。(資料外)

(連用形)

○～女は店の馴染客のひとりに家に遊びにこられた上、着物や現金をゴッそり盗まれるという酷い目にあい、～(新, 12, 8)

(終止形)

○「そんな事を言うと、いよいよのろけられるぞ。」(資料外)

(連体形)

○「僕はあなたに、そんな風に腹を立てられる覚えはないが……」(資料外)

(仮定形)

○あんなふうに家の中で暴れられれば、だれだって困るでしょう。(資料外)

(命令形) =あまり用いられない。

②可能の意味を表わす。(①に同じ。)

(未然形)

- 「そんな事、考へられないじゃないですか」(ロマ, 6, 49)
- が、それなくして個人は生きられぬのみならず、～(人, 5, 85)
- 空電発生の原因としては次のものがあげられよう。(科, 5, 36)

(連用形)

- ～特殊の無線機器を使えばこの正体をはっきりとらえられ その波型から発生源が熱雷か渦雷か或いは風塵などであることが判明し～(科, 5, 37)
- 「どんな小さなあなからでもぬけだしてきますが、雨戸やかべのなかにはあまりはいつてこられません。」(少女ク, 7, 30)

(終止形)

- 本土にある政府軍のうち約半数はかなり良い装備を持っているが、統率の面はゼロだと見られる(東, 6.6, I)
- 「～。」といったような箇所が問題になったのだらうと考えられる。(東, 5.6, I)

(連体形)

- この他に空電の中には～熱雷から発生すると考えられるものが常時観測されている。(科, 5, 36)
- 乳しか飲めなかった赤ちゃんも、いろいろの物が食べられるようになりましたね。(婦友, 6, 87)

(假定形)

- わたくしに教えられれば、教えてあげたいのですがね。(資料外)

③自然にそうなるという意味を表わす。(①に同じ。)

(未然形)

- 新政治協議会結成は現在のところ早急に実現されるとは見受けられない(朝, 6.20, I)

(連用形)

- 見まいと思っても見られてならなかった。(資料外)

(終止形)

- 「ですから、あんなにノンキらしく遊んでばかりゐて、行末が案じられるわね」(新, 6, 88)

(連体形)

- なんとなくはだ寒さの感じられる朝でした。(資料外)

(仮定形)

○痛さも感じられれば、かゆさも感じられる。(資料外)

④動作を敬って表現する。(①に同じ。)

(未然形)

○皇太子殿下は毎週三日、三晩を寮で過されますが、全然特別な待遇は受けられず、他の学生と同様な条件の下に生活されます。(文, 11, 22)

(連用形)

○「今度転校して来られた山村さんです……」(人, 10, 98)

○ママはふるしき包みをおいて、ママちゃんのひたいに手をあてられた。
(少女ク, 12, 93)

(終止形)

○「近ごろのお歌は」と伺えば、夫人は、さらさらと数首をしたためられる。
(婦画, 12, 84)

○御自分は戦死者遺族の弔間に繁忙を極める身でゐらせられるから、かりにも戦争に出掛けるやうな余暇のあらう筈はない。(文, 12, 108)

(連体形)

○ママが、お医者さまに電話をかけていられる声がきこえた。(少女ク, 12, 93)

○「H市に出かけられることは、今までありませんでしたか」(銀, 7, 52)

○～、聖歌隊を先導に、院長の尼櫓が、たった一本のローソクをもって進んでこられるのです。(ひま, 12, 5)

(仮定形)

○ただ書類を添えて申し出られればよろしいのです。(資料外)

25. る

○過去、完了、継続などの意味を表わす。文語的な言い方。(四段活用)の動詞の仮定形、サ行変格活用の動詞の未然形につく。)

(連体形)

○欧化時代の鹿鳴館に筆を起し、今次終戦迄を論破せるもので、文学評論であると共に近代日本人の研究書でもある(人, 1, 扉)

○配付金、国庫補助金、負担金などを地方自治体の安定せる財源とする。
(朝, 6.9, I)

[～における]

○最近におけるソ連側の世界的な平和運動もその反映である。(朝, 5.7, I)

○～ 中国における中国共産党の驚異的な進出は～(東, 5.7, I)

○～、けっきょくは、安定と不安定とのあひだの相互関係における不安定性を感じとることなのである。(人, 5, 84)

26. れる

①受身の意味を表わす。(四段活用・サ行変格活用の動詞の未然形につく。)

(イ)動作・作用の直接的受身。他動詞につき、その他動詞の目的語が主格に立つ場合。

(未然形)

○～この型では空中線の鋭い受信方向からの空電しか記録されないから～(科, 5, 37)

○ただし外国船に対しては中国諸港間の貨客輸送は許されぬ(東, 6.6, I)
(連用形)

○すくなくともベルリン封鎖解除に関するソ連の態度の急変には、そうした判断による意図が蔵されているだろう。(東, 5.7, I)

○この新制大学を法的に裏づけする国立学校設置法も国会に提出された。
(朝, 5.6, I)

○かつて中学を出て高等学校から大学へ進むためには、選ばれた秀才以外には狭い門であった。(朝, 5.6, I)

(終止形)

○～、そこに究極的な価値判断の基準がおかれる。(世, 5, 39)

○～、四国外相会議は二十三日パリで開かれる。(朝, 5.7, I)

(連体形)

○エヴァット瀋州外相はこのソ連の態度の変化を目して決定的な一步を踏出したものといい、日独両国の講和の道が開かれる転機になるだろうという意味のことをいっている。(東, 5.7, I)

○この輝線の傾きによって方向が示されるのであるが～(科, 5, 37)

○五月末開かれる日教組全国大会は～(東, 5.6, I)

(仮定形)

○もし体験に即して語られれば、それはもはやほとんど公共性のある思考ではなくなり、～(新, 12, 15)

(命令形) =あまり用いられない。

○長いものには巻かれる。(資料外)

(ロ)動作・作用の間接的受身。(イ)と同じく、他動詞につくが、その他動詞の目的語が目的格に立つ場合。すなわち主格は、別に存立し

得る。(基本的には「～が～を～れる」の形。)

(未然形)

- いまなほそれを自己の行動の基準としてみる自意識家は、自意識家ともいへぬ無智を嘲笑されねばならない。(人, 5, 85)
- 「更めて君に聞かされないでも、それくらゐ知ってるかね、～。」(文, 6, 82)

(連用形)

- 「僕は足をふまれたら相手がおとなでも注意するよ。」(少年少女, 7, 67)
- 廿七日午後十一時十分ごろ大田区大森三ノ七三久秋初子(二二)さんは大森二ノ七先路上で不良風の男に短刀で腹部を刺され、ひん死の重傷を負わされた(東, 5.29, Ⅲ)
- 東大工学部の学生四百人が花山教授からB C級死刑者の遺書を示され、「例外なく涙して」これを～(世, 5, 39)
- ～, はたらく階級は通貨を奪われていたのである。(エコ, 5.11, 10)
- 「さてはウマヤの馬を殺された腹イセか?」(世, 7, 79)

(終止形)

- 「あたしゃ、この年まで、お前にそんな隠しごとをされるとは思いもよらなかった。」(キン, 7, 19)
- ～, 女は店の馴染客のひとりに、家に遊びにこられた上、着物をゴッソリ盗まれるという酷い目にあい、～(新, 12, 8)

(連体形)

- ～, われわれは社会の現実と、これを改善するに必要な手段と条件について、偏見や利欲に明を奪われることなく、十分に検討し、～(世, 4, 22)
- 「そんなに勝負が早くちゃ、取られるのも早い訳ですね。」(文, 7増, 37)

(仮定形)

- 家を焼かれればだれだって弱ります。(資料外)

(命令形) =あまり用いられない。

(ハ) 動作・作用の利害関係(迷惑の場合が多い)に関する受身。(自動詞につく。)

(未然形)

- 雨にも降られず、幸いであった。(資料外)

(連用形)

- 「私は引揚ですが、途中主人と二人の子供に死なれ、六つと八つの子供の手を引いて昨年帰って来ました。」(婦友, 7, 85)

○「こうちよいちよいははいりされちゃ、わたしのあみものは、ちっとも、はかどりゃしないわ」(幼ク, 8, 15)

(終止形)

○こうした苦しい慌たどしさに、僕たちは殆んど池袋の店のことを忘れていたが、女は僕に去られると、その店を自分の財産として思いだすらしい。

(新, 12, 9)

(連体形)

○「それを聞いて安心しましたが、日本では原語で歌わないと、何か格が下がる様に思われるのが損ですわ」(音, 10, 27)

(假定形)

○子供にわめかれればわめかれるほど、若い母親はどうしてよいか判らなくなっていった。(資料外)

(命令形) =あまり用いられない。

②**可能の意味を表わす。**「書ける」「読める」などの、いわゆる可能動詞があるために、あまり多くは用いられないようである。〔①に同じ。〕

(未然形)

○イクリの木に登って実をもいでいたら、警報が鳴った。しまった、今日も帰られない。(キン, 6, 51)

(連用形)

○「終戦のすぐあとは、ソ連の兵隊がよくらんぼうするので、こわくてねむられませんでした。」(少年少女, 9, 64)

(終止形)

○解剖処見によると寒川真砂子の死亡時間は昨夜八時三十分前後と推定される。(宝, 7増, 57)

(連体形)

○少年はヨットを一人で操られるやうになった。(新, 12, 57)

(假定形)

○雨風がこれで防がれれば上出来だ。(資料外)

③**自然にそうなる、**という意味を表わす。〔①に同じ。〕

(未然形)

○~, これらが主たる動機になっているものとは思われない。(朝, 5.7, I)

(連用形)

○「お霜が用のひまや、夜ねてからきかしてくれる、くりかへしたお喋話にもうあきたらない年になってみましたし、毎日曜の聖書の話が待たれてな

りませんでした。】(新, 7, 52)

○～純子さんの瞳は、きらきらと濡れているように私には思われた。(婦友, 6, 26)

(終止形)

○～ドイツ国民の支持と期待を自国の方にひきつけんとするにあると思われる。(朝, 5.7, 1)

○～, 中共側がこのような人物に協力を求めたことは初めてであるだけに注目される。(東, 6.6, 1)

(連体形)

○二十メートルもあろうかと思われる高い天幕のてっぺんでは～ (キン, 7, 32)

○～, 全く不必要と思われる犯人の出身地と遺族の住所氏名年令までくわしくしるし～ (世, 5, 39)

(仮定形)

○音楽会も待たれば, バレエも待ちどおしい。(資料外)

④動作を敬って表現する。(①に同じ。)

(未然形)

○多勢の家を焼かれた人達が, 新しい家を建てられないで居る間は, 天皇も御殿を再建する事は望まれないと伺って居ります。(文, 11, 21)

(連用形)

○「いゝえ, あの終戦の年に……復活祭の夜, お三人とも相ついで亡くなられたのです。」(宝, 8, 36)

○「いままでにいくつつくられましたか?」(少年少女, 10, 48)

○「学院に長らくみた先生が, ウインの学校へかはられて, そこへ私を貸費生として呼んで下さったのです。」(新, 7, 52)

(終止形)

○そんならなぜそんな弱音を吹かれる? (世, 7, 78)

(連体形)

○「ぢゃ婿君があきらめれば, 貴女はハッキリ離縁されるつもりですか」(ロマ, 6, 49)

○「何かと窮屈ですが, おられる方はなお辛いのですから, お互に忍び合い譲り合わなくては……」(婦友, 7, 85)

○「ランドレー君を? 私が? 博士は正気でそう云われるのですか?」(婦生, 9, 49)

(仮定形)

- この機会に全篇を通読されれば、真の興味更に倍加するものがあらう。
(宝, 8, 1)

27. ん(む)

- 意志を表わす。〔～ん(む)とする〕の形で用いられる。(動詞, 文語系の助動詞の「ざる」「たる」「なる」などの未然形につく。)
- ～西欧側に再び四国会議を開かせて対独処置をポツダム協定の線にもどさんとするもので～(朝, 5.7, I)
- ～ドイツ国民の支持と期待を自国の方にひきつけんとするにあると思われる。(朝, 5.7, I)
- 民主主義を破壊せんとする敵を発見することなしに民主主義の建設はない。(東, 5.6, I)
- 昭和四, 五年の浜口蔵相のデフレ政策への転換は, それ自身, 首切りと低賃銀, 労働強化による中小企業の破滅により, 銀行資本を救済せんとする独占資本の階級的収奪政策であった。(エコ, 5.11, 10)

附 録 索 引

1. 語形からの索引
2. 意味からの索引

1. 語形からの索引

○この索引は、本文に収めたおもな語形を、五十音順に配列したものである。

○見出し語、助動詞の各活用形、組合せによる連接形式・呼应形式、連語などを、すべて一律に並べてある。

○数字はページ数を表わす。数ページにわたるものは、初出ページだけが示してある。

○また、助動詞の各活用形については、その見出し語（大部分は終止形）の出ているページが掲げてある。

○意味の違う語でも、この索引では、一つのものとして掲げてある。たとえば、格助詞の「と」と接続助詞の「と」など。ただし、助詞と助動詞は、形が同じでも二つに分けた。たとえば、助詞の「で」と、断定の助動詞「だ」の連用形「で」などは、後者を「で（助動→だ）」のようにして區別してある。

え	193	うが～まいが	27, 243, 271	が～すること	16, 19
えあした	255	うことか～まいことか	271	かどうか	12
えくまで	208	うじゃないか	14, 242	かな（-え）	15, 125
えのくらい	41	うではないか	14, 242	がな（-え）	27, 125
えのね	155	うと	117, 243	か～ないかに	12
えあまり～ので	176	うとする	104, 242, 243	かならずしも	60
えあるいは	193	うと～まいと	117, 243, 271	かね（-え）	13
えあれから	29	うに	152, 243	が早い	18
えあわよくば	197	うものなら	243	かもしれない	11, 214, 264
				が故に	19
い	10	え	10	から	28
いかにして	80			から言う	34
いくらか	11	か	11	からする	34
いくら～だって	67	が	15, 25	からって	123
いくらだって	68	がい	10, 13	からといって	39
いつまでも	207	か否か	12	からとて	39, 123
いわば	199	かくして	83	から～に	30
		が最後	18	からには	38
う	230, 242	が～してある	19	からの	162
うか	12, 14, 244	かしら	27	からは	38
うが	243	かしらん	28	から～へ	30, 32, 205

から～まで	29, 31, 33, 207	ごとき	170, 244	しも	59
からみる	34	ごとく	244	じゃ	258
がる	259	こととて	53	じゃない	258
		ことに	150		
きり	40	ことにする	141	ず	266
きり～ない	40	ことになる	140	ずつ	60
		ことには	139	ずに	268
くせに	41	ことは～である	185	ずにいる	149
くらい	41	ことよ	52, 229	すべて	79
ぐらい	41	このくらい	41	すら	61
くらいだから	39, 42	これから	29	すらが	61
くらいなら	42			すらも	61, 62
くらい～は少ない	42	さ	53	すると	113
くらい～はない	42	さえ	54	するといひ	115
くらい～はまれだ	42	さえ～だから	39, 55		
		さえ～ば	55, 195	せ	248
け	42	さえも	54	ぜ	62
けど	43	させ	245	せる	248
けども	43	させる	245	せれ	248
けれど	43	させれ	245	せろ	248
けれども	43, 48	させろ	245		
		ざりとて	124	ぞ	63
こうした	255	ざる	247	そう言えば	199
こうして	83			そうした	255
こゝで	89	し	56	そうじゃ	251
こゝに	138	しか	59	そうだ	250
こゝろから	32	しかして	84	そうだろ	250
こそ	50, 51	しかしながら	131	そうで	250
こそあど	41, 205	しからば	199	そうでし	250
こそ～するが	52	したがって	83	そうでしょ	250
こそ～すれ	52	して	79	そうです	250
こそは	51, 185	して～しめる	79	そうですね	152
こと	52	しめ	247	そうな	250
ことか	15	しめる	247	そうなら	250
ことがある	17	しめれ	247	そうなると	113

それに	250	だけど	49, 257	だろ	243
そうね	152, 251	だけでない	66	だから	66
そうもない	251	だけではない	66	だから	69
そうよ	251, 252	だけに	64, 138	だから	70
そこで	89	だけのことはある	64	だから	71
そして	83	だけれ	258	だから	72
そのくらい	41	だけれど	49	だから	72, 86
それが	18	だけれども	49, 257	だから	54
それから	29	だし～だから	57	だから	92
それこそ	51	だし～なので	57	だから	98
それさきり	41	だし	255	だから	75, 84, 85
それで	92	だしたら	257	だから	75, 87, 92
それならば	199	たって	66, 123	だから	255
それに	144	だって	66, 75, 123, 257	だから	67
それにしても	97	たとえば	199	だから	84, 254
それも	214	たならば	253	だから	243
		だね	155, 258	だから	76
た	123, 134, 252	だの	68	だから	84, 254
だ	252, 255, 261	だの～など	69	だから	64
たい	258	ために	145	だから	78
だい	10	たら	69, 93	だから	260
だが	25, 257	たら (助動)	252, 260	だから	260
たかっ	258	たらどうか	14	だから	243
たがっ	259	たらよい・いい	254	だから	260
たがら	259	たり	70	だから	260
だから	38, 257	たり (助動)	260	だから	260
だからといって	257	だり	70	だから	260
たがり	259	たりする	70	だから	25
たがる	259	たり～たりする	70	だから	38, 261
たがれ	259	たる	260	だから	49
たかろ	258	だれしも	60	だから	49
たく	258	だれだって	68	だから	262
だけ	64	だれでも	99	だから	155, 262
だけあって	64	たろ	252	だから	78
だけそれだけ	64	だろ	255	だから	80

くね	87	という		とする	109
くの	161		23, 105, 106, 166, 266	とすると	105, 115
くの	162	ということだ	74	とするならば	105
くは	82, 189	というよ	114, 117	とすれば	105, 107
くは	69, 70, 92	というので	175	とて	123
くは	92, 257	というのに	177	とともに	100, 149
くはあるが	24, 193	というのは	24, 106, 107	とな（一も）	127
くはあるけれども	47	といふとも	107, 125	となると	115
くはいけくない	82	といえば	197, 198	との	100, 106, 162, 165
くはいるが	24, 193	といふな	106, 255	どのくらい	41
くはいるけれども	48	といふでも	66, 74, 96, 107	とば	106, 107, 181
くばかりいる	202	どうした	275	とばかり	203
くはない	192, 268	どうして	80	とも	124, 218
くはないか	14, 15, 192	どうしてでも	95	ども	125
くはならない	82, 189	どうやら	225	とも言える	214
くはしい	83	と想つて	108	とも考えられる	215
くも	93	とか	119	ともすると	115, 217
くも	92, 93, 98	と聞く	105	ともなく	107
くもよい	83, 215	とくに	150	ともにする	149
くやせぬ	83	どこへやら	225	とも見られる	215
くよ	86, 87, 229, 230	どこまで	208	とやら	235
くよ	230	ところ	119	どれでも	99
くよい	83	ところか	26, 119	どんな一でも	98
て（で）らっしゃい	85	どころか	120	な	125
て（で）らっしゃい	85	ところから	34	な（助動・だ）	275
て（で）らっしゃら	85	ところで	92, 120, 122	なる	126, 127
て（で）らっしゃる	85	どころではない	121	ない	262
て（で）らっしゃれ	85	ところの	166	ないか	14, 265
て（で）る	84	ところの騒ぎではない	121	ないかしろ	27, 265
て（で）れ	84	ところへ	205	ないかな（一も）	15, 265
て（で）ろ	84	とさ	54	ないで	86, 233
		としたならば	105	なかつ	262
と	72, 99, 103, 111, 113	として	82, 104, 109	ながら	72, 123
とまれば	105	としては	190	ながらも	130
といふな（一も）	127	としても	66, 94, 105		

なかろ	262	なんですか	261	には～するが	151
なく	262	なんでも	99	に反して	144
なくして	79	なんとといっても	95, 107	にもかゝりわらず	144, 217
なくてはならぬ	237	なんととしても	95	にもせよ	217
なくてもよい	264	なんとなく	107	にも～られない	145
なけれ	262	なんの～もない	163	によって	146
なければならぬ	196, 264			による。よると	146
なければならぬ	267	に	35, 135, 204	に～られる	148
なければよい	264	に至る	141	に～れる	148
なしとしな	107	にある	136, 236		
なしに	139	において	81, 135, 136, 139	ぬ	266
なしには	139	においては	190	ぬばかり	202
なぜか	11	におかせられては	135		
なぜならば	199	における		ぬ	152
なぜ	131		135, 136, 139, 159, 233	ぬ(助動→ぬ)	266
など	131	にかゝりわらず	144	ぬえ	152
なにが～か	17	に関して	144, 190	ぬげならない	264
なにかなしに	11	に関しては	190	ぬげならぬ	196, 267
なにがなんだか	18	に～させる	143		
なにほどの～もない		にしては	142	の	19, 155
	163, 206	にしても	94, 142	のか	173
なにやら	226	に～しめる	143	のごときは	185
なによりも	232	にすぎない	147, 264	の～しかた	170
なら(助動→だ)	255	に～ずつ	61	の～すること	167
なら(助動→なる)	265	にせよ	142	のだ	172
ならば	198	に～せる	143	ので	35, 174
なり	133	に対して	144	のである	172
なり(助動→なる)	265	にちかいない	146	のです	172
なりと	133	について	81, 144	のではないか	172
なる	265	にとって	81, 147	の～ないの	171
なんか	131	にとどまる	136	のなんぞ	171
なんぞ	131	に～られない	145	のなんの	171
なんだか	11, 257	に～なる	141	のに	41, 79, 176
なんだって	68	になると	115	のは～である	185
なんて	134	には	135	のみ	179

のみならず	179, 267	べく	269	みたいね	273
の上	173, 223	べし	269	みると	113
		への	162		
は	180, 209, 210			む	288
ば	194	ほど	205	むとする	288
ばかり	201	ほどのことはない	206		
ばかりいる	202	ほど～はない	186, 205	も	68, 180, 209
ばかりか	202			もあろうに	151, 212
ばかりではない	202	まい	270	もいいが	214
ばかりに	138, 202	まし	271	もしくは	193
ばこそ	203	ましよ	271	もし～ば	195
はこれを	187	ましよう	271	も～だが～も～だ	20
はするが	193	ます	271	も～だけれども～も～だ	
は～だが～は～だ	23, 188	ますれ	271		43
ば～だけ	64	ませ	271	もとより	233
ば～だけれども～は～だ		ませぬ	271	もの	218, 222
	46	ません	267, 268, 271	ものか	218
ば～ほど	196, 206	ませんか	268	ものがある	17
はもろろん～も	188	ませんかしら	268	ものだから	38
ばよい	196	まで	206	もので	219
		までだ	208	ものですか	219
ひとりの～もない	163	までに	207, 208	ものですか	38
		までの	162	ものなら	220
ふうだ	268	までのことだ	208	ものの	220
ふうで	268	までのことはない	208	ものを	222
ふうです	268	までも	208	も～も～ものか	219
ふうな	268	までもない	208, 217	もやはり	67
ふうに	268			もんか	218
分の～	160	みたい	273	もんですか	219
		みたいだ	272		
へ	203	みたいだろ	272	や	222
べから	269	みたいで	272	や否や	223
べからざる	247	みたいです	272	ややもすれば	197, 217
べからず	269	みたいな	272	やら	225
べき	269	みたいに	272		

ゆえに	148	ようよ	276, 278	わよ	229, 234
		よほど～ないと	116	悪くすると	115
よ	227	より	230	を	234
よう	230, 273	よいかも	231	を～させる	235
ようか	12, 14, 275	よりは	231	を～して～しめる	79, 236
ようが	275	より～、	233	を～せる	235
ようが～まいが	27, 271, 275	よりも	216, 231	を～申(ちゅう)	238
ようじゃないか	14, 274	らしい	278	を～として	104, 236
ようだ	170, 275	らしから	278	を～とする	104, 236
ようだろ	275	らしく	278	を～に	141, 237
ようで	275	られ	280	を～にして	237
ようでし	275	られる	280	を～にする	237
ようです	275	られれ	280	をも	235
ようではないか	14, 274	る	283	をもって	81, 237
ようと	117, 275	れ	284	を～られる	236
ようとす	104, 274, 275	れる	284	を～れる	236
ようと～まいと	117, 271, 275	れろ	284	ん	172
ような	275	わ	233	ん(助動)	206, 288
ようなら	275	わい	10	んだ	172
ように	152	わが	19	んです	172
ように(助動・ようだ)	275	わぬ(一之)	152, 234	んとする	104, 288
ようね	276, 278			んばかり	202
ようものなら	275				

2. 意味からの索引

○この索引は、本文で意味の説明に用いたことばを、五十音順に並べたものである。

○助詞には、各語の後に種類を略記した。たとえば、「と（格）」のように。

○助動詞には、なにもつけてない。

○連接形式・呼応形式・連語などは、「――」で囲んである。

○記号は次のとおりである。

→印は、「――」の条を見よ。」の意味を表わす。

cf.印は、「――」の条をも参照せよ。」の意味を表わす。

相手 から（格）、と（格）、に（格）、
へ（格）
あきらめきれぬ → 憎しむ
あまえる もの（終）
暗示 さえ（係）、すら（係）、でも（係）
も（係）
言い渡す ぞ（終）
意志 う、まい、よう、ん（む）、う
（よう・ん）とする）
位置 → 場所
依頼 か（終）、て（終）、ない、ぬ（ん）
よ（終）、してね（て）よ（ないか）
「はせん？」
引用 って（格）、と（格）
うけあう とも（終）
受身 られる、れる
うたがひ → 疑問
打消 → 否定
うつたえる もの（終）
うらみ → 不満
詠嘆 こと（終）、ことか、ぞ（終）、
な（終）、ね（え）（終）、や（終）
わ（終）
憎しむ に（終）、ぬに（終）、ものを

（接）

おどかさ ぞ（終）
驚き 「ではないか」とは「し」わ（終）
開始順序 から（格）
回想 け（終）、の（準） cf. 過去・完了
了
確認 た（だ）
過去 た（だ）、る
可能 られる、れる
関係 の（格）
関係（関与）物 へ（て）（格）、の（格）
勧告 な（終）
関心を誘う け（終）、せ（終）
問答 「あのね、さ（問）、し（そうね）
だ、「だね、て（ず）、て（ず）ねも（な）
（問）、ね（え）（問）、や（問）
感動 → 詠嘆
願望 が（終）、「かな（あ）、けれど
も（終）、たい、といいな（あ）、
「とな（あ）、「ないかしら、
「ないかな（あ）」
勧誘 う、か（終）、ない、ぬ（ん）、や
（終）、よ（終）、よう

完了 た(だ), る
期限 で(格), まで(副)
基準 くらい(副), で(格), と(格)
に(格), ほど(副), より(格)
滞着点 →到達点
きっかけ →動機
基(起)点 から(格), より(格), を(格)
希望 →願望
疑問 →問い
客語こそ(係), さえ(係), しか(係)
すら(係), だって(係), でも(係)
なり(一と)(係), の(格), は(係)
も(係), を(格)
境界 より(格)
共存事実 が(接), けれども(接), と
(接), ば(接), も(接)
強調こそ(係), さえ(係), [して],
しも(係), すら(係), た(だ),
と(並), に(並), の(準), は(係)
まで(副), も(係), や(間), よ
(終)
共同者 と(格)
極端 →誇張
許容 [てもよい]
禁止 な(終), [べからず]
近接 →近迫
近迫 [う(よう)とする], そうだ(で
す), ばかり(副)
くりかえし →反覆
敬意 させる, しめる, せる, です, て
らっしゃる, [になる], ます, られ
る, れる
繼起 →推移
警告 ぞ(終)
軽視 など(なぞ・なんぞ・なんか)(副),

かーし

なんて(格・係)
継続 た(だ), [つつある], てる(で
る), て(で)らっしゃる
けいべつ い(終), けれども(終)
経路 から(格), へ(格), を(格)
結果 と(格), に(格)
原因 から(格・接), て(で)(接),
で(格), ので(接), もので(接)
限定 きり(副), しか(係), だけ(副)
のみ(副), は(係), ばかり(副)
限度 だけ(副), で(格), まで(副)
原料 から(格)
行為者 の(格)
肯定
(部分肯定) しか(係)
(全面肯定) しも(係), だって(係),
でも(係), も(係)
語勢を添える さ(間), な(間), ね
(一え)(間)
誇張 さえ(係), すら(係), だ, まで
(副), も(係) cf. 極端
懇願 →依頼
根拠 から(格・接), こととて(接),
で(格), と(格), ので(接), ば
(接)
材料 から(格), で(格), の(格)
使役 させる, しめる, せる
資格 と(格), [として], [を~とする]
時期 →時
自然可能 →自然にそうなる
自然にそうなる られる, れる
事態 て(で)(接), で(格), に(格)
実現 た(だ)
質問 →問い

指定 だ、たる、と(格)、なる
 自答 か(終)
 自發 →自然にそうなる
 自問 「かな(-あ)」
 主語 が(格)、こそ(係)、さえ(係)、
 しか(係)、すら(係)、だって(係)
 って(係)、で(格)、でも(係)、
 「とは」、に(格)、の(格)、は(係)
 も(係)
 主人公 は(係)
 手段 て(で)(接)、で(格)、に(格)
 主張 て(終)、な(終)、ね(-え)(終)
 は(係)、よ(終)、わ(終)、[わよ]
 出発点 →基点
 紹介 て(終)、[とさ・ってさ]
 状況 →事態・状態
 条件
 (順説条件(仮定)) 「う(よう)ものな
 ら」、[さえ～ば]、と(接)、ば(接)
 ものなら(接)
 (順説条件(既定)) から(接)、ことと
 て(接)、て(で)(接)、と(接)、
 ところ・ところが(接)、ので(接)
 ば(接)
 (逆説条件(仮定)) が(接)、ても(接)
 でも(接)、と(接)、ところが(接)
 ところで(接)、とて(接)、とも
 (接)、も(接)
 (逆説条件(既定)) が(接)、[からと
 いて]、くせに(接)、けれども
 (接)、たって(接)、て(で)(接)
 ても(接)、のに(接)、ものの(接)
 ものを(接)
 (真理) と(接)、ば(接)
 (条件の提示) [ては]、[では]

状態 で(格)、の(格)
 讓歩 は(係)
 所属団体 の(格)
 所有主 の(格)
 推移 が(接)、けれども(接)、て(で)
 (接)、と(接)
 推定 か(副)、みたいだ、ようだ、らし
 い cf. 推量
 推量 う、[だろ]、[であろ]、[で
 しょう]、まい、よう cf. 推定・
 想像・様子
 性質(性格) の(格)
 接続詞 「あるいは」「が」「けれども」
 [さりとて][しかしながら][しか
 らば][したがって][してみると]
 [すると][そうなると][それで]
 [それに][それにしても][だが]
 [だから][だけれど][だけれども]
 [で][ですが][ですから][ですけ
 ど][ですけれども][では][でも]
 [と][というのは][ところが][と
 ころで][ところへ][とすると][と
 すれば][となると][ないしは][な
 ぜならば][のみならず][または]
 [もしくは]
 説明 の(準)
 選択 か(並)、なり(並)
 相応 「だけに」
 相応しない →不相応
 総括 「という」、など(副)
 想像 う、やら(終)、よう、らしい
 cf. 推量
 屬性 の(格)
 そのまま なり(接)
 尊敬 →敬意

対照 は(係), も(係)
 対象語 が(格),こそ(係), さえ(係)
 　　しか(係),すら(係), だって(係)
 　　でも(係), なり(と)(係), の(格)
 　　は(係), も(係), を(格)
 態度 で(格)
 対比 に(と)(接), に(並)
 代表的提示 だって(係), でも(係),
 　　も(係)
 立場 で(格),「として」
 動定 こと(終), さ(終), そ(終),
 　　そうだ, だ, です, な(終), ね(終)
 　　の(格・終), みたいだ, よ(終),
 　　ようだ(とです), らしい
 注意を喚起する|→関心を誘う
 直後 なり(接)
 つきもの に(並)
 つめよる →難詰
 提案 か(終)
 提示 か(接), けれども(接), こそ
 　　(係), さえ(係), しも(係), す
 　　ら(係), だって(係), たら(たら
 　　ら)(係), えば(らってば)(係), で
 　　も(係), と(接), とで(係), 「な
 　　らばもなり(係), は(係), ば
 　　(接), も(係)
 掲題 →提示
 程度 くらい(くらい)(副), だけ(副)
 　　ばかり(副), ほど(副), まで(副)
 　　も(係)
 丁寧 そうです, です, ます, みたいで
 　　す, 「ものですか, ようです cf.
 　　敬意
 添加 →列挙
 伝聞 そうだ, 「という・と聞く」

問い
 　　(疑問)う, か(副・終), 「か否か」か
 　　しら(終), 「かどうかしよう」
 　　(質問)い(終), う, え(終), う(終)
 　　け(終), こと(終), さ(終), て
 　　(終), ない, ん(ふ), ね(と)
 　　(終), の(終), よう
 　　(返問)い(終), か(終), さ(終),
 　　て(終), と(格)
 同意を求める →返答を促す
 同格 って(格), 「というし」ところ
 　　のし, なんて(格), の(格)
 動機 から(格・接), で(格), と(格
 　　・接), ところ・ところが(接), に
 　　(格), ので(接)
 道具 →手段
 動作のしかた と(格), に(格)
 同時 つつ(接), と(接), ながら(接)
 　　なり(接), や(接), 「や否や」
 当然 べし
 到達点 と(格), に(格), へ(格),
 　　まで(副)
 同様 →類似
 等量 ず(副)
 同類 →類似
 時 で(格), に(格), の(格), を
 　　(格) cf. 期限
 とりあわせ に(並)
 内容を示す ごとき, って(格) と
 　　(格), 「というし」, 「とめし」, なんて
 　　(格), に(格), の(格), ようだ
 　　なげやり けれども(終), さ(終), で
 　　も(係)
 なじる →難詰

ならべあげる → 列挙
 難詰 か(終), くせに(接), たら(係)
 べに(係), のに(終), よ(終)
 願い → 願望
 ねだり よ(終) cf. 懇願
 念を押す い(終), か(終), 「ことよ」
 せ(終), ぞ(終), たら(終), て
 ば(終), 「てよも, ね(終), 「のよ」
 と(終)
 場合 → 事態
 配当 → 割当
 場所 で(格), に(格), の(格), まで
 (副), を(格)
 はつきり言わない が(終), 「かもしれ
 ない, けれども(終), し(接),
 「とも言える」
 発問 → 質問
 場面 → 事態
 はゞかる → はつきり言わない
 範囲 「から～まで」, の(格)
 互語 ら, か(終), ぞ(終), よう
 判断 → 断定
 互はく い(終), か(終), くせに(終)
 ぞ(終), 「ではないか」, のに(終)
 ずの(終), ものか(終), ものを
 (接)
 反覆 ぎ→(副)
 互問 → 問い
 控えめに言う → はつきり言わない
 比較の基準 くらい(副), と(格), に
 (格), ほど(副), より(格)
 否定 ざる, しか(係), どころか(接),
 ない, ぬ, ばこそ(終), まい, も
 のか(終), 「より～ない」

(部分否定) も(係)
 (全面否定) だって(係), も(係), 何
 だって～ない, 「何の～もない」
 ひとり合点 → 自答
 非難 → 難詰
 標準 → 基準
 比例 だけ(副), 「ば～だけ」, ほど
 (副), 「ば～ほど」
 不審 かしら(終)
 不相応 へへ(接), ながら(接)
 舞台 で(格), を(格) cf. 場所
 不確か か(副), 「か否か」, 「かどうか」
 みたいだ, やら(副), ようだ
 不平 → 不満
 不満 のに(終), もの(終), ものを
 (接)
 分量 → 量
 並列 → 列挙
 返答を促す か(終), こと(終), な
 (終), ね(終)
 方角 → 方向
 方向 に(格), へ(格)
 方法 → 手段
 補充 が(接), けれども(接) cf. 説明
 発端 → 開始順序
 枚举 → 列挙
 前おき が(接), けれども(接), と
 (接), に(接), ば(接)
 まもない ばかり(副) cf. 直後
 見積り とも(接), も(接)
 無関心 (とさ・ってさ)
 名目 [として], に(格), 「～とす
 る」
 命令 な(終), や(終), よ(終)

目的 に(格), の(格), を(格)

目標 と(格), へ(格), を(格)

やわらげ(表現の) わ(終)

由来 に(格)

様子 そうだ, ふうだ, ようだ

余情 こと(終) cf. 感動

呼びかけ や(間)

よりどころ に(格)

理由 から(格・接), こととて(接),

し(接), て(接), で(格), に

(格), の(準), ので(接), もの

(終), もので(接)

量 くらい(副), ほど(副)

類似 とき, ふうだ, みたいだ, も

(係), ようだ, らしい

類推 → 暗示

例示 くらい(副), とき, すら(係),
たり(並), でも(係), とか(並),
など(副), なり(係), なんて(係)
みたいだ, ようだ

列挙 か(並), が(接), けれども(接)
し(接), だの(並), たり(並),
て(接), と(並), とか(並), なり
(並), に(並), の(並), ば(接), も
(係), や(並), やら(並)

列叙 → 列挙

連続 → 推移

割合 ずつ(副), に(格)

割当 ずつ(副), に(格), [に〜ずつ]

国立国語研究所 現代語の助詞・助動詞
報告 3 一用法と実例一

昭和26年5月25日 初版発行 ￥2,000

昭和55年3月20日 7版発行

著 作 者 国立国語研究所
発 行 者 株式会社 秀英出版
代表者 山本春男
印 刷 者 有限会社 昌栄平版

発 行 所 株式会社 秀 英 出 版

東京都新宿区納戸町40
電話 (260) 5 2 8 1 (代)
振替 東京 2 - 119739

3081-31031-3042

国立国語研究所刊行書一覽

◎国立国語研究所報告

- 3 現代語の助詞・助動詞 2000円
- 14 小学校中学年の読み書き能力 400円
- 26 小学生の言語能力の発達(明治図書刊)
- 29 戦後の国民各層の文字生活 400円
- 30 日本語地図(1)～(6)(大蔵省印刷局刊)
- 31 電子計算機による国語研究 450円
- 33 家庭における子どものコミュニケーション意識 350円
- 35 社会構造と言語の関係についての基礎的研究Ⅱ 450円
- 36 中学生の漢字習得に関する研究 5000円
- 38 電子計算機による新聞の語彙調査Ⅱ 2800円
- 39 電子計算機による国語研究Ⅲ 700円
- 40 送りかな意識の調査 1500円
- 41 待遇表現の実態 900円
松江24時間調査から
- 42 電子計算機による新聞の語彙調査Ⅲ 1200円
- 43 動詞の意味・用法の記述的研究 5000円
- 44 形容詞の意味・用法の記述的研究 3000円
- 45 幼児の読み書き能力(東京書籍刊)
- 46 電子計算機による国語研究Ⅳ 700円
- 47 社会構造と言語の関係についての基礎的研究Ⅲ 700円
- 48 電子計算機による新聞の語彙調査Ⅳ 3000円
- 49 電子計算機による国語研究Ⅴ 900円
- 51 電子計算機による国語研究Ⅵ 1000円
- 52 地域社会の言語生活 1800円
鶴岡における20年前との比較
- 53 言語使用の変遷(1) 2500円
- 54 電子計算機による国語研究Ⅶ 1000円
- 55 幼児語の形態論的な分析 (品切)
動詞、形容詞、述語名詞
- 56 現代新聞の漢字 3000円
- 57 比喩表現の理論と分類 6000円
- 58 幼児の文法能力(東京書籍刊)
- 59 電子計算機による国語研究Ⅷ 1300円
- 60 X線映画資料による母音の発音の研究 2500円
- 61 電子計算機による国語研究Ⅸ 1300円
- 62 研究報告集(1) 1700円
- 63 児童の表現力と作文(東京書籍刊)
- 64 各地方親族語彙の言語社会学的研究(1) 2000円
- 65 研究報告集(2)

◎国立国語研究所資料集

- 1 国語関係刊行書目(昭和17・24年) 45円
- 5 沖繩語辞典(大蔵省印刷局刊)
- 6 分類語彙表 1800円

- 7 動詞・形容詞問題語用例集 1700円
- 8 現代新聞の漢字調査(中間報告) 500円
- 9 方言談話資料索引 1500円
1. 東京 2. 奈良 3. 高知 4. 長崎
- 10-1 方言談話資料(1) 6000円
一山形・群馬・長野
- 10-2 方言談話資料(2) 6000円
一奈良・高知・長崎
- 10-3 方言談話資料(3) 6000円
一青森・新潟・愛知
- 10-4 方言談話資料(4) 6000円
一福井・京都・鳥取

◇国立国語研究所論集

ことばの研究 第2集(品切)・第4集 1300円・第5集 1300円

◇国立国語研究所年報

1(昭和24年度)～30(同53年度)

◇国語年鑑

昭和44年版 1500円 昭和50年版 3800円
 昭和45年版 1500円 昭和51年版 4000円
 昭和46年版 2000円 昭和52年版 4500円
 昭和47年版 2200円 昭和53年版 4600円
 昭和48年版 2700円 昭和54年版 4800円
 昭和49年版 3800円

○以下は品切れです

◇報告 1 八丈島の言語調査/2 言語生活の実態/4 婦人雑誌の用語/5 地域社会の言語生活/6 少年と新聞/7 入門期の言語能力/8 談話語の実態/9 読みの実験的研究/10 低学年の読み書き能力/11 敬語と敬語意識/12 総合雑誌の用語(前編)/13同(後編)/15 明治初期の新聞の用語/17 高学年の読み書き能力/18 話しことばの文型(1)/23同(2)/19 総合雑誌の用語/20 同音語の研究/21 現代雑誌九十種の用語用字(1)/22同(2)/25同(3)/24 横組みの字形に関する研究/27 共通語化の過程/28 同義語の研究/32 社会構造と言語の関係についての基礎的研究 I/34 電子計算機による国語研究Ⅱ/37 電子計算機による新聞の語彙調査/50 幼児の文法構造の発達

◇資料集 2 語彙調査/3 送り仮名法資料集/4 明治以降国語関係刊行書目

◇論集 ことばの研究 第1集・第3集

◇年報 1・2・5・7・8・9・10・11・16・20・21・25

◇国語年鑑 昭和29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43年版